



# いま 平和を支える

緊急発言●手をこまねいていいのか

紀平悌子・井田恵子・梅津秋子・松本恵美子・森川万智子・井部美千代

小説・熊沢光子　あるハウスキーパーの生涯　山下智恵子

伊藤野枝のこと　伊藤ルイ

●今から言う

住井すゑ

●イカルスの翼

朴　寿南

## 女たちは言う。行動する。

●原爆の図はわたしの遺言

丸木　俊

●果てしなきポーカージョー・軍縮の限界

阿部汎克

インタビュー●平和を支える女たち

私の精神の在り場所　宮下喜代　横山れいこ　斉藤千代

女は戦争への道を許さない！　発言集

いま、なぜ沖縄か　沖縄タイムスに見る真相

資料●優生保護法●婦人白書●拘禁二法ほか

# 事実に基づいて真実を考えるくあごら

## 1号く女が働くこと> 至 200

- 意見 女が働くこと 松谷みよ子ほか
- 資料 働く女は過保護か
- 面接調査 共働きを調査して (品切)

## 2号く女性と能力> 至 200

- 調査 働く女性の地位向上をめぐる
- ティーチン 女性と能力
- 研究 女性とはなぜ管理職になれないか

## 3号く主婦の解放> 至 200

- 調査 団地の子どもの解放意識
- ティーチン 主婦の解放をめぐる
- 解説 二分二乗法 伊東すみ子

## 4/5号く何かしたい主婦のために> 至 300

- 記録 何かしたい主婦のためのセミナー
- インタビュー 壁を破った人々
- 資料 2つの差別裁判を考える

## 6/7号く運動をすすめよう> 至 350

- 報告 解放への道—海外の婦人たち
- 資料 各国の母性保護
- ティーチン 婦人運動をすすめるために

## 8号く子殺しを考える> 至 380

- 論文 既婚の母の子殺し考 武田京子
- 資料 世界各国の妊娠中絶立法例
- ティーチン 性の二重性をめぐる

## 9号く働く女と主婦の接点> 至 430

- 論文 働く女と主婦の接点 神田道子ほか
- 調査 働く女と主婦の実状
- ティーチン 人口抑制と産む性 (品切)

## 10号く女と法> 至 700

- 記録 名古屋放送女子若年定年制
- 資料 法律の中の女性
- ティーチン 産む性と法律 (品切)

## 11号く女と教育> 至 750

- 論文 主婦が学ぶということ 伊藤雅子
- 調査 教科書の中の女性差別
- ティーチン <女と教育>を考える

## 12号く国際婦人年世界会議> 至 750

- 記録 国際婦人年世界会議とトリビュン
- 感想 メキシコ・キューバ—私たちの旅
- 資料 世界行動計画、ILO活動計画ほか

## 13号く国際婦人年国内集会と行動計画> 至 750

- 記録 国際婦人年国内集会
- 調査 ちまたから見た国際婦人年
- ティーチン 国際婦人年とメキシコ集会

## 14号く女の記録入選発表> 至 750

- わたくしが見たアメリカ 水田珠枝
- 新女大学研究 エリザベス・マウア
- 隣りがこわい 佐多稲子

## 15号く職場の中の女性差別> 至 750

- 調査 日本の著名企業100社にみる男女差別
- 解説 女子労働市場の現状 正木直子
- 論文 女性と専任職 天野正子 (品切)

## 16号く女と結婚> 至 750

- 文化人類学から見た日本の結婚・祖父江孝男
- 「しあわせな結婚」の実態 J・バーナード
- ティーチン「結婚の幻滅」●随想 私と結婚

## 17号く女と生涯学習> 至 780

- 女性の生涯学習への一提言 高野フミ
- 女子成人教育の問題点 中山宣子・野々村恵子
- 調査 婦人学習グループ ●ルボ 女が学ぶ所

## 18号くいま女性解放は> 至1300

- ティーチン日本の女性運動をどう展開するか
- ルボ いま職場でたたかう39人の女たち
- 資料 女性差別に関する国連条約ほか

## 19号く女にとって子どもとは> 至 800

- 論文 日本近代の国家と母性 中野 邦ほか
- 討論 日本の女性運動をどう展開するか(続)
- 資料 優性保護法改訂をめぐる経過と論議

## 20号く女性解放と男女雇用平等法> 至1300

- 論文 女性史におけるウーマンリブ 水田珠枝
- 論文 女性解放論の模索と反省 田中寿美子
- 資料 労基法研究会報告 雇用平等法案ほか

## 21号く子と母の関係を問う> 至1100

- 論文 親離れ子離れ考 伊藤雅子ほか
- 手記 私にとっての母
- 調査 著名企業144社にみる男女差別

## 22号く男女平等と母性保障> 至1200

- 報告 いま女の働く場は
- 論文 「保護派」と「平等派」の接点を求めて
- 資料 女性差別撤廃条約／各国の保護規定

## 23号く女たちはいま変わる> 至1500

- コペンハーゲン会議を振り返る
- 女性差別撤廃条約の批准へ向けて
- 資料 国連婦人の10年後半期プログラムほか

## 24号く女と戦争> 至1500

- 女性はどうして侵略戦争に巻き込まれていった
- 平和と女性解放 ●フェミニズムと戦争
- 年表・15年戦争と女 ●平和に関する法律ほか

## 25号く女と情報> 至1500

- 女と戦争と情報●情報公開法とプライバシー保護
- ファシズムと情報●つくられる女●国民総背番号制と女●資料・ILO156号、後期重点目標他

## 26号く(いま女がモノを言うということ) 至1500

- みづからのことば・寿岳章子●ことばの道・伊藤雅子●女と社会的伝達・井上輝子●伊藤野枝・井上文子●自立の心理学・しまようこ●雇用平等判断基準

# いま平和を支える

——女たちは言う。行動する。——

「平和を守る」に続くことは

いつしか「だから軍備が必要」に変わった。

首相は堂々と改憲を語り

公選法、優生保護法、拘禁二法、労基法……と

法改「正」はすすむ。

徒手空拳、戦争阻止を叫ぶ声は

木枯らしにかき消されようとしている。

戦後三十六年、積み重ねた「女の一票」の結果を

重く深く受けとめ

負を正に変える一票を

いまこそ投じよう。

権利のうえに決して眠るまい。



# 特集◆いま平和を支える

●今から言う

住井 すすゑ 4

●イカルスの翼

朴 壽 南 6

●原爆の図は私の遺言です

丸 木 俊 16

●果てしなきポーカージョー

軍縮の限界

阿 部 汎 克 34

いまわたしたちは手をこまねいていてよいのか

・参議院を有権者の手にとり戻そう

紀 平 悌 子 54

・拷問とウソの自由を生む拘禁二法案に反対を!

井 田 恵 子 59

・戦局とともにきびしさを増した治安維持法

梅 津 萩 子 62

・女たちの手で優生保護法の改悪を阻止しよう

松 本 恵 美 子 68

・県議会にひろがる優生保護法改悪の動き

森 川 万 智 子 69

・危機に立つ婦人労働

井ノ部 美千代 71

演

小説・熊沢光子

山 下 智 恵 子 78

講

伊藤野枝のこと

伊 藤 ル イ 94

インタビュー ●平和を支える女たち

カンナ共同保育園(仙台)／倉元正子(新潟)／秋山朝子・

平野マリ子・松下早苗(埼玉)／酒本聖子・沼田朋子(埼玉)

野村瑞恵(東京)／小園優子(神奈川)／高木薫子(福岡)

詩

バルバラ

ジャック・プレヴェール 122



随 想

私の精神の在り場所

宮下喜代

124

私は言えない

よこやまれいこ

128

近ごろ心にかかること

斎藤千代

131

女たちは戦争への道を許さない ● 8・15集会アピール集より ●

いまなぜ沖縄戦か ● 『沖縄タイムス』に見る「虐殺」

137

・歴史の下した判決

陳 体 強

197

『あこら』十周年記念公募論文 ● 「母子世帯」から

深 見 史

201

女性のほんとうの味方は？・五政党の婦人政策を聞く――

杉 本 貴代栄

211

視点・ERAはアメリカに何をもたらしたか

杉 本 貴代栄

224

報告・原水爆禁止世界大会／11・3優生保護法改悪反対集会

窓 ・統計ビック・アップ――婦人労働の現状について

233

・新聞切抜帖

・マスコミ住所録一覧2（放送局篇）

242

・あこら読書室

・あこらのあこら

274

・あこらのあこら

優生保護法に関する参議院予算委員会議事録（抄）

286

1

優生保護法の一部改「正」推進依頼状

2

294

2

優生保護法の一部改「正」に対する抗議

3

295

3

文部省の教科書検定による高校歴史教科書からの沖縄県民虐殺記述削除に対する抗議、決議

4

307

4

行政改革における総理府婦人問題担当室及び労働省婦人少年局廃止に反対する要望（案）

5

309

5

国連軍縮週間に際し新総理に平和政策を要望する（案）

6

310

6

市民的及び政治的権利に関する国際規約

7

312

7

刑事施設法案

8

313

8

留置施設法案

9

318

# 住井 すすゑ

「戦争は怖い」 // 核兵器は怖い」

聞くと、私は苛つく。

戦争は怖くない。核兵器なんか恐くない。心からそう思っているからだ。

ではなぜ、戦争は怖くないのか。核兵器も恐くないのか？ 問われるなら答えよう。戦争も核兵器も人間のしわざであり、人間のしわざであるかぎり、それは人間の力で防ぎ止めることができるからだ。

これにひきかえ、地震は怖いし、雷も怖い。今のところ、人間の力では防ぎようがないから。だから「それ、きたー！」という時は、安全地帯に逃げろ、逃げろ！ これしか、術がないわけだ。ところが戦争は、百パーセント人間が構えるもので、まさに「悪」そのもの。悪は積極的に排除し、退治すべきだ。にも拘らず、それを天災と同次元に据えて、怖い、恐い、と首をすくめているから「悪」はいい気になってのさばり返るのだ。

しかし、敗戦土産のように、ひょっこりとあらわれた現行憲法には、周知の通り「戦争放棄」がうたわれている。だから、あたりまえなら、今ごろ「戦争は怖い」とか、「核兵器は怖い」などの声は、少なくとも日本人の口から聞くことはなかったはずだ。

けれども、そこが「憲法」という、人為による法の限界で、解釈によってはどうにでもなるといふ、弱点ならぬ欺瞞性を内包している。その証拠に、自衛力としての軍備はゆるされるとか、独立国として最少の軍備は当然だ、とか、妙な発言が飛び交っている。いや、発言だけではない。軍備の増強は、今や誰が眼にもあきらかな事実だ。

ところで「憲法」にふれるとき、私はきまって一九四七年五月三日を思い出す。憲法施行のこの日に行われた、憲法、生みの親の一人と言われる金森徳次郎国務相と、尾崎弴堂翁との対談が、文字通りケッサクだったからだ。その一部を左に――

金森国務相 天皇制については、天皇の地位は歴史を見ればわかるように、国民の精神的結合の中心です。……天皇が政治を行わせられるという点で、国民主権の思想と相反すると考える

# 今から言う

ものがありますが、天皇が政治を行われるのは政治力の主体としてではなく、国民のもっている政治力を一身を通して発現せられるのです。かく考えれば天皇が政治を行うということは国民主権と矛盾しない。民主政治とうまく折合って行くものと考えますが、いかがでしょうか。尾崎弐堂翁 これは余程いいにくい問題です。大勢からいえば、大体、世界には天皇というものはだんだんなくなるだろうと思う。この前の大戦でも、五、六か国なくなつた。今度の大戦でも、また、四、五か国なくなるだろう。それで私は「無理なことをするな、世界の自然の大勢にまかせろ」と言っている。そうでないと大変な過ちが生ずる。日本はこれまで余程悪い真似をしている。明治以後も一番初めはロシアの帝政を手本にした。これが悪くなるとドイツ、オーストリアを真似た。ロシアにしろオーストリアにしろ、いずれも帝政がなくなつた。だから日本では滅亡した国ばかりを手本にしたという事実を認めておかねば、この問題を論ずることとは間違ひであると思う。(中略)私は本当のことをいうと、今の文字と言葉では憲法の意味をのみ込ませることは出来ないと思う。……私は漢字と漢語を廃止して、作り直せといっている。憲法などに使つてある言葉を、みな改める。天皇制とか国体とか、何のことかわからぬ。ぜひ、どなたかに口語体の憲法を作つていただきたい。

もちろん、おわかりいただけたと思う。尾崎翁は、世襲王制は時代錯誤だと指摘しているのだ。そして私も、それは至つてもっともなことに思う。世襲。それこそ封建制そのもののだから。そのような憲法を、絶対的なものとして支持、擁護するのはどんなものか？ ポケット憲法を作り、皆さんに無料で貰つていただく私の真意は、断じて現行憲法九條擁護のためではない。不磨の大典と豪語されていた「大日本帝国憲法」も、敗戦の奔流にさらわれた。そのように、人間が、そのご都合で作りましたものは、そのご都合の変化とともに変る。これが自然の法則だ。その意味で、現行憲法も、いつの日か、必ず改変されるにちがいない。そのとき、よりよい憲法を私たちの手生み出すことができるよう、あらかじめ、勉強しておいていただきたいからだ。

さて、次なる憲法。願わくば宇宙の法則に沿つたものであつてくれますように。

# イカルスの翼

朴<sup>グ</sup> 壽<sup>ス</sup> 南<sup>ナム</sup>

一九八〇年、二人の少年が相次いで虚空に翔びました。  
高層ビルの十二階。イカルスのように羽をひろげて。

林賢一君。岡博史君。

溶ける翼と知りつつ、太陽に近づいた。

この世から、日本から、ずっと遠くへ。できるかぎり遠くへ……。

生まれて十二年、わずか十二歳の彼らを殺したものは、あなた方日本人です。

◆自分を裏切って生きる

親しくしている近所の奥さんが泣いて駆け込んでくる。

「あなたがつきあってるパクさんって、ずいぶん変わったお名前ですこと」

「ま、朝鮮の方なの。おやめ遊ばせ。今にひどい目にあうわ」

こう言われたと。だからあなたはお国に帰ったほうがいいわあ、と泣きながら言う。



どうして逃げなくちゃいけないの。ここは日本人だけの土地じゃないわよ。私たちが逃げ出したからって、根本は解決しませんよ。

一九四五年八月十五日。朝鮮は独立した。しかし日本の植民地支配は終わっていない。

一九六四年、日韓協定の批准、調印によって、日韓は新しい体制に入った。「日本の再侵略」と私たちが呼んでいることをご存じですか。十二歳の少年たちは、この現実の中で自殺に追いつめられたのです。

十二歳の少年を殺したのは、十二歳の、日本の子どもたちです。日本の子どもたちは、すでに殺す側の人間として育てられている。

私の娘、マウイは、賢一君や博史君と同じ、そのとき十二歳。

マウイが小学校に上がるとき、私の母は言った。「きつとつらい目にあうからね、日本名で入学したほうがいい」

新井、というのが、私が姓を奪われていたときの、屈辱的な名です。

「マウイ、新井麻衣という名前にしようか」

「おかしいな。保育園も幼稚園もバク・マウイなのに、新井麻衣なんてにせものじゃないか。そんなのやだよ」

おとなのほうが弱気だなと、私は思いました。「一年一組、バク・マウイ」の名札をつけました。ところが夏休みが終わって、二学期が始まったころ、帰ってくるなり名札を投げ捨てた。

「朝鮮はイヤだ。朝鮮はイヤだ。日本にして。日本の名前にして」

もう、大泣きに泣きましてネ。

やっぱり、来る日が来たのです。

自分が自分として認められないことを、わずか六歳とちょっとの女の子が思い知らされた。同い年の、六

歳の、日本の子どもたちに思い知らされたんですよ。

六歳のマウイには、まだ自分を守る武器がなかった。それが、お前はこの世にあってはならないものだ、というようなまなざしと言葉で、まるごと存在を傷つけられた。小さなあの子にとっては、死にも等しいことですよ。

私にも体験があります。

小学校四年で敗戦を迎えるまで、私はできるだけ日本人らしく、日本のお嬢さんらしく振舞っていました。クラスの中には部落から来ている朝鮮人もおりました。

その子はすごくいじめられる。それを私はかばうこともできなくて、息をひそめてながめているほかなかった。

日本人のふりをして教室に座っている自分。それは自分に対する裏切り。そしていじめられている同胞に対する裏切り。小さいながら、それが私の保身だったのです。

独立後、父たちは寺小屋を始めました。お寺の本堂を借りてね。奪われていた祖国の言葉・祖国の歴史を教えた。

いじめられた子どもたちが部落からやってくる。生き生きしてね、全身がおどってる。

私だけが言葉ができない。発音もうまくできない。お前は（半日本人）だ。——今度は私がしゅんとする番でした。

独立解放は日本全土にこだまする。トラックに乗って旗振って、マンセイ、マンセイって。沸騰するエネルギー。

東京の朝鮮中学校に私は連れていかれた。朝鮮人になることに、すごい抵抗があったけれども……。

そして、二年生になったとき、その学校は閉鎖されたのです。

一九四八年、占領軍は政令で朝鮮連盟を解散させた。それを強制執行するために、丸腰の日本のおまわりさんが初めて武装したのです。あの樫の棒をぶら下げて、ピストル持って。

トルーマン・ドクトリン。中国革命の勝利。朝鮮戦争の地ならしが始まったのです。

ドーデーに、『最後の授業』って、ありますね。私はそれを経験したんです。

朝鮮中学校の先生たちは、全部朝鮮人。最高の知識人たちでした。独立運動でとらわれていた人たちも沙婆に出てきた。すばらしい授業でした。生徒はみんな生き生きしている。

その中で、私は赤い花が赤く見えなかった。

いやでいやでたまらなかったのです。朝鮮人であるということが。自分が自分であるということが自分で認められない。そういうときは何かベールがかかっている。紫のベールが――。赤い花も黄色い花も、自然の色には見えない。

それが、初めて、花が美しいと思ったんです。何ときれいなんだろう。空は青くてほんとうにきれい。――自分が自分であることが、自然に喜びとしてあふれてきた。これは私にとって、大変なことでした。

◆背中を見せたら殺される

突撃!!という大喚声があがりました。

武装した警官たちがなだれこんで来たのです。校庭にね……。二千人とか言っていました。

私たちは教室からなだれうって逃げたんです。運動場に。

それをめがけて、突撃!!の大喚声。のたうち回る小さな中学生の背中を樫の棒でめった打ち。血が流れましたよ。

逃げまどって折り重なる、その上を靴で踏んで追いかけてくる。

小さな運動場で、追いつめられた。

追いつめられて、私はパッと振り返った。「みんなもう逃げるのやめよう。なぜ逃げなきゃいけないんだ」初めて向き合ったんです。

「ここは私たちの学校です。なぜ私たちの学校をとろうとするんですか。あなたたちにも子どもがいるんじゃないんですか。お父さんじゃないですか」

パーッと声が出た。そしたら逃げたみんなも振り返った。スクラムを組んだんです。私が、初めて権力と戦った。生まれて初めて。

逃げたらダメ。背中を見せたら殺される。

——これが、私の、一貫して戦う私の、原点になりました。空が青かった。きれいでしたねえ。深い、秋の空でした。

アメリカは民主主義者じゃないと、私は知りました。日本全体、共産党まで、アメリカは民主主義社会という幻想にからめとられていたけれども。

私たちから言葉を奪い、教室を奪い、学校を奪おうとする国は、民主主義じゃない。私たちは身をもって知りました。

下山事件、松川事件、小松川高校事件……。そして朝鮮戦争。

朝鮮に原爆投下が考えられている。

私たちは立ち上がりました。

二百万の署名を集めたのは、私たち、朝鮮の子どもたちだったのですよ。日本全国で六百万。その三分の一を、朝鮮の小学生、中学生、高校生が集めたんです。

有楽町、新宿……。あらゆる駅頭に立ちました。広島島の原爆の写真を地面に並べて。

「朝鮮に原爆を落とすな。アジアに平和を！」  
ほとんどの人が署名してくれましたね。



あれから三十四年たちました。

日本にいる朝鮮の子どもたちは、どう変わったか。

残念です。学校で、社会の中で、相変わらずやつつけられ続けている。朝鮮人としては生きられなくさせられている。

なぜ、誰が、そうさせているのか。

朝鮮の子どもを生きがたくさせている日本の子どもたち。その子どもたちだって、本来は無垢なはずです。おとなの価値観が、両親の生き方が、変えていく。しかも学校の教育です。「侵略」を「進出」と言う教育。家永裁判は十七年も前からなんです。しかし、家永さんを支えてきたのは、ほんのひと握りの人たち。多くは傍観していた。家永さん一人にまかせてね。

書き替えられた教科書で、もう何年も子どもたちが教育されてきているんです。「気がついたときはとりもちにからめとられてる」って、『女と戦争』にありましたね。あれですよ、もう。なしくずしにね。

民族差別は、国家によって、教育によって、組織的につくられてきたのですよ。そして今もつくられています。

在日朝鮮人は七十万人。年々帰化する人がふえています。韓日協定の中にすでにうたわれているんです。子弟はできるだけ日本の学校に入って、日本の教育を受けて、国家百年の大計のために日本に同化していくことが望ましい、と。朝鮮大学も朝鮮の高校も認められていませんよね。朝鮮の高校を出ても、日本の大学には入れないんです。

「朝鮮人であることに誇りを持て」と教えた「進歩的」日本人教師がいました。一九六七年、朝鮮人の子に朝鮮名を名乗らせる教育実践を日本で初めてやったのは神戸なんです。あそこは未解放部落もたくさんかかえていて、一つの高校の中に部落出身の子と朝鮮の子がいる。部落の子どもたちの解放教育を考えてきてい

た日本の教師たちが朝鮮人の子を一人一人たたき起こしていった。「君たちにはすばらしい祖国があるんだ。なぜ本名を名乗らないのか」って。

子どもたちは、はじめ、少々抵抗するんです。けれど、だんだん、「わいは金田やない、金<sup>キム</sup>や」と名乗っていく。

金田からキムになるということは、子どもたちにもすごい内部変革をしいることですよ。自殺をはかった子がずいぶんいるんです。朝鮮人宣言をしたあとに。

その子たちが続々と私のところにきました。小松川事件の李少年の書簡集を私がまとめたものですから。

「先生は本名、名乗らせておいて、あとは何もせえへん」と。「就職もあかん」と。

子どもたちは泣きながら言いましたよ。自分にとっては、金田がキムになるのは、もう大変なことだと。

「金田はん、金田はん」

わざと知らん顔してゐるんですって。

「あ、そうか。あんた金さんやったね」

ちょっと言い間違えたという程度にしか思わないわけですよ、日本の子どもたちは。朝鮮の子どもが、なぜ今まで「金田」といつわって生きてくるはかなかったのか。それが、なぜ、いま「キム」なのか。「キム」だったらどうなのか。日本人として「金田」にどうかかわってきたのか。それがまるつきり教えられてないんです。

私は日本人の教師を糾弾した。「ほっとけ」って。朝鮮の子どもにむりやり本名を名乗らせることはない。その前に日本の子どもをきっちり教育しろ。問題は、あなたたち、ひとりひとりの日本人教師にあるってね。まともな日本人が育っていれば、一緒に机を並べている子どもたちは、「自分は朝鮮だ」って、自然な状態と言える。強制しなくても言える、って。

でも、その私を、解放派の教師たちは抹殺しました。神戸湊川高校とえば、解放教育のメッカ。教師たちと私は何年も関係があった。教師たちは子どもたちに朴壽南から手紙が来たと言っては読んで聞かせていた。だから、そのセンコーを子どもたちは信じていた。センコーは私の本も子どもたちに読ませた。民族意

識持たないかん、言うて。で、朝鮮名を名乗る。すると孤立する。どんどんおかしくなって自殺未遂。このへんを日本のセンコーは少しも考えてくれへん。子どもたちはセンコーを呼んで集会を持とうとした。私を呼んだ。でも、会場に入れてくれない。朝鮮人宣言をして社会に巣立ち、いろんな経験をしたOBも入れない。一晚ねばってね、結局「発言なし」を条件に入りました。生まれてちょっとのマウイを連れて。ところが最も信頼すべき解放派の教師たちが、——日教組の中でも解放教育について最もはなばなしいリポートを提出したと評価された人たちが、目を怒らせてビケ張って……。すごかったですよ。朴壽南が新左翼を従えてくるって。何が新左翼ですか。マウイと、自殺をはかった子を二人連れて行っただけなのに。大震災の、あれと同じです。朝鮮人が井戸に毒を流したというあれと。

その時から、私は顔が変わったって言われます。ふっくらした、お嬢さんお嬢さんしたお嬢さんだったのに。楽天的で、吐かれる言葉のすばらしさに感動して、吐く人間も言葉も一体のものとして信頼していたのに。

◆差別すれば侵略できる

なぜ差別するのかって？

韓国人や朝鮮人をきらわなければ侵略できないじゃないですか。尊敬したり好意をもったりすれば、支配も侵略もできませんよね。殺すことはできませんよね。

近代までは、日本は中国や朝鮮の文化使節を丁寧に迎え入れていました。黒船の大砲一発で鎖国がゆらいだ。その欧米のやり方を日本は模倣した。韓国は文化のレベルは非常に高い。しかし武装していないのに目をつけた。日韓併合の前に、日本の侵略は着々と始まっています。李朝の王妃を惨殺したり。

日本があのととき朝鮮を保護しなければロシアにとられた、という人が結構いますよね。でも、だからといって、少しも免罪されない。たとえ清の植民地になっても、ロシアの植民地になっても、われわれは告発しますよ。泥棒に三分の理、って言いますけど、とんでもない、三厘にもならない。侵略を保護だなんて、どうしてとりつくりうことができるんでしょう。

すさまじいことをしてゐるんですよ、その時。

解散させられた李朝の軍隊が、中国の間島でバルチザンになって抵抗する。朝鮮の抗日バルチザンの始まりですが、農民たちも一斉に立ち上がった。義兵って言うんですけど。それを近代的に装備した日本の強力な武力で圧殺した。一族皆殺し。殺し方もすごいんです。内臓を引き裂いて、ちぎりつつた臓を「食え」って突き出すんです。わたし、その生き残りの一族に会いました。日本人って、すごいですねえ。

◆生きていきますか

原爆を受けた朝鮮人が九万人いると言うと、へえー、朝鮮にも原爆が落ちたんですか、と日本人はびっくりする。これ、広島、長崎の被爆者なんですよ。

一九二〇年の国勢調査では、広島県内の朝鮮人は一一七三人ですが、満洲事変直前の一九三〇年には一五九六八人。強権による朝鮮人労働者の連行が始まった一九四三年には六万八二七四人、四四年には八万八六三人。そして被爆した。

死んだ人は二万人とも三万人とも……。

一度も実態調査がされていないのです。

生き残った人も大変です。日本人でさえ大変なのに。日雇いなどで、ほそぼそと暮らしている人がほとんど。そして毎年死んでいく。

「戦争中、義弟が海軍に志願してね……、ええ、皇国臣民じゃ言うて自分から……。男前で秀才だったが戦死した。遺族年金とか見舞金取りに市役所行ったら、あんたら外国人じゃけん、資格ないよ、って。皇国臣民じゃいうて徴用で連れてきて原爆で殺したり戦争で殺したりしておいて、資格ないからいうてね」

「善隣じゃ、国交回復じゃいうても、わたしら信用できんがね。わたしらにする仕打ちだけ見ても、これはハッキリ帝国主義じゃがね」

「——あい、ここがサラム（人間）の住むところかね。みんな出ていくことばかり考える。あい、息がつま



って気い狂いそうよ。うちら出ていく力がない。行き場ないんじゃないか」  
ケロイドのひきつる同胞たちを、私はたずねて歩きました。故国に帰ったまま、被爆者手帳もない人も大勢います。

けれども、それ以上に私がいま問題にしたいのは、日本人の子どもに日々殺されていく朝鮮の子どもたち。殺されないまでも、心の障害者にされていく子どもたちのことなんです。

人を殺す側の人間に、いま日本で、毎日毎日、子どもたちが育てられているのですよ。

日本は何をしてきたのか。ほんとうの歴史が日本人から奪われている。それは自分自身が奪われているということなんですよ。

朝鮮人被爆者の問題も、被爆者が気の毒だから助けろというんじゃない。朝鮮人が被爆した歴史そのものを日本人が知らない。自分が奪われているのに気がつかないことが大問題なんです。

進出を侵略に戻したら終わりじゃない。大事なことは歴史を自分の手に戻すことです。本当の歴史を奪われて、どうして自己のありよう、アイデンティティがありますか。

奪われていた一切のもの、歴史、言葉、自分の名前、自分の存在の尊厳、それらを奪い返したとき、私は初めて空が青く見えた。花が赤く見えた。生きていけるようになった。

人を殺す人間に仕立てられ、自分の歴史を奪われている日本の子どもは生きていきますか。

自閉症、登校拒否、家庭内暴力、校内暴力……。これらは結果です。日本の子どもたちが、そこまで子ども自身の尊厳を傷つけらるている。いびつにされている。

殺す側に仕立てられている日本の子どもに比べれば、殺された朝鮮の子どもには、まだしも救いがある、と、私は思うのですけどね。

とりもち、もう、べつとりです。

日本のお母さんたち、ほんとうに心配じゃないんですか。

# 「原爆の図」は わたしの 遺言です

丸木 俊

(於旭川市 講演より)

タクシーに乗っていたらね、「旭川に千人もの女の先生とお母さんが泊りこみで集まるんだって。何事だろうか。これはよっぽど世の中が変になったに違いない。だから、女の人たちが真剣になって、何か一生懸命やろうとしてるんだなあ、これは大変なことだ」って運転手さんが感心してたの。だから、これを機会に

◆ 1982・7・26



丸木俊 作『原爆の図』より

何かすばらしいことができるんじゃないかな。

私はついこの間まで、人類はもう駄目になる。いくら原爆の絵描いてきても、三十年以上も原爆やめて下さい、戦争やめて下さいって一生懸命思いながら、大きな絵をたくさん描いたんですけど、絵描きが絵ぐらい描いたってね、何の足しにもならないって思ってたの。原爆が増えて増えて、六百回地球上の人類が死んでもまだ余っているんですって。恐ろしい、そんなんなっちゃったのねエ。だからもう駄目だわ。大予言の「人類は間もなく死ぬであろう」あれ当たるかも知れないわ。私はもう七十歳になったから死んでもしかたないんだけど、若い人とか、子どもだとか、どうなっちゃうんだろうって思っていたら、日本からじゃなくて、ヨーロッパのほうから反核運動というのが起こってきたのね。したら、日本でもボヤボヤしちゃおられんというので、だんだん、だんだん、デモが始まったり、署名運動が始まったりしましたね。

それでも、署名したってどうかなあー、デモやってもどうかなあーと思っていて旭川に来たら、こういう雰囲気ですよ。これは希望がわいてきました。ありがとうございます。（拍手）

◆ 1945・8・6

今から三十七年前の八月六日、午前八時十五分に人類最初の原子爆弾が広島の上空五百メートルで炸裂した。その時の地上の温度が六千度。爆心地にいた人たちは、溶けて消えて蒸発して無くなっているわけです。ですから、「熱かったのよ」「こんなにひどかったのよ」と言って話をする人は一人もいないんです。言い伝えることはできないわけですね。想像するよりほかに手がない。

だんだん遠ざかるにしたがって、温度が下がってきましたけれど、爆心地から半径四キロの中にいた人たちは、ほとんど熱傷をしました。物陰にいた人たちは熱傷をしない人もいましたけれど、爆風で飛んでくるガラスの破片がこなごなになって、風速九百メートルだったかしら、そういう勢いで飛びますから、全身にガラスの破片が刺さっている人。それから、足だけがアスファルト道路にベチャッとひっついてね、そこをガラスが走ったのだから、上がなくなっちゃって、足だけが立っていたり。そうかと思うと、ボーンと吹き

上がつて木の枝にぶら下がっている人。それから、橋の欄干に叩きつけられて、熱風で叩きつけられて、全身がはれてね、まるで桃色の大きな風船のようになって、欄干にひっついていてる人。それは、それはひどい姿で死んでいかなければならなかったわけです。そして、そこらにいったいの放射能がみちみちていたわけです。

私は後から広島に入ったんですけれども、そこに残っている放射能、残留放射能があるということを知らなかったの。ですから、大変だ、大変だと言いながら、そこらじゅうをウロウロ歩きまわったり、家へ来たケガした人を運んだり、息をひきとつてもいつまでたつても連れに来てくれないから、もうウジはわくし大変だから、この人を焼かなければいけない。それにしても名前を聞いとけばよかった、名前も聞かなかったんだから、それを焼いちゃったら困るなあ、だけど、どうしようと言いながら、着物の切れ端だけをとつておいて、その人を焼いたり、そんなことをしてたの。

そうしましたら、だんだん、だんだん私の体がだるくなつてきましてね。それでも何か食べなくっちゃというので、食べ物がないから、何か探しにというんで、ふろしきのようなものを持って出かけて行くんです。

丸木の家は、ボンと吹き上がつて横向いてポチンと落ちた。それで半壊になつて、屋根がなくなつて、窓もなくなつて壁も落ちていて、柱も折れていたの。それでも、広島島の爆心地から最初の焼け残つた家でしたから、ケガをした人たちが次々に来て、倒れた人が座敷じゅう、縁側じゅういっぱいになつてたの。寝ている人は「痛い、痛い、痛い」「水、水、水」って言ってますから、水をあげたり、食べ物をあげたりしなきゃいけないので、食べ物探しに行つて、陸軍病院がありましてね、その病兵が作つていたカボチャ畑があったなあと思つて、そこへカボチャを拾ひに行つたの。そして、死んだ兵隊さんとカボチャと場所がつてゐるんですけれどね、カボチャばかりみつくて拾ってくるのね。ああいう時、人間はおかしくなりますね。

カボチャをみつけたけど、原爆に当たつたほうがグジャグジャになつて、当たらないほうが硬いの。これでも食べれるなというので、ふろしきに五つ六つ包んで、それを下げたり、かついだりして帰ってくるんですけど、行きがけもそうだったんですけど、土柱つて土の橋を通る時に、いったい死んだ人がいる。いった



い水の中に頭をつっこんでいるんですね。

その中に、あの人生きてるんじゃないかなと思う人がいるんですね。だけど、女だろかな？男だろかな？わからないんですね。年もいくつかわからない。あの人がもし助けてくれって言ったらどうしようかと思つてね、家にもいっぱいケガ人がいるんだけど、もう一人増えたら困るなと思つたんです。だから、足音を忍ばせて歩いたんですね。そして、帰る時もまた、足音を立てないように、助けてくれって言われたら困るなあというので、ソ〜ッと歩いて帰ってきたんです。ですから、人を助けるということは、とっても難しいことなのね。

とび込んで来た人は、もうしかたないと思つてお世話をしましたが、それから先は進んで助けるということが難しい。そのカボチャをききさんで、グジャグジャのところだけ洗つて捨て、お米を一握り入れて大きな鍋で雑炊を炊いたんです。そして、自分も食べたり、病人にもケガ人にも食べさせてあげたんです。自分が食べる時、「あら苦いな」と思つたんですけども、ツルツルと入っちゃったんです。あんまりおなかが空いているから止まらないの。「ああ、もうしかたないや。一口食べたんだからもういいや」と思つて、その次から、苦かろうが何だろうが、おなか空いてるから食べて……。その頃からもう調子が悪くて、血が出るんです。おかしいなあと思つて、そのうち、明け方三時ごろからダーッと血ばかり出るの。血便じゃなくて、腸出血ですね。それが続いて、続いているんだけど、私は「血が出る」ってみんなに言おうと思うけどね、そんなこと言つたら、「私なんか腕がないよ」「私の顔を見てちょうだい、こんなにくずれているでしょ」そういうふうに言われそうだから、黙つてがまんしてたの。でも、ゆらり、ゆらり、動くでもなく働くでもなくね、それでも一生懸命働いているつもりなんですけど、そういうふうにして八月の終わりごろになつてきました。そうしましたら、あとから、あとから入ってきた人、やけどしてない人ですね。後から入つて救援してた人、そういう人が、一握りくらい毛が一遍に抜ける。血を吐く。鼻血が出る。足がはれてきて斑点ができてきて、そして、八月の終わりがらバタバタ、バタバタ、原爆を受けない人たちが死に始めたんです。その日原爆を受けた人は大変な苦しみの中で死んでいったんですが、あとから入ってきた人たちが、どんどん死に始めたわけですね。それをいま考えると、残留放射能の影響であつたと考えられるわ

けです。

その日の放射能のこと、その日のケガのこと、遺伝のこと、今も被爆の方いらっしやいますね、被爆三世の体のこと、結婚のこと、深い深い人間に及ぼすもの、すごく恐ろしい影響をもっているのが、原子爆弾だというわけです。

◆ 原 発

残留放射能のことを特に今日は話したいなと、忘れないように、忘れないように、と思ったんですが、あの広島、残留放射能、長崎に充満した残留放射能は、今の原子力発電所からもれてくる放射能と全く同じではないかと思うんです。広島のもと、人間に与える形は同じですが、少し残量が違うんですね。そのことがわかってきました。

今の原子力発電所を動かしているうちにプルトニウムというものが蓄積されているんですが、そのプルトニウムは長崎の原爆と同じものだそうです。そうすると、原子力発電所からの放射能もれ、スリーマイル島の放射能もれ、日本の各地にある海村の原発の放射能もれ、駿河の原発の放射能もれ、そういうものが、そういう恐ろしいことになってきているんじゃないかと思うんです。

この間、私の友達が——科学者で、だから原発のことをとてもよく知ってらっしゃるんですが——この電気、ずいぶん眩しいほど電気を使っていますけどね（会場の天井を見る）原発の電気もこの電気の中に入ってきているんですって、その電気代払わなくちゃいけないのよ。で、原発の電気代ってずいぶん高いんですよ。何パーセントかは原子力発電の電力。それで、友達は電気払わないわって、原発の電気代払ってまで電気つけたくないわと言って、払わないで頑張っていたの。

「電気代払って下さい」って言われたら、「イヤよ、原発が入ってんだから」って怒ってたのね。あんまり頑張ってたから、電気切られちゃったの。それで、夜になったら真っ暗。真っ暗になってもいいよって言って考えてたら、だんだん、だんだん、暗闇の中で本当のことが見えてきた。「暗闇こそ私の知恵の場だわ」っ

てね、思ったんですって。原発のあれは何パーセントで……いろんなものが全部見えてきたって言うの。だから、たまには暗くなったほうがいいよって言って頑張ってたね、東京に変な人が住んでるって、東京の真ん中で真っ暗闇で暮らしてるっていうんで、ＴＶ局の人が来たの。ＴＶに出て下さいって。

「どうしてあなたは、真っ暗のところで暮らしてますか」って言うから、「電気代払わないから」。「どうして払わないんですか」。「あれは原発の電流が来ているから払いたくないわ」ってＴＶで言ったんですって。リハーサルなしのＴＶだったからね、言いたいことを言っちゃったのよ。それで一万円もらったわ（会場笑い）。そう言って頑張ってる人がいます。

その人が言ってたんですけどね、ブルトニウムがね、茶さじ一杯くらいでね、日本の人口全部を肺ガンにすることが出来る。今、肺ガンが増えてるでしょう。ここ急速に増えてきましたね。

去年、養護教諭の方がね、北海道が狙われているわって言ったの。北海道のどこかの鉱山の穴の中が狙われてるんだって。

原発の灰を捨てて下さい。南の島、ミクロネシアのほうに捨てに行ったの。「そんな危いもの捨てないでください」「いいえ安全なんです」「安全なら自分の国に捨てなさいよ」って言われちゃったでしょう。で、しょうがないから、安全ですから持って帰りますって、帰ってきたのね。北海道の人ボンヤリしているから、「これ安全だから捨てさせてね」って言う。なめられちゃ駄目よ。だめだね、北海道の人。私たちは純情で、純粹で、ロマンチストが多いのね。だからボーッとしているように見えるのね。だけど、一旦わかったらね、一旦その真相がわかったら。さっきいい言葉だったなあ、しなやかに、したたかに、たたかわずに、なめてもらっちゃ困りますよ。

（旭川）市長さんの選挙があるのね。立候補する人に、聞くといいわ。「あなたは原発どう思いますか」「原発はしかたないさ。あれはエネルギーだから」って言ったら、投票しないほうがいいわ。これが、私たちが作った踏み絵だわね。いろんな選挙があるわね。その時、「あなたは、原発賛成ですか」って聞いてみるのが一番いいんじゃないかな。

戦争中は原爆をつくって私たちが殺されました。今度平和になったら、原子力発電に化けて出ました。あ

れ、お化けですよ。安全だ、安全だって、だまされないようにしましょう。

この間、九州の大学の物理の学生さんに会いましたので、「あなた、原爆つくれる？」って聞いたら、「はい、材料さえあればいつでも」、そういうことになっているんです。

つい二三年前に、アメリカで、ある大学の物理の学生が、方程式を考えていた。「ああ、これが原爆の方程式」できた、できたというので、教授に見せに行ったの。そしたら、教授が真青になってね、「それをこっちにください」と言って、「あなたは、今日からこの方程式を頭から忘れてください」と言って返さなかつたんですって。

いまもう、日本では材料さえあれば、いつでもつくれます。六百回人類が死んでもまだ余るのに、まだつくろうとしてるの。

#### ◆チッソ水俣工場

水俣のチッソ肥料工場が、まだ動いているのね。少し小さくなったといっても、散ってるんですって。関東のほうに來てるんですって。

「水俣のチッソは今何をつくってるの。やっぱり肥料？」って聞いたたら、「何だかわからないんだけど、すっぱい臭いがして、豚がキーキー鳴くのよ」って言うの。息苦しいんですよ。それから、墓参りに行ったら、墓の石がとけてるんですって。字が読めなくなってるの。祖先代々の墓と書いてあるでしょう。それがだんだんボケてきちゃってるの。

「何でしょう。そのすっぱい臭いは」って言ったら、チッソで働いている人が、（内部告発が始まってるんですけど）、「硫酸、硝酸、塩酸、酢酸、酸をつくってるんです」って。

「その酸を何にするんでしょう」って言ったら、「たぶん爆弾の材料でしょう」——そういうのは、私この間、『火焰瓶の作りかた』っていう映画を見に行ったんだわ。コカコーラの瓶の中に何か入れて、やっぱり硫酸か何か入れるのね。爆弾作る時って酸があるのね。小っちゃい火焰瓶でもあるのね。ですから大きい爆弾に

なれば、たくさんいるのね。

平和になって、チッソ肥料工場が肥料を作ってた。その肥料をたれ流し、肥料のカスⅡドロドロのヘドロをたれ流して、水銀が流れたのね。その水銀が魚に入って、その魚を食べた人間が、ひどいひどい病気になる。今でも隠れて住んでるんですって。それで、まだ少しづつ食べているからね、もう水俣終わってるって言うけど、終わってないんだわ。まだ、どんどん患者さんが出てくるんですから。

それで、駄目だ、駄目だって言われたら、今度は爆弾の材料作ってるのね。だから、チッソ肥料工場は、今や、どこかで戦争があればいいと思ってるでしょう。

#### ◆原爆の図

「原爆の図」をずーっと描いて描いてね、描いていく中でだんだん、だんだん、わかってきたの。初めは、お父さんが死んだし、おじさんも死んだし、姪が死んだし、友達もたくさん死んだし、本当にひどいことでした。申し訳ありませんね、十分看病もできなかったして、死んだ人への慰霊のつもりで描き始めたんですね。

ところが、描いていくうちに、七歳の子どもを描けばね、七年もかかっているのよ、この子どもが、来年は八歳、九歳、十歳、十七歳、十八歳……。もう娘でしょ。そんなにいい娘になる子が、ここで死ぬのかと思つたら、ぐっと腹立たしくなった。十七歳くらいの娘さん、きれいの。人生の華だわ。しわも寄ってないしね、胸がくびれていて。きれいなものよ。そういう子がここで殺される。それから、少年、少女たち。まだおとなになるちょっと前の男の子も女の子もきれいですよ。もうビチビチして、本当に人間の一生の最高の年頃よね。そういう子どもたちがダーッと殺されたんですから、ものすごく腹が立ってきたんだわ。アメリカの野郎、この野郎ね。よっくもやりやがったなと思つてね、ムカムカしてきたの。そして、アメリカに原爆の図の展覧会に行きましょうっていつて、何遍計画しても駄目になるの。やつぱり落とした国っていうのは気がひけるのかなあ。ようし、是が非でも行つてやるぞと思つて、何遍も計画しているうち

に、とうとう一九七〇年にアメリカに渡ることができました。これは、アメリカのキリスト教の団体と、進歩的な大学の先生、それからユダヤの人たち。これは、アウシュビッツでひどいめに遭っていますから、やっぱり怒っているのね。そういう人たちが準備して下さって、アメリカに行きました。

展覧会をすることになって動いていたんですけど、展覧会場に絵を並べたりしていましたが、一生懸命に手伝ってくれているアメリカ人でも、目が青くて、鼻が高かったら、「あら、憎らしい、よくもやりやがったな」って思うのね。私が不機嫌な顔をしているものですから——だろうと思うんですけどね、ロスアンゼルス郊外のパスディナというところにカシュー工科大学という総合大学で大きな大学なの、その大学生たちが一生懸命応援してくれているの。その応援してくれている人たちにも、私はブーッとしているの。で、一杯飲んだ時にね、大学教授が、「例えば、中国の絵描きさんが南京大虐殺という絵を描いて、日本に持っていいたら、あなたはどうされますか」って言ったの。もう、びっくりしちゃったのね、その時は。「あ、南京大虐殺なんていうのはね、どこかで聞いたような気がするな。あれ、何だっただろうか」と、そのくらいだったのよ。そうすると、急に恥ずかしくなっちゃってね、「はっ、あんなことがあったわ」

それと同じことです。アメリカが日本で行なった大量虐殺。広島絵を日本の絵描きが描いて、アメリカに持ってきてます。それを、アメリカ人たちがかついで歩いているんです。私、アメリカにいいたら、みんな憎らしいと思っていたのね。やっと、この人たちどうしてこんなに親切なんだろうって気づいたのね。「今、ベトナム戦争の最中です。村民虐殺があるんです。このようなアメリカの残虐な侵略戦争を止めさせるために、私たちは原爆の図をかいています」この人は、南京大虐殺も広島大虐殺も同じ意味があると思っていてくれる。そういう人に向かって、アメリカ憎らしいって睨んでいたのが恥ずかしいって思い出したのね。

一緒に行っていた誰かが言ってくれたんだわ、「そういう考え方、アメリカをひとつにひっくるめて、憎や憎やという考え方は、『民族主義的排外思想』ってことになる」っていうのね。右翼と同じなんだって。恥ずかしいわー。戦争反対とかね、原爆反対とか一生懸命言ってる人がね、右翼思想が入ってるのね。ああ困ったな、どうしよう、どうしよう、ごめんなさい、ごめんなさい、本当に恥ずかしくなっちゃって、アメ



リカの教授にあやまったの。アメリカは一つではなかった。戦争やるアメリカと、戦争に反対するアメリカと二つあったのね。それがやっと見えたのね。

日本はいったいどうなっているんだらう。我が国、我が国って言うけどね。これは一体誰の我が国だらうか。じゃ、日本はひとつなんだらうかと思たら、あら日本にだって二つあるわ。戦争をやる日本と戦争はいやですという日本と二つあるのに、それまで、なんかひとつみたいな気がしてたのね。二つよ。戦争に反対する力、ちょっと弱いかもしれないけど。

私、戦争中に戦争反対だと思ってたんだよ。だけど、牢屋へ行かなかったんだから、それほど大した反対してなかったんだね。自分だけどっかへ隠れてやろうとか、自分だけどっかにモニヤモニヤとして過ぎればいいんだ、ちょっと絵描いたり何かしたりして、戦争反対の絵なんかちょっと描いてさ、隠したりみたいな、それじゃ大した反対にならないわ。それと比べたら、このアメリカ人は、いま戦かっているベトナム戦争をやめさせるために、原爆の絵かついでいるんだからね。

いつクビになるかわからないのね。いつ国外追放させられるかわからないのに頑張っている。「どうしてあなた、そんなに一生懸命やりますか」って聞いたら、「私は太平洋戦争の歴戦の勇士です。日本兵よ降伏せよ、日本兵よ降伏せよ、とメガフォンで叫んでいた」んですって、硫黄島です。すると日本兵は、穴の中に入って出てこないんですって。で、「しょうがないから火焰放射機を自分で持って、私の火焰放射機で日本人を焼き殺しました。その時のことを思うと絶対に戦ってはいけない」とい、それで戦争反対やっているんです」って教えてくれたのね。

南京大虐殺とアメリカで言われた、恥ずかしかったですね。私の体の中に民族主義的排外思想がまだ入っていたんですね。ああ本当に恥ずかしいなって思ってたの。そしたら、写真があるからあげますって、送ってくれたの。南京大虐殺の写真ね。それからね、本多勝一さんの本(『中国の旅』朝日新聞社刊)を読みながら、いって、いっぱい資料を送ってくださいました。

## ◆南京大虐殺

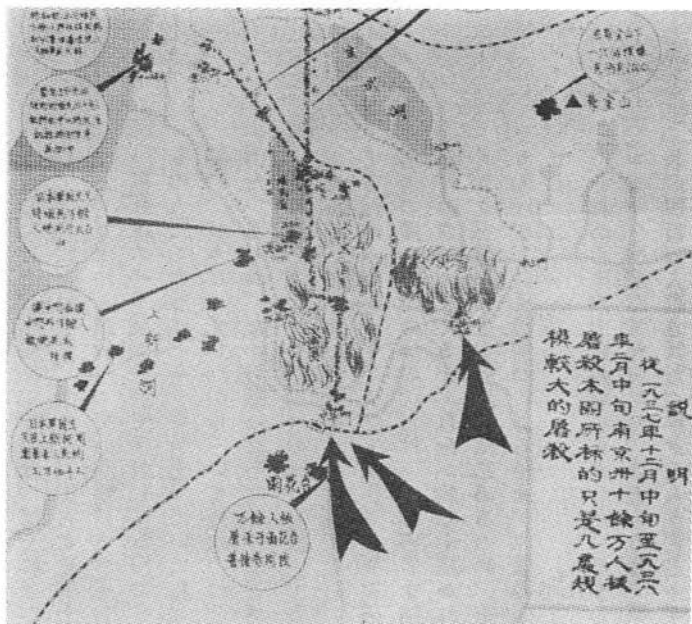
それから勉強が始まったんですから、何ていうボンヤリでしようねえ。本当に困ったなあ、困ったなあとしてそれを読んだら、見たら、大変なことでしたね。捕虜五万人、虐殺された人三十万人、日本刀と機関銃と銃剣で殺したの。そして、一つの写真を見てたのね。南京の繁華街で中国人を捕まえてきて、後ろ手に縛って首を下げている。日本の将校が写っていて、その時首がボンと切れて、今落ちようとする時シャッター切ったの。すごい、何のためにこんな写真撮ったんだろうかと思てたら、その写真の左上のところに小さく白馬にまたがった將軍が写ってるの。誰れじゃろうかと虫めがねのような老眼鏡で見ただけど、わからないの。従者を二人従えて御前処刑なのか、見せしめの処刑なのか、そういう感じ。

それから、ああ、あの人に聞けばわかと思うって、友達に電話して、近代の歴史に詳しい人なんですけど、「南京大虐殺の写真があつて、左上に白馬に跨った將軍が写っていますが、これは誰だと思えますか」って聞いたのね。「松井石根大將か朝霞宮であろう」。松井石根大將は総司令官なのね。朝霞宮はどうしてこんなところへ行つたのであろうか。「どうして宮さんみたいな人が、こんなところへ行つてたんですか」って



日本軍に生き埋めにされる中国の民衆（中国通信社提供）

聞いたらね、「戦争が始まった、日本軍が占領した。すると、いろいろな企業がそこへすぐ追っかけてきて、その拠点を押さえていった。そして、工場をつくる準備をする。安く中国人を使おうとする準備をする。そうしますと、御前会議があつた時に、それが話に出て、そうなると皇室の権限が弱まるから、皇室から誰か派遣されなければならない。」それで、朝霞宮に行かせたのね。「誰が言ったの」って聞いたたら、「ヒロヒトだよ」って。「あら、私バカだと思つてたわ」



▲南京虐殺の概念図(南京市提供)——南京城南中華門などの付近  
本多勝一著『中国の旅』朝日新聞社刊より

いつでも利用されているんだと思ってね。天皇はかわいそうな人かいなと思ってたの。

「どうして、どうして、皇室の権限については老獪とさえ言われている男である。もし、皇室の、天皇の親戚のような人たちが南京まで行かなければ……。あんな人が行くから、不敬のことがあってはいけない、家はきれいにしなければならない、身体障害者は出歩いではならない、精神病の者は隠れている、それから、ちょっと変なことを考えていそうな目つきの者は連れて来い、女だろが男だろが殺せというので、一般市民三十万人が殺されたわけです。ああいう人たちがウロチョロするところくはない。そのために大虐殺となったのです」

と教えて下さった。なるほどなあ。そう言えば、今でもね、誰それがお見えになりますという、さあ、お掃除でしょ、道普請でしょ。それから、こんなこと言いに来る？ 身体障害者の人は引っ込んでいろんなて言う？ だから、ああいうところから考えても、つまり、農薬の除草剤撒くでしょう、除草剤撒くような

ものよ。邪魔者は殺せっていう……。

そういうことがあって、私は南京大虐殺の絵が中国から来た、かついで歩こうと思ったの。それが来ないでしょう。いつまで待っても来ないんだわ。それで、だんだん、だんだん、おばあさんになるし、おじいさんになるから、力がある間に描きましょうって、大きな大きな絵を描いたんです。そうしたら、本

当辛くてね。夜中に私が描いた絵の中の首がころがってくるのよ。私は後退してるの。後退なんかしたら駄目よね。その首にね、すみませんでしたって撫でなきゃいけないのに、逃げてるのよ。そんな絵見せるなんて、いやだなあ、恥ずかしいなあと思ったりして、白馬にまたがった將軍をひとつ描いてやろうと思って描いたけど、いやらしくて、いやしくてね、絵にならないの。ああいう人たちは絵にならないもんですよ。ヒットラーも描いてやろうと思ってね、チョビびげつけてアウシュビッツの絵の横にあげておいたの。描こうとしたけど、本当にいやになってやめました。やめて字を書いたの、アウシュビッツでね。そうするとね、どの絵を見ても、つまり、加害者を描かなきゃいけないと思ったのね。したらね、ゴヤが描いてますけど、ゴヤの『虐殺』っていう絵、スペインに行かれた方はわかるでしょう。画集にもあるからね。軍隊がスペインに行って虐殺してるんですね。虐殺側の兵隊たちは全部ね、後を描いてるの。やられるほうの人たちの顔は、キラキラ光っていてね、その人の子どもの時から今まで生きてきた人生が全部出ている感じ。ピカピカ光りながら、いま死ぬのね。きれいで、美しいんだわ。加害者というのは、駄目なんだね。汚ないんだね。だから絵にならないので、ゴヤは後頭ばかり描いてるんだなって思ったの。

それから、ピカソが朝鮮の虐殺を描いてるんですけど、その絵もね、チマ、チョゴリを着たお母さんと子どもが描いてあるのね。それは可憐で美しいんだわね。やる機関銃にはね、顔がないの。機関銃に足がはえてるだけ。だから、ピカソも加害者の顔を描けなかったんじゃないかと思います。それで、とうとう私も加害者の顔を描かないの。だけど、加害者を描けないからと言って描かないでいると、またムクムクムクツとね、のさばってくるよ。自分が絵にも描かれないほど醜いものだなんて思っていないんだね。だから、またムクムクと悪いことを計画しはじめるのね。そういう加害者と被害者のことも考えていたんですけど、そういうわけで、いま美術館にある絵は、原爆の図が十五できました。このあいだ旭川に来たのは、その中の三つです。

それから南京大虐殺を描きました。そうしましたら、アウシュビッツどうするんだって言われて、アウシュビッツへ飛んで行ったの。ひどいのね。原爆よりひどいのね。毒ガスで殺すんですけどね、すごいんですよね。四百万人殺された、ユダヤ人差別とユダヤ人を毒ガスで殺すということとつながりましたね。

その毒ガスは平和になると農薬に化ける。いま、私たち米に農薬使っているでしょう。リンゴに農薬、ぶどうに農薬、なしに農薬、きゅうり、トマト……ゆっくり、ゆっくり、殺されていくんですね。戦争中は毒ガスで、平和になると農薬に化けて出てくる。ひどいと思いましたよ。

#### ◆ベトナム以後

除草剤であるでしょう。あれベトナム戦争の時に枯葉作戦に使ってるのご存じでしょう。ベトナムが隠れているからっていつて、枯葉作戦で枯らすでしょ。見えてきたところを銃撃するのね。あれを浴びたベトナムの人たちに、サリドマイド奇形と同じ奇形児が生まれやすいんですって。その時に除草剤を撒いたアメリカ兵がね、自分も知らないうちに浴びていたの。アメリカに帰って結婚したら、サリドマイド奇形児が生まれてきた。それが除草剤です。

誰の手にも入りますね。どこでも除草剤かけてますね。あの除草剤がいま、南米、ブラジルで使われている。アマゾンの流域にいろいろな少数民族が住んでいるそうです。奥地の奥地のほうへ行きますと、旧石器時代の人が住んでいるんです。そういう生活をしている人が住んでいるの。そこは、その人たちにとっては大切な住みかですよ。そこで暮らしている人たちを、まずアマゾンを開発しなければならないというので、世界中の企業が狙っているそうです。

ですから、そこに住んでいる人間が邪魔になるのね。それで、枯葉作戦をやってるの。除草剤を撒いてね、枯れてきて見えてきたら銃撃しているそうです。それを引き受けているのが日本の企業、伊藤忠。そこの人たちは字もないし、新聞も出さないでしょう。ラジオもなければテレビもないでしょう。だから伝えようがないわけね。ただその事実を知った人が伝えてきているわけですけど、それはあんまりひどい話だからね。私恐ろしくて言えなかったの。

ブラジルから帰ってから聞くんですけど、「こういう話を聞きましたけど、本当でしょうか」って聞いてみたの。そしたら「本当です」って。「自分がそのことについて、フランス語で書いてフランスにそのこと

を寄稿しました。あとで本を送ってあげます」って。

日本の企業は悪いですよ。それで、私は子どもたちや先生たちといろんな話をしました。

私が「戦争反対」って言うのと、「おばあちゃんも戦争反対なのね」って言うの。「私は反対よ、そんな恐ろしい戦争いやだわ」「だけど、どうして戦争起きるの」って聞かれたの。どう言っていかわからないのね。「何って言ったらいいのかな、ちょっと待って、考えるから」ちょっと待って、考えるじゃ駄目ですねえ。

ちょっと待って、考えるなどというのは、私がどうして戦争が起きるかということについて、はっきりわかってないんじゃないか、だから言えないんじゃないか。それで、どう言ったら子どもたちにわかってもらえるかなあと、いま一生懸命考えているんですけど。

いま、伊藤忠のことがちょこっと顔を出したんだけど、もう一つね、戦争になったらアメリカの原子力潜水艦、エンタープライズ号横須賀に入港なんていうと、反対、反対って行くでしょ。いつ来ますか？ 何月何日？ そりゃ知らせてくれるから、それで行くのよ。それを聞いた人、信州のお百姓さんです。「私たちは、エンタープライズ号が横須賀に入港するのは、先生よりも先にわかります」って言うのよ。けど、「どうしてわかるの？ こんな山の中で」って聞いたたら、エンタープライズ号が太平洋上をやってくる。ツーツートトンと信号が入ってくる。何月何日に横須賀入港、ジャガイモ何キロ、キャベツ何キロ、レタス何箱、セロリ何箱、パセリ何箱出荷せよって来るんだって。さあ良かった、良かったって、箱詰めが始まって、出荷するんだって。「ほうら、先生より先に知ってるでしょ」「じゃ、あれだわ、米兵ゴー、ホーム」ってビラ入れてよ」って言ったら、「そんなことで済みますか、日本一の金持ち村になったんですもの」。

日本一の貧乏村が、高原野菜を作るようになってから、日本一の金持ち村になりました。それからですよ、私たちがセロリだのパセリだのと、野菜食べなくちゃ、野菜食べなくちゃと、バリバリ、バリバリ野菜かじるようになったのは。昔は生野菜なんて食べなかったねえ。おひたしとかさ、野菜の煮込みを食べたのよね。

ある時、友達が来て、紹介しますって、靴屋の社長さんだったの。「モンゴルへ写生に行きますから」っ

て言ったらね、「実は、うちの靴を何個か売ってきてください」って言うの。「どうして？」って聞いたらね、靴っていったら、ハイヒールとか子どもの靴とか目に浮かぶでしょう。そうなのかなって思っていたらね、「ベトナム戦争が終わりまして、はたと米軍の発注が止まりました。自分のうちの倉庫に軍靴が山のように残りました。どうしたらいいでしょう。もう倒産寸前です。どうにかモンゴルで売ってきてください」  
「あらー。私、靴屋さんと戦争が関係あるなんて思わなかったわ。だけど、私は絵描きで、貿易なんかできないのよ、だからとても話つけられないね、窓口が違うんだもの」と言って、お断わりしましたけど、靴屋さんと戦争がつながっているんですね。

ベトナム戦争に戦車を送るな、横須賀から船に載せてそれを送るのをやめよ、というデモがありましたね。デモには行かなかったけど、後でそこを通ってみたら、ああこの道だ、まっすぐ行ったら横須賀だと思っていたら、ひょこっと見たら、米軍基地があるでしょ。ああ、ここから行ったのを見てたの。そしたら、すぐその隣に、三菱キャタピラー工場っていうのがあるの。看板が出てるの、農機具製作所。あら、戦車に似てるじゃない。ああ、鋌を打ち変えて、組み変えたら戦車になるじゃない。そしたら、ここで戦車を造って、道路ひとつ隔てたアメリカへ輸出したわけです。また先へ行ったら、三菱キャタピラー工場のアパートがあるのね。それが、三菱キャタピラー工場に勤めている家族のアパートなのよ。ふとん干してあるの。うちの父ちゃん戦車造ってたなんて、母ちゃん知ってるのかしら。父ちゃんも知らないで造ってるかもしれないね。そうすると、内部告発はないなあ、賃上げ闘争はやるが、俺たちはやむを得ず戦車造ってますよって告発してくれる労働者はいない。

この間、三菱の社長がうちの親戚ですっていう人が来てね、「あなたこんなこと知ってたの？」って聞いたら、三菱電機の本社は、電気製品は全部下請けに出している。レッテルだけ貼って出荷してる。で、「何を造ってるんですか」って聞いたら、「全部武器です」。それは内部告発じゃなくて、親戚の告発。そうすると、私たちの生活の中で、大なり小なり、武器と関係なしに生きていないということがわかってくる。

さて、ここで、私たちはどうしたらいいんでしょう。

具体的に何をやれば、戦争をくい止めることができるでしょうか。

みなさん方の資料が良かったね。//創造的に、創作的に、具体的に活動しよう//という言葉、いい言葉使ってますねえ。

創造的、創作的、具体的に活動しなければならない。

言い忘れたことがあるの。南京大虐殺につながるんですけど、そのことを教えてくれた人がね、私は子どもや人間がひどいめに遭うからして、戦争やめてください、戦争やめて下さいって言ってたのね。そして、その人がね、「オレは女にうらみがある」って言うの。「どうして」って聞いたらね、「オレはなあ、隣組で戦争反対、戦争反対って言ってたんだよ。すると、隣組の母ちゃんがな、あそこにこの非常時に変な男がいますよって、おまわりに言いつけたの。戦争反対だって、おかしな人ですよって。それで、牢屋に入られちゃった。そういう母ちゃんが、父ちゃんたちが、勝ってくるぞと勇ましくって言ったら、何て言って送り出していたと思うか」「何て言って送り出していたの?」って聞いたらね、「父ちゃん、手柄立ててきてねー」って言ってたの。

そんなこと言われて中国へ行った父ちゃんが、「この父、母を斬れ」おっかないなあと思っただらふつとばされるでしょ。やれって言われるから、ヤーッと言ったら、妹に見えてきたんだって。女の捕虜ね。で、こっちへ行ったら、「バカーッ戻れー、もう一度」って、もう一度行くと、「父ちゃん手柄たててきてねー」っていう声が耳に聞こえてくる。ああ苦しみかけり。オレが手柄立てて帰らなければならない。ヤーッと言って、中国の娘は殺された。それから、人を殺すの平気になった。何度でもやれるという。恐ろしいのは最初だけだったと言って告発してくれる人もいました。

「父ちゃん、手柄立ててきてねー」そういう母ちゃんにならないようにしましょう。(拍手)

これらだった笛なんです。二百年前のね。百姓一揆の時のね。桐で作ってあるの。それで、キリガエ。ガエは貝。山の中ですからホラ貝がなかったんですよ。それで、桐で作ったと思うのね。これらからね、桐を植えて、大きくなったら切つてね、真似して作つたの。二十本くらい植えたんですけど、だいぶあ



げたから、十本くらいになったの。これはオリジナルだね。（とキリガエを見せてくれる）ちょっと（からだ）弱くなってるから、（胸をバタバタとたたく）私が吹けなかったら石川さんに吹いてもらおうね。  
ボオ——（笛の音）（拍手——そしてむせび泣き）

処刑された人の話が伝わっているの。その人が矢来の中に留められて、いま、首斬られる時、「お前は言い残しておくことがないか」って言われたの。「ある」「言ってみろ」と言ったら、うしろ振り向いて、「これ以後、人のために働くでねー」って言ったの。

今でもね、「なんであんなこと言ったのかあの人。あんなに一生懸命働いた人がね。あそこで怖じけついたのかな」って。

みなさんも考えて下さい。岩手県で、その子孫たちがまだ考えてるの。

（一九八二・七・二六 於、旭川市民文化会館「全道母と女教師のつどい」記念講演から）

（まとめ 戸田 陽子）

# 沖縄

## ●その自然

●石島芳郎著

アダンを見て、「あつ、パイナップル」と感激し、天然記念物のキノボリトカゲが眼の前の小枝にいても、ふり向こうともしない観光客たち……。

「沖縄」に対する無知と偏見は、自然にまで及んでいるようです。

これは、沖縄を愛する自然科学者が、心をこめて書いた「もうひとつの案内書」。貴重な自然が、演習地として犯されていることへのかなしみを訴えた書でもあります。

カラー写真12点、図版写真83点 B5変形判 1200円



発行 フォントス株式会社  
編集発売 BOC 出版部  
TEL (03) 354-3941

# 『果てしなきポーカー・ゲーム』

## ——軍縮の限界——

阿部 汎 克

「軍縮」というと、僕は何だか勝手にアレルギーを起こしちゃうんですよ。何か閉じたサークルをぐるぐるぐるぐる回っている、という気がしてならない。というのも、僕は、五月のニューヨークの第二回軍縮特別総会に際して、関連事業として国連広報局が企画した、ジャーナリストの意見交換会のようなものに行ってきたばかりですので、そういうことを強く感じているわけです。

その会では、世界中の二十八か国から軍縮を専門とするジャーナリストが一人ずつ、国連の軍縮センターの主なメンバーや、米、ソ、非同盟の有力国であるインド、メキシコ、武装中立のスウェーデンといった国々の軍縮代表部の大使や、外務次官たちを囲んで、総会と並行して、六日間、カンカンガクガクやったわけです。ひと言で言いますと、いま申し上げた国の中で、インド、メキシコ、スウェーデンの連中は、米ソはけしからん。この両大国の軍拡のために、世界の軍縮のチームワークがとれないんだ、と言って怒るんですね。ソ連がSS20ミサイルを作るから、アメリカもヨーロッパに戦域核ミサイルを装備するんじゃないか、という議論もあれば、アメリカが最新兵器を次々と開発するから、ソ連もこれでは均衡がとれない、と、同じものを作る、という議論もある。ともかく、力に対しては力、という、こうした考え方ではどうしようもないんじゃないか、と言って怒るんですね。

一方、米ソは、と言いますと、これは、もう双方でけんか腰なんですよ。「どっちが先に始めたか、そういうことは言いたくないけれど、これはやっぱり重要な問題だから、はっきりさせなくてはならない」と一方が言う。そうするともう片方が、猛烈な反撃を加える。というわけで、六日間、入れ替わり立ち替わり、いろん

な人たちが自分の立場を表明したわけですけど、同じことの繰り返し、結局何の解決策も出てこない。こうして最終日を迎えてしまった。

日本人はいつもニコニコしているばかりで、スリースだ、ってよく言われるんですよ。スリープにスマイルにサイレント(笑)。僕はまあスリープとスマイルはしなかったですけど、それまでサイレントだったので、最後にひと言、言ったわけですよ。

困っちゃったですよ。実際問題として、何を言っているかわからない。力の均衡を建て前にはり合っている米ソに対して、その平面でもの言っても仕方がない。かといって、スウェーデンやインド、メキシコのように、大国は自衛して核兵器を減らせ、というお題目を何度言ったところで、これも実りがない。まさに事態は絶望的なわけです。

それで、わが国には、戦力の保持を禁止している憲法と、非核三原則というものがある。これは、人類の理想を体現した原則であって、他の国にはないものである。歴史をちょっとひもといてみればわかるとおり、人類の歴史ってのは、攻められたらやり返す、ということがあたり前のことなんだけど、日本だけが、そのあたり前のことをあたり前じゃないと言っている。しかしこれはあくまでも理念であって、これが完全に日本で守られているとは思っていらっしやらないだろうけど、つまり自衛隊の存在、安保条約と核持ち込みの現実是否定しがたいわけだけど、その現実を少しでも理念に近づけてゆくのが我々の仕事だと心得ているのです、とまあ、こういう内容のことを言ったわけです。

これはジャーナリストの集いであつたわけですから、新聞記者に何ができるか、ということ二十八人誰もが考えたのです。先ほど述べたような絶望的な状況の中で、何ができるか。結局積極的な結論は何も出てこなかったわけだけど、出席者の多くの間に、言わず語らずのひとつの一致点みたいなものは、あつたと思います。つまり、「政府に頼っていたのでは、もうどうしようもないんじゃないか」ということです。

その絶望的な状況ということを、もう少し具体的にお話しなくてはならないわけですが……。

#### ●果てしなきボーカー、バランス理論の破綻

私はソ連の肩をもっているわけでも何でもないんですが、事実関係として言うところ、新兵器というのは、これ

までアメリカが先に開発してきたんですね。例えば、十年近く前に、MIRV（マープ・多核誘導弾道弾）をアメリカが作った。これは一つのミサイルに、弾頭がたくさんついていて、飛んでくると、攻撃目標に一つずつ当たる、という仕組みになっている。MIRVができるまでは、米ソ双方が地上発射ミサイルはそれぞれ千基ずつくらい、ほかに潜水艦発射ミサイルなどを持っていて、ほぼ均衡していたんだけど、アメリカはこの新兵器で、ソ連の何倍もの標的を攻撃できることになってしまった。したがって、ソ連も同じものを開発したわけです。同じような例をあげればきりがありませんが、十年ぐらい前までは、アメリカが新兵器を開発すると、二年ないし三年遅れてソ連が同じものををつくる、というペースだったんですが、最近はどう少しピッチが上がつてきていて、一年ぐらいで追いついています。つい最近、巡航ミサイルというのが開発された。これは地上二十メートルほどの非常に低いところを飛んで、ねらいを定め、必ず命中させてしまうという恐ろしい性能をもっている。これはソ連にとって大変な脅威ですから、まもなくソ連でもできるでしょうね。中性子爆弾もそうです。ソ連は今つくっています。

というわけでどんどんふくれあがって、戦後三十六年間で、広島型原爆の百万個分の爆発力を持つ核弾頭が全世界に散らばっているんですね。戦術核・戦域核・戦略核含めて五万個ほどの弾頭があつて、その九〇数パーセントを米ソが保持しているわけです。そして四十六億人の人類を、二十回だか三十回だか殺せる、という。

米ソの戦略兵器制限交渉というのがありますね。一九七二年の第一回（SALT I）の時は、ミサイルの数を同じにしようということで条約が締結された。しかし、先程お話ししたMIRVができたものだから、第二次戦略兵器制限交渉（SALT II）が新たに始まった。ミサイルにいくつも弾頭がくっついていているものだから、ミサイルの数だけじゃ、均衡はとれない、というわけです。ここで、量だけではなく質の問題が入ってきている。で、やっと話がついたと思ったら、アフガン侵攻が起こって、これは批准されなかった。今度は、今年のはじめからSTART（戦略兵器削減交渉）というのが始まり、今やっているんですが、量・質に加えて、今回は爆発力の問題も加わっている。

このように、「均衡」という平面でものを考えるときりがありませんね。言ってみれば、ポーカールのチップ

を積み上げてゆくばかりで、どちらもカードを開く勇気がない。開いてしまつたらおしまいですからね。自分のほうがやられてしまうという恐怖心がある。仮にSTARRTがうまくいったとしても、その次には、お互いに相手国に入って立ち入り検査をすべきだ、なんてことになるのではないのでしょうか。こうなるとますますきりがない。

それでも、このバランス政策のおかげで、これは核の皮肉とよく言われることですが、戦後三十六年間、「大戦」と言えるような、全世界をまきこむような大戦争は起こらなかった。しかし、この核による抑止も、もう機能しなくなっている、という深刻な危惧が我々にあるわけで、バランス理論の根本的矛盾だけでなく、現実にもそのメリットが全くなくなってきていることを我々は考えなくてはならない。

### ●コンピュータに委ねられた核戦争

以上のように、均衡と称して、米ソはサイコロジカル・ウォー、心理戦争を展開してきたわけですが、この心理戦争が、実際の戦争に絶対ならない保証はない。ミサイルが飛んできているぞ、という情報は、コンピュータがとらえて伝えるわけですが、ご承知のとおり、コンピュータっていうのはしょっちゅうまちがうわけですよ。ソ連のミサイルは、北極のあたりを通って最短距離でアメリカに飛んでくるのに二十七、八分しかかからないんですが、いま飛んできているぞ、という誤報が伝わったことが、過去に数十回ある。で、アメリカのほうも核のボタンに手がかかりかけたことが何回かあるわけです。

二、三年前に、こんなことがあったんです。北米防空司令部(NORAD)というのがカナダに近いロッキー山脈の地下にあるんですが、ここのコンピュータが故障してしまつたんです。で、ソ連のミサイルが向かってきている、という。結局はコンピュータにゴミが入っていた、というのが故障の原因だったのですが、これをつきとめるために、十分ぐらいかかっている。このコンピュータをチェックするコンピュータというのがある、幸いにもこれが機能したわけですが、故障の原因が十分間でつきとめられなくて、ほかのところからも間違つた警報がどんどん入ってきたとしたら……、と考えると恐ろしい話です。

それで、いざ核攻撃、ということになると、エア・フォース・ワン(空軍第一号機)という大統領専用機に、アメリカの大統領は、安全保障担当の補佐官とか国防長官とかの参謀を連れて乗り込んで舞い上がることにな

っている。で、下界は皆死んでしまうのに、彼らは生き残る。そこから、世界中の海にもぐっている潜水艦に報復攻撃の命令を出して、米ソ共に何もかも破壊してしまっていて自分たちは降りるところがない、という漫画みたいな話になる。しかし、さっきの話で、もう十分間コンピュータのゴミ探しが遅れていたら、その漫画が実現したわけですよ。だから、ばかばかしい話だと言って、笑ってばかりいられない。いつ現実になるかわからないんですから。

### ●軍縮と市民運動

この夏のニューヨーク軍縮特別総会に話に戻るんですが、軍縮総会の本会議場へ、市民運動の代表の方々が見学に来られた。国連が手続きのお世話をしたわけですが、その見学の方々が、私に向かってお怒りになる。カンパを募って、ビザをとって、やっとやって来たのに、この会議の有様は何ごとだ、と。それも無理のない話で、総会議場では、百五十七か国の参加国がそれぞれ代表を出して、演壇の上で演説をしているんだけど、代表団席では居眠りをしている人も多い。それもいれば良いほうで、代表団席というのは国ごとにアルファベットの順にあるわけですが、だいたい一国に一人、お付き合いでいるぐらいです。しかも、人がしょっちゅう出たり入ったりしていて、例えば戦争やつてるといのに、イランとイラクの代表が会場って、そっぽ向いているかという、やあやあなんて握手している。これはどういうからくりになっているかという、軍縮関係の会議に限らず、国際会議が終わると、必ず宣言やコミュニケーションが出されるわけですが、これは本会議で細かく審議されるんじゃないんですね。小委員会をいくつか作って、別の部屋でそれぞれ話し合いをして、文案を一生懸命つくっている。だから、本会議場ではおさなりに聞いていたり居眠りをしたりしてもすむ、ということになるわけです。で、日本からはるばる来られた市民代表団の方々はがっかりなさって、我々はいったい何をしたらしいのか、と考え込む。やっぱり「原爆許すまじ」を歌うことぐらいしか意味がないのか、ということになると、これは、短絡なんですね。

そこで、日本の市民運動について私の印象を述べさせていたこうと思います。一九七八年に、第一回軍縮特別総会が行なわれた時、私はジュネーブにいたのですが、総会に先立って、民間軍縮総会みたいなのがジュネーブの国連欧州本部で開かれたんですね。日本代表団の方も二百数十人来られ、被爆者を代表して長崎県の

渡辺千恵子さんが、総会場の演壇で演説なさった。車椅子の彼女が演壇に上がった時は、それこそ、スタンディング・オーベーションでしてね。われるような拍手と歓声がわきおこった。大変に静かな方なんです、演説は、火の出るような演説でした。「私は被爆したけど、もう二度とこんなことが起こってはならないんだ」と。ところが、演説が終わった段階での拍手というのは最初ほど激しくなかったんです。口には出しませんでしたけど、日本は戦争をしたんだから、仕方がないじゃないか、という気持ちで聴衆にあったんでしょね。これは、いやというほど伝わってきました。当時はそういう状況だったんです。

その時、こんなこともありました。ジュネーブに、レマン湖という大きな湖があります。日本代表団がその湖で精霊流しをやったんです。原爆で死んだ人たちの霊を弔うために。その前に、国連欧州本部からレマン湖畔まで二キロほどを、「原爆許すまじ」を歌ってデモをした。フランスやドイツから来た人たちが地元のスイス人も加わって、へたくそな日本語と一緒に歌うんだけど、ほんの少数で、要するに日本人の大集団が、狭いジュネーブの通りをデモして歩いた。で、レマン湖に着いたら精霊流しをやっている。スイス人の反応はどうだったかというと、何かよくわからないが、東洋のブディスト・セレモニーらしいっていうんですね(笑)。

でも、時の流れていうのはやっぱり恐ろしいもので、四年たつと、外国人の反応はがらっと変わりました。ニューヨークの国連本部の大きなビルの事務局の前にちよつとした空地があるんですが、そこで日本山妙法寺のお坊さんたちが、サフラン色の法衣を着てたくさん座りこみましてね、ボンボコボンボコ木魚をたたきながら、平和祈願をずっとやっただけですよ。それを見て、冷笑も、奇異な感じも、ひやかしてもないんですね。そばへ行って、子ども連れたおやじさんなんかじっと見ている。時々、英語の達者なお坊さんが演説すると、人垣が出来たりして、皆熱心に聞いている。これはすごい、と思いました。その時私は、軍縮総会は初めてだったものですから、地婦連の事務局長の田中里子さんに、「七八年とくらべてどうですか」って聞いたら、「それは変わったわよ」とおっしゃる。手応えがある、と。

### ●欧米の人々の危機感

さて、なぜ変わったか、ということですが、先程も少し触れましたが、米ソ超大国の、核保持のバランスに

よって働いていた核抑止力が信じられなくなってきて、人々が深刻な危機感を深めている、ということが、一番大きな原因なんですね。

皆さんも御存じのとおり、昨年の十月十日に西独の首都ボンで、大反核集会がありましたね。三十万人ほど集まり、西独与党の有力議員も参加した歴史的な大集会でした。

その背景ですが、まずアメリカが、限定核戦争ということを言いだした。それまでは、核戦争が起これば人類は皆破滅する、ということが前提となっていたから、そんなばかなことは起こるまい、と、皆思っていたんだけど、ソ連がSS20、戦域核ミサイルですね、これをたくさん東欧に配置した。これは、欧州大陸だけが戦場になり得るということなんで、七九年の末、西独が中心になって、北大西洋条約機構(NATO)が、ひとつの決定をしたわけです。つまり、米ソは中距離核削減交渉をすべきである、もしそれがうまくゆかなかったら西欧にSS20に匹敵するだけの戦域核を置こう、という決定。西独としてはソ連がSS20を撤退させる方向を望んでいたわけだけど、アメリカは、翌年レーガン政権が登場し、相変わらず均衡理論を捨てない。これは、欧州の市民に、いつ自国が核戦争の戦場になるかわからない、という大変な危機感をもたせたんですね。西欧の世論に押されて、戦域核削減交渉が八一年の秋に始まりましたが、こういう考えだからちっとも進まない。ボンの大集会の原因はこれだけじゃなくて、インフレ、失業といった社会不安、社会民主主義福祉社会の根本的なゆきづまりなど、いろいろあるんですが、ともかくあの集会がヨーロッパで起こって、それがアメリカに飛び火して、はじめて、なぜ日本人がジュネーブで「原爆許すまじ」を歌って「ブディスト・セレモニー」をやったのか、少しずつわかりはじめたんじゃないか、と僕は思います。

### ●管理社会と核戦争のシステム

戦争を防ぐ話し合いが、もう政府にまかせておいたのではどうにもならなくなっているということは、先進国では人間を管理するシステムが徹底しているということと、どこかで結びついている、と、僕は考えます。つまり、戦争はしたくない、という民衆の声が権力者に届かない、そういう時代に我々は来ている、ということなんです。これは西側でも東側でもそうです。

六〇年代のはじめから七〇年代にかけて、日本も含めて西側先進国は大繁栄しましたね。そしてその結果、



福祉社会ということが言われるようになってきた。例えばスウェーデンでは子どもが生まれると、おやじさんでもおふくろさんでもどちらでもいいから、九か月の休みがとれるという仕組みになっているわけですね。おやじの育児休暇なんて日本にはないけど、スウェーデンにはある。で、定年退職はスウェーデンでは六十五歳で、自分の収入が最高だった時の月給の平均の十五か月分の三分の二が、一生保障される。これは一見すばらしいことのように思えるけれど、見方を変えれば、これだけの制度を維持するには、とてつもない管理機構が必要になります。

ともかく、大変な富を西側も東側も持ち、その富を配分するために行政機構が整備され、その結果、日本の例で言えば、グリーンカードだとか背番号制だとかという発想が出てくることになるわけですね。で、もうひとつの側面として、管理のための機械が大量に導入されますね。機械つてのは非常に合理的にできているから、今度は機械によってのみ出した人々を使う、別の管理のシステムというのが出来なくてはならないし、景気の良いときは、それによって出来たポストに、それまで家庭にいた女性がかり出される。こういうプロセスは一旦つくられると景気が悪くなってもどんどん進行してあと戻りがきかない。不可逆的な現象です。

この現象と核戦争のシステムがどこで結びついているか、というと、今の戦争つてのは、例えば、この間のフォークランドの戦争とは性質が違うんですね。あの戦争は、大艦隊がしらずとボツマス軍港を出撃して、フォークランド島に着く前に話がつくはずだったのに、つかないものだから戦争になっちゃった。これは大変な誤算であつた。あの島には、たった千八百人しか住んでなくて、ほかに羊が六十万頭。あんなところを奪い合いして戦争して。一九世紀的な古典的戦争であつたわけですが、でも国民は大いに燃えた。

現代のシステム化された戦争は、こうはいかない。一つ動きはじめると、管理のシステムにパッパッと灯がともって、あっという間に地球が燃えてしまう。そういう戦争なんだと思いますよ。民衆の声など関係なく、権力を持ったテクノクラートが戦争をする。

テクノクラート同士では、軍縮の話なんかつかないんです。その背景に、第一次大戦後に定着したネーション・ステート（民族国家）という概念がある。ベルサイユ条約で出された概念ですが、その後、民族自決の原則によって現代史が動いてきたわけで、国家のためには国民は犠牲にならなくてはならない。これは、日本で

はいま受け入れがたいけれど、世界中で案外受け入れられているんですね。受け入れられていないほうが少数派です。したがって、それぞれの国の中で、権力によって経済や政治が組織化されている。そういう組織化された国の代表が国際舞台に出てくるから、国と国との話し合いはなかなかつかないんですよ。

それで、国内の組織化はどうなっているかというところ、第三次産業革命と言われますけど、今はロボットが出てくる時代ですね。こういう時代だから、日本でも、共通一次で輪切りが始まったとか、離婚率が増えたとか、そういう現象が出てくる。民衆の疎外、政治への不参加、社会の解体、それによる組織化、管理の強化。こういうのは皆、核戦争システムの持つ非人間性、力の効率だけを考える発想と根っこのところであって、いると僕は考えます。で、怖いのは、こういう社会では専門家しかいない、ということなんです。共通一次のプログラムを組めるのは専門家だけです。人口計画をどうするか、マル優を廃止するかしないか、なんてことも、これは専門家にしかわからない。同様に、核戦争のプログラミングを組めるのも専門家だけなわけです。

すごく恐ろしい話があるんです。いま実用化されているロボット。ロボットというのはつまりコンピュータですが、これは、言われたことを言われたように処理するもので、知能指数、IQが九十ぐらいだそうです。次に少し判断力を備えたロボットが、看護用とかそういう形で実現されつつあるのだけれど、これが、IQ百十ぐらい。で、まもなく第五世代のコンピュータというのが出てくるわけですね。これはパターン認識をする仕組みで、判断するだけじゃなくて、知覚とか触覚、視覚まで備えている。これ、IQ百二十ぐらいです。そうすると、まあ知識の問題から言って、IQ百二十というのは大秀才ですよ。先進国でIQ百二十以上の人間なんてのはわずか六%しかない。そうすると、残りの九四%の人間は要らなくなる。人間の存在自体が必要悪になるわけで、これは何かさせなくてはならない。そうすると、人間が一番やりたいのは破壊だというわけで、破壊産業というのが出来る。いまでもありますよね、たぬきのおなかに玉ぶつけると、ウーッなんていっていくらか賞品くれたり、それから、サンドバッグをぼんぼん殴ったり。そういう、破壊産業というか生きがい産業というか、このまま科学技術なるものが進んでゆけば、こういう種類の産業がさかんになるでしょうね。まあ、男性と女性とは反応が違ってしまうけど。

というわけで、六%に入るか入らないかということは、死活問題ですよ。血みどろの争いになりますよ。くだらない世の中になったものだと思いますけど、だんだんそういうことになりかねない。そうなったら、人間にとって一番大切な、愛とか、思いやりとか、やさしさとか、戦争の抑止につながるそういう感情がなくなつて、弱肉強食、能率と力だけがモノをいう世界になる。それが、核時代のメカニズムだと思います。

●さて何をしたらよいのか……

今までお話ししてきたように、核戦争のシステムってのは、我々素人の手の届かない、少数のテクノクラートだけが操作できるところにある。だからといって、我々も勉強をやめてしまつてはならないし、常に見守つていなければならぬ。だけど、現実問題として、身近なところですべきことがたくさんあると考えるので、そういうことを中心に話を進めていきたいと思います。

まず、注目しなくてはならないのは、今の社会のあり方が、政府の力をどんどん強める方向に動いている、ということですね。そのメカニズムは先程お話ししたわけですが、具体的な現象として、まず、エネルギーがそうですね。福井県とか、和歌山県とか、福島県といった原発の集中しているところから、エネルギーを日本中に送るわけですから、エネルギー計画の立案実施は、中央集権でなければうまくいかない。行政もそうですよね。国家公務員の給料を減らすから、地分公務員の給料も減らすように、と自治省が言っている。反対したら国からの地方交付税がおりないわけだから、反対できない。自衛隊がタンクを増やすとか、アメリカから兵器を輸入するとか、これも東京で決めるんだから、中央集権です。おおよそ、軍事型の政権というのは中央集権ですよ。逆も真なりで、中央集権は軍事型の政権をつくる。だから、これをくずす方向に働きかけてゆく。つまり地方分権ですね。分権の単位ということになるとこれはむづかしいんですが、ともかく、大きすぎない単位で意思決定をしてゆかなくてはならないのだらうと思います。これが軍事国家への抑止力になるでしょうね。

次に、これは当然のことなんですが、当然のことが当然じゃないふうに動いているから改めて言うのだけど、基本的に、みんな同じ人間なんだ、という自覚を再認識すべきですね。例えば、共通一次の発想。受験戦争なんて言葉はもう使い古された言葉ですが、共通一次ってのは、少数の頭でかちのエリートを選ぶ風潮を助長するものですよね。当然落ちこぼれが増える。そろそろ学力一辺倒の価値観が変わってきていいと思う

んだけど、日本のような縦社会では、なかなかこれは変わりませんね。養護学校の義務化というのも同じ発想です。家のそばの学校で、皆と一緒に勉強すればいいものを、わざわざ遠くまで通学させて、結局は近所の子どもたちと疎遠になっちゃう。これは、子どもにわざわざ差別意識を植えつけるようなものですよね。そのほか、例をあげればきりがありませんが、一つ一つ考えてゆけば、身近なところからいろいろ工夫ができると思います。

それから、無駄なものは自制して使わない、ということがありますね。唐突に聞こえるかもしれませんが、余計なものを使わなければ、インフレがおさまる。そうして、資源の有効利用ということをもっと真剣に考える必要がある。戦争というのは最大の浪費ですから、これは心理的な戦争抑止力になり得ます。このことは、第三世界の問題と切っても切れないわけで、単に、第三世界で飢えている人がたくさんいるのだからぜいたくはやめよう、という倫理的な問題だけじゃなくて、第三世界の国々と共存してゆくことは、我々にとっても死活問題なんです。むだづかいをやめて、実態のある経済援助を第三世界の国々にして適正な景気浮揚を図ってゆくことが、必要です。それに近代文明がゆきづまっている今、我々は、第三世界の人々から学ぶこともたくさんあるわけで、これは経済の話だけでもない、もっと大きな問題ですね。僕は、スーダンの砂漠に行ったことがあるんだけど、そこでオスロ大学の若い娘さんに出会った。いったいこんな砂漠のど真ん中で何をしているのかと聞くと、砂漠における燃料のことを研究していて、その調査に來ているって言うんです。私だけじゃない、北欧の人間にとって、第三世界との行き来は珍しいことでも何でもない、って言うんですよ。こういう感覚が日本にも欲しいですね。

政治的にも、第三世界をめぐる米ソの勢力争いが戦争の危険を増大している。アフガニスタン、中南米でそういうことが起こっている。その見地から、第三世界の安定が必要です。

もう一つは、手近な仕事として、情報をできるだけ公開するように働きかけてゆく、というのがありますね。今のうちに中央集権が進行してゆくと、それにつれて情報の独占が進んでいくわけだから。

例えば、広島に原爆が落ちた翌日、一九四五年八月七日の新聞、ごらんになった方もあるかと思うけれど、「焼夷弾型の爆弾が広島に落下して、若干の被害が出たる模様」とそれだけしか書いていない。三・五センチ

角の小さな記事ですが、大本営発表だから、それしかない。で、翌日だか翌々日だかになると、「新型爆弾なるものごとし」で、何をしたらいいか、というところ、「白衣を着て防空壕に入れ」、それが新型爆弾への対処法だというんですね。敗戦になってやっと、あれは原子爆弾だった、と書かれ、どういう仕組みでこんなふうに人を殺せるのかということがやっとわかったわけですよ。

今、シーレーンってのが問題になってますね。日本から南西および南東に千カイリずつシーレーンを守る、と言う。いったい何から何を守るのかはつきりしないんで、国会でもずいぶんもめているんですが、答弁がくるくる変わるんですよ。最初は中東からの石油の輸送路を確保するためだ、と言う。これ、素人が考えたってわかりますよね、途中で原子力潜水艦かなんかがやる気になれば、おしまいですよ。しかも、たった千カイリで。じゃああとはどうするんだ、と野党が聞くと、アメリカに守ってもらおうと言う。アメリカ、そんなことしてくれませんよ。そうこうしているうちに、答弁ががらっと変わってくる。航路を守るんじゃないくて、南東航路と南西航路と日本の間の面を全部防衛するんだ、と防衛局長が言う。何のためかというところ、その海域を通るソ連の潜水艦を見張るためだそうで、これ、石油の輸送路確保と話が全然違っているわけです。もうシーレーン防衛じゃなくて、一定の海域、それも公海をカバーする海上パトロールとでも言いましょうか。米国といっしょに集団自衛権を行使することになるから、憲法違反になる、と野党が主張すると、そうは考えません、という答弁が返ってくる。

いまの話、この間のハワイの安保事務レベル協議での話し合いが背景にあるわけだけど、その内容が公開されてないものだから、防衛庁の本音は何なのか、何を考えているのか、我々にはわからないわけです。本来なら、日本には軍事機密を守る法律ってのは存在しないわけだから、公開しなくてはいけないはずなんです。かくのごとく情報独占されている。軍事情報だから余計にとりにくい、ということはありませんが。

ただ、軍事情報というのは、経済や政治の情報と切り離して存在し得るものではない。例えば防衛生産というの、いま国民総生産の１％たらずだけど、やがてどんどん増えてゆくだろうと思いますね。だから、そういう指標を監視してゆく。それから、どんな資源がどんなふうに使われているか、というデータを見れば、その国の軍事化がどのぐらいすすんでいるのか、推測できますね。だからそういうデータを、国段階、県段階、

市町村段階で、きちんと公開するようにもってゆかなくてははいけませんね。

日本では、やっと神奈川県で情報公開条例というのができましたよね。スウェーデンやアメリカでは、程度の差はありますが、もうそうした公開法が出来ているわけですが、これは非常に大事なことだろうと思います。そうでないと、我々は疑心暗鬼になって、不安でしょうがないから、結局、軍歌を歌っている勇ましい連中にくっついてゆく、ということになりかねないわけだと思いますね。

最後に、これは付けたしになりますけど、今、ソ連脅威論というのが幅をきかせていますね。数年前までは中国が不倶戴天の敵だ、ソ連よりも危ない、という風潮だったわけだけど、今は日中友好ムードで、今度は、ソ連こそが一番の敵だ、ということになっている。現実の根拠はまあないんですが、ではソ連が攻めてきたらどうする、と迫られると、答えがむずかしい。実際問題として、ソ連脅威論というのは、心理的なレベルです。で、根強くなつてしまいました。だから、ひとつの発想転換というか、アイディアとして申し上げるんですが、ソ連が攻めてくるとして、いったいソ連が日本を侵略してメリットになるのは何か、と考えてみる。それは日本の工業力ですよ。仮に僕が外務大臣だったら、日本の工場全部に爆弾仕掛けて、「本当に仕掛けましたよ、僕がボタンを押したら、日本の工場は全部吹き飛びますよ、それでも廃虚を占領なさいますか」と言つて、ソ連の外務大臣にかけ合いにゆきますよ。そうしたら、「ノー」と言うでしょうね。

なぜこういうことを言うかという、第二次大戦の時、ドイツが攻めて来ようという時にスイスは、ドイツが一番手に入れたかった独伊間のアルプスの山道を封鎖するぞ、それでも来るんだったら、片っ端から撃ち殺すぞ、と言つておどしたんですね。で、強行するだけのメリットがない、と踏んで、ヒットラーは攻撃をやめたわけですよ。そのほかいろいろ頭を使って術策をろうしたわけですが、一番大きな原因はこれだった。

だから日本は、「我が国は弱い国だけど、工業力を全部つぶして、農業の国に変える」と宣言して交渉したら、占領して維持するだけで莫大なお金がかかるわけですし、来ないだろうと思うのですが。ただし、これはひとつのアイディアです。軍事力をやたらに増やすより、頭を働かせたほうが良い、という話です。

いろいろ、とりとめもない話をしましたが、一番基本的なことは、いま日本で、管理の機構が一種の暴力的な力で我々を縛っていて、その抑圧装置は精巧になる一方なのだから、それを身近なところからひとつひとつ

とりのぞいてゆくことが、戦争につながる道をとめてゆく手だてになるだろう、ということだと思います。

### 【質疑応答】

Q もし、日本にソ連が攻めて来たら、日本を侵略して得られるメリットは工業力だから、日本の工場を全部破壊すればよい、ということは、ひとつの仮定として、おもしろくうかがったんですが、現実には、たとえ砂漠化しても、日本は侵略に値いすると思うんです。基地としての価値ははかりしれないので……。問題は、むしろ日本に基地があることではないでしょうか。

A ええ、おっしゃるとおりです。先程の話は、軍縮の話が、閉じたサークルをぐるぐる回っているだけで、議論をいくら繰り返してもどうしようもない、という自己矛盾をおこしている、その、サークルを、どこで破るか、という意味で、ひとつの発想として申し上げたわけです。

より現実的には、いま指摘があったように、日本にある基地を手中にすれば、中国に対して非常な脅威になることは確かですね。

ただ、ソ連という国は、自分からマイナス覚悟で侵略しようとしたことのない国です。オスマン・トルコの時代にトルコに攻め入ったじゃないか、という反論もあるでしょうが、あの時は、トルコがスラブ人をさんざんひどい目にあわせ、戦争になった。つまり、ソ連を擁護するわけじゃないけど、ロシア民族は、これまでの歴史から言うと、自分に危害を加える可能性のないところにムリして押しかけてゆく民族ではない、と考えるわけです。タナばたみたいに手に入るならとちまえ、ということはありませんがね。ですから、繰り返しになりますが、ソ連が攻めて来たら、というのは、あくまで仮定として受けとめていただきたい、と思います。

ご質問の基地の問題ですが、これは簡単に言えば、日米安保条約をどうするか、ということですね。これは、憲法をどうするか、という問題と切り離しては考えられない。私の専門ではありませんが、憲法改正のねらい

としては、安保強化の線と、自主防衛の線、この二つがありますね。で、どっちの方向へ向かうか、というのは、いろんな要素があつて、いま、非常にデリケートな状態にあるわけです。だから、憲法改正をまっとうから考えると、今のところ、とても危ないんじゃないかと思ひます。つまり、自衛隊の存在なり、日米軍事協力体制なり、実際には違憲の疑いが濃いわけで、もちろんそこに大きなジレンマがあるんですが、だから憲法を改正しよう、という話になると、これはいま申し上げたどちらかの方向へ突っ走ってゆく危険が大いにあるということです。

政治を考えると、あるひとつの目標に到達するための一番近道を考えるのではなく、最も混乱を起こしにくい道つてのは何なのか、現実を見すえながら考えてゆかなくてはなりませんね。そのためには、その目標をいったん横においておくことも必要になってきます。安保と平和の問題も、いま申し上げた視点で考えることにして、なぜいま安保を変えることが危険なのか、少しお話ししたいと思ひます。

いま、アメリカは、安保条約は片務条約である、として、日本の軍事負担の強化を求めていますね。まあ、現実にはそうではなく、基地を日本におくことで、アメリカは大変助かっているんだから、例えば朝鮮戦争はそこのおかげで戦えたわけだし、これは双務条約だと思ひますが、あの当時と今とでは、軍事情勢が非常に変わつてきています。それに三十年前まで世界のGNPの四〇％を占めていたアメリカが、いまでは二〇％ぐらい。それに対して、三％ぐらいだった日本が一〇％になったんだから、これはもっと日本の防衛費を増やせ、という話になりますよね。

で、安保ですが、国内では、日本は金持ちになったんだから、自主防衛、核武装をすればよい、という意見、安保廃案による非武装中立の意見、相反するこの二つがある。アメリカは、というともともとモンロー主義的な、他国から孤立するナショナリズムが底流として強い国ですから、日本が金を出さないなら、安保条約なんてお断わりだ、と言いだしかねませんよね。欧州からも軍隊を引きあげようって言っていますね。まあ、いますぐこういうことにはなりません、議会の空気がだんだんそういう方向に動き始める可能性は、大いにあります。しかし、これからどうなるか、というはつきりとした見通しは、つきません。世界情勢が非常に流動的になっていきますから。



こうしたことをふまえて日本をめぐる情勢を考えるとき、いま安保の問題をこちらからもち出すことが利口かどうかという点、僕はそうは思わないわけです。

ご質問に対して、中期的なレベルでお答えしようとする、もう十年ぐらい同じことを言い続けているんですが、貿易にしても、軍事、文化、技術にしても、アメリカ一辺倒でなくて、交流相手を多角化してゆく必要がある、ということがありますね。例えば、フランス風の発想ってのはおもしろいんですね。非常に中華思想の国ですけど、あの国は、すでにローマ時代からいろんな民族に国土を占領されて様々な民族の血が混じり合っているせいとか、ものの見方が、多面的なんですね。こんな発想の仕方があったのか、とうなずくことが何度もあります。それから、それぞれ独自の近代化を進めているアジア諸国の発想も、我々にたいへん示唆的なことが多い。技術の点では、中進国、例えばブラジルの製鉄技術は大したものですし、韓国の造船や自動車製造技術だって、どんどん日本を追い上げている。どうしてこういう国々ともっとお付き合いしてゆけないのか、と僕なんか思いますが、やっぱり今でも日本はアメリカ一辺倒なんですね。読書にしても、日本人はよく本を読むんだけど、外国ものではアメリカの本が圧倒的に多い。映画もそうですね。

というわけで、中期的にみて、交流国の多角化ということは、非常に大事なことでと考えます。まあ理想を言えばきりがありませんが、日本国がもう少し外交技術にたけていれば、いろんなことがスムーズにゆくと思うんですが。

スイス、オーストリアといった欧州の小国がいつも大国を手玉にとってきたのは、やっぱり、外交上かなりトリッキーにやってきたからなんですよ。そういう策略というか、技術をもたずに、いきなり安保廃棄して、よいしょ、なんて自立をはかってみても、先の見通しが立たないでしょう。

**Q** 実態のある景気浮揚を、ということでしたが、具体的にはどういうことでしょうか？

**A** いま、こういうことが言われるんですね。先進国はどこも不況で購買力がないから、第三世界に公的経済援助(ODA)をどんどん増やして、輸銀(輸出入銀行)の融資をたくさんつけて、購買力をつけるしかない、という。今の経済のしくみからゆくと、非常にまっとうな議論なんです。しかしこれまでは、援助というの

が儲ける手段になることが多かった。それでは、援助というのは所詮そういうものだから、文句言っても仕方がないのか、というところではなく、質の問題だと思ふんです。

適正な景気浮揚ということをお願いした背景には、適正技術ということが念頭にあったわけです。例えば、猫のヒタミみたいな耕地を耕しているエチオピアなどに日本製の大耕うん機を持っていっても仕方がないわけですね。あるいはバングラデシュに高能率の自動脱穀機を持っていっても、これも役に立たない。エチオピアに必要なのは、土壌改良の技術であり、山あいの土地をどうやって灌漑したらいいか、というようなことなんです。それから、風力発電とか、水力発電とか、太陽熱の利用、と、まあいろいろあるわけです。こういう開発で、その土地に適した農作物を植えてゆけば、結構、その村の経済は成り立ってゆくわけです。

実際、いま行なわれている援助というのは、何か、小人国に巨人国のでっかい機械を持っていっているようなそんな感じで、やっぱり儲けるためといわれても仕方のない面がある。

いま、アプロプリエイト テクノロジー（適正技術）ということが言われていますが、スイスとか北欧とか、国力のない国はこれに非常に敏感で、実にうまく取り入れていますね。例えば、機械の上のほうに黒い布をとりつけて、太陽熱を利用してぬるま湯を洗たく機に供給する、というシステムがあつて、僕はジュネーブで見たんだけど、結構うまく動いているんですよ。ジュネーブみたいな、どんより曇ったところでも機能するんだから、アフリカや東南アジアなんかに持っていったらすごい威力だと思ひましたよ。実は、国連のUNDP（国連開発計画）が日本の企業に、この機械作らないか、と声をかけたところ、一言のもとに断わってきたというんですね。スイスは、これを受けて、作って、実用化したわけですけどね。

日本の成功した例を申し上げますとね、バングラで、粘土層の深いところに管をつつこんで地下水を汲み上げるポンプを持ちこんだところ、ずいぶん役に立ったようです。

こういうことを、一か所ずつきちんとプロジェクトを決めて、それも日本だけでなく他国と協力してやっていくことが必要ですね。例えば、この国では、農業の生産性がこのくらいだから、じゃあ、軽工業と重工業とどういうふうに組み合わせるのか、といった、きめの細かいプロジェクトに日本はもっと参加しないといけませんね。

こういう息の長い仕事では、例えばプラントひとつ売るようにには儲かりませんが、プラント売りつけて、相手の経済を破壊してしまつては元も子もないわけで、損得勘定を考えたって、今述べたような形のほうが、長期的に見て、景気浮揚につながりますよね。

Q 現代の管理社会そのものが戦争につながる、というお話、たいへんよくわかつたんですが、もう少し具体的にお話し願えますでしょうか。

A 人間を人間として扱わなくなつて、モノだと思つるように我々の心がゆがんできている、これが根源的な問題なんです。

例えば、ある製薬会社の上のほうにいる人が、かつてこんなことを言つたんですね。「輸血用の血液が足りないなら、死体から血液を抜きとればいいではないか」と。実際、死亡直後の死体から血液をとれば、新鮮なのが大量にとれる。売血にともなう問題もない。ですけど、これは、人間は死んでしまえばただのモノなんだ、という発想ですよ。僕なんか非常に怒りを覚える。

こういう発想というのは有史以来ずっとあつて、だからこそ戦争が繰り返して行なわれてきたんじゃないか、という反論が、ここで当然出てくるんじゃないし、多かれ少なかれあつたんだと僕も思います。しかし、現代は、社会も戦争も、人間を人間としてみない、そういう心の在り方の極致なわけですね。

システム化された戦争つてのが始まつたのは、ベトナム戦争あたりからですね。あの戦争は、新兵器の実験場というか、展示場だったんです。七三年の第四次中東戦争もそうです。それこそどちらがボタンを押すのが早いかを競つた戦争でした。シナイ砂漠に戦車と飛行機の残骸がわあつと残つて、何万人もの人間が死んだ。皮肉なことに、これは当時のサダト大統領が、中東情勢を何とかしようと、あえて仕掛けた戦争で、たくさん人は犠牲になったが、イスラエルとカイロの枢軸ができた。それが良かったのかどうかはさておき、今日のエレクトロニクスによる戦争つてのは、恐ろしいことに、そういうためにも使われるんですね。

ベトナム戦争の時は、僕は現場にいたので、どんなことが行なわれていたか、ということを少しお話ししようと思います。

毎日夕方になると、サイゴンの米軍司令部で、戦況報告を記者団にするんですね。で、今日は何人殺したか、ということ言うわけですが、ある時、フィルムを見せたんです。解放戦線の兵隊の死体が山のように積んである。何百体あったかわかりませんが。そうするとヘリコプターがブーンと飛んできて、網の中に、死体を教えながら放りこんでゆく。一杯になると、ブーンと運んで行って、穴の中に投棄してまた帰ってくる。これを繰り返すんですね。ボディー・カウントと称して解放戦線の兵士の死体を教え、毎日発表する。要するに、人間をモノのように処理しているわけですよ。

また、アメリカ兵が解放戦線をいぶり出すためにわらぶきの家にマッチで火をつける。ニヤニヤ笑いながら、どんどんどんどんつける。

前線へ行くと、こういうことがどこでも行なわれていたんですけれど、こうした光景をわざわざフィルムにして僕らに見せるわけですよ。だから僕は、あの戦争にアメリカが負けたのは、モノが人間に負けたんだ、テクノロジーが人間に負けたんだ、と思います。もっとも、悲しいことに、その後の経過を見ると、勝ったほうのベトナムも、人間を大切にしなくなって権力がひとりあるきしている。

まあ、キリがありませんので、このへんで終わります。

(一九八二年十月十九日 Aあごら学習会Vの講話から)

(あべひろよし) 毎日新聞社論説委員 一九七四～七九年、ジュネーブ特派員としてジュネーブ軍縮委員会を取材。一九六七～七八年、戦争最盛期のベトナムで特派員をつとめる。

あらゆる分野に活躍する女たち 唯のウーマン・リスト

現代に生きる

# 女性事典'82

編集・日外アソシエーツ

●A5判・420頁・定価4,800円

●週刊誌・総合誌・新聞にとりあげられた女性の略歴・住所と紹介記事・執筆・発言記事を収載。その人々の活動を記録する。●こんな分野にどんな人がいるか：講師依頼などに好適。女性問題の状況やマスコミの報道ぶりもつかめる。●日本人・外国人を問わずあらゆる分野あらゆる層にわたる女性約3,000人を収録。

発行/日外アソシエーツ  
143 大田区大森北1-23-8  
☎03-763-5241  
発売/紀伊國屋書店

料 費  
請求  
あり  
82.12

# いま わたしたちは

## 手をこまぬいていてよいのか

あれよ、あれよ、という間に、四方八方、戦争への網が張りめぐらされました。

一見、女の問題に感じられるものも、その根は深く戦争路線とつながっています。

八月一日、東京・厚生年金会館で開かれた『『あこら』十周年記念のつどい』には、各界女性からのアピール、「いま私は言いたい」(『あこらミニ』65号に掲載)が寄せられましたが、そのうち、とくに法改正にかかわって、いま緊急に手を打たなければならない四項目をここに再録します。明日では遅すぎないために。

●無所属を締め出した公職選挙法改悪……………

紀平 梯子

●治安維持法の前駆・拘禁二法……………

井田・梅津

●着々進む優生保護法「改悪」の動き……………

松本・森川

●労基法改悪と雇用平等法……………

井ノ部美千代

# 参議院を有権者の手にとり戻そう

## ——憲法改悪につながる参議院全国区制改悪——

日本婦人有権者同盟会長 紀平 悌子

公職選挙法とは、わたくしたち国民の代表として直接政策決定をおこなう議員を選ぶ法律上の手続きです。それなのに主権者である国民や有権者が最も無関心な法律のひとつであると言ってもよいでしょう。

例えば、一九八〇年秋の総選挙で、自民党が足をすくわれ、勝利を阻まれた原因は、大平内閣の打ち出した「一般消費税の導入」でした。「これ以上増税されてはたまらない！」という国民の生活防衛意識が、野党への支持に回ったのです。このように「税法の改悪」には敏感でも、私たちの「公職選挙法」がどのように改悪となっても「生活」に直接関係がないからと、それほど反応を示さないのが、大多数の有権者の現状でしょう。

さて、「公職選挙法」はほんとうに「生活」と直接関係がないのでしょうか。いや、税法や民法、あるいは刑法と同様、またはそれ以上に、生活関連のすべての政策決定の基本

にかかわる法律なのです。

間接民主制のわが国では「選挙法」は、国民がよりよい政府を選択するいわば参政権の切り札のはずです。

「選挙法」が正しく公平でなければ、いくら有権者が学習し、情報をあつめて投票しても、手続きが狂っていたのでは、その意志が正確に政治に反映されません。

もともと現行の選挙法には、幾多、不備な問題があります。例えば、議員定数の不均衡（衆議院兵庫五区対千葉四区は四・一三対一、参議院は鳥取対神奈川五・四五対一）の問題で、一人一票の投票価値の平等が損なわれていることや、選挙になると、出したい人を推す有権者自身の手による選挙運動がほとんど自由にできないという、〃べからず選挙法〃であるといった有権者不在の選挙運動規定になっていることなどが、それです。

ところが、戦後十数回も公職選挙法の改正がおこなわれて

きましたが、その多くは、政党、候補者本位の改正であり、有権者の第三者運動の自由化や、買収供応など悪質な選挙違反をなくす方向での改正にはまったくいいほど手がつけられないでいます。

それどころか最近では、党利党略の政党間の取り引きで、「有権者の公職選挙法」を身勝手に改悪する傾向が顕著です。

八一年の第九十四国会では、「街頭演説の時間を制限する」とともに、「機関紙宣伝カーでおこなう普及宣伝はできない」とし、一般の市民、婦人団体のおこなう選挙期間中の広報宣伝活動も規制されるおそれのある改悪をしています。

このように「有権者のより多き参加」をすすめる方向での改正がないばかりか、八二年八月十八日の衆議院本会議では、自民党の「公職選挙法の一部改正案——参議院全国区拘束名簿式比例代表制導入」が通過、成立してしまいました。

この改悪案は、八二年五月二十六日、第九十四通常国会に提案され、この国会では審議未了で廃案となりましたが、続く十月七日、第九十五臨時国会に再提出、九十六通常国会に継続審議となったものです。

この案は俄かに昨年から浮上したのではなく、一九七二年ごろから自民党が企ててきた懸案であり、七三年には田中角

栄元総理が衆議院の小選挙区制とベアで強行しようとして、国民運動の猛反対で陽の目をみなかったといういわくつきのものです。

自民党の中で長くあたためられてきたこの執念は、八〇年ダブル選挙、自民圧勝の勢いで、地殻をやぶって吹き出したのでした。

ロッキード・グラマン疑獄の政治責任の解明もないまま、自民党政府は、選挙ごとに唱える「腐敗政治矯正、政界浄化」の公約を反古にしてきたのですが、こともあろうに「参議院全国区選挙」が異常に金がかかるとし（実は金をかけているのですが）、参議院全国区を拘束名簿式比例代表制とすることが「金のかからない選挙」実現の方策であるとして、国民・有権者をだましにかかったのです。

現在の国会の勢力分野の下では、自民党が望めば何でもできないことはない——と言っても言い過ぎではありません。不幸なことにただでさえ弱い野党群の中の第一党である社会党が、自民党と基盤を一にする独自案を提案してきたことにより、九十四日も延長された国会での同法案の成立は確実なものとなってしまいました。

鈴木総理は、内閣の存立をかけて「改悪」を促進し、目白

いま わたしたちは手をいまぬいてよいのか

の閣將軍は、個利、個略でこれを支持しました。

わたくしたち日本婦人有権者同盟は、全国の会員あけて同法の阻止に努力、地婦連・主婦連・日本青年団協議会・理想選挙推進市民の会など、青年・市民・婦人団体と手を携えて、昨年来、集会、申し入れ、傍聴、請願、——あらゆる方法で反対を続けました。

参議院公選法改正に関する特別委員会での「自民・強行採決」の噂がとびかうようになった八二年六月末には、参議院の、中山・青島・美濃部・前島の四議員とも呼応し、「選ぶ自由を奪うな！市民集会」を渋谷街頭や山手教会で開くなど、精いっぱい有権者にも「怒り、反対すること」を訴えました。果たせるかな、七月九日、参議院、公選法特別委員会では野次と怒号、そして高笑いのなかで「自民党単独強行採決」がおこなわれました。すでに失われつつある議会制民主政治を象徴するような「独裁」の姿でした。

\*

戦後最大の「公選法の改悪」の内容は次のとおりです。

▼『選挙への参加資格』は左の三要件であり、この要件を具えない政党や政治団体、及び無所属の個人は立候補できない。

①当該政党に所属する衆議院議員または参議院議員を併せて五人以上有すること。

②直近の衆議院総選挙または参議院選挙における選挙区選挙（これまでの地方区のこと）または比例代表選挙（全国区のこと）で当該政党の得票総数が有効投票総数の百分の四以上（四％）であること。

③当該参議院選挙において候補者十人以上を有すること。

▼ 投票方法及び、当選人決定

有権者は選挙区選挙（地方区）では候補者個人名に従来どおり投票できるが、比例代表選挙（全国区）では、前記資格のある政党が、順位を付した候補者名簿のひとつを選び、政党名を書いて投票する。これを各政党別に集計した得票数に応じ、ドント式と称する配分方式で各政党の当選人数が決められ、右当選人数の限度で、届出名簿の順位に従い、上から当選人が順次決定される。

▼ 比例代表選挙の選挙運動

比例代表選挙では、政見放送、選挙公報、新聞広告の三つの形態しか選挙運動を認めない。

以上が主な改正点ですが、この「拘束名簿式比例代表制」では、一定の資格のある政党（既成政党はこれに入る）と、それ以外の小政党との間に線引きをして差別し、これまで自由に立候補を認められていた「無所属の個人」の被選挙権を奪っています。このことは法のもの平等を規定した「憲法十四条」並びに「四十四条」に違背し、「十五条」（立候補における自由）「二十一条」（結社の自由、結社しない自由）を



侵害します。投票する有権者の立場からいえば、「公務員を選定し」とある「十五条」、「選挙された議員」を規定する「四十四条」は、「人」を選ぶことを意味しており、「党名簿」への投票を強いるのはこれまた「違憲」と言わざるを得ません。

土台、人間が長い歴史の中でかちえた「普通」「平等」「直接選挙」の原則を、「金がかからない」など、真実でない理由で変えることはとても承認できることではありません。

この選挙制度では、立候補資格を「人」でなく「党」本位にしていますので、参議院の政党化を「制度」の上で助長しますます参議院の政党化を促進してしまします。

国民の基本的人権を保証する手段的権利として最も大切な参政権を侵されたのとひきかえに自民党が説明している「メリット」は、次の三点。「政党が選挙をするから金がかからなくなる」「候補者の過重労働が解消される」「政党が候補者を保証し、有権者がこれを信頼して投票するから、選ぶ手がかりがつかめる」……。

果たして、金がかからなくなるでしょうか。そもそも金がかかるのは選挙期間中ではなく「事前運動」ですから、今度、「人」に変わって「党」が組織的にかかわれば、金がかから

なくなるところか、より多くの金が行われるでしょう。

また、名簿には「順位」がつけられるわけで、このことをめぐって、名簿登載権者（順位を決定する人）に贈賄がおこなわれることが予想されます。自民党の改悪法でも、それを慮ばかって、二二四条三の一項、二項で「名簿登載権者による受託収賄罪とその罰則」（三年以下の懲役または三十万円以下の罰金）が規定されていますが、だれが実質的な登載権者であるかの認定が困難であるうえに、あっせん収賄、事後収賄の処罰規定がないこと、刑罰が刑法の受託収賄罪一九七条一項、（七年以下の懲役と比べて半分以上であること）など、実効性の乏しいものです。

政党が責任をもって候補者を選定して名簿に載せます——というのですが、国民や有権者の政治的判断をもろに否定した、思いあがった考え方です。八〇年五月の朝日新聞世論調査によれば、投票する時は「人柄」できめると答えた人が五三%、同年六月の毎日新聞世論調査では、六七%の人が、人物中心の選択をしています。八〇年のダブル選挙で、全国区では、無所属候補者が有効投票の一四・四%の得票率を得ており、市川房枝、美濃部亮吉、青島幸男、中山千夏など、無所属または無党派候補が高位当選していることを考えると、

いまわたしたちは手をいじめるいじめるのか

参議院には、「党より人」を期待している国民の意志は明らかであります。

ロッキード判決で有罪となった黨員を、議員辞職もさせられず、灰色議員の証人喚問すら実現できないような日本の政党の現実では、到底、政党に候補選択の白紙委任などできることではありません。

百歩ゆずって政党の将来性に望みをかけるとしても、白紙委任には担保がほしい。比例代表選挙には「連座制」の規定の適用はなく、党が違法行為をした場合、だれが、どう罰せられ、責任をとるのでしょうか。

また、名簿登載候補が、当選したのち、党籍を変更した場合も、議員は辞めないですむので、裏切られた有権者の信託はどうなるのでしょうか。

このほか、さまざまな問題点をふくんだ「全国区比例代表制」——国民、有権者の意見もきかれず、国会の、自民党の密室の中で変えられてしまったわたくしたちの「公職選挙法」。そして、いやでも八三年夏の参議院議員選挙から、この法律は歩き出すのです。

公選法改正特別委員会に参考人として意見を述べたほとんどの学識経験者が、この法律案の違憲性を指摘、また、参議院の存在否定につながるとし、自民党側の発言者ですら、法律の数々の問題点を強く指摘したにもかかわらず、自民党が強行した真の狙いは参議院における安定多数を維持し、懸案

の憲法改悪への足場がためをしようとする点にあるのです。侵害された参政権、政党化する参議院。このまま黙って私たちが眠ってしまえば、しらけてしまえば、自民党の思う壺にはまっています。

わたくしと同じ考えを持った人々が、実はたくさんいることが、法改悪の直後からハッキリしてきました。

八三年の統一地方選挙、そして参議院選挙。それは八〇年ダブル選挙以後の政治をうらなう最も重要な選択の機会となるでしょう。

一人でも多くの有権者に、自民党の強行した参議院選挙制度改悪が、国民の権利を侵害するものであり、議会制民主主義を破壊に導くものであることを知らせるべきです。

そして参議院の本来の役割(衆院の行きすぎをチェックし、国民意思との落差を埋める)をとり戻すため、有権者の手による選挙を実践することがぜひ必要です。

自民党案の「候補者名簿が出せる第三番目の条件——十人以上の候補をもつ」——この条件を有権者サイドの理念に基づいて活用すること、そして三〇—四〇%に及ぶ、「人」を選んできた有権者、国民の信託に応えることです。

有権者みずからの参加による個人の連帯する「名簿」を、「憲法の基本理念」にもとづいて作る運動、それこそが参議院を国民の手にとりもどす第一歩なのです。みなさん、この運動にぜひご参加ください。

## 拷問とウソの自白を生む 拘禁二法案に反対を！

弁護士 井田 恵子

前国会（第九十六回国会）に、刑事施設法案と留置施設法案という二つの拘禁施設法案が上程されました。

この二法案は、警察の留置場や拘留所や刑務所などでの取り扱いを定めた法案ですが、施設に収容されている人々の人権侵害を強めるおそれが強く、全国の弁護士会が一せいに反対しています。（前国会で継続審議となっています）。

警察とか裁判所といいますが、余り自分には関係がないと思われるかも知れません。しかし、新聞などでご存じのように、警察による誤認逮捕や裁判所での誤判は残念ながらあとを断ちません。

人間の不確かな記憶や、捜査の見込み違い、あるいは市民運動や労働運動の抑圧から、私たちは、いつ何どき、犯罪の

容疑をかけられ逮捕されないとは限りません。そのような冤罪に苦しむ人々を私たちは数多く見ております。人権軽視の風潮が強い時期には、その状況は一層ひどくなるでしょう。

### 法案提出の経過

現在、拘禁施設の中での扱いは、監獄法という明治四十一年に制定された法律によっています。

しかしこの監獄法は、専ら管理と懲罰に重きをおいた大変古めかしい法律で、収容されている人の人権を尊重する視点を欠いており、戦後早い時期から、人権保障の観点にたった国際的・近代的な法改正が求められてきました。

この春、法務省から提出された刑事施設法案は、その改正

いま わたしたちは手をこまぬいていてよいのか

法案という名目で出されましたが、法案は、法制審議会での審議すら無視し、非常に人權を脅かすおその強いものとなつて登場しました。

さらにこの法案と一体となつて、突如として、警察庁から警察留置場内の扱いを定めた留置施設法案という法案が提出されたのです。

これまで、司法制度の改正については、法曹三者（裁判所、法務省、弁護士会）の意見を一致させて実施するよう努めなければならぬことになっていますが（昭和四十五年五月十三日参議院付帯決議）、今度の法案とくに留置施設法案が、この手続きを全く経ずに、いきなり提出されたことは、国民をも弁護士会をも無視した重大な立憲ルール違反といわなければなりません。

## 内容上の問題点

一、廃止すべき代用監獄（警察留置場）を存続させ、恒久化したこと。

犯罪の容疑者として逮捕され、身体を拘束された場合は、できるだけ早い時期に、取り調べを行なう警察のもとから他の施設に移さなければならぬというのが、国際的な規約になっています。（市民的及び政治的權利に関する国際規約九条）

警察の支配下での長期にわたる取り調べは、拷問や脅迫や

偽りの自白を生みます。日本では逮捕後長いときは二十八日間も警察署に留め置くことが認められており、この期間の取り調べで大概自白、調書が作られてしまします。留置場は本来監獄ではありませんが、当初の施設不足から「当分ノ間監獄ニ代用スルコトヲ得」とされ、代用監獄といわれています。昔からこの代用監獄は、自白強要と冤罪の温床になってきました。近年再審開始決定になった財田川事件、免田事件、松山事件、今年になって無罪判決が確定した鹿児島夫婦殺し事件、大森勸銀事件などは、みな警察留置場での過度の取り調べによって起きています。

留置場を監獄に代用するという制度や慣行は、先進国にはありません。一日も早く廃止すべきもののなのです。

拘禁二法案は、代用監獄を法によって温存し、恒久化するものであつて、世界の流れにも逆行します。

二、弁護士人の面会や手紙のやりとりを大幅に制限したこと。

逮捕・拘留された場合、最も必要なことはまず弁護士と接見することです。弁護士との通信も自由であるべきです。

ところが拘禁二法案は、この弁護士人との面会やさらに手紙のやりとりを、警察署長など施設の長の、「施設の管理運営上」とか「罪証隠滅の防止上」必要だという理由で禁止、制限できることになっています（刑一〇八条一項、二項、同一二条一項、同一一四條、留二四條、二六條、二八條）。

いまでも、私たち弁護士が被疑者と面会することは並大抵

ではありませんが、この法案が通れば、いま以上に施設側の都合で、また自由していない場合には、この「罪証隠滅の防止上」という理由で接見が制限されることになることは明らかです。これでは、身体を拘束された人に弁護人依頼権を保障した憲法が空文となってしまいます。

### 三、厳しい規律と懲罰

拘禁二法案は、拘禁施設の中で、規律秩序は厳正に維持すべしと規定しています（刑三六条）。

囚われた人が拘禁施設の中でどんな扱いを受けているか、一般の人にはほとんど知らされておりません。しかし、そこでは軍隊以上に厳しい規律があり掟があるのです。

今度の拘禁二法案は、遵守事項を明らかにせず、総理府令や法務省令に委ね（留一四條、刑三七條）、しかもそれに従わない者には死亡例すらある危険な防声具（サルグツツ）を用いたり、さらに拘束ベッドに縛りつけることを許し、また刑務官の制止に従わないで大声を出したような場合に保護室に収容することや、遵守事項を守らない者に重い懲罰を加えたりすることを認めており、二法案が通れば、施設の中で、恐ろしい人権侵害が起きるおそれが濃厚です（刑四一條―四三條、一三二條―一三九條）。

### 四、男性による女性の身体検査、弁護人の所持品検査

いまは、収容された女性の身体検査は女性の職員によって行なうことになっていますが、拘禁二法案では、女子職員が立会いさえすれば、男子職員でも女性の身体検査ができるとされています（刑三八條三項、留一五條三項）。密室の拘禁施設の中で、女性の収容者が、男性の警官や看守から、卑猥な言葉を浴びせられたり、屈辱的な扱いを受けたりすることは日常的なことなのです。いつも女性は、女性なるがゆえの人権侵害に耐えてきました。子どもや家族を口実に自白を強要される例も少なくありません。この七月八日に東京弁護士会で催した「拘禁二法を考える女性の集い」では、留置場に入れられた女性から、肌に粟立つような体験が次々に語られました。男子によって女性の身体検査を認める今度の二法案が通れば、いま以上に女性に対する人権侵害が強まることは明らかです。法案は、全く女性の尊厳を無視したものであり、許すことはできません。

また二法案は、施設の中で、面会にきた人の着衣や携帯品を検査することも認めており、弁護人もその例外ではありません（刑三八條二項、留一五條二項）。この場合も女子の着衣検査は女子の職員が立会えば、男子の職員ができることに

いまわたしたちは手をいままぬいていようのか

なっています。

## 五、その他

二法案は、未だ裁判の決まらない人と受刑者を一緒に扱ったり（未決の人は、無罪の推定を受ける立場にあります）、たくさんの問題点があります。

警察国家の再来を許さないために、人権侵害を強める拘禁

## 戦局とともに

### きびしさを増した治安維持法

梅津 萩子

皆さん今晚は。八十歳にもなるので、私の話はわかりにくい点もあるかと思いますが、勘弁してちょうだいね。

私、四、五日前に新聞で、中国に「侵略」でなくて、「進出」したという記事を読んで、腹わたが煮えくり返るほどの思いをしたんです。私の夫は、昭和十二年の七月末に召集されて北支にやられ、三年いて帰ってきましたから、戦地で日本の軍隊がどんなことをしたか全部聞きました。だから、この書き換えは、今また日本の帝国主義が頭をもたげてきた気がしますし、同時に、拘禁二法とも不可分なものではないかとい

二法案に皆様もぜひ反対していただきたいと思います。

\*拘禁二法関連条文は巻末の「資料」の項に掲載しておりますので、ご参照下さい。

なお、この問題がどんなに重要かご理解いただくために、戦前の治安維持法による拘禁を体験された梅津さんのお話をうかがいましょう。

う感じがします。戦前、たくさんの労働者や学者やいろいろな階層の人たちを殺したり、十何年も監獄に入れた治安維持法も、初めは決してそんな恐ろしいものではなかったんです。私が初めて留置場へ入れられたのは大正十四年の十一月でしたけど、労働者を煽動してストをやらせたというのが理由でした。その時分は検束というと一日で、次の日の日没には釈放したのです。私も引っぱられたのが一時半、翌朝の九時ごろ呼び出されて特高室に行きましたら、会社の工務主任が「要求は全部入れたけど、君が帰るまで皆が仕事をしないと

言うから」と迎えに来ていて、生まれて初めて自動車に乗って帰った。そういう治安維持法だったんです。

その後、私たちは『無産者新聞』を横浜のある町へよく売りに行ったのですが、行くのは必ず土曜日にしまして、手ぬぐいと歯ブラシをふところに入れておいたんです。売っているとすぐに特高が来て、逃げられる時と、つかまる時がありましたけど、でも日曜の夕方には釈放されるものですから、出勤にはちっともさしつかえなくて……、そんなふうなやり方をしてたんです(笑)。

それでも会社をクビになりました、新聞に書き立てられ、どこにも就職できなくなり、三度のごはんが食べられなくなりました。で、ある晩「ひとつ、夕飯を食べていこうか」なんて思いつて、夜十時過ぎにわざと大声で革命歌を歌って歩いていたら引っぱられたんです。「夕飯食べてないから出せ」と言ったら、夕飯は五時だから出せないと言う。でも最後には夜泣きうどんをとってくれた。そのうどんのおいしかったこと、今でも忘れられません。

それが山東出兵したり、だんだん侵略をするようになったら残酷なもの変わっていったんですね。横浜から昭和二年に東京に移ってから、西神田署をはじめとして八回入れられ

ましたが、初めは大したことがなかったのに、侵略戦争が進むにつれてものすごくひどい拷問を受けるようになりました。自分の拷問よりも切なかったのは、他の人の拷問を見せられることでした。今でも思い出すと煮えくり返る思いをするのは、警視庁で虐殺された岩田義道さんの拷問なんです。

このとき引っぱられる前に、私はアジトの大家さんから数金の百円を返してもらい、細かく畳んで持っていました。この百円札は党のお金だから絶対に守らなくては、と、スキを見て口に入れちゃったんです。そしたらイヤな臭いがして、ゲオッゲオッと吐きそうになるんですね。「お前つわりか」「そうです」と言いました(笑)。

特高室に入りましたら、奥のほうに体の大きな三十五、六の方が、いすに足の先まで縄でゆわかれていました。その人は赤いネクタイで首をぐっと締められ、やっと息をしている状態です。顔は紫色になって。「お前これを知ってるか」。首を振ると、「このやろう生意気だ」と、蹴飛ばされたり、踏まれたり……。「しらばくれたってダメだよ。これは岩田義道だ」。

私が蹴飛ばされたり踏みつけられたりするのを岩田さんが見て、「貴様ら、それでも人間か」と言う、その声の苦しそ

いま わたしたちは手をいまぬいひひいひひのか

うだったこと、今でも忘れられません。

別の警察で、金さんという朝鮮人の拷問も見せられました。便所の水道につけたホースをその青年の口に入れて蛇口をひねると、おなががみるみるうちにふくらむ。それを特高がぐつと踏む。すると口から水がサーッと吹き出す。とても見ていられませんでした。

ところで、例の百円札は、口の中以外にどこにも隠すところがなく、胸に張り付けたり、脇の下に入れたりしました。どうとう最後にはパンツの裏に張りつけて口をゆすいだ。その気持ちの良かったことといったら、私の一生のうちであんなに気持ちの良かったことはないほどでした。(笑い)

\*

最後に捕まったのは昭和八年で、そのときは二歳八か月になる子どもが一人おりました。四月の終わり頃でしたか、朝六時ちょっと前に、もうそろそろ起きなければならぬと思っていたら、下でガタガタッと物音がして、「誰かきたな」と飛び起きたのです。すると、下から特高が三人上がってききました。玄関の錠はちゃんとかけてあるのにおかしいと思っていたら、あとで家の前に住む人が言うには、二枚戸を錠をかけたままはずして入ったということでした。

そのまま、親子三人は洲崎警察に連れて行かれ、私と息子は畳の敷いてある保護室に入れられたのです。そこには、特高関係で捕まった若い女の人が二人、先に入っていました。

呼び出されて特高室に行くと、特高が子どもをどこかへ預けろと言うのです。私はそのとき、親としては恥ずかしいことだけど、拷問を逃れたいために何としても子どもは離すまいと思いました。「預けるところがない」「じゃあ、こちらでどこか搜す」というやりとりを聞いていた子どもが、「うちのかあちゃん、ふったらぶつぞー」と大声で怒鳴ったんです。子どもは、どこそこで誰がやられて拷問を受けているという話を私たちがしているのを聞いていたのでしょう。そう怒鳴るのを聞いたとき、私は思わず涙が出ました。

さすがの特高も、子どもがいると拷問をしませんでした。子どもは毎日、地下の留置場の中で、鉄格子が入っているのを見ては「動物園みたいだねえ」と言ったり、「出してエ」と言うとか看守が廊下へ出すものですから、あっちこちの部屋を覗いたりして遊んでました。時には絵本やキヤラメルをもらうこともありました。ところが三日目になりますと、「豊ちゃん、三輪車に乗ろうよ」とか、「文ちゃん、おいでよ」とかい出したのです。やはりお友達を思い出したんでしょね。

それを聞いて、自分が拷問を逃れるために子どもをこういうところにおいておくべきではない、と気づき、大塚にいる梅津の弟のところへ預けることにして、連絡してもらいました。おじさんが迎えにきたら、子どもは「お母ちゃん、さよなら」「おじちゃんもお姉ちゃんもさよなら」と、ほんとう



に喜んで帰って行きました。地下室の三日間は子どもにとつて、どんなにか切ないものだったろうと思います。

それから私の取調べが始まりました。特高は、「けさ、義弟さんの家の前を通ったら、坊やが泣いてたぞ。かわいそうじゃないか、母親だろ」と言うのです。何のためにそんなことを言うのかわかってたので知らん顔してましたけど。そして、「誰と会ってるか」とか「どこでどうしたか」などと聞くのに、いろいろな拷問をされました。

拷問の中で一番つらかったのは、座らされて、ヒザの上に三寸角ぐらいの棒を渡して両方に特高が足をかけ、ぐるぐると押すんです。「簡単でいいから、ちょっと手記でも書くか」「誰に会っているかさえ言えば、帰れるんじゃないか。坊やだって、待っているのにかわいそうじゃないか」と言いながらやるのです。そうすると、私のももがみるみるうちに大きく膨れ上がって、黒に近い紫色になる。お手洗いに رفتても痛くてしゃがむことができないんですね。立ってするより、しょうがない。でも、私たちは命を取られなかったからまだよかったと思います。

釈放されたのは十一月二日で、四月末からそこにいたわけですが、その間一回もお風呂に入ってもらえませんでした。

昔は、一年近くいてもお風呂に入れなかったのです。女の人とはときどき体を拭いたりするけど、男の人はほとんどしないものだから、体にいっぱい痒いものが出るのです。今はお風呂に入れると聞いて、当時のあの人たちに一度でもいいから入れてあげたかった、としみじみ思っています。

十月二日に、検事さんが調べに来たからと応接室に呼ばれました。すると、正面に検事が座っていて、目の前のイスに腰かけるように言われたのですが、こいつらのためにたくさんの人たちが刑務所に入れられてると思うものだから、黙ったまま突っ立って検事の顔を見てたのです。検事もしばらく私の顔を見てましたが、「君は辞儀をすることを知らんのかね」と言う。それでも私がお辞儀をしないでいたら、今度は大声でもう一度、「辞儀をすることを知らんのか!」「知ってますよ、お辞儀は尊敬する人にするものだと思ってます」とスッと口から出た。そうしたら「入ってる」とまた留置場に入れられてしまいました。私を連れて行きながら、特高が「お前、お辞儀一つしたら、明日釈放になったかもしれないのに」と言っていたが、「何もあんな奴にお辞儀しなかったって……。釈放にならなくてもいいから」と。

ちょうど一か月経った十一月二日に、またその検事が来て

いまわたしたちは手をこまぬいていてよいのか

「今から帰って、いいお母さんになれ。そして、やっぱり日本に生まれた人間である限りは、日本の国のために一所懸命に尽くすように」と言われました。とうとうお辞儀をしないて帰ってまいりましたけれど……。

家に帰ってから一番嬉しかったのは、近所の人たちの言葉でした。半年以上も女が警察にいたので近所の人たちはどんな態度で接して下さるかしらと、それがとても心配だったんです。ところが、近所のお母さんたちが五人で来てくれて「警察っていうのは悪い人ばかり入るところじゃないんだねえ。初めてわかったわ」と。どんな慰めの言葉よりも嬉しかったでした。

\*

こういうこともありました。昭和十二年七月に夫が召集された後、九月の中頃でしたか、小学校一年になる息子の学校から呼び出しがありました。行ってみると先生が、「全校生徒に前線の兵隊さん宛の慰問文を書かせたが、梅津君のは学校として送るわけにはいかないうから、お母さんが書き直させてくれ」とおっしゃる。そこで見せてもらったところ、

「兵隊さんは何等兵ですか。ぼくのお父さん

は二等兵でつまらないです。兵隊さん、かぜ

をひかないで、弾にあたらないで、早く帰り

なさい」

と書いてありました。親子三人で暮らしていたところをお父

さんが連れて行かれて淋しい子どもの気持ち……、でもその当時として、やっぱりうちのお父さんも大将ならいいのにと思っただろう気持ちもよくわかる。それを書き直させることはどうしてもできないと思い、ご迷惑でしたらこれをボツにして下さいとお願いして、他の生徒の少し見せてもらったのです。そうしたら同じ一年生たちの「兵隊さん、天皇陛下のために敵をやっつけて下さい」とか、「お国のために云々」とか、ちょうど大人が言わされていたことがそのまま手紙に書かれていました。

そして次の朝、外を掃こうと思ってほうきを持って玄関に出たら、二人の特高がそこに立っていました。憲兵隊のところへ引きずるように連れて行かれ、そこで憲兵大尉から「幼い子どもに反戦教育をしている。こんなことを二度としたりたとえ子連れであろうとも叩き込むぞ」とものすごく脅された。そのときはひとことも口を開かないで黙って頭を下げて帰ってきました。

それから四日経ち、今度は保護監察所から呼び出しが来て行ったら、紙とペンを出して、「夫が召集されたことについての感想を書け」と言うのです。

私は戦争に絶対反対だ、と書けば、また引っぱられるだろう。そうしたら子どもはどうなるのだ、などと考えてずいぶん迷ったけど、全然ウソは書けないと思い、「召集令状がきたのだから仕方がないと思う。でも生きて帰ってほしい、妻

だからと一行半書きました。それを差し出すときに、履いていた下駄が板張りの床の上でカタカタと震えていたのを覚えていいます。書いた結果がどうなるか怖くて……。でも、その後監視がときどき見にきたくらいで、たいしたことはありませんでした。

\*

ほんとうによく生き延びてこれたと思うようなことを経てきて、「侵略」を「進出」に言い換えるような空気が出てきたことが、拘禁二法と不可分なものだとはっきり思うようになりました。なんとしても私たちは、皆の力で、このどちちらをもつぶさなければならぬ。あの戦争のとき一番苦労したのは、それは男の人も苦労したけど……、やっぱり女の人だったと、しかも母親だったと思うんです。日本のどのお母さんにも、二度とあの苦しみをさせてはならないと思うのです。ですから、戦争の経験がない若い人にも、是非それを語り継ぎたい。

今度の拘禁二法を絶対阻止しなければ、また戦争にもつてゆかれる、しかも今度は、それこそ皆の命がなくなるような恐ろしい戦争になると思います。私たち婦人の力で、なんとかそれを食い止めたい。皆さん、一所懸命がんばりましょうね。

いま わたしたちは手をこまぬいていてよいのか

## 現代書館

東京都千代田区神田神保町2-22-11  
電話03(261)0778 振替東京2-83725

### 家事・育児を分担する男たち

●福岡・女性と職業研究会編

男と女が自立し共に生き合える関係をきずくためには、共に自分の仕事をもち、家事・育児を分担し生活する必要がある。現在、それを実行している数組の夫婦にその日常を語ってもらい、また外国の報告とも合せて、今後の男女の関係を問う。新刊 1400円

### わが家の思春記

新刊 1500円

●高三の息子と中三の娘と――門野晴子

万年「オール3」の平凡なわが子も校内暴力・いじめ・リンクス・セックスと「生徒は荒れていいる」とされる学校の中で様々な事件に巻き込まれていく。本当に荒廃しているのは学校と教師ではないか。本書は、強烈な教育批判をユーモアあふれる文章で綴った母親記。

### いきいきと生き抜くために

●柳 淑子

自立をめざす女子教育―好評重版出来 1500円  
福岡県三井高校では、十年前から全校で、性差別をなくし、男女平等の社会をつくるために自立をめざす女子教育にとりくんできた。

### 女たちのリズム

好評重版出来 1400円

●月経・からだからのメッセージ  
●同編集グループ編

本書は全国の13歳から80歳まで、四〇〇人以上の女たちの声をもとに、月経を通して自分自身をみつめ直すために作られたものです。

# 女ちの手で優生保護法の改悪を阻止しよう

優生保護法改悪Ⅱ憲法改悪と闘う女の会 松本 恵美子

私たちの会は、三月十五日に衆議院の予算委員会の席上で優生保護法の改悪が出たのを契機に、急拠、女の問題にかかわっている人々が集まってつくりました。

優生保護法は、六年ほど前にも改悪されそうになりましたが、再び出てきたわけです。

刑法の中の堕胎罪は、明治四十年に定められたものがそのまま生きているのですが、どんな方法であれ、すべての人工中絶は、懲役一年以下ですが、罪になります。

戦後の一九四七年に制定された優生保護法は、身体的または経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのある場合には中絶を認めるという一項を加えました。現在、年間六十万の届出があり、実際はその二―三倍といわれますが、現在中央優生保護審議会で経済的理由の条項削除を審議しています。これが削除されますと、年間百―百五十万の女たちが堕胎罪に問われることになります。

優生保護法の前身は国民優生法ですが、これはナチスドイツをまねて、国家にとって悪しき遺伝子をもつ子どもを抹殺するという思想に基づいたものです。それと国民の量。兵力であったり、労力であったりするわけですが、国家にとって必要な国民の数を決める、国家が子宮を管理する、という悪法です。これがまた復活する背景として、自民党の家庭基盤充実政策があります。経済大国となつたいま、経済上の問題は、中絶による道義上の問題をなくすというのが自民党の言い分ですが、女の労働権の確立がない社会、完全な避妊法のない社会で、女が中絶を選んでいのではない、中絶を選ばれているのだと思います。

中絶をして体を痛め、社会的にも精神的にもさまざまな圧迫を受けるのは、私たち女ですが、女が子を産むことによって生き方を制約されることのない社会になるまでは、中絶は女に残された最後の手段ではないかと思いますが、村上議員

と森下厚生大臣は、何としても今国会か次の国会で通そうと  
しています。刑法や少年法の改悪の動きなど、一連の法改悪

市町村議会・県議会にひろがる  
優生保護法改悪の動き

九月二十四日、山口県議事に「優生保護法改正に関する請願」が、生長の家の会員で、宇部市連合婦人会長である人から提出された。その内容は、

胎児は明らかに人間であり、生命の尊厳性の確保とその尊重の見地から見て、青少年健全育成の教育上の見地からかかる現実には正されなければなりません。よつてこの「経済的理由」の文言を削除する同法改正についての要望決議を関係機関に提出されるようお願いいたします」

「厚生省の発表によれば、現行優生保護法による人工妊娠中絶は、年間六十万にのぼると発表されています。しかしながら無届けおよびヤミ施術等を含めると、実際にはその実数は年間二百万を越えると言われています。一方、この膨大な数にのぼる中絶の理由は同法第十四条母性保護第一項第四号の規定に基づく“経済的理由”が大部分を占めているとされ、この“経済的理由”条項が恣意的な堕胎を正当化する理由と

いまわたしたちは手をこまぬいていてよいのか

命の権利は胎児にも保障されなければならないこと」の四項目が列記されている。

急拠、反対請願を出すことと、問題を大衆に広めてゆくことを友人たちと相談し、「優生保護法改悪に反対する女たちの会」と名づけた会員六人の会を誕生させた。

生長の家の請願提出を知らせてくれた社会党山口県本部のAさんとおして、日本婦人会議も反対運動を全国大会決定事項として取り組むことがわかった。九月二十九日、社会党、日本婦人会議そして私たちの会の合同学習会（参加者九人）が緊急に開かれた。婦人会議からは、十年前の反対運動パンフレット、生長の家政治連盟村上正邦議員と宮淑子さんの対談コピー、国の戦争政策と女への性の管理強化が同時進行してきた図表が持参され、社会党県本部は、七〇年、七二年そして今年三月の国会の優生保護法に関する速記録をコピーしてくれた。私たちの反対請願も資料の一部として使われた。

法改悪は戦前への回帰であり、戦前の女たちが、子を産む道具として国家と家に完全に縛りつけられていたこと、どんなに避妊したくてもその方法がなかったこと等が話された。そして、靖国、憲法改悪と同質の問題であることが確認された。孫を持つB子さんの「性行為というものは、一年に一度するもんじゃありません。女性には、妊娠の不安は「性」そのものの否定につながるもの」との発言が印象的だった。社会党県議団は、快く反対請願の窓口となることを承諾してく

れ、婦人会議も反対請願を提出することとなった。

そして、九月三十日。請願締切日には、緊急に役員会で決定したという県労評婦人部、日本婦人会議山口県本部、日本婦人会議山口支部、そして私たちの会の四団体が反対請願を提出した。

十月五日。山口県議会、厚生委員会での審議となったが、四団体の反対請願を手に力強く反対意見を述べてくれた社会党議員の働きで継続審議となり、十月九日の本会議で正式に継続審議と決定された。

山口県下の九月・十月市議会でも、山口市、下関市、宇部市、徳山市で「請願」か「議員提案」という形で法改悪が提案されたが、社会党の奮闘ですべて継続に持ち込むか、打ち合わせ段階で引っ込めさせることに成功している。しかし、十二月議会には、新たに萩市と小郡町で提出されるといふし、継続審議となった市議会では再度攻防が繰り返されるだろう。私たちは、市町村議会に目を光らせ、むこうの動きに敏感に対応しなければならない。山口県のように保守王国といわれる所では、「法改正」反対請願を先に提出して否決されるよりも、むこうの「請願」に対して「反対請願」をぶつけて、むこうを「つぶす」ほうが作戦としては良いそうである。

私たちの側は、現在、反撃のための学習会を開いているところだ。十一月七日には、山口市で県労評婦人部の学習会、

下関市でも組織を持たない人たちの学習会が開かれる。十一月十四日には、県教組婦人部が勉強会を開くという。さらに、十二月五日「戦争への道を許さない女たちの集会」(下関市)でも、テーマの大きな一つとして優生保護法改悪反対がとり上げられる予定である。また、近く防府市、山口市、小郡町の有志が、私たちと同じ「優生保護法改悪に反対する女たちの会」を結成し、私たちと連絡会を作って運動をおこそうとしている。

女に、法律で「子産み」を強制しようとするこの法改悪に對抗するには、私たちは女が真に自立でき、女の性がキラキラ

ラと輝けるような社会と、平等で向かい合うことのできる男女の生と性の関係を確立しなければならないだろう。また、この女たちの運動は、障害者解放を視点からはずすことを許されない。役に立たない存在として、施設や養護学校に隔離され、生と性をまるごと管理され、優生思想に基づいて断種手術や不妊手術を強制されている障害者の存在を、私たちははっきりと受け止め、そのように障害者を社会から排除している体制を許さず、私たちの内なる優生思想そのものを完全に消去するまで、障害者とともに闘ってゆかなければならないと思う。

(寄稿)

## 危機に立つ婦人労働

男女平等問題専門家会議の報告書とこれからの男女平等のゆくえ

私たちの男女雇用平等法をつくる会 井ノ部美千代

労基法改悪と男女平等法をとりまく動き

いま、働く女たちの未来にかかわる実に重大な地点に立た

されていることを痛感します。八五年の婦人差別撤廃条約の批准にむけて婦人労働法制上の手直しはかなり早いペースで進められつつあるからです。すなわち、手直しの方向によっ

いま わたしたちは手をいまぬいていいのよのか

ては、働く女たちの現場がかなり重大な影響をうけるような大改「正」が、かなり明確な日程のもとに進められているのです。

労働基準法研究会が「雇用における男女平等の実現には男女が同一の基盤で働くことが必要である」として、現状の母性保護規定の緩和を条件に平等法を提言したのは四年前の七八年十一月のことでありました。それから一年後、七十九年十二月には先の研究会の「何が差別で何が平等かを決めるには国民的合意が必要である。これは専門家から成る機関の意見にもとづいて決められるべきだ」との提言にもとづいて、勞使・公益の三者構成による男女平等問題専門家会議が発足しました。この会議が二年半の審議の末、八二年五月八日「雇用における男女平等の判断基準の考え方について」と題する報告書（以下、報告書と略す）をまとめたのです。これは同じく三者構成の婦人少年問題審議会ですらにつつこんだ審議をうけることになります。

七九年、専門家会議が発足した時点においては、専門家会議の審議日程も、平等法成立の見通しについても、労働省は一切明らかにしませんでした。さらに、八〇年、婦人差別撤廃条約に日本政府が署名した後、条約の批准を八五年にひかえていることを十分承知しながら、やはり「どうなるかわからない」をくり返していました。しかし専門家会議が報告書を出す前後から労働省の対応はかなり大きく変化したと言

えます。

すでに報告書が出される少し前から、労働基準監督課の課長は「差別撤廃条約を八五年に批准するためには、八四年に平等法および関連法案を提出しなければならぬ。そのためには、八三年末の通常国会に平等法とその関連法案を上程しなくてはならないので労働省は具体的準備を進めている」と、いろいろな場で発言しています。私たちも、婦人労働課から「八五年の批准を考えれば、来年の通常国会に提出するのがベストである」との話を直接聞けるようになりました。「官僚の見本」と言いたくなるほど何かと秘密を通し、日程を一切明らかにしなかった労働省が、ここまで明言するには、報告書のまとめを機に、今後の見通しにかなりの自信をもったものと思われまゝす。

報告書は、すでに八二年六月から婦人少年問題審議会に移され、来秋をメドに答申にこぎつけるとの日程で審議が進められています。一方、労働省は省内に男女平等法制化準備室（各局の法律担当者から成るプロジェクトチーム）を設置し、法制化の準備を着々と進めています。

しかし、問題は早いペースで進められているということだけでありません。

問題の第二点は、今回の報告書、および来年出される予定の婦人少年問題審議会の答申の性格が労働基準法研究会のそれと大きく異なっているということです。



労働基準法研究会第二部会は有識者八名（うち一名が女）の構成でありました。しかし、両審議会は労、使、公益の三者構成になっており、うち女性の占める比率もかなり高い。（専門家会議は十五名中九名、婦人少年審は九名中四名が女）。すなわち、単に有識者、男の意見としてではなく、労、使という利益や立場の違う者たちの合意として、それも男だけでなく十分女の意見を反映したもの——形式的にはまさに国民的合意——として出されるものだから、その効果、影響力には大きな差があります。出てしまえば、くつがえすのはきわめて困難です。だからこそ、労働省は自信をもって、今後の日程を発表するに至ったのでありましょう。

しかし、今回の報告書ですべてが決まったわけではありません。まだ多くの不明確な点、不一致点を残しています。これから私たち労働者側の運動をもり上げることによって労働側委員をバックアップし、挽回するチャンスは残されているのです。しかし残された期間は今後一年足らずであり、この一年が男女平等の勝敗を決することになります。

#### 男女平等専門家会議の報告書

——その問題点とこれから——

報告書はすでに出てしまったものでありますが、労・使の

論議を経たものであるだけに、男女平等についての労使の考え方、問題点が反映されています。したがって、これを十分分析し、問題点を明らかにすることが今後の闘いの方向を決めることになるので、ここに紹介します。

＊

最も基本的な問題点は、平等の理念が明確ではないということです。具体的表現としても、この報告書の中に「基本的人権」という言葉が全く見当たりにません。労基研報告でさえ、「男女平等と職業選択の自由は憲法によって保障された基本的人権である」と書かれているのに、ここには「女子労働人口の増加、意識の高まり、差別撤廃条約の採択などといった内外の情勢を考慮に入れると『平等』のための手段が必要」だと書かれています。この最も基本的な点の欠如が、平等の判断をきわめて便宜的、形式的なものにしてしまっています。

第二番目は「結果の平等」を否定していることです。

「……男女平等を実現するということは……、機会の均等を確保し、個々人の意欲と能力に応じた平等待遇を実現することであり、男女同数を採用すること、管理職の半数は女子とすることの枠を当初から設定するような、結果の平等を志向するものではない」とあります。

いま わたしたちは手をいままぬいていってよいのか

諸外国で男女平等を進めるために最も有効な手段としてとられている、一定割合女子を採用する、昇進させるというような措置（アメリカではアフーマティブ・アクションと呼ばれる）を否定しているように読めますが、この解釈は労働省と労働側委員でくいついています。

労働省側は「一定枠をもうけるようなことはしないということである」と説明していますし、前出の課長は、「諸外国の例を考慮の上、また差別撤廃条約にあるのは暫定措置をとってもいいということで、とらなくてはならないということではない」と委員の先生方がお考えになった」と述べています。

しかし、労働側委員の説明では「はじめからいきなり男女同数にするような同数ということのみを否定しているのだ」という。解釈に差があるので、今後の審議および私たちの運動の中で「結果の平等、アフーマティブ・アクションの必要性」を強調していかなければならない点です。

第三番目には、労使の意見の一致がみられず結論が出ないままに述べられている三点があげられます。これらについては、婦人少年問題審議会で結論が出されることとなつていますが、この三点は労使の意見の一致をみなかっただけに、重大な問題ばかりです。一步間違つて使用者側の意見が通れば保護も平等も一切失う結果にもなりかねません。

その第一点は、「勤続年数が短いことを考慮すると男女異なる取扱ひ（差別）も妥当な場合もある」とするか、やはり

「差別してはならない」とするかという問題です。性別役割分業観が根強い中、女は使い捨ての労働力とされています。そのうえ差別定年や結婚出産退職制すらある今日、たいていの会社では女の方が勤続年数が短いのが当然の結果としてあります。そもそも女の勤続年数が短いのは差別の結果であり、こんな問題の設定の仕方自体がおかしいのです。しかし、これがもし差別も当然という結果になれば、これでおおよほとんどの差別が合理化されることになってしまいます。

二つ目は、不就労期間のある者その他の者を差別しているかという問題です。すなわち、残業、深夜業をしない者、また、産休、育休などの母性保護の権利を行使した者は昇進昇格に差をつけていかどうかという点です。もし、これが使用者側委員の主張するとおりになれば、男なみに仕事をやるだけでなく、しかも、子どもも産まないでがんばれる人しか平等にはなれないということになります。これは「保護ぬき平等」の極地です。

三つ目は母性保護の範囲の問題です。

報告書には「①女子固有の妊娠出産機能に係る、母性の保護は、女子自身の健康のためだけでなく、次代を担う国民の健全な育成という観点からも必要であり、そのための措置は必要である。この範囲については、今後、十分に検討し、明確にすることが必要である」と書かれています。

ここは、労使間でかなり激しいやりとりが行なわれ、表現

しかし、報告書はつづいて、「②一方、それ以外の理由(Ⅱ・2(2)(4)「風紀の維持等を図ること」を除く)は、男女の平均的な差異、社会通念等にもとづくものであり、必ずしも労働に係る法律制度において男女別に取り扱う要因とはいえないものであります。これらを理由として、法律上男女異なる規則

定を設けることは、本来妥当であるとはいえない」とあります。ここで本来妥当でないと否定された男女別の取扱いは、①体力・筋力等、生理的諸機能の男女差、および②女子は、一般的に家事育児負担を負っていること等を理由にした保護です。その理由として「個々人についてみれば必ずしも女子全員が男子に劣っているとはいえないから、また家事育児負担は男女共に負うものであるから」と述べられています。一読すると正しいようですが、これでは重量物制限が否定されることになるのです。

特に、日本では職種による採用ではなく、〇〇会社採用され、その後の配転についてはなかなか文句が言えないシステムになっています。こういう日本の雇用慣行の中で、筋力

しかし、労働側委員の説明では決して重量物制限まで否定してはいないといひます。

一方、生理休暇や危険有害業務については全く述べられていません。

そもそもこの最大の問題は、女子保護を妊娠出産に係るものと、生理的諸機能の差によるものとに分けたところにあるといつてよい。なぜなら女は妊娠出産の時だけでなく、生涯に渡り生理的諸機能を持っているわけで、女子に特有の生理的諸機能は母性機能と不可分のものだからです。個人的には男より筋力のすぐれた女がいることは事実であっても母性機能をもった女が重量物取扱いに従事すれば子宮下垂という障害がおこるからこそ重量物制限が必要なわけで、これをとつてみても、母性機能の保護は妊娠出産の時に限らず必要なのであり、母性機能と生理機能は分けられないものとしてあることがわかります。

労基研報告でさえ、保護を母性保護と一般女子の保護に分

いまわたしたちは手をこまぬいていてよいのか

けてはいるものの「女子に対する特別措置は、母性機能等、男女の生理的諸機能の差から規制が最小限必要とされるものに限る」とあり、生理的諸機能の差による保護は最少限とは言いながらも認めているのです。

このように今回の報告書は労基研報告のように具体的に書かれていないので明確にはなりにくいですが、解釈によっては労基研報告以上の全面的な保護撤廃になりかねない危険性をはらんでいます。

また、「家事育児は男女ともにやるべきだから女に家庭責任があることを理由とした保護は妥当ではない」とあるのはタテマエとしては正しいのですが、では、男も家庭責任を担えるような条件整備が具体的に示されているかといえは、最後に条件整備として、「男子を含めた労働条件、労働環境の整備、特に時間外労働の制限を含めた労働時間の短縮については実効ある対策が推進されることが望まれる」とうたわれているだけで、具体的な対策については一切書かれていません。そればかりか、すでに、全く規制といえないような時間外労働規制を男に設け、これに女をあわせようとする動きが実施に移されようとしています。週四十八時間制をそのままにして、月五十時間に残業を制限するという省令が来年から実施されることが発表されましたが、この理由として、前出の労働省課長は「差別撤廃条約の批准には女子保護を見直さなければならぬが、男の残業が青天井のままでは女子をこ

れにあわせるわけにいかない」と述べています。このとおりにいけば男女とも年間約三千時間労働が可能となり、今の生産労働者の平均二千二百時間をさらに上回って働かせることができるようになるのです。

男女ともに人間らしく平等に働くための労働条件の整備については、労働者側でもっと具体的な要求をつめて、要求していかなければならないことを痛感しています。

以上、不明確な点、不一致点を含めて婦人少年問題審議会の審議にゆだねられていることになりましたが、この審議結果の是非によっては平等法の効果があらわれるどころか、労基法のみ改「正」、平等法については現状を後退させる程度の骨ぬき、または差別合理化法になりかねない危険も十分あります。この審議日程をにらんだ、私たち働く女たちの闘いを早急に組んでいかなければなりません。

この一年がヤマ——働く女たちの総力を集め

本当に役に立つ平等法を要求しよう

政府、労働省は急ピッチで「平等法」づくりを進め差別撤廃条約批准の準備を進めています。しかし、それにひきかえ残念ながら、私たち働く女たちの側で男女平等の中身や、本当に必要な平等法の検討は遅れています。「平等を要求するから保護の撤廃が出てくる。だから平等法には反対だ。労基法改悪について闘うべきだ」との意見がありますが、これは

# 全国各地の〈あごら〉で合評会

——お問い合わせは下記へ——

全く正しくありません。平等の中身をめぐって労基法改悪がもくろまれている今日、また働く女たちにとって、平等の実現も、母性の保障も、そのどちらも欠くことのできない課題である以上、大切なのは働く女の立場に立った平等の中身を、働く女たちの手によって確立し、要求していくことです。これが遅れたからこそ、平等の中身がすりかえられ、労基法改

悪とセットの平等法づくりを許してしまっているのではないでしょう。

このことの反省に立ちながら、早急に働く女たちの間で平等の中身についての論議を進め、私たちの手による平等法を要求する運動を全国的にもり上げなければならないと思っています。

## ◆あごら旭川

・旭川市神楽岡1条5丁目3 田代慶子  
☎01666656237 〒078111

## ◆あごら札幌（毎月13日に例会）

・札幌市西区琴似1条6丁目 グランドハイツ琴似408号 細田英理子  
☎01166442927 〒063

## ◆あごら仙台

・仙台市茂庭字生出前4の65 三船照子  
☎00222455994 〒982102

## ◆あごら浦和

・浦和市南浦和21918 山中マツ江  
☎0488873680 〒336

## ◆あごら柏

・柏市豊四季台31168212 古賀節子  
☎0471456724 〒277

## ◆あごら新宿（2月19日（土）15時～18時）

・新宿区新宿11916 あごら読書室  
☎0333543941 〒160

## ◆あごら武蔵野

・小平市小川町1176386 丹羽雅代  
☎0423436749 〒187

## ◆あごら京王

・調布市仙川町31232 福井浅子  
☎03330877871 〒182

## ◆湘南あごらを読む会

・平塚市山下726 県住15825 福本寛子  
☎0463322021 〒254

## ◆あごら東海

・愛知県愛知郡東郷町和合ヶ丘11219 伊藤汎美  
☎05613992386 〒470001

## ◆あごら京都

・京都市左京区一乗寺築田町56の1 塚崎美和子  
☎0757914623 〒606

## ◆あごら大阪

・茨木市西駅前町10323 遠藤由美  
☎0726233495 〒567

## ◆あごら九州

・福岡市西区笹丘2416 小島豊子  
☎09252117624 〒810

## ◆佐世保あごらを読む会

・佐世保市瀬戸越町141525 内田佳崇  
☎0956498591 〒85701

# 小説・熊沢光子<sup>てるこ</sup>

—あるハウスキーパーの生涯を考える—

山下智恵子

『小説・熊沢光子』は私が今、執筆中の小説の題名です。自分の作品の宣伝になるようで恐縮ですが、いま、『貌』という同人雑誌に、熊沢光子さんの生涯を連載しているところなんです。

この小説を書くように至った動機は何かと申しますと、ご承知の方も多いかと思いますが、昭和八年の暮れに共産党のスパイリンチ事件が起きました。その時にスパイの疑いをかけられて査問された人に小畑達夫と、大泉兼蔵という二人の男性がいました。小畑達夫は否認したまま査問中に死亡します。ショック死であろうと言われていますが、国会などでも、これをめぐっていまだに共産党の現委員長である宮本顕治の身分帳を鬼頭史郎なんかが裁判所へ見に行ったりとか、春日一幸がそのことを問題にしたりというようなことで、尾を引いている事件です。小畑達夫という人は死んだのですが、もう一人の大泉兼蔵という人は「自分はスパイであった。自分は特高刑事から金をもらってスパイをやっていた」と自白したわけなんです。その大泉兼蔵のハウスキーパーを務めていたのが、熊沢光子という人だったわけです。この人は名古屋出身の女性であったというのを、ずいぶん前でずっと聞いていたことがありました。そういう数奇な事件に巻き込まれた人が名古屋の人だったのかと、私も名古屋に住んでおりますので、ある感慨にとらわれたのです。

しばらくしてから、彼女は獄中で自殺をした、二四歳で自ら命を断ったんだという話を聞きました。それで忘れられない女性として私の胸の中に刻み込まれていたわけです。

\*

昭和五十二年の春に平野謙さんが、『文学界』に「あるスパイの調査」という文章を発表されました。当時平野謙さんは、食道癌の手術を受けたばかりでして、自分にもしも余命があるならば、政治の劇であるとともに、人間の劇でもあるリンチ共産党事件の真実について、自分なりにメスを入れて、もう一度考えてみたい。その真相を書いてみたい、というふうに言っておられました。その文中で熊沢さんが名古屋の出身だということ、彼女が自殺にまで追い込まれていった心情というのは、単に運動に行き詰まったからではなく、その当時の女性であるがゆえに、自殺をせざるを得ないところまで追い詰められたのではないのかということを書いておられます。人間の解放、あるいは社会の解放、人間を抑圧するものと戦う、という前衛党の組織の中で、なお女の人が人間として生き難いというような思いに追い込まれていったということが、私にとって大変なショックで、やはりこれはぜひとも平野謙さんに食道癌を乗り越えて書いていただきたい。最後の仕事として書いていただきたいと、ものすごい期待を込めて待っていた。ところが残念なことに、翌年の春に、平野謙さんはお亡くなりになってしまった。それで彼が『文学界』で言っていた仕事は、途中になってしまったわけだ。

スパイリンチ事件のはらんでいる、人間とは何なのか、あれはいったいどういうことであったのか、という真相に触れないままに終わってしまったのです。特にその中でも、平野謙さんが、ハウスキーパーであって、過酷な運命に知らないうちに追い込まれていった熊沢光子の生涯について書きたいと言っておられたんですけど、彼女については、ほとんど何も書かないままになってしまったのです。

それが、どうしても私には心残りでたまらなかったんです。私は作家になりたいと今も思い続けている人間で、平野謙さんとは比べものにならない存在ですが、平野謙さんが亡くなられた以上、同じ名古屋に住んでいる者として、同じ女として、この人のことを作品になるうがなるまいが書いてゆきたいという思いにとりつかれるようになってゆきました。

それでボツボツと調査資料を集め始めたわけなんです。昭和の初めごろに、非合法・共産党にかかわった人の足跡をたどろうとすると、ものすごい困難を感じるわけなんです。いろいろな所に訪ねて行って、熊沢さんという方が確かにあなたとかかわりがあったはずで、是非その話を聞かせていただきたい、とお願いするのですが、確かにこの人だったら知っていると思う方が、スパイリンチ事件を持ち出すと、ほとんど「いや何も

覚えていません。もうみんな忘れてしまった。わたしはとにかくあのころ、ごうこうだったから忙しくて」というふうに言葉を濁してお話していただけない。そういう事実によつて、戦前の悪法といわれる治安維持法は、厳然として今も人々の心の中に生き残っているんだなあ、という感じがする。

そういう拒絶反応みたいなものに出くわすことによって、私はますます昭和の初めごろに、例えば共産党とかアカなんていう言葉を口にしただけで、非常に恐ろしい伝染病でもあるかのように人々が忌み嫌った中で、なぜ名古屋の一女性であった彼女が東京へ家出同然に出て行って、そういう運動に身を挺していったのか、なぜハウスキーパーになったのか、彼が特高のスパイだったことを見抜けなかったかというような、なぜ？ ぜ？ という思いがいっぱい膨らんできて、ますます書きたいという思いにかき立てられていったのです。

ハウスキーパーという言葉、昭和の五十年代の終わりである今言いますと、ずいぶん受け取り方が違うんじゃないかなあと思います。

例えば、戦後生まれの方であれば、ハウスキーパーという言葉は、ホームヘルパーであるとか、あるいはアルバイトなどという言葉とほとんど変わらないような受け取り方をするんじゃないでしょうか。ハウスキーパーといったときに、ただ単なる家政婦とか、あるいは家政を一所懸命切り回す人という、日本語的になじんでしまった外来語としかとらないんじゃないかと思えます。私の娘たちに「ハウスキーパーって言うとなんか何の思い出す？」と聞くと、派出家政婦さんというように言います。ところが、私は今四十三歳ですけど、もう少し年配の方で、明治憲法・治安維持法・非合法の共産党・特高刑事という言葉が単なる言葉じゃなくて、なんとなく暗いイメージを持って肌身感じられるような世代の人は、ハウスキーパーという言葉聞いたときにやはり一種独特の感情を持つのではないかと思えます。平野謙さんが三十一書房から出しております『リンチ共産党事件の思い出』という本の中で、ハウスキーパーという言葉には、「なにか変な暗い粘っこい感じ」があると書いています。ハウスキーパーという言葉が引き起こすイメージは戦前の世代の人にとって、なにかしら重苦しいものを連想させるのではないかと思えます。

\*



ではこのハウスキーパーの実態というのはいったいどういふものであったのか、私は書かれている本や、実際にハウスキーパーだった人はいないかと一所懸命にさがし、本を読んだり、話を聞いて、人伝てに訪ねたりということをしたんですけど、ハウスキーパーを務めた人は、いるにはいるんですが、話してくれる人というのはいません。それは世間にはもちろん親せきにも隠しているから、絶対に触れられない傷として抱え持っていて、会って人に話すということは考えもつかない感じなんです。

あるいは共産党の人にそういう話を持ちかけますと、これは戦前の共産党を誹謗するために、マスコミなどがデマを飛ばして、スキャンダル的に扱ったことだし、反共に利用されるといふことから、そういう話はしたくないという別の観点からの拒絶に会うわけです。けれども、一所懸命に、誠実に、このことはやっぱり女性としても、あるいは社会主義運動史の中でも絶対に問題にしてゆかねばならないといって、精力的に発言し書いておられる方もいらっしゃいます。福永操さんという方です。旧姓波多野操さん、是枝操さんというふうな呼び方もされていますが、ハウスキーパーのことに關して信頼がおける発言をしておられるのは、福永操さんだけといってもいいくらいです。

この方は明治四十年、一九〇七年生まれの方で、お父さんが裁判史上に残る有名な判決をされた判事さんであつたと聞いております。大正四年、大浦事件というのがあつたんだそうです。時の内務大臣である大浦兼武という人が選挙違反をし、収賄罪に問われた時に、それまで時の権力の座についている人に、有罪判決をするというのは、なかなかなかったんですけれども、有罪判決をして、これが非常に注目されたそうです。そういう反骨の人をお父さんに、東京の女高師を出られて、女学校の先生をしていたという方をお母さんに持った方なんです。この方が大正十三年に札幌の女学校を卒業して、上京してこられて、東京女子大の英語専攻部に入學し、後に志賀義雄さんの奥さんになられる渡辺多恵子さんという方などと語らって、社会科学研究会をつくられたんです。他の女子大学にも呼びかけて、例えば日本女子大の清家としさん『ある伝説の時代』という本を書いておられて、この時代の女子学生運動のことや、非合法の共産党の活動について回想を書いておられる人）や西村桜東洋という方と語らって、通称女子学連といわれる組織をつくってゆくわけです。女子学生運動のはしりみたいなものです。その運動のリーダー格を務めたのが福永操さんなんです。

この方は昭和二年に入党されて、主に学生対策の学生部を党の中での仕事として、任務につかれたわけなんですけど、昭和三年三月十五日に労働運動の大弾圧があったときに逮捕され投獄されているんです。福永操さんの証言によりますと、ハウスキーパーという言葉は、この三・一五以前にはなかったんじゃないか、またそういう事実もなかったんじゃないか。たぶん三・一五以後に党の中でハウスキーパーという言葉も使われ、実質的に女の人を、男の党員を助けるための、いわゆる夫婦者を装うための相手として使ったんじゃないかと言っています。

福永さんは、いまま共産党に党籍があるんですけども、彼女はハウスキーパーのことに關しては、日本共産党のやり方は間違っていたんじゃないかと、今でも執拗に党に対し自己批判を求めて発言をしておられるんです。

なぜそれほど執拗に福永さんがそういう発言をしてこられるかというと、のちにハウスキーパーの制度が一番盛んだったというか、たくさんの方がハウスキーパーにさせられたのは、昭和七、八年ごろなんですけど、そのハウスキーパーになった女性というのは、女子学連出身の人たちがほとんどだったんです。福永さんにとってそれは痛恨事だったわけでしょう。自分たちは本当に社会主義のために働きたいということで、『資本論』やいろいろな社会主義の本を読み、勉強した。そのために女子学連を作った。ところが、その組織が共産党の中でどう使われていたかという点、男の党員たちを助けるための飯炊きであり、レボ係であり、原稿の清書係であり、と、いわゆるお手伝いさんのように使われ、同時に性的な相手にもされていた。そういうことがあっていいんだろうか。そういうことをするために自分たちは女子学連をつくったわけじゃない。「それだったら自分たちは、飯炊きを勉強すればよかった。なんにも『資本論』なんか読む必要はなかった」と言っておられる。そういう事情で福永さんは、ハウスキーパー制度についていろいろな所で話をしておられます。

私がこれからお話しすることは、ほとんど福永操さんが語っておられることから引いておりますが、もしも間違いがありましたら訂正させていただきたいと思えます。

\*

昭和三年の三・一五以前にはハウスキーパーという言葉はほとんど使われていなくて、新聞の発表なども、あるいは特高警察の資料なんかに、ハウスキーパーと思われる人には、情婦とか内妻とか内縁というような言葉を使っている。それ以後に証言する人がいるのは、たしか昭和四年に、田中清玄（後に右翼になった人です）のハウスキーパーにならないかと言われた東京市バスの車掌をしていた女性ですが、この人が田中清玄が自分で首実験に来て、どうもあれは気に入らないということでハウスキーパーになることを免れたと証言しています。

ではハウスキーパーというのは、奥さんとうどう違うのか、また二号さんとうどう違うのかということですが、昭和三年以前ですと、例えば共産党の渡辺政之輔、三田村四郎とかいろいろな人がいますけど、彼らの奥さんはみんな籍が入っていないけど、仲間から奥さん扱いされてたんです。渡辺政之輔の奥さんは丹野セツさんです。牧瀬菊枝さんが彼女の生涯を本にしています。三田村四郎の奥さんは久津見房子さんです。この人たちは黨員、同志から奥さんとしての扱いをうけ、それなりの尊敬をうけてるんです。

ところが、昭和三年三・一五以後にハウスキーパーにならないか、やってくれというふうになつた人というのは明らかに奥さん扱いではなく、非常に低い扱いなんです。党の便宜上、彼らの地下活動を保障するために、便宜上奥さんのような役割を務めてくれと命令されてやっていることですが、なぜか低くみられているんです。そして相手がどういふ男であるかということも、まるっきり知らされないままにやっているケースがほとんどです。

当時の女流作家に中本たか子さんがいますけど、彼女の『我が生は苦悩に灼かれて』という自伝の中で語っているところによれば、ある日突然にある人に「この人と住んでくれ」と言われて、名前も知らず初めて会った背の高い若い男と、それ以後夫婦を装って暮らすということだったらしいんです。また、他の人の場合、最初は秘書をしてくれといわれて、いっしょに住んでいて、それが実はハウスキーパーとしての役目を要求されていたんだということがわかって、逃げるに逃げられず、うやむやのうちにそういう仕事を押し付けられたという人もいたようです。それを拒否する自由がなかったみたいです。相手がどのだれかもわからず、男をいやだと思っても拒否できず、無条件で服従しなければいけない。奥さんよりもっと気を使って男の身の安全

を守らねばいけないし、男の身の回りのことから、レボといわれる連絡係、そして隣近所にあやしまれないように奥さんらしく振舞わねばいけない。それから一切の非合法の文書の管理をしつかりしなくちゃいけない。緊急の場合には、それを焼くとか飲み込むとかトイレに捨てるとか、とっさの機転を働かせてやらなければいけない。ハウスキーパーを命じられたらその時から、自分の一切の個人的な関係を断ち切らなければならいんです。ハウスキーパーになりますからということもいえないし、別れるときも何の保障もなく、ばつと一方的に、たとえそういう間柄の中で愛情が湧いたとして、別れたくないといっても、男のほうの都合で別れてはなりません。ですから、奥さんや二号さんよりも重大な任務があるにもかかわらず、同志の間では、一種軽べつの目でみられながら、ハウスキーパーの役割は、これは間接的に党に貢献することなから、革命運動に貢献することだから、といって、女の人に押し付けられていたわけです。

宮本顕治さんは、ハウスキーパー制度というと必ず「いや、そんな制度はなかった」と反論します。たしかに党の決定としてはハウスキーパー制度はなかったんでしようが、実際に慣習としてはあったんです。それを、あれは自発的に党の中で女性の同志が男性の同志を助けようということとでやったんだというふうにいわれるけど、そうばかりではなかったという証言があるわけです。それから、非合法活動だったから、あれはやむにやまれぬことだという弁解が黨員の人たちからいわれますが、たしかに、弾圧のひどい時代という事情を考慮しなければならいとしても、やっぱりおかしいと思います。一切の家事を切り回しながら、なおかつ重大な役割をになわなくてはならないのに、最も不向きと思われる女子大生などにやらせた。もっと年齢が上の、所帯を持った経験のある人だとか、酸いも甘いもかみ分けたような人をハウスキーパーにするならわかります。たしかに非合法下の共産党の組織を守るために、あるいは黨員を守るためにやむをえない制度だ、やむをえない慣習だったということが一部言えるかもしれませんが、ほとんどが若い女性で、しかも後で大泉兼蔵が告白しています、顔の悪い人とぶつかった人は、なんとかかんとか文句をいって、追い出しているんです。本当にひどいことです。男の黨員が女の同志にハウスキーパーとして求めていたものは、そんなにきれいなものではなくったんじゃないかと思えます。それは、どんなに共産黨員としてすぐれた男であっても、当時の女性観を克服している人は少なかったからであると思います。

\*

例えばこんな例があります。女学生あがりの人が無理矢理ハウスキーパーにさせられた。その人が、党へ上申書を出すんですが、その文面というのは「私は、ハウスキーパーという仕事が自分に不向きであると思って、再三再四断わったけれども、党活動のためぜひ必要と言われてやむをえず現在の部署に働くことになりました。しかし、私は、ここに来てからは、全力を挙げてよきハウスキーパーたらんことを努力しているつもりです。私はここへ来る場合、上部の人に対しても、また援助する男に対しても、単なるハウスキーパーで、絶対にそれ以上になることはできないと約束してきたつもりです。しかるに現在私が援助している男は、私が来て数日もたたないにもかかわらず、あらゆる手段と口実を持って妻たることを強訴するばかりでなく、近ごろ毎晩のように暴力によってそれを達せんとしています。なにぶん非法的存在にある私たちで、声もたてれず、まことに困っていますから、なにとぞご考慮下さい」。こういう深刻な訴えが出されているんですけれど、これを、上のほうの岩田義道というたくさんの女子学生たちをハウスキーパーに斡旋した人なんですけれども、この人は笑って握りつぶしてしまうわけです。すぐれた黨員としての岩田義道も語り継ぐ必要がありますが、対女性のことに関しては、残念ながら、否定的な一面をあげないわけにはゆきません。何度か来た悲痛な訴えを握りつぶした後に、相手の男の人から上申書が出たんです。その内容は「我々二人は献身的努力をもって、党活動を遂行している。そしてハウスキーパーを世話してもらってから、ますます能力が発揮できるようになった。この同じ思想目的を持つ我々二人は、熱烈な実践的な過程において意気投合し、結婚するまでに発展してまいりました」というのです。やっぱりいつの時代にも男の人が能力を発揮するのは内助の功があるからということです。どんな暴力をふるったのかわらないけれど、こういうふうになったんです。「これから以後、二人は二身一体になって、労働者、農民の解放への道へますます精進せんことを誓うものであります。なにとぞ我々二人の結婚をご承認下されたく、ひとえにお願いいたします」。そしていやだから部署を変えてくれといっていた女の人からは、「いまから〇〇のいう如く、二身一体となって働きますから、なにとぞお許し下さい。前の上申書はみな撤去下さるようお願いいたします」という上申書が出されたんです。このことを見ると、ハ

ウスキーパーの慣習というのは、女の人にとって非常にむごいものであったと思います。

それから先ほど申しました中本たか子さんという女流作家の方の場合、この人のハウスキーパーになりなさいと、顔も名前も知らない人をあてがわれ、彼女も独身、相手も独身で、若い二人が一緒に住んでいて、自然に恋愛感情が生まれ、結ばれるんです。

そこで、また田中清玄が登場するんですけど「お前たちはなんだ、ふしだらな関係になっているんじゃないか。結婚は黨員同士の承認がなければだめなんだから、もし黙ってそういう関係になっていたら二人とも処分するぞ」というようなことを言われ、脅かされて、二人は散りぢりにさせられてしまうのです。

人間の解放、だれも抑圧しないような社会を目指している前衛党の中ですら、女の人はやっぱり男を助けることによって、党のため、革命運動のために間接的に働けという役割分業的なことしか期待されず、まして女の人権などは認められていなかった。

なかにはハウスキーパーといっても、相手の男の人がいい場合には、大変清潔な関係を保って、互いに同志として尊敬しあい、革命的な警戒心も持ち、一所懸命暮らしていた人もあったようです。これは山代巴さんの『囚われの女たち』という本の中に出てきますけれども、山代巴さんの連れ合いであった人と田中ウタさん（後に袴田里見のハウスキーパーになる人ですが）が一緒に暮らしていたときに、二人は、肉体関係などをもったら頼廃するからというので、田中ウタさんは枕の下に針をひそませて、もし男のほうがかしつけてきたら自分は絶対に抵抗する、そういう決意を秘めてやっていたし、男のほうも同志の田中ウタさんに手を出すようなことは、決してしまいと歯をくいしばってしなかった。狭い所に共に住み、世間には夫婦者を装っていても、絶対に肉体関係をもたなかったという、大変な同志愛で結ばれた姿も出てくるんですけれども、多くは必ずしもそうではなかったというような感じがします。

\*

話を熊沢光子さんに戻しますと、熊沢さんは名古屋の弁護士娘に生まれて、その当時でいえば、いいところのお嬢さんだった人なんです。愛知県立第一高等女学校を卒業して家出同然に東京に出て行き、カフェの女

給さんのようなことをしながら、共産党員と接触をもって、そのなかで財政部長をしている男に、「一人男を紹介するから、その仕事を手伝ってくれないか」と頼まれるんです。その相手の男というのが、先ほどの共産党のスパイリンチ事件のスパイだった大泉兼蔵です。頼まれた時に彼女は、その男の身の回りの世話、あるいは炊事などをする事によって、党に献身できるのだったらそうしよう、自分は運動の経験も未熟だし、思想も未熟だから、大泉に教えてもらおうことによって、りっぱな共産党員に成長してゆきたいからというので、大変素直に理想に燃えて、彼のハウスキーバーになったわけです。

ところが大泉兼蔵という人は、新潟の農民で、農民運動出身なんですが、すでに新潟にいるときから、特高に金をもらって仲間を売っていた。当時共産党は弾圧につぐ弾圧で、人材も資金源も非常にじり貧になっていたわけです。初期のころはコミンテルンから資金なんか送ってきたりしていたんですが、それもルートを断たれてお金もなく、組織をつくり直しても、つくり直しても、すぐスパイが入り込んでくるから、つぶされて逮捕されてしまう。そういう時期だったんです。そういう時に大泉兼蔵というのは東京へ出て来て、まもなく共産党の中央委員にまでのし上がるわけです。なぜ彼が中央委員になれたのかといえば、人材不足と、インテリ出身の人が多く中で、労働者であるとか、農民出身であるということ、大変重きをおかれる風潮があったわけです。彼の言うことは、農民運動の中から得たものであるというふうに、ものすごく過大評価されまして、彼は中央委員の座についてしまいます。

その当時、昭和八年なんですけど、いろいろな人が委員長になってもすぐ逮捕されてしまうので、病身であった野呂栄太郎が委員長になりまして、中央委員は大泉兼蔵と、ほかに、若くて非常に頭が切れるというので宮本顕治がなり、それに逸見重雄、小畑達夫がなったわけです。

\*

ところが昭和八年の十一月二十八日に野呂栄太郎が逮捕されてしまう。この逮捕で、前々から宮本顕治が、どうも大泉兼蔵という男はおかしいんじゃないかと目をつけていたのが、ますます怪しいと確信するようになってくる。野呂栄太郎を売ったのは、大泉兼蔵ではないかと思うようになってくる。それからやはり大泉兼蔵

に対して怪しいと思つていた人に袴田里見がいて、この袴田里見は、自分が党の中のいいポストに就こうとしたときに、大泉兼蔵に反感を持つていたために、大泉によつて格下げをされてきた男なんです。それで事あれば大泉兼蔵を査問して、ということをおもつていたようですが、野呂栄太郎の逮捕をきっかけに、宮本顕治とか逸見重雄、中央委員の候補に挙げられていた秋笹正之輔（彼は後に逮捕されてから、周りの人がみんなスパイに見えてきて、「あれもスパイ、これもスパイ」と言い出して、発狂して獄中で看守一人一人におじぎをして回つて、同志たちには「あれはスパイだ」と言つて、完全に気が狂つて死んでしまふ。三十代だったそうですが、死んだ時に髪が真っ白になつていたそうです）、この四人が語らつて、どうしても怪しいのが中央委員の中にいるということで、小畑達夫と大泉兼蔵を査問しようということになった。

出刃包丁とまき割りと針金とピストルと硫酸と細引き、そういうようなものを買ひ込みまして、一軒のアジトを借りて、秋笹正之輔とそのハスウキパーの木俣鈴子さん（この人は福永操さんと同級生だそうです）、この二人がこのアジトに住み、そこへ、大泉兼蔵と小畑達夫をおびき出して、査問するんです。ところが、小畑達夫というのは徹底的に、「自分はスパイではない」と否認するわけです。大泉兼蔵は、まき割りの峰のほうで頭をなぐられたりするから、血が流れたりして、それですっかり殺されると思ひ怖くなって「自分はスパイだった」と白状するんです。

それで、かみさんも呼べということで、アジトにいたハウスキーパーの熊沢光子さんも連れて来られるんです。そしてお前もスパイだったのかという調子で、最初は査問されるんです。熊沢さんにとっては青天のへきけきなわけです。自分は中央委員である大泉兼蔵に尽くすことで、黨員としても成長したいし、革命運動にも貢献したいと思つて一所懸命奥さん業を務めていたわけです。彼には新潟に奥さんがいると知つていたんだけれど、やっぱり肉体関係にも入つてしまつていた。自分が信じて尽くした人がスパイだったということを聞かされ、その上自分も疑われたということで、ものすごいショックを受けたんです。彼女も縛られて、押入れの中に入れられるんです。逃げないように針金で小畑の手足をくくつて、頭にオーバーをかぶせてころがしておいて、スパイであると白状した大泉に、さらに党の中にスパイがいるかどうか聞きだそうとするわけですから、ところが、ころがされた小畑が、もぞもぞと動き出して、じりじりと窓のほうに寄つて行くものですから、袴



田里見が、ちょっとおかしいと思つて見ると、縛つてあつた手足の針金なんかがゆるんでいるんです。あつ、これは逃げるつもりだというので、大声を出して小畑に襲いかかり、仮眠していた宮本顕治たちを起こした。宮本顕治たちが起きてきて、彼は柔道ができるものですから、背中に乗つてぐいぐい締め上げた、するとまるで獣が吠えるように、うっ、とうなり声をあげて、急にばたつと死んだんです。スパイであることを最後まで否定して死んでしまった。今では、彼らは殺す気はなかったらうということ、ショック死ではないかといわれていますが、とにかく死んでしまった。どうしよう、大変だということになり、アジトの地下に穴を掘つて死体を埋めるんです。

\*

死んだのは十二月二十四日ですが、日がたつて、十二月二十六日に宮本顕治はもう一人の男も怪しい、あれも査問する必要があるんじゃないかということで、街頭レポに出て行くんですけど、その前に怪しいと思われた男が自分の身の危険を感じて、宮本顕治を売るわけです、それで宮本顕治は街頭で逮捕されてしまいます。アジトも危なくなり、大泉兼蔵や、かかわりがあつて事件の一部始終を押し入れの中で聞いてしまった熊沢光子の処置をどうするかで、残つた男たちは大変困惑するんです。

そうこうするうちに日にちがたつて年が明けるんですけど、どうしたらよいのかわからない。そんな中で大泉兼蔵は、死んで皆さんにおわびするしかないから死なせてくれなどと、いろいろまいことを言うわけです。熊沢光子にも、夫婦として暮らしてきたんだから一緒に死んでくれと言って、涙をこぼし、本当に申し訳なかつた、死をもつておわびするしかない、と言うわけです。それから、自分は党のために農民運動の経験を書き残したいからと言って、手をゆるめてもらい、机に向かってものを書いたりなんてことをやるんです。熊沢光子も、自分も一緒に死ぬことがハウスキーパーとしての最後の務めだと思ひ込んで決意するわけです。「二人で自殺しますから、自殺させて下さい」と、秋篠、木島、袴田なんか頼むんです。党の男たちは、最も安全な処置のし方だから許すわけです。

私は、どうしてなにも知らずにハウスキーパーをやつていた熊沢光子が、なぜ死ななきゃならないのだと憤

りを感じます。彼女が死ぬと言ったら、あなたは知らずにやっていたのだから、あなたがもう一度生き直すには、党のためにもっと一所懸命に成長して働くことじゃないか、というふうに慰め励ますのが同志として当然のことだと思ふんです。それを、ああ死にたいのか、それじゃ死ぬ、しかし、殺人の疑いが自分たちにかかったやいかんから、遺書を書きなさいということになり、何べんも訂正させられて「まあこれならいいだろう」と許可された。二人とも遺書を書いています。では方法はどうか、やっぱり首つりがいいんじゃないか、しかも同志の見ている前で首つり自殺をするということで承認され、一月十四日の夜、玉川上水の近くで完全に遂行するのを見届けるということに決まったんです。

ところが、一月十四日の夕方にハブニングが起こるんです。怪しい男がアジトの付近をうろついていて、木島隆明の顔をのぞき込んだということが起こり、これはどうも怪しい、もしかしたら、宮本の線から割れたのかもしれないというので、あわててアジトを変わるわけです。それで二人の自殺は中止になり二人が逃げないようにピストルで脅かしながら、木島隆明と彼のハウスキーパーである横山操さん（お寺の娘さんで女学校を出て共産党の運動に入った人なんですけど）が夫婦者として借りている家へ、急ぎょ移るわけです。ところが前のアジトにまだ証拠品なんか残してあるから、やばいということで男たちがそれを取りに行く。木島隆明のアジトには、大泉兼蔵と熊沢光子と木島のハウスキーパーの横山操の三人しかいませんでした。これは絶好のチャンスで、大泉兼蔵はおなかから痛いからトイレに行かせてくれと言って、トイレから戻って来た後、ピストルを持って看視している横山操を、二十貫もある大男の大泉兼蔵は突きとばして、ピストルを持っている腕を押さえて、「大家さん助けてくれ」と叫ぶんです。熊沢光子は、大泉が改心し、その彼に同情して一緒に死んでやろうと思ったのがまたも裏切られたのかということ、びっくりしたり、カッとなったりで、後で目黒署に捕まった時に本当に情けなくて、ぼう然自失していたと告白しています。

騒ぎをききつけた大家さんは、どうも痴情のもつれでケンカしていると思ったらしく、警察にちょっと来てくれということで、巡査が来てみると、ピストルを構えた女がおり、縛られた男とくんずほぐれずやっているの、三人とも逮捕されてしまふんです。

\*

熊沢光子さんは逮捕されて、そのあと市ヶ谷の刑務所に送られますが、彼女の罪はたいしたことはないんです。ピストルを持っていたことと治安維持法違反で、少し刑に服すれば出てこられたと思うんですけど、彼女の中で何かガラガラと崩れたものがあつたのではないかと私は思うわけです。刑を務めてもう一度生き直すという気力がなくなってしまった。崩れてしまった一番の元のところはいったいなんだろうと考えると、やはり本当に党のため、革命運動のため、自分のできることはハウスキーパーだと思ってやったことが簡単に覆えられて、自分の存在そのものがすくくけがされてしまい、貢献すると思っていたことが、全く逆に党を売る犬としての行為を助けていた。特高の犬になり下がっていた男と肉体関係を結んでいた。そして自分が男と一緒に死のうという時に、誰も彼女を止めなかったこと、女としての自分の扱われ方に、二重に絶望したのではないかと思います。

そのことに関しては、佐多稲子さんが、『路のきわ』という短編小説の中で熊沢光子の名を出さず、ある人がこういう悲惨な最後をとげたんだと書いています。それは「一緒に暮らしていた間、相手がスパイであつたなどとは思ひ得なかつた。その心中の絶望の深さは彼女の自殺で計るしかない。が、彼女が治安維持法の下で、獄中につながれている意味とその活動の下で持った意想外な役割のおそろしい矛盾は、人生的に惨酷としか言ひようがない。しかもまた、それを惨酷と言う私にすら、おんな、と言う感じになり、条件的に、そしてなお主體的にも限界を併せ見るものが生じている。そう気づいて疎然となるのは、彼女を責めてではない。だからその先に哀れという感情になるのを、彼女のために抵抗もしながら、私は、やはりその哀れ、というおもしろい底深くひろがるのを否定できない」と、ただ女としてひくくって、哀れというふうに片づけてしまえないものを感じる。そういうものを感じつつ、なお一人の熊沢光子という、知らずに陥ってしまった人生の絶望みたいなものを考えるときに、その底の底でやっぱり哀れという感じになってしまう痛切な思いを佐多稲子さんは書いています。

それから岡山に住んでおられる、熊沢光子さんの先輩で、私にとっても先輩ですが、愛知県立第一高等女学

校、後に明和高校と名前を変えている学校の出身で、長瀬清子さんとい詩人が「鬼の妻」という文章の中で熊沢光子さんを悼んでいます。長瀬さんは、「彼女はいままでも最も純真で孤独な鬼の妻であった」ということを言っているんですが、彼女の二四歳の人生を考えたととき本当にたまらないものを私も感じます。また憤りも感じずにはおられません。

彼女は昭和十年の三月二十五日、ものすごく厳しい看視の中で、十五分くらいの時間的なすき間を縫って自死します。獄中の窓に小さな金網が張ってあって、その向こう側に鉄格子があるんですけど、その金網を破って日本手ぬぐいを格子に結びつけ、そこに自分の首を入れて自殺をしてしまいました。そこに至る彼女の気持ちを思うときに、やっぱりつらくてたまりません。

彼女が死んだのが、昭和十年ですから、すでに四十七年たっているわけですが、現在生きている私たちは、いろいろな所で、本当に女として、人間として、一人一人が生きて生きているのか。あなたの人生は本当に無残だった。二十四歳で自ら人生に絶望して首をくくらなければいけなかったけれども、いま私たちは、あなたのつらい生き方を乗り越えて、世の中を変えて、生き生きと生きていますよと、彼女の墓の前で報告したいけれども、残念ながら、そういうふうに言い切ることではない。今でもなお、昭和の初期の前衛党の中で行なわれていたと同じような構造が今の世の中にもあるのではないか。例えば、今の労働組合の中でも、女の人たちに期待されているものは、ハウスキーパーに期待されたものかとい変わっていないのではないだろうか。男たちの中に、男は外で働く、それを支えることで女は間接的に世の中に貢献する。そういう意識構造がまだまだ生き伸びているのではないか、と思います。また、いまだにそれを許している私たち。熊沢光子さんから四十七年もたっている私たち女の状態をやっぱり忘れてはいけないうじゃないかと思ひます。

女には女の働きがあるから、男と違った役割でいろいろな運動にかかわっていけばいいんじゃないか、なにも男と同じやり方でやることはないんだわ、こういう考え方は女にとってたいへん楽です。世の中にかかわるのに、男と同じようにあくせくしなくても、女はやさしさを失わないところで、別のやり方で世の中に貢献することができるといじゃないかという考え方が、今も根強くあります。こういう考え方は女にとって生きやすいけれど、はたしてそれでいいんでしょうか。熊沢光子さんの足跡を、私はまだ充分に掘りおこしていないけれ

ども、彼女の人生を思うときに、彼女のつまずきを、もう今の女性はしませんよ、今は違う、女も人間らしく生きている。なにも他から押しつけられることなく生きていますよ、と言いつつ切りたいけど、そうは言い切れない現状を私はたいへん残念に思います。

熊沢さんの遺族の方、お姉さんとか妹さん、たくさん妹さんがいらっしやるんですけど住所がわかってお電話をしても、やっぱり何も話していただけない。ただ一人だけ、熊沢さんのお兄さん、もう八十歳近い老植物学者なんですけど、一度だけ会っていただけました。その時に、「熊沢さんのお墓はどこですか」と尋ねると、はっきり教えてはいただけなかったんですが、まああの辺にというふうなことで、ふたことみこと教えていただいたのを頼りに、私はずいぶんお墓を探しまわりました。墓場ばかり歩いていると、ひどく奇妙な気持ちになって自分も生きているのか死んでいるのかわからないような気分で、気味が悪かったんですけど、やっと熊沢さんのお墓を探しあてました。それは熊沢光子という名前ではなく、弁護士をしていたお父さんの名前で、「熊沢増郎とその子孫ここに眠る」と書いてあり、下はコンクリートを打っただけで、変わった形の四角い台だけなんです。真ん中に黒いみかげ石でプレートがはめ込まれていて、「熊沢増郎とその子孫ここに眠る」と書かれてあるだけなんです。普通のお墓じゃなく。それを見ていると、熊沢一家が、非国民とかアカであるとかものすごく世の中の非難を浴び、そして妹さんたちも次々に縁談がこわれるというふうな、そういう世の中の石つぶてを一身に浴びたことに対するせめてもの、抵抗みたいなものを感じました。

私は、熊沢さんやと会えましたね、と心の中で言っただけですけど、もう安らかに眠ってください。日本の女たちは今はもう、みんな生き生きと人間らしく生きてますからと言えないことがとても残念でした。ただあなたの生き方を、同じ女として、痛みを分かつことで、あなたのようない女をつくりたくないという思いを、これからも女たちの生き方を考えるよすがにしますから、としか言えませんでした。

熊沢光子さんの小説はまだ第三回までしか書いておりません。またこの先どれだけ書けるかみたいへん心もとないのですが、これからの女たちのために、彼女の真剣な、かつ痛ましい二十四歳の生涯を書いてゆきたいと思っております。皆さんの前で書くんだと言いますと書かざるを得ませんので、皆さんの前でお誓いしたいと思います。(拍手)

(一九八二年七月三十一日八あごら十周年のつどいVの講演を要約)

# 伊藤野枝のこと

伊藤ルイ

佐世保と言いますと、私はどうしても原子力潜水艦エンタープライズ寄港（昭和四十三年一月）の情景を思い出します。

私はテレビで観てたんですけど、橋の所で大変な騒ぎがありました、それが福岡へそのまま波及してまいりました。そのころは福岡にまだ市内電車がありまして、私はちょっと用事があって乗りましたら、学生さんたちがとにかくすごい格好で乗っているのです。電車に乗りましてしばらくしますと、もう目が痛くて開けていられないんです。どうしてかしら、と思っていましたら、その学生さんたちの服に催涙彈の薬がついているんですね。佐世保で催涙彈をかけられてきて、福岡に帰ってからもまだ、電車の中でさえ私どもの目が痛むというひどさの量だったんです。そういうことを、佐世保に着いて思い出しました。

そうですね、何からお話しすればいいかと思っているんですけど、実は昨夕から大変な雨風で、十年前のことを思い出しております。

十年前の一九七二年九月十六日、私は東京におりまして、東京で大杉栄・伊藤野枝虐殺五十周年記念集会というのが渋谷の山手教会でありました。その日は中部地方に大変な台風が吹き荒れました日で、その余波で東京も雨風がひどかったのです。その雨風にもかかわらず、約五百人ぐらいの方々が教会の周りを取り巻いて列を作っておいでになりました。

そのことを思い出していたのです。実は、亡くなりました直後に大杉栄全集・伊藤野枝全集が刊行されまして、その野枝全集の扉に、野枝はこういう言葉を書いております。

吹けよ 荒れよ 嵐よ 嵐よ

それは生前に彼女が、色紙に書いておりました言葉なんです、何か、その嵐が今日もまた吹いている、そういう感じを大変もちました。

今、録音（八二年五月二十一日八あごら学習会／井手文字氏「主体的に生き、モノを言った女、伊藤野枝」をずっと聞いておりましたのですが、野枝という人は嵐と非常に縁が深いようで、生まれた時が、明治二十一年一月二十一日ですが、吹雪くような雪が降って、寒い寒い日だったそうです。野枝の母は伊藤ウメと言います。ウメは、その前に男児を産んでおりまして、三人目が野枝なんです、ウメの姑、つまり野枝の祖母に当たるサトという人は女の子がとっても好きで、男だったらいらんと言っていたそうです。

ウメのお産の日が近づいてくるころ、父親は日清戦争に行っておりまして。家にはおばあちゃんがいるだけで、産気づいてきたウメに、「男やったら、もういらんなあ」って話しかけるんだそうです。それで産婆さんも来ることなく生まれたんだそうです。

生まれた時、非常に大きな産ぶ声を上げたので、「また、男の児やなあ。もう、そうしところやあ」と言われ、強いて産婆さんへ行つて下さいとも言えず、ウメはそのまま寝ておったそうですけど、せっかく生まれたからと思つて、起き上がつてその赤ん坊を見たら女だったので、「おばあさん、女ですよ」と言つて産婆さん呼びにやつたり、お湯を沸かししたりした。それが野枝だった、とおばあさんから私は聞いています。

私は、野枝とか大杉という呼び方でしか言いません。許していただきたいと思っています。

野枝の話は、ウメというおばあちゃんから聞いておりますけど、なんせ私が一歳三か月の時に殺されてしまいましたものだから、私には全然実感が無いわけなのです。実感は無いのですけれども、生涯を通じて、野枝の娘、大杉栄の娘、と言われるわけなのです。親の実感が無いというのは変なもので、野枝はどういう人であらうかと時々考え、今も考えるのですけど、わからないですね。例えば、写真が一枚、たった一枚だけであれば、ああ、こういう顔をしていた人なんだと思ひ込みができると思うのですけれど、野枝の写真というのはわりにたくさんあるんです。いろいろな写真がありまして、それがいつも顔が違うんです。楚々

とした感じの写真もあれば、非常に強い感じの顔もありますし、なんだかおかみさんという感じの写真もありますし、そのころにしてはしゃれた、いわば舶来の洋服を着ているような写真もあります。全然、どうい  
う人なのかわからないわけです。

私、よく言うのですけど、「あの人を知っているよ」とか「会ったよ」とか言う時と「本を読んだよ」と  
言う時と、どういふふうに違うかといいますと、やっぱり、一番俗っぽく申しましたら、「知っているよ」  
というのは、自分がああいうことを言ったら、あの人は、ああいうふうにして笑うだろう、こういうことを  
言ったら、こういうふうになるだろう、という実感が伴うことなのでしょうけれど、そういう実感がともな  
わないわけなんです。見たことのない人というのは。

野枝というのは私にとって、やっぱりそういう感じなんです。いっぱい写真はありますけれども、あま  
りにもいろんな顔かたちの写真があつてわからないというか、そういう、見も知らない親というか。

そういう親ながら、野枝の子だ、野枝の子だ、ということ、ずうっと皆さんに可愛いがられたり、ある  
時はさげすまされたり、まあ、いろいろありながら成長するわけですけど、実は今から七、八年前になり  
ますかね、ある新聞の記者が見えまして、野枝の娘として野枝を書いてほしいという原稿依頼がありました。  
私は、「それは書けません」と申し上げましたんです。「どうしてですか」と言われたものですから、「な  
んせ母親と娘という関係がないものですから、娘として母を見るという目では全然書けないわけです」と、  
そういう話をしましたんですけど、「いくらなんとおっしゃっても、野枝さんの娘さんには間違いないので  
すから書いて下さい」と言われました。

実は私自身が、そのころ、いわば転機に立っていたと思っております。と申しますのは、『ルイズ——父  
に貰いし名は』をお読みくださった方はおわかりになると思うのですけど、平凡な女として、母親として、  
妻として暮らしていた私ですが、六〇年安保、あの前後から少しずつ、やっぱり自分もいつかは何かをやら  
なければならぬ時が来るのではないか、そういう気持ちいだんだん深まっていたのです。そういう依頼  
がありましたのは、七二年の渋谷の集会のずっと後でございましたけれど……。

私は、「野枝とは関係ないよ」というふうに友達には軽く言っていたのですが、親子の関係というのが非



常に屈折しているわけなんです。社会的に承認されている点では親子なんですけど、実感として無い。では、野枝をどう見るのか。やっぱり、私はそことところで、なんらかの選択を迫られるということになるわけなんです……。そことところで私が考えましたのは、いろんな物を読んだり聞いたりしていますうちに、そういう野枝のような殺され方をした人、刑死、獄死、そういうふうな人たちが世の中にはたくさんいて、私も含めてですが、私は祖母とか祖父、兄弟とか、そういう者たちの背負っている重みみたいなものを、これは私だけの問題ではないのだ、私自身ももっと普遍的な目でそれを見なければならぬ、と思うようになっていたんです。ですから、母・伊藤野枝ということにはしたくない、という思いが非常にあったんです。

じゃあ、どういうふうに考えるのか。やっぱりそれは、私のりっぱな先輩である、——私の生き方を教えてくれるりっぱな先輩であるというふうに規定することに思いが深まっていたわけなんです。

それで原稿を依頼された時に、母・野枝と書けないし言えないのは、私の生き方がかかっているのですかと申し上げて、一応お断りしたのですけれど、それでもなお、書いて下さいと言われて原稿を渡しましたのです。ところが出来上がった新聞記事を見ましたら、「私の母」「私の父」、私の母、母、というふうになっているのです。それで私は、早速全面掲載をしておして下さるようにと申し込みましたが、なかなか実現しませんでした。でも、私は、自分の生き方がかかっております、と何度も言いました。結局四年七か月後に、やっと最初の原稿が全面掲載の日の目を見ることになりました。

そういうふうには、母親・伊藤野枝ということには、私の中でなかなかきけないというか、それを拒絶しなければ私自身の生き方がきちんとならない思いがあったこともあります。

野枝が産みました子は七人おります。大正の年号が一番わかりやすいのですが、二、四、六、八、十、十一、十二、と七人です。一番上は大正二年生まれのまこと一さんという、辻潤との子どもで、絵など描いておりましたが、亡くなりました。この人は、皆さん、天才とおっしゃいますが、私も、非常な天才であつたらうと思うような人でした。その下が流二さんと言って横浜にいます。それから真子（魔子）姉で、これは亡くなりました。次がエマ。エマ・ゴールドマンに野枝が心服して最初にエマとつけましたのが、いま鶴沼におります。その下が下関にいますもう一人のエマ。エマが二人おりますので、「天津エマ」、「九州エマ」と呼ば

れております。

天津エマ、というのは天津で育ちました。下のは九州で育ちましたので九州エマと呼んでおります。それから私でございまして、その下にネストルという、野枝が殺されます一か月近く前に生まれた男の子がおりましたが、母親の初盆の日に亡くなりました。満一歳でございました。

そういうふうに子どもたちを置いて死んでいったわけです。私は、肉親であるということに実感が無いという事で拒否しながら生きてきたわけですが、これが肉親というものではなからうか、というふうに思われた一つの出来事がございます（少し声がつまる）。

それは、今から六年前になりますが、朝日新聞に、半世紀ぶりに出てきた大杉栄・伊藤野枝・橘宗一の死因鑑定書発見という記事が載りました（昭和五十一年八月二十六日掲載）。

私はそのころ、朝日新聞はとっておりませんでした。友人たちが記事を見まして、「これはルイさんには見せないほうがいいから見せまいね」って見せてくれなかったのですが、耳に入り、三日目ぐらいに、やっぱり見る、と言つて見ましたの。私は事件当時の新聞をずいぶん持っておりますが、新聞に出ている甘粕の供述によりますと、大杉たちの死は、椅子にかけているのを後ろから腕を掛けて椅子ごと引き倒して絞殺したということになっております。死というものを、そういうふうに簡単に死んでしまったと思いたかった、ということもあるんだろうと思うのです。そのほか、いろいろ言われておりました。練兵場で銃殺されたとか、三宅坂付近で殺されたとか、真相はわからなかったんです。

先ほど言いました七二年の集会の時に、知人の秋山清さんが司会をなさったんですが、秋山清さんはその時に、「僕たちは、まだ、大杉たちの死の真相すら知り得ていない」と言われたんです。その時も私は大変ショックを受けました。これはもう、ひょっとしたら東京で寝込むのではないかしらと思うくらい、やつぱりショックでした。

それから数年後に、その死因鑑定書というのが見つかったんです。それは田中さんという当時の軍医さんが、軍法会議に出すために書かれたもので、軍法会議に提出した後の写しの一通をご自分の奥様に預けておられたのです。大変りっぱな軍医さんであつたらしく、お友達の方が、自費出版する本の中で田中軍医の思

い出を書くため、奥さんを訪ねて行かれたそうです。そうしたら、奥さんから、「実は、主人から大変な物を預かっております。それをお見せしましょう」と言ってお出されたのが、その死因鑑定書なんです。それが一部新聞に出たのですが、鑑定書ですから医学用語で淡々と書かれております。今、ここにごさいますので、一部読んでみます。どこを読んでもすごいですね。

鑑定書は、縦ケイ紙で四十四ページ。「大杉栄 推定年齢三十九歳」「伊藤ノエ 推定年齢二十九歳」とあるが、橋宗一少年（七つ）は、「姓名不詳 男性児 推定年齢十歳」となっている。

「大正十二年九月二十日、第一師団軍法会議予審官陸軍法務官服部国造ハ陸軍憲兵大尉甘粕正彦殺人被告事件ニ付被害者右三名ノ死因ヲ鑑定スベキコトヲ東京市麹町区大手町一丁目一番地東京憲兵隊本部構内ニ於テ余ニ命ゼリ」の書き出しで、死体を埴町の東京第一衛戍病院第五番室に運び、同日午後三時半から二十一日午前十一時二十六分までかかって「剖検」した、としている。

「現場所見」によると、死体は三体とも東京憲兵隊本部構内東北隅彈藥庫北側の廃井戸の中にあり、全裸にして畳表で包み、麻ナワでしばってあった。

### 『鑑定書』要旨

#### 第一現場所見（略）

#### 第二剖検的死因鑑定（略）

#### 第三鑑定の総括

以上三屍ヲ總括的ニ觀察スレバ左ノ如シ

一、三屍共窒息死ノ状態ヲ呈シ 頸部臓器ノ損傷高度ナルヲ以テ 該部ノ絞圧ニ依ル窒息死タルコトハ明瞭ナリ

二、三屍共水中ニ於テ発見セラレ 又 皮膚ノ所見之ニ一致スルモ 肺及胃腸何レニ於テモ 溺死ニ非ズ 死後屍ヲ井戸ニ投ジタルコト確實ナリ

三、男女二屍ニハ、首ニ麻縄ヲ堅ク纏絡シ、一見之ヲ以テ絞殺セシ如クナルモ、該部皮膚ニハ生前受傷ノ確徴無ク（略）此ノ三屍ハ共ニ他ノ方法ニ依リ、喉頭部ヲ鈍体（拳或ハ前膊ノ如キ）ヲ以テ絞圧シ窒息セシメタルモノト思考ス

四、男女二屍ノ前胸部ノ受傷ハ、頗ル強大ナル外力（蹴ル、踏ミツケル等）ニ依ルモノナルコトハ明白ナルモ（略）此ハ絶命前ノ受傷ニシテ、又、死ノ直接原因ニ非ズ、然レ共、死ヲ容易ナラシメタルハ確實ナリ

五、三屍共（略）食後概ネ二時間以内ニ殺害セラレタルモノト認ム、尚、三屍共、腐敗現象ノ程度ニ依リ、死後約五日ヲ経過セシモノト推定ス

六、男女二屍ノ胸部ノ外傷ハ甚ダ高度ナルニ係ラズ、皮膚ニハ之ニ相当セル損傷無キヲ以テ、衣服ノ上ヨリ加害シ、致死後裸体ト為シ、畳表ニテ梱包ノ上井戸ニ投ゼシモノト推定ス

右記ノ理由ニ依リ、三屍ノ直接死因並ニ手段ハ全ク同様ニシテ、左ノ如ク鑑定ス

一、死因、窒息

一、手段、前頸部ヲ鈍体ヲ以テ絞圧セリ

此鑑定ハ大正十二年九月二十日着手、同月二十六日結了

大正十二年九月二十六日

（昭和五十一年八月二十六日付朝日新聞より抜粋）

こういうふうにして淡々と書いてあるわけなんです、後のほうに、どういうふうにしてそういう結果になったか、ということが書いてあります。やはり、軍靴が何かで倒して胸を踏むとか蹴るとか、それは死の前にやられた、それが因で死にはならなかったであらうけれど、死につながったであらうということが書いてあります。そういうことが、これだけの小冊子に三人分書いてあります。

これを読みました時、やっぱりそのショックと言いますか、そういうもので初めて、ああやっぱり肉親なのか（涙声）というふうに実感しました。その時に私が思いましたのは、祖母がよく、こういうことを言って

いたことです。「あなたの母さんはなあ、わたしやあ畳の上では死なれんとやから、って」。私は、その言葉をただ淡々と聞いていたのですけれども、この鑑定書を見ました時に、畳の上では死なれんと言う死が、こういうものであったか、こういう死の覚悟あつてのことであつたか……。

私はもともと大杉が大好きで、大杉の書いたものが本当に好きなんです。よく人に聞かれると、私ね、野枝のはなんとなく、あの文章とか、あんまり好きではないんだけど、大杉の文章は好きでね、とよく言ってます。松下さんにも「あんたは、大杉が好きで野枝に嫉妬しとるんじゃないやろう」って言われたんですけど、そういうふう言ってたんです。やっぱり死因鑑定書を見ました時に、おばあさんが言ってた言葉が、同時に私の頭の中によみがえり、そこで初めて本当にすごい伊藤野枝という女性と出会ったんです。

野枝がいろいろ書いておりますけれど、私が非常に心慰められるところがある一つあります。それは、全集の中にあるのですが、「愛の夫婦生活」というので、「私共を結びつけるもの」という副題がついています。その中で、「大杉と自分はいろいろ非難を受けながら、こうして一緒に暮らしてきて、今こういう生活をしている。時にはお金があると人から貴族趣味だと言われるような生活をしているんだけど、自分と大杉の生活というのは、いつ、どこで切れるものかわからない。今、一緒にいても、一歩家を出たとたんに、もう、どちらかが殺されることになるかもしれないし、いつどこへもって行かれるかもしれない。そういう生活である。だからこそ今を、一緒にいる時を大切に暮らしている。本当に、それはいつ絶えるかわからない生活であるかもしれないけど、一番望んでいるのは、二人が一緒に死ぬることである」というふう書いてあるのです。私は夫と離別いたしましたけれど、野枝はそういう点で非常に幸せであつたと心暖まるものがあります。（拍手、拍手、拍手）

### 「講演を終わって」

Q 『ルイズ——父に貰いし名は』を出版したいきさつをうかがいたいのですが。

A 今、松下竜一さんの本が出ており、そのイメージがどうも皆さんの中にあって、よくいろいろ言われる

んですけど、私はこういうふうに言っています。「あれは、松下ルイズです。ここにありますのは伊藤ルイズから」と。

あれは松下さんの非常に優しい眼に支えられて、あの作品に出て来る一人一人が生まれたと思うのです。私のことももちろんそうですし、本当にあれは松下さんの世界だなと思っています。表面はああいうふうなルイズも松下さんの眼によって優しく満ちて書かれておりますけど、私をも含めてドロドロは非常にあります。けれども松下さんはそのドロドロをも含めて、やさしく書いて下さいました。ノンフィクション賞に選ばれましたが、本当にあれはフィクションの部分ってほとんど無いのです。私が話しましたこと、周りの人が話しましたこと、私の手紙、日記、ノート、そういうものから松下さんが取り出されて、それをあのような凄く構力でもって小説にされたのです。私に話がありました時には、私なんか小説になるとは思わなかったんですね。平凡に生きてきましたので、小説にはなりません、と言ったんですけど、それを書きたいんや。そういう普通の女性を小説に書きたいんだと言われました。私が祖母のことを人に話しますと、皆さんがおっしゃるんですね、「書いて残しておいて下さい」って。書きかけてみますけど、なかなか書けなくて弱っておりますので、松下さんからお話がありました時、おばあちゃんのことを書いて下さいますか、と言いましたら、書くよ、と言われましたので、それじゃあお願いします、というわけで書いてもらったのです。

Q △戦争への道を許さない者たちわれわれVという市民運動をなさっていると伺いましたが、それはどういう運動のですか。

A ずいぶん長ったらしい名前ですけど、いろんな人が集まったものですから、こういう名前になったのです。と言いますのは、昨年、だんだん情況がひどくなってきて、やっぱりこれは、何かを考えなければいけない、何かをしなければならぬのでは、と思いはじめ、四月ごろ、福岡でも何かをやらんといかんねと話をしておりましたところが、いろんなところから声がかかり、集まってみしたら、それぞれ、過去に何かをやっていた人たちなですね。例えば平連の運動をやった人とか、原発の反対の人とか。私どもは「暮らしの学級」という小さな学習会を、十七、八年前から持っております、そこで核廃棄物の海洋投棄

反対の運動をやったり、社会教育法の改正案が出そうになりました時に、「暮らしの学級」はおぼちゃんたちですけど四、五人で国会に資料を送って、文部大臣を引き出して、それを止めたとか。そういうふうな運動の経験のある人たちがいろいろいましてね、じゃあまず花火を上げよう、ということ、八月九日に反戦集会を持ったのです。その時に名前をどうしようという話になり、何々会議とか、なんとかする会とかは、もういいねえって言ってました。私は海洋投棄の時も、反対する者たちとか、自然を愛する者たちとか、そういう形でビラをまいておりました。私どもの向こう側でやっていた人たちは男性が多かったのですが、これは、なんとかする我われという形でやっていた人たちが集まったものですから、じゃあ戦争への道を許さないということを目的にして会を持とうということで、△戦争への道を許さない者たちわれわれ△という長ったらしい名前になったのです。今は、△者われ△とか呼んでおります。

それはどういうことを考えていたかと言いますと、集会とかデモとかでは、各自が反靖国をやっております。それから中谷康子さんという方が自衛官の護国神社合祀反対運動をやっていたりしたものですから、呼び掛け人を作って、何人かで会をやるうという事になって、四十数人が呼び掛け人になり、百名近い人が集まって集会をもちました。デモとか集会とかいうのは、やればなんとかやれるんです。ところが戦争への道を許さないという観点に立って、それを運動化するという事になると、戦争への道につながるものを一つ一つ潰していかなければいけないわけです。その一つが箕面忠魂碑訴訟<sup>みお</sup>だったと私どもは考えています。

箕面原告の古川佳子さんという人を招いてお話を聞きましたら、彼女たちは訴訟だけでなく、例えば慰霊祭があると行くとか、いろんな方面へ出かけて行ってる。大阪城の付近に教育の塔というのがあって、それは日教組が管理しているのですけど、その中に教育勅語の中の文章が書かれている。しかも、毎年十月三十日に慰霊祭みたいなことをやるんですね。「なんで十月三十日に」と聞くと、「毎年やっていますから」という答えだったそうです。私どもにとつて、「十月三十日」は非常にカチンとくるのです。といいますのは、教育勅語の出された日なのです。そういうものを日教組が主催してやるというのはおかしい。そういうふうにして、細かく細かく具体的なものから潰してゆく運動を彼女たちはしているわけなんです。私もそういう方向でいかないといけないと思いました。福岡にも実は忠魂碑があるんです。この前テレビ撮りで私の母校で

ある今宿小学校へ行きまして、そこにもありました。昔は各小学校にあったんです。それが、確か一九四六年（昭和二十一年）、内務文部大臣通達によって、小学校の校庭から追放されていたはずで、それがまたまた建っている。いづころ建ったかと見ましたら、昭和二十七年です。と言いますのは軍人恩給の復活という、そういうチャンス提えて次々にそういうものが建っていったのです。福岡市内にそんなものがどのくらいあるか、それを調べてまわろうと話しておりました矢先、実は大変なものが出来ていた。福岡県大東亜戦争戦没者慰霊碑というものが建っていたのです。その裏に非常にひどい碑文が書いてありまして、戦争をそのまま賛美している。これが国有地（福岡市中央区谷公園内旧陸軍墓地）に建っておるのです。国有地にそういうものを建てるのはけしからんという意味でも、皆さん方に反対をしていただきたいと私は考えているのですが、ちょっと碑文を読んでみます。

昭和二十年八月十五日 「万世のため太平を開かん」との詔により 万斛<sup>ばんかく</sup>の涙をのみ終戦を迎えたその後三十六年營々として祖国再建に努力 いまや世界の大国となった 惟うに今次の大戦は自存自衛のため日本国の存亡をかけ 虐げられた民族の解放と万邦共栄を願っての聖なる戦いであった 遂には敗戦の悲境に沈倫せしも次々と亜細亜の民は独立と自由の栄光を勝ち得たことは 世界史上會つてなき歴史の莊嚴なる事実である

この間 わが郷土部隊は各地の激戦に参加し 言語に絶する凄惨奇烈なる戦いを展開 軍の華とうたわれた かくして本県出身の英霊八万八千六百七拾六に及ぶ しかるに碑の未だ無きを嘆く 同じ戦場に生死をともし万死に一生を得た戦友並びに遺族とともに先覚有志のこころざしを承け 多くの人々の赤心浄財を募り 本日「大東亜戦争戦没者の碑」建立となる

改めて英霊の崇高なる精神と偉大なる業績に対し 限りなき敬慕と感謝のおもいをとこしえに伝えま  
つる

み霊よ とわに安らかなれ



こういう碑文が入っている。それで福岡市も最初は、この碑文は戦争肯定につながるもので、国有地に建ててもらっては困ると言っていたのです。市が国有地を管理しているものですから市に許可を申請しましたが、その時点では、この碑文は入っていなかった。ところが、建った物には碑文が入っていたのですね。

いま、碑文の撤去をするように、市に抗議を何回もやっているのですけども、初めは市も、許可条件違反だとか、戦争肯定につながると言って、わりといい姿勢を示している感じではあったんですが、除幕式に助役が市長代理で出席したりしているもので、これは変だと言っていたのです。市の方は「このままではすません」と言い、私も「しっかりやって下さい」なんて、抗議しながら激励したりして今までやっていたのですが、八月十二日突然、釈明文を碑の下の方に付けるということで市が許可をしてしまったのです。

〔釈明文〕 この碑は今次大戦において尊い生命を捧げられた人々の当時の心境を想い、敬弔の意を現わすとともに、再び悲惨な戦争を繰り返すことのないよう恒久の平和を祈念して建立したものである。こういう釈明文で碑文が消えるとは思われません。何度も何度も抗議に行くのですが、ラチがあきませんので、今、九月の市議会に向けて撤去の請願をするように署名を集めております。

国有地のことです。全国の方から抗議の声を出していただけたらと思っています。私も戦争への道を許さない者たちわれわればかりではなくて、カトリック・キリスト者の会の方、仏教者の方など、いろんな方が一緒にやっています。

今、時期としては、非常に切迫していると思います。身の周りにそういうふうなことが起こってきた時に、手をこまねいて見ていないで、一つ一つ、小さいことでも潰してゆくという気構えがなければ、戦争への道を私たち自身が歩んでしまうのではないか。一発が始まれば、もう戦争に反対することができなくなる。前の戦争の体験から思いますと、本当に戦争が始まってしまえば、戦争に反対する者は国賊であると言われ、それはひどい目にあうのです。今は言えます。今はできます。今のうちに、戦争へつながる芽をどこかで摘みとってゆくことをみんなでする。今日やれる時にやらないといけないと思っています。

本当に徴々たる力ですけども、頑張ってください。

(拍手、拍手、拍手)

(一九八二年八月二十七日八佐世保『あごら』を読む会V主催の学習会から。文責 内田佳崇)

# 平和を支える女たち――

どの町にも女たちがいる。やさしくて、したたかな。

## 共同保育は反戦への道

### カンナ 共同 保育園

陽当たりが良いとは言えない狭い庭。初めて来た人はその足でUターンして帰りたいくなるほど古い建物。

昼休みにカンナを訪れると、子どもたちはお昼寝中で、彼女たちは共同購入の集計やら献立表やお便りの原稿書きに忙しい。

カンナで共同保育園  
七年前、働いている母親たちから切実な声があがった。

仙台市では満六か月以上の子どものしか認可保育所にはいけない。「産休明けから無認可の保育園に預けたけれど、はっきり言ってひどいもんだった。なんとか子どもを安心して預けるところがほしい」

一年はどくすぶり続けた後、まずは自分たちでやるしかないんじゃないかと走り回っ

た。自分の子どもが小学校へはいった父母たちからも、自分たちも大変だったから、と五千円、一万円のカンナをしてくれて、五十万円ほど集まった。社会主義婦人会議の前身である婦人問題研究会にいた田口さんと渡辺さん（ナベちゃん）、塩釜からわざわざ引っ越してきた加藤さんに、大学を卒業して保母の資格をとった浜田さんが加わってスタートした。

### 対市会見て怒り爆発

一年後、保育行政に関する公開質問状を市に提出、対市会見が実現した。

「産休明け保育は、危険が伴うからしない。おかあさんが休みをとって子どもをみればよい」と言う行政側の姿勢に怒りを燃やし、父母といっしょになって署名運動に取り組んだ。けれど、対市会見・署名運動・請願をやっ

てみて、これはちょっと手ごわいぞ、手が込んでるぞ、と思い始めてきた。

### 横に手をつないで

停滞していた家庭保育室連絡協議会に再び血を通わせ積極的に連絡をとることにした。

せつけんを広める会、共同購入会、大槻さんを支える会、戦争への道を許さない女たちの仙台の会……、さまざまな会に交代で出席、父母にもこれまで社会活動への参加を呼びかけてきたが、親同士ももっとカンナで出会ってほしい。よその子どもも見つめてほしい。カンナが保育行政の中で、どういう位置にあるのかということ、いっしょにとらえ返していきたい。世の中の動きに目を向けた。

延長保育問題が起きた時も方々呼びかけて会を開き、様々な立場から意見を出し合った。子どもには延長は必ずしもよいとは言えないが、現実には長時間労働を余儀なくされ、二重保育している親にしてみれば、三十分でも延長してほしいという思いは切実だ。労働強化につながるからと反対している保母。一見、父母と保母とが対立しているかに見えるこの

問題も、行政の姿勢に深い原因があるのは明らかだ。産休明け保育にしろ延長保育にしろ根は同じ。子どもは本来親がみるべきところを「保育に欠ける」「子を保育所で預かってやっている」という行政の姿勢がベビーホテル問題を生み出した。予算は出さない、保母の増員はしない、設備も整えない、の、ないない尽くしの中で、時間延長だけでは、認可保育所のベビーホテル化となる。家庭のことは家庭で、という「家庭基盤充実対策そのもの、軍事予算確保のための福祉予算の縮小、受益者負担の拡大とつながる。」「保育に欠ける」子をサービスで預かるのだから事故さえなければよい、という図式の管理保育に向かっていることに強い危惧を感じる。子どもを、管理するモノとしかみでない行政の姿勢に大きな怒りと隔りを感じる。

### 管理保育こそ戦争への道

私たちは女が子どもを産んでも安心して働け続けられるようにと、この保育園を作った。子どもたちが豊かに生きる場にと、試行錯誤をくり返してきた。当初の迷惑をはるか越えるほど、子どもたちはのびのびと育っている。一歳のよちよち歩きの子が六か月の赤ちゃんが泣くと「よしよし」というよう

にあやしに行く。食事の時、顔を見合わせて笑いながら、手を触れ合いながら、楽しそうに食べている。友達がジャングルジムに登っていく、よしワタシだって、と挑戦する。家庭で、狭い部屋の中、おかあさんとだけべったり暮らしている赤ちゃんのほうが「保育に欠ける」「子ではないのかと思えてくる。」「子どもにとつて」が欠けた管理保育こそ、戦争への道ではないか。私たちはますますしつかり保育をして、女が働くというあたりまえの権利、子どもたちが生き生きとした毎日の中で育つ場を支えようと思う。

『にんげんをかえせ』を上映  
今までの思いの自然な成り行きで、『にんげんをかえせ』の上映会をカンナで催した。会にはふだん子どもを預けている父母たち、すでに卒園した子どもと親「カンナを支える会」の人々など、さまざまな場で働く人々が集まった。映画が終わって一瞬の沈黙の後、ある教師から意見が出された。「原爆を落とされた、という被害者意識でなく、なぜそうなったのか、中国や朝鮮への差別や虐殺、人体実験など、ナチにも劣らぬ侵略戦争の結果だということを忘れてはならない」「はっきり」ともの言えない事なかれ主義の教師が多

い。忙しくて本質を見る目が育ちにくい」集まった人々の中から、「日頃切れ切れに感じていても、話し合い確かめる場がない、ぜひ続けていきたい」という声が出、近所の人にも呼びかけて続けていくことにした。私たちの命と暮らしを一挙に奪い去る戦争。それが引き起こされる構造を知らなければ、と次には『侵略』を観ることにした。

### \*

職住分離の核家族化、転動の増加などで、一大家族ごとにますます分断されている現状。私自身夫の転動で仙台にやってきた。自分の家族しか見えない、考えない、分断された状況こそが戦争への近道だと思う。カンナで毎朝、力強く働いている彼女たちとともに小さい仲間と出会う。この子たちがおとなになって、健やかな子どもを産んで……と願わずにいられぬ。私たちが、私が、拠点になって少しづつやっていくしかない。最近、狭い空地が広い園庭に変わった。みんなはしゃいでいる。父親たちが雑草を抜き、納屋を移し、砂場やブランコを作った。男たちの楽しそうな笑い声が秋空に響き渡った。日常の中の平等と平和が実現するまで小さな試行錯誤を重ねる。

(あこら仙台 山内満貴子)

## 母の歴史を綴るなかで「戦争」を見つけた

新潟・戦争への道を許さない女たちの会 倉元正子さん

戦争に反対する集会やグループは、ここ新潟でも草の根的な広がりをみせている。

その中で、去年は中島通子さん、今年は斎藤千代さんを「討論を深める人」として迎えた集会へたち切ろう戦争への道<sup>ノ</sup>は、女だけの手による初めての試み。文字どおり手づくりの運動であった。

「かつて女たちは本質的に戦争に加担した」との斎藤さんの問題提起にギクッとし、現在の私たちも、知らぬまに戦争への道に手を貸しているのではないだろうか、というおもいに貫かれたつどいであった。

このつどいの呼びかけ人、倉元正子さん<sup>い</sup>は、公民館の女性史サークルに所属する中で、「女の自立」や「戦争」に目をむけるようになったという、平均的な主婦。その動機などを話していただいた。

——呼びかけ人に加わった動機は何ですか。  
女性史クラブで、自分の母たちの生活を書

いて『竈のうた』として自費出版しました。十五編をまとめてみて、あらためてあの戦争が、母たちの生活を大きく変えてしまったことに気がつきました。

その結果、戦争に目をむけるようになり、女性史クラブとしても家族制度や戦争を柱に立てて、学習をつづけてきました。ちょうどそんな時期にこの会へのさそいを受けました。私の今までの生活の中には、運動的なものは全然ありませんでした。『竈のうた』の出版をきっかけにして、学習から一歩動いて外に働きかける体験をしました。だから、あれを出さなかつたら、一緒に反戦のつどいと呼ばれるということもなかったと思います。

——つどいを呼びかけてからはどうでしたか。  
『竈のうた』の戦争体験をみる中で、自分の中にもある戦争体験をゆりうごかされました。

私には、「戦争はいやだ」というときの原

点には空襲の体験があります。

六歳のときに受けた長岡空襲で、焼い弾のもえる熱さに加えて、貯蔵してあった食料や燃料のカッカともえる炎の熱さ、じやがいものやける異様なにおいなど、膚で感じた体験が戦争と結びつけて考えられるようになりました。人や建物がたくさんやけたというような、後で聞かされたものは思い出せないのですが、感覚的に感じたものは忘れないものです。

今までは、どうしてあんな戦争をしたのかと責める立場にいましたが、自分の齢が、こんどは責められる年齢になり、どうして同じあやまりを繰り返かえすのかと、子どもにいわれないようにしなければと責任を感じています。

——女性史の学習も、現在の倉元さんの土台になっていますね。

女性史を学習して、ものも言えなかつた多くの女性たち、選挙権を得るためにいかに苦勞し、努力したか。女性が一人前にみられない時代、だまって息子を戦場に送り出してきたくやしい時代をみてきて、そういう体験をしたくない。得た権利をキチッと行使し、主張していく大切さが、一視点として自分の中



に蓄積されてきたように思います。

——ついでの中でも、戦争への道とからめて、女がものを言うこと、くらしのみなおしということが話しあわれましたね。

これにかかわって改めて六〇年安保のことを考えました。あの時は、私は傍観者でいましたが、今になって、日米の軍事協力など、これがないへん大きな意味をもつことを知り、反対することの大切さをやっと知りました。

今年は割りバシの話が出ましたが、私たちがつかい捨てている割りバシが、東南アジアの山を丸はだかにしていることを知ってから、つかわなくなりました。薬づけのパナを買わないなど、小さなことでも目を向けていくようになりました。

また、戦争と経済の深い結びつきについてハッキリみえてきました。東南アジアへの

進出や貿易なども、戦争と結びつけて考えられるようになりました。

つきつめて考えることをしなかった今までと比べると、この会に参加して私の中には大きな変化があったと思います。

——まわりの主婦たちの反応はどうでしたか。

チラシをわたしたり、話をしますと「戦争はいやだ」と一様に言うのですが、日曜日の午後をさいて参加するという人は、私のまわりにはいません。気持ちとしてはわかるけど、戦争反対ということばを口にさせないという人もいました。井戸端会議にこの話を出しても、すんなり話題を変えられます。

こういう主婦が多い中で、ものも言えない時代になったら、また母たちと同じ状況になるのではないだろうかと恐ろしくなります。

——たしかに、誰にでも自由に話ができるという状況ではないですね。

映画『侵略』を地域の人に呼びかけてやりたいと思ひまして、個人の自宅を借りて、『にんげんをかえせ』とあわせてやりました。あまり急激な変化をもったアピールをするとうきうがってしまいますので、配慮しながらやっています。

——外に出ることに、家族の抵抗はありませんで

したか。

『寵のうた』を出すときに、家族へのしわ寄せがでてきましたので、「自分としてはどうしてもこれをやりたい、やらなければいけないのだ」と話をして認めてもらいました。この会に出るようになってから、はじめて夜も出るようになったのですが、この時にもキチンと自分の意志を話して、認めてもらいましたので、あまり抵抗はありませんでした。本人の姿勢がハッキリして、認めざるを得ないということだったと思います。

——これからの見通しをお聞かせください。

この会のなかまと一緒にやっていきたいという気持ちがあります。気楽にもの言えるいまのようなやり方でいけば、毎年、何人か新しく自分の表現の場をもたない女たちが、足をはこんでくれるようになると思うのです。

自分と同じような主婦をみていますと、戦争はいやだという意識が具体的な表現や、行動と結びついていません。主婦といわれることに抵抗もありますが、主婦の中でかわりつづけ、ごく普通の女として戦争はいやだ、平和を、と言いつづけていきたいと思っています。

(新潟 あごら会員 蓮沼ミヨ子)

# 日常生活のふれ合いを軸に

『侵略』を自主上映した

秋山 朝子さん  
平野 マリ子さん  
松下 早苗さん

—みなさんは十月十三日、浦和市立コミュニティ・センターで『語られなかった戦争——侵略』を上映されたわけですが、まず三人の出会いからお話いただけますか。

松下 平野さんとは、子どもが幼稚園に入る

ちょっと前に知り合い、それ以来かなり気の合う一人としてつき合っています。この春ぐらいから、子どもから手が離れた母親たち十二、三人で、何でもいから勉強しようという

ことで、読書会を始めています。秋山さんは途中からの参加なの。以前から知り合



いではあったけど、お互いに警戒心があつて(笑)。それが子ども同士が小学校の同じクラスということで、当時起こった\*大谷場小学校ダスト問題で結びついて、「じゃ来てみたら」ということでつき

秋山 以前から顔は知っていたけど、ダスト問題で、「こりや言わなきゃこわい、じゃ言おう」、//セーノ//ということで。話してみると話が通じるから、深いつき合いに発展していったわけ。

平野 私と松下さんとは思想的なところまで話していたけど、秋山さんとはなかったから、そういう意味で、ダスト問題はお互いの考えがはつきり出る場だったわね。

—『侵略』上映のいきさつなどを。

平野 私は十年来、教科書問題に興味をもっていたんですが、この夏あたりの新聞の動きを追っていくうちにちょっと変なものを感

じました。で、九月十日の「教科書問題を考える会」で、この映画を三人で見に行ったのがキッカケなのね。

松下 そのとき、中山重夫さん(日中友好協会江戸川支部長)がもってきた『侵略』を上映し、中山さんの講演を聞いた。夜のせいも

あり、十人ぐらゐの出席だったので、もっとたくさんの方が見るべき映画だなということ

を話しながら帰ってきたのね。それからしばらくしたら、秋山さんが「やろうじゃないか」と言い出した。

秋山「やりなさいよ」と言ったんですよ。

『にんげんをかえせ』とか『予言』などは被害者の側から戦争をとらえていて、日本人が何をしたかということは、ほとんどなかったのね。ところが『侵略』



は、加害者の側からとらえているので、興味をもった。主義・主張関係なしに、見てほしいと思ったのね。

—初めての上映会というのですが、準備はいかがでしたか。

松下 九月十五、六日ごろに上映の話がま

まって十月十三日上映だから、一か月の準備期間だったけど、とても簡単だったのね。当日は読書会のメンバーが協力してくれたし。

秋山 松下さんのおつれあいとか、おじいちゃんなども協力してくれたし、パンフレットは平野さんのおつれあいが刷ってくれた。平野 かつてそういう企画をした側にいた人

間だった、ということも、バックアップしてくれただきな要因ね。

松下 準備の段階で私たちが一番努力したのは、『侵略』の映画と聞くと、中身も知らないで、パッとイデオロギー的に抵抗を示す傾向があるので、そうじゃないというふうに広げていくということだったわね。

読書会のメンバーには、ただ本が好き、という人もいるので、そういう人にも来てもらいたいという気持ちで、ただビラをまくんじやなくて、時間をかけて説明をしたのね。

——今年に入ってから、反核三千万人署名にみられるように、反核の機運が一般の人たちにも浸透しているということも、上映成功の要因では。

平野 それには少し批判的な部分もあるの。あまり安易にブームに乗りすぎて、署名の拒否が大変だというふんいきがあったし、ああいう一つの大きな波に



もっていかれて、深く考えないで署名しているのかな？という気持ちには、私の中にありましたね。

松下 反原発の署名なんかも、反核だから反原発というふうに、よく考えずに署名する



「波紋」(右)と  
82.10.10朝日新聞埼玉版

人も中にはいるわけね。署名を契機に、たとえば、今度の選挙のときに「ちょっと待てよ」と考えるくらいに変わってもらわなきゃ意味がないと思うのね。お義理の署名というのは、逆の側の署名も書いてやうわけだから。

——上映後、反響はいかがでしたか。

松下 二十人ちょっとくれば、ペイしちゃうくらいしかお金がかかっていなかったから、そのくらいくれば、という感じだったけど、十月十日付の朝日新聞(埼玉版)に書かれたこともあって九十人も集まった。

秋山 読書会のメンバーなどの口コミで来た人が五十人と多かったのね。あとの四十人が新聞を見てきたんだろうと思うの。

平野 口コミの人が多かったのは、私たちの

生活圏の中で、「あの人ならば」というように、私たちのことを知ってくれる人をしつかりつかもうということがあったからなのね。松下 新聞を読んでくれた人の中には、川越とか、志木とか、結構遠くから来た人が何人かいるのね。

平野 前売り券は出さなかった。当日券五百円の入場料のうち、終わってから後払い金として出口で二百円ずつ返したの。

——『侵略』を上映することによって、自分たちの姿勢を示すということになったわけだけれど、その辺について。

松下 主婦って、子どもの話ぐらいいかしな面がありがちだけど、そうじゃないところを考えている部分もありますよって、これまでつき合いながらそういう話をしなかった人に、ちょっと告白したみたいな感じもしないではないの。そうすることによって、日頃つき合っている人たちを、もうちょっとこちら側にひっぱってきたということが強かった。秋山 私は上映を「やろうか」、「あ、やろうよ」という感じだったわ。自分が主婦だということに、あまり抵抗はなかった。結果的に、上映しても、世間の批判の声は直接は入ってこなかったけど。

平野 私はもろにひつかぶって来たほうね。PTAの広報の委員長をやっていたために、陰では、役員の立場上、上映すべきではなかった、と非難されているんです。面と向かって言うてくるのを待っているのですが、幸か不幸か言うてこないわけなんです。

ダスト問題が起こってから、PTAの「体制側」のやり方がはつきり見えてきたのね。それに歯向かうには一人だけボンと出てはダメ。やはりみんなが支えてくれる場をもたなければ、ちっとも声なんか出ていかないといふことがよくわかりましたね。私たちが考えている以上に受けとるほうは受けとったみたいだから、これからが大変ですね。

——『侵略』上映を今後どのようにつなげていくお考えですか。

秋山 ダスト問題でこちらの立場がはつきり出せ、すくく助かった面もあると思うんです。つまりダスト問題というのは、ただ小学校の校庭の土を入れ換えるといった問題だけじゃなく、身近に起きた恐ろしい出来事ということなんです。反対する者は何が何でも押しつぶすといった、国会の場で行なわれていることが、私たちの身近な場でも起こりうるということが急にわかったんです。この問題は、

言う言わないにしろ、学校側のやり方に不信感をもった父母が多かったし、今後はできればその辺の人も開拓しようと思っています。

松下 いい反響だったので、逆に力を得たといふことがあるわね。初めからわかってくれる人に話したほうがラクだけど、周りのタダの人に話していくのはシンドイ。でも、それをやっていると思うの。

平野 運動として「反戦やります」って目新しい企画をぶつけていくのが一番簡単なんだけど、「まき込む」という形を忘れると、運動としてつながっていかないだろうな、と思いますね。

松下 それには「まき込める」ような土壌を日頃から作っていかないと、浮き上がっちゃうのね。言いたいことだけを言って、わかんなくないよ、というのは簡単だけど。

秋山 これまでの人間的なつながりの中でやれたわけで、大成功だったから、これからがっらくなるわね。やってしまった責任もあるし、『波紋』(通信紙)を出した責任もある。年に何回かボンと企画を立ててやる形じゃないにしても、対外的にやり出したからにはあとには退けないと思っているの。そのためには、もっとこれまで以上に慎重でなければ

ならないし、物も考えていかねば。自分自身はもっと貯金を蓄え、らせん階段を登るように、ゆるやかながらでも大きくなっていきたいと思っています。

平野 この『波紋』が、埼玉県内の人たちに協力を求めたいときに、連絡をとり合ったり、情報交換したりする「場」みたいなものになればいいな、と思いますね。

これから、行動するならする、しないならしないで、一つ一つキチンと考えてやっていきたいと思えますね。私たちの生活の場で。

\*

「日頃考えていることが『侵略』で実を結んだにすぎない。映画会は読書会の延長」と言い切る三人に気負いはまったくない。自分たちの生活の場で反戦が話され、根づいていくことの大切さを学んだ。右旋回を食い止めるには、それが一番の早道なのだと。秋山さん昭和二年、平野さん二〇年、松下さん二五年生まれ。共に「団塊の世代」である。

\*校庭からまき上がる防じん対策のため、浦和市立の小中学校の校庭をダスト舗装(石灰石を砕いて敷きつめ、ニガリで固める)をしようとする市と学校側の動きにたいし、子どもと父兄が反対の声をあげた。

(あこら浦和 山中マツ江、大沢統子)



## 優生保護法「改正」は改憲への布石

戦争への道を許さない女たちの埼玉集会

酒本 聖子さん  
沼田 朋子さん

——八〇年暮れ、十二月七日に戦争への道を許さない女たちの集会在山手教会で成功をおさめて以来、全国津々浦々に反戦集会が飛び火した形になりましたが、埼玉もその一つですね。

東京集会の呼びかけ人に浦和市議の小沢遼子さんが入っていたということもあり、その集会上に埼玉の女たちで行こうじゃないか、というのがそもそのキッカケね。その年の春、埼玉という地域で新しい市民運動をめざそうと、ニューウエイヴ80運動が生まれ、そこに集まってきた女たちにピラなどをわたし呼びかけ、五十人ぐらいい行ったのね。デモ指揮、レボ、シュプレヒコールなどは初めての経験だったけど、こういうデモができるということがわかったから、自分たちの住んでいる浦和の街に一つ作ろうということ。名称は、戦争への道を許さない女たちの埼玉集会(通称女集会)Vと名のり、ニューウエイヴ80運動に集まった女たちや、八あごら浦

和V、△婦民大宮支部Vの有志、△小沢遼子を支持する百人の会Vの女たちが集まった。

——最初の集会とデモは、翌八一年四月二十九日松井やよりさんを招いて行われましたね。

その集会の資金がまったくないということ、女の発想だと思っただけと、浦和の歩行者天国でバザーをやったのが大成をおさめ、それ以来、集会の前には恒例のようにバザーを開くクセがついた。集会には百五十人集まり、黒字。ちょうど駅前にコルソビルが完成した直後だから、そこに至るさくら草通りを浦和の街始まって以来の女たちのデモを通り、とてもきれいと好評だった。

——それから十一月二十九日、『ボーヴォワール自身を語る』上映と『マザーリング』編集長池上千寿子さんを招いて講演会を開催したんですね。

そのときは、政治集会だけじゃなく、女性社会に出ることの意味を考えようということで、キャッチフレーズは「現代はわたし

主人公ノ」だったんだけど、集まりは春を下回って八十人と少なかった。事務局のメンバーも大幅に変わって動ける人が少なく、春から間隔をあけすぎたのも、春のダイナミズムが失われた原因みたい。池上さんの話も、討論会も身の上話ふうに終始してしまっただけ。

——今年は反原発の学習会から開始しましたね。

折しも反核三千万人署名運動が高まっていたときで、アンケートにも、原発をやりたいという人が多かったので、三月に埼玉大学理学部の市川定夫教授を招いて連続学習会を開いた。原発には漠然とした知識しかなかったけど、ずいぶん勉強になった。あれがなければ、埼玉県非核都市宣言に反原発を盛り込むこともなかったろうし。そのことはすごい討論になったわけ。反核ブームだから原発はどこのこうのというより、三千万人署名と結びついた反核運動でいい、という意見もあったけど、一貫して反原発の項目を入れるべきだと主張したのは女集会のメンバーだったのね。ジャガイモの放射能処理など、日常レベルにおける放射能公害の恐ろしさを実感できたのは女のほうだったから。

かなり意気込んでとりくんだったけど、五月三十日の反原発集会の参加者はこ



酒本さん

沼田さん

れまでの最低の五十人。講師は土井たか子さんで、アメリカで女性が反原発運動や反核運動にどうとらえているかという話だったんだけど、原発の技術面での話を期待してきた人には食いつけなかったみたい。反原発のテーマなら誰か呼べば人は集まるだろうと安易に考えたところがあり、とりくみの甘さを反省しております。もう少し問題点を明らかにすべきだった。もう一つは埼玉県に原発がなく、緊迫感が今イチということもあるかも。結果的に反原発集会参加者は少なかったけど、最大の収穫は、そのとき知り合えた人がその後の女集会をささえる母体となっているということです。日頃、じつと物を考えてい

る人が一挙に集まってきたという感じ。

——今度の十二月十一日に優生保護法「改正」反対集会を開くに至ったいきさつなどを。

この問題も、反原発集会の流れの中にあるの。当日の参加者から長いお手紙をいただき、末尾に「優生保護法『改正』の動きがでていきますね。気をつけていきましょう」と出ていたので、優生保護法ってナンジャイという話になった。そのあと東京で開かれた反対集会に参加して、資料を読むほどにますますヤバイと思ったのね。ちょうど参院選全国区改正が、強行採決でゴリ押しされたあとだったし。

その次の日、一連の反核運動の拡大反省会があり、そこに集まった女たちに、東京での集会の模様と、ヘタしたら十二月の国会で「改正」される動きがあるんだという話をしたら、それは大変だ、とりあえず緊急集会を開こうということ話がすくまとまった。その日は七月の頭で、八月八日にやろう、緊急だから人数は少なくてもいいやということだったけど、そのわりには五十人も集まった。それは女自身に直接ふりかかる問題だったから、反原発みたいな目に見えないテーマとは問題の質がかなりちがったと思うの。避妊法すら確立されていない中で生きているわけだ

から、学生の私たちが一番大変だと思ったから、すごく気はいった。

避妊はどうか、中絶がどうのというより、つまりこの動きは戦争への布石だし、右傾化だな、ととらえられた。女、子どもがいじめられる世の中は、いい世の中じゃない。その最たるものが戦争なんだと。

で、緊急集会でアピールを採択。その賛同人をつのるということで各自署名を集めることになった。二人で一月ぐらい夏旅行して帰ったら、賛同人がドッと集まっていたのね。結局五十人ぐらいで四百人集めた。

これからは、十二月の、優生保護法「改正」ぜったい反対！討論会＆コンサート集会Vを盛り上げるのが課題ね。最近の情報では、十二月に国会に政府案として出される動きがやはりあるみたいだし。もしこれで負けたらヤバイ。負けたら、全部なだれ込んでしまう。その最終的な布石が憲法改悪なんだと思う。身近な問題でこんなふうに緊迫感もったの、初めて。リブがこれまで積み上げてきた実績が、これで逆行されるということだから、これは絶対負けられないと思う。

——今、緊急にアピールしたいことは。

十月三十一日朝霞で行なわれた自衛隊観閲



カラフルだった朝霞「女集会」隊列

小沢さんがやられたということは、たんに小沢さん個人がやられたわけじゃなく、反戦運動、市民運動の象徴としてやられたわけだから何が何でも負けられないと思うの。彼女が守られなかったら、今後一切の市民運動、女集会が根こそぎやられてしまうのだから。

——最後に、学生であるあなた方が、なぜ地域で反戦運動か、お聞かせください。

沼田 私はもともと学生って社会性を帯びている存在だと思っていた。拘束がないからなんでも言える。で、期待して入った大学はカラ振り。やつと見つけたら、そこは党派で話をしてでも面白くないのね。大学で一人でやるというほど強くはなく、一緒にやる人も見つからなかった。そんなとき、女集会が埼玉にできるというので会議に出てみて「これはなかなか」と期待するところがあつた。これまでやってきて、人間関係を作り広げていくのが運動なんだなアということが見えてきた。たまたま住んでいる所が浦和ということだけど、自分の住んでいる所でやるのはこんなにいいものかということがわかってきたところ。

沼本 高校時代までは北海道で、とにかく学生というものは、社会的なことに関わっていいものかと思ひ、大学生活をエンジョイしようというふうには考えてなかった。時期が時期だから、大学には何もないだろうな、と思っていた。何もなくて、これはヤバイな、と思っていたときに、浦和の人と友達になれた。どうせ一人だったから、こっちでやっちゃおうときめたわけ。最初はニューウェイヴ80運動という市民運動でやっていて、そこで育つたようなもの。女集会は会員制度ってわけじゃないから、もしやるという人間がいなくなれば、自然淘汰でなくなっちゃうだろうね。ただこの二年間、外に向かつてずいぶんエラそうなことを言い、書いてきたから、それにオトシマエをつけなくちゃいけないからやめちゃうわけにはいかない。私は七〇年代・六〇年代の人間ではない、この八〇年代を背負っていく人間だ、という自覚はすっごくありますね。

\*

社会参加を自覚した彼女たちの存在は心強い。学生ではごく少数派らしい。歴史は少数派が作るというけど、右傾化に抗するにはやはり数が必要だ。最近、埼玉女集会編で本を出した。『女には産めない時ももある』（読書室参照）希望者はお近くの書店に申し込んでください。

（あごろ浦和 大沢統子）

式反対デモに、初めて女集会で三十人ぐらいの隊列を作って参加したけど、みんな動じなかったのね。中には浦和の街以外、デモしたことがないという人もいたけど、思い定めた様子だった。その結果、後日新聞で報道されたように、私たち女集会の事務局でもある、小沢さんの事務所と自宅、ニューウェイヴ80運動の事務所が県警に家宅搜索されたのね。向こうは小沢さんに「過激派」のイメージを抱かせたかったみたいだけど、結果として、たいいていの人は、県警のやり方に怒り、ピラマキ、投げ込みなどに協力してくれている。

## わからない、わからない、わからない……

婦人学級で「女と戦争」の講座を呼びかけた 野村瑞恵さん

大きな目、大きな声、大きなからだ。// 肝っ玉母さん!! ふうの野村瑞恵さん。去年は大きくげんだった。管理社会のおかしさを寸劇に仕立てて大好評だったし、A練馬・戦争への道を許さない女たちの会Vのデモにも初めて参加した。「八百屋のおじさんと目が合って、あの嫁さんあんなことしてって思われたろう、と恥ずかしかった。だけどよかった」生き生きと語ったその人が、ことは、念願の無農薬野菜の店を開いた。さぞかし……と期待して訪れたのだが……。

ことばにこだわり続ける「すっかり落ち込んでいるの。仲間についていけないというか、異和感が大きくなって。それがどうしてなのかなって」

「デモは全く個人的な行動ですよ。私一人が勇気をもってまぎれこめばそれですんだことなんだけど、最初から気になったのはことばづかいなの。たとえば情宣活動とか、我われ

の敵はア!とか、闘いとうろ!とかね、いちいちひっかかるの。ちょっと待って、ジョーセン活動って何のこと?とか聞いても、それがどうしてわからないのかわからない、って人たちがばかりなの。私がいちいち突っかかることが驚きにもならない。こんな人相手にしてられるか、みたい。でも、そんなことは、台所を這いずり回ってる主婦の日常会話には絶対出てこない。自分とは異質の人、何かおかしいことをしてる人が使うんだとか理解しないってことを知ってほしかったのね。使うなとか、よくないって言うんじゃないの。日常感覚とは差があるってことを知ってもらいたかったんだけど……」

一緒になって使えばみんなと一緒になれるろう、だけど、できないのねえ、と言う野村さんは、ことし、八二周年の集いVのビラを見てびっくりした。

「私から見れば完全なアジビラ。私は撒けな

いって言うのと、こんなすばらしいビラを、なぜ、って言われちゃう。ついていけない女たちがいっぱいいて、それでもその人たちが本当は戦争がイヤで、何とかして戦争に反対する運動をしたいんだってことに気がつかない。こんなビラでは道を歩く人たちが参加するろうかってことに気がつかないのね」

「ウーン。私も、何々オーとか、許さないぞオーって、どうも好きじゃないのね。夏にニューヨークのデモに参加したら、シュプレヒコールが、みんな詩のようにきれいな。短し、覚えやすいし、だから道ばたの子どもがすぐまねをする。シュプレヒコールそのものも、画一的じゃないし、ああ日本でもこんなふうにしたいなアと思っちゃった」

「戦争への道を許さない女たちの一人ひとりとはとてもすてきで一所懸命よ。あんなにがんばって活動してる人たちが、もっと私たちのこと知ってくれたら、もっとすてきになれるのに。いつかついてくるだろう——」じゃなく、一緒に仲よくやる方法を考えてくれたらいいのに、たかが、ことばじゃないかって「耳が痛いわねえ。のめりこむと、周りが見えなくなるのね。私たちも、この前の『いま女がモノを言うということ』、//この題がこわ

い//って言われて、すごくショックだったの。でも、こわい、って言ってくれた人がいて、ああよかった、と思った。ただね、じゃ、どういふ言い方にすればいいかってことがわからないのよ。観念語を使い続けていると、だんだん自分も観念的になってしまっていることも見えなくなってくるし……」

「たかがことばじゃないか、って言われるのがとても残念なのね。ことばが毎日積み重なって人を動かしていくのに」

「去年あなたが、//そのことばなあに//ってところから聞いているっておっしゃったでしょう。ああ、これはいい、と思ってたの。それにみんな答えてくれてると思ってただけ」  
「ウーン。私のほかにもそんな女がいたのに、誰もやさしくなかったというか……。でも、その人たちにしてみれば、特別やさしくないわけじゃない。今についてくるだろってことでしょ。どっちがいいとか悪いとかじゃなくて、私たちにはちょっとしたことが冷たく感じられちゃうってことを、どうしたらわかってもらえるのか……。言うと、あら、私たちだっておんなじよって。たしかにその人たちだって、子どもかかえてる同じ女なの。どこがちがうのか、よくわからない……」



私の中の天皇、私の中の国家

六〇年安保のとき高校二年、大衆や民衆の力なんて、国家とか政府とか大きい力の前に総力あげてもダメなんだ……と何となくわかって、大学四年で大学紛争。毎日デモ。だけど入れなかった。目立つことが恥ずかしかったのと、我々はア！断固としてエ！に異和感があった。それほど問題意識もなかったし、それよりおしやれて男とにぎやかに遊んでるほうがよかった。カワイイ申し分ない男好みの女でありたかった、という野村さん。

「あのときデモに入るのは、すごく勇気がいるような気もしたし、すんなり仲間に入ればそれですんじやう、スプリングボードになるみたいなのもあった」けれど、結局加わらずに普通の奥さんになり、デモの人たちを

「あんなことしても何もならないのに、何か信じて衝き動かされて、いたましい」と傍観していた当人が、去年初めてデモに――。

「それで一つ乗り越えたっておっしゃってたでしょう、去年は」

「行動っていうのは、いちいち、そんな、乗り越えろとか大げさなもんじゃなくて、結果として気がついたらやってた、ってことでしょ。あんなに大げさに考えてたのに、やりやあできてたってこと。デモやって何かが変わったかって言えば、どんなことだって、やろうと思えばできるってわかったぐらい」  
「それより、今はどんだん内面に向かっているの。私の中の戦争、私の中の国家、私の中の天皇、なのね。あの時の天皇、あの時の軍国主義なんて、私には言えないのね。戦争が、私一個の人間の問題になってきたの。私の中の天皇や国家が見えなかったら、今までの運動と同じになっちゃうじゃない」  
「こたわり続けてほしい。徹底的にこたわって。そのとき、//つめたい//女たちも温かくなるだろう。自分の中の天皇や国家に気づくだろう。」

野村さんに会って、ああ、よかった。

(あごら事務局 斉藤千代)

# 女たちの現在を知るために

## 『銃後』の女たちを探る

小園 優子 さん

「こういう本を出しているんですよ」と見せてくださった八女たちの現在を問う会V発行『銃後史ノート』を開くと、こんなことばがとび込んできた。

●生き残った『銃後』の女たちと、生き残った銃後の女たちから育った私たちの対話の場として、

●『銃後』の女たちになるかもしれない私たち、すでに形をかえてなっているかもしれない私たちを、かつての『銃後の女たち』をみることによって対象化するために、

●他者、あるいは他国の人々を踏みつけにしない私たちの解放の方向をさぐるために、このささやかな機関誌をあらしめたいと願っています。

一頁二段組で全一七四頁。そこにビッシリと銃後史が語られている。たいへんな量の史料である。

資料は、国会図書館にマイクロフィルム化

されている当時の新聞をたんねんに繰って作成する。扱っている新聞は『東京朝日』と『信濃毎日』。一年分を一人が三―四か月分ずつ分担し、マイクロフィルムをめぐりながらカード化していく。カードは教育、婦人運動、当時の婦人の状況などに分類され、各執筆担当者に渡される。一人分のカードも、相当な量になる。そのカードを作るため、仕事を持っている人は年二十日の有給休暇をすべて図書館通いに費してしまおうという。メンバー十二人のうち、五―六人は神奈川県在住とか。小園さんもその一人。横浜市内に住んでいるが、国会図書館まで片道二時間かかる。図書館へ行ってもフィルム希望者が多ければ閲覧のために待たなければならぬ。フィルムを見られる時間は二―三時間しかとれなくなってしまう。メンバーどの人にとってもしんどい作業である。

「年に二冊は発行したいと思って、どうし

ても一冊になってしまおうですよ」  
下準備の作業を想像すれば、さもありなんと思う。

「会」との出会い  
小園さんがこの会と出会ったのは、まことに偶然のことなのだが、一方、自然でもあった。

昭和三十二年に大学を卒業したが、当時は不況のさ中。教師になりたいと採用試験を受けてもほとんど全員が落とされるという状況だった。職業経験もないまま『彼』と結婚。子産み、子育ての日常生活に。女の人生のバターンを自ら繰り返す中で「どうして女はこうでしかあり得ないのか」という疑問がどんどんふくらんでいく。女の人生に関する本を読みあさっても、どうもすっきりしない。

そんなとき、加納実紀代さんが主宰するグループを知り、ものためし、と行ってみる。そこで交わされている会話、討論に魅かれ、いつしか仲間になる。機関誌『銃後史ノート』には第一号から関わっている。担当は教育。

「べつにそうはつきり決めたわけではないのですが、興味のある所をそれぞれが取ったら、何となく担当者みたいになってしまったんですよ。ほかにもやってみたいのだけだね。」

穏やかに笑う。

大学四年生のお嬢さんと中学三年生の息子さんを持つ小園さんにとって、教育はまさに現在の問題であろう。二人のお子さんはそれぞれ独自の生き方を選んでいようである。心配はするが余計な心配はしないという、開き直りとも違う自然な小園さんの生き方をそこに垣間見る。

現在、フリーで校正などの仕事を持っている。とても忙しい身である。

「よんどころない事情で職業経験もなかったのに仕事を持つようになったんですよ」

——というのも、おつれあいが十年に及ぶ



解雇撤回闘争を組んでいる。十年一昔とはいうが長い年月である。いつもニコニコ、穏やかに話すその姿からは、とても想像だにできなかった。闘争を始めて二―三年目のころは、苦しくてずいぶん気が滅入ることもあった、とカラッと語る。

「で、朝六時に起きてマラソンをすることになりました。健康は何より大切だし、メゲないための自分への修業と思って……」

かれこれ八年になる。自分を鍛えながら、現在を見つめる目も同時に鍛え続けている。

#### 真実を見分ける感性を磨くこと

「当時の新聞を見ると、戦意昂揚のためにたいへんなあおり方をしているんですよ。ひょっとして今もそうじゃないかな、という気がしてきますね。だから、書かれていることをうのみにしないで真実を見分ける感性を磨くことがとても大切」

情報に惑わされないこと、感性を磨くこと、その二点に力を込めて語る。いま、各地で地震に備えての防災訓練が活発になっているが、当時もまた然り。防空訓練がそのまま隣組へ、情報の統制へ、と進んだ。最近の右傾化の速さは恐いほどと言う。

「今の状況はちょうど昭和八年ぐらいのとき

ろだと加納さんがおっしゃっていました。昭和八年というとき軍国主義化の中でまだモノが言えたんですよ。だから、言えるときにしっかり言わないと……。ある日突然、戦争になるわけじゃありませんからねえ」

隣がこわいという当時のようにならないために、隣に声をかけることも大切。そのために、まず身近な食べ物を通じて、と産直野菜の共同購入を始めた。なぜ農業がこのような形になってしまったのか、そんな話もしていききたい、少しづつ広げていきたい、と抱負を語る。が、隣に声をかけることのむずかしさも同時に味わわれることもしばしばある。

横浜に住んで十年。あまりにも地元の状態を知らなかったことを反省し、足もとをしっかり固めるために、と八横浜の市政に参加する女たちの会Vにも加わっている。が三百万都市という異常なほどの大きな前に、市民の声は蚊の鳴く声ほどで、なかなか届かない。当惑することもあるが、隣を変えること、足もとを固めることが今大切、と、ひたむきに地道に進む。

しなやかな生きざまを持つさわやかな人、そんな印象を受けた。

(神奈川 あこら会員 佐藤 葉)

## その時、その日をせい一杯に生きる

福岡・民主主義を守る婦人の会 高木董子<sup>のぶ</sup>さん

高木董子さんが代表世話人の「民主主義を守る婦人の会」VとAあご九州Vとが接点を持つようになったのは、いつの頃だったか。今になるとはつきり思い出せないほど、ごく自然に結ばれたように思われる。いろいろな集会に顔を出すと、そこには高木さんがいて、私たちがいる。招いたり招かれたりグループ

同士の親類づきあいが濃くなるにつれて、いっそう高木さんへの信頼が深まる。

その頃、まだ大変お元気だった市川房枝さんを福岡に招いて「婦人と平和」と題する講演会を実現した原動力になったのは高木さんだった。そしてこの講演会は最晩年の市川さんの私どもへの貴重な最後のお声となった。

それは一昨年十一月のこと。会場は満員であった。講演の最初に市川さんは、高木さんから講演依頼をうけたイキサツを述べられた。

「平和を守りぬくことが、次の世代を守り育てる私どもの使命」という高木さんの熱

い想いに充ちたお便りを市川さんが読みあげて、「私もそっくり同じ気持ち」と言われた言葉が共鳴盤のように今も私の耳で鳴り止まない。



中国に生まれ育って

上海という共同租界で生まれ育った高木さんが見たものは何であったか。便衣隊が日本軍を襲撃する事件が当時絶えなかったが、事件が起きると、その周辺に住む中国人は男も女も、ある時は子どもまで、後ろ手に縄で数

珠つなぎにつながれてぞろぞろ日本軍に引き立てられていった。それが後日、噂として流れるには、殺されて楊子江の河口まで舟で運ばれて、そのまま海へ……。みな帰ってくるものがなかった。多感な少女のころに目撃したその光景は今も高木さんの胸をしめつける。

当時満鉄調査部勤務の高木氏と結婚。大連で敗戦を迎えた。敗戦と同時に八路軍やソ連軍が入ってきた。満鉄の残務整理のため引きつづき大連に残留となった夫の高木氏は、傍ら労働者教育のために、レーニンの『帝國主義論』の日本版とも云うべきテキストを書かれ、その原稿の浄書は妻の仕事となって、高木さんは書きながら熱心に読んだ。戦争がなぞ起こるのか。資本主義のゆきづまりと、それを打開するものとして戦争が起こる。けれども人間が引き起こすものならば、人間がこれを避けることもできるのだということを、はじめて読んで、目からウロコが落ちる思いであった。これが高木さんの戦後の行動の原点となる。

### 学習と仲間づくりと

昭和二十四年に引揚げて東京・三鷹での生活が始まる。引揚げ後の苦しい生活の中で早



くも勉強会を持つと、月一回の日曜懇談会を開く。寒川道夫先生を囲む明星学園のPTAの仲間と一緒にのつての学習会は、敗戦から立ち上がるうとする世相ともあいまって、今なおなつかしく貴重な学習経験の第一歩だった。

当時『歴史と民族の発見』の名著で歴史学者として新進気鋭の石母田正氏のお宅に一面識もなく押しかけてお願いしたら承諾して下さる。それから石母田先生を中心に勉強会がつづき、得難い学習の機会に恵まれた。

昭和三十二年、夫が九大教授に。赴任を契機に福岡に移り住まれた高木さんは、早速ここでもまた変わらぬ意欲に燃えて「福岡婦人読書研究会」を作る。会員五十名にささえられて、もう二十五年、四半世紀を迎える。

ここに一冊の黄ばんだ名簿がある。五十音順の名簿の後に、会の申し合わせ事項とこれまで二十五年間に読みつづけてきたテキストと講師の名が記録されている。それは単なる読書人の記録では済まされない。いわば戦後思想を形作るその時その時の問題意識を一本の糸で連ねている。この学習を栄養として高木さんの行動が、展開されていることが読みとれるのである。

## 行動へ

貝塚団地に居を構えてから、たくさんの仲間に出会った高木さんは、子ども劇場の青木さんらと一緒に、その頃交通地獄の中を遠くまで通わなければならなかった子どもらのために何とかして団地の中に幼稚園を作ろうと呼びかけ、熱心な署名運動と陳情の結果、昭和三十五年にととうとうこれを実現した。建物は公団が作り運営は自分たち住民。日本で初の団地幼稚園を作りあげることができた。

これがきっかけとなって八貝塚懇談会Vという住民の会が生まれた。この頃から高木さんはそれまでより、ひとまわり大きな行動へと踏み出して行ったように思われる。

ベトナム戦線へ発進しているのではないかという疑惑の中で板付空港の米軍基地反対の住民の声が高まり、それが十万人集会に結集したことは記憶にあざやかである。そして、一九六八年九大工学部に米軍ジェット機の墜落という事件が起こったとき、貝塚懇談会、YWCA、福岡婦人読書会、草の実会の四団体はいち早く、はじめて女性だけのデモを行なった。

この抗議の声を集めて八基地を考える婦人の会Vが生まれた。これが、高木さんの八民

主主義を守る婦人の会Vの前身である。

基地撤去要求のデモや署名に。あるときは基地を実際に見学。反核・軍縮の街頭署名も数回に及び、必ず高木さんはそこに加わっている。

八民主主義を守る婦人の会Vは一九六九年発足以来、ほとんど毎月かかさずに学習会か講演会を開いている。その回数は百数十回に及ぶ。いまだではない教科書問題の学習は、家永訴訟以来、継続的に十数年にわたる。

「すべてのことが、私は長いんですよ」と大変つづましく言われるが、主体的にかかわっているからこそ息長く、ねばり強く取り組むことができる。

いま、高木さんにはまた新しい期待が寄せられている。

「清潔な県政を作る福岡県民の会」の呼びかけ人として。知事公舎問題によせる県民の疑惑をよそに五選を狙う亀井知事の県政をストップさせるために大へん多忙になるだろう。

「私が行動することは、片隅に生きている者の声がとどくため」と、あくまで謙虚な物言いに、これまでの長い歩みに裏打ちされた誠実さがあふれている。

(あごら九州 福田光子)

## バルバラ

ジャック・ブレウエル

阿部淳子訳

想い出してごらん、バルバラ

あの日、ブレスト<sup>注</sup>には 雨が絶え間なく降り、

君は、微笑みを浮かべながら

歩いていた

幸福<sup>しあわせ</sup>そうに、心の底から幸福<sup>しあわせ</sup>そうに

流れるように

雨の中

想い出してごらん、バルバラ

あの日、ブレストには 雨が絶え間なく降り、

シーム通りで

僕は君とすれ違った

君は僕に微笑みかけ、

僕も笑みを返した

想い出してごらん、バルバラ

君のことを僕は知らなかった

僕のことを君は知らなかった

想い出してほしい

どうしても想い出してほしいんだ

忘れるんじゃない

ひとりの男が、雨やどりをしていて

君の名を呼んだ

バルバラ！

君は彼の方に駆け寄った

雨の中

流れるように

心の底から幸福<sup>しあわせ</sup>そうに

そして彼の腕にとびこんだ

あの瞬間を想い出してほしいんだ、バルバラ

僕が親しげに君のことを話すからって

おこらないでくれ

愛する人のことを、僕は親しげに話すんだ

一度しか逢ったことのない人のことさえ

愛し合っている人のことを

僕はいつも親しげに話すんだ

逢ったことさえない人のことでもね

想い出して欲しい、バルバラ

忘れてはいけない

静かな、幸福な雨

君の幸福そうな顔に

幸福なこの町に

海辺に

兵器庫に

ウェッソン島通いの船の上に

降りかかっていたあの雨

ああバルバラ

なんて戦争は莫迦げているんだ

どうしているんだい、君は

鉄の雨

火の、はがねの、血の

雨の下で

そして君を愛しげに抱きしめていたあの男は

死んでしまったのかい

行方がわからないのか

それとも

今も生きているんだろうか

ああバルバラ

ブレストには絶え間なく雨が降っている

あの日のように

でも同じ雨じゃない

すべてが駄目になってしまった

喪に服した雨

悲しく淋しい雨

嵐でさえない

鉄の、はがねの、血の

雷雨でさえない

雨雲だけが

死んでゆく

犬たちのように

やがて犬たちは

ブレストの河口まで流されて

遠い所で腐敗してゆく

はるか遠いところ

ブレストの町の面影ひとつない

遠い遠いところで

(『パロール』より)

注 フランス・ブルターニュ地方の軍港都市として栄える。第二次大戦ではドイツ軍に四年間占領され、完全に破壊された。

私の精神の

在り場所から

宮下 喜代

八二年十月一日付、朝日新聞の夕刊に——憎悪から解き放たれた情熱——と題して作家、曾野綾子さんがコルベ神父の列聖をめぐるって書いています。

コルベ神父。日本にきて長崎で六年ほど布教に働き、祖国に帰り、ナチスドイツのポーランド侵入をもって始まった第二次大戦でドイツ軍に捕えられアウシュヴィツ強制収容所に送られる。収容所の同じ号舎から一人の男が脱走、その報復として十人の収容者が死刑を課せられる。不運に選び出された十人の中の一人が、妻と子の不幸をなげいたとき、神父は身代わりを申し出る。食事はもちろん水も与えられない刑罰

に耐えて、同じ刑を負った人々を力づけ励ましつづけ、すべての人を天に送って、神父はその使命を明らかな意志で全うして十六日間を生き延びた。ナチスは遂に毒薬の注射によって神父を殺す。その時も神父は自ら腕をさし出した。神父はまさにイエスの教えに忠実に従う行為によって死を超えて生き延びた。

——人その友のために己れの生命を捨てる、これより大いなる愛はなし——（ヨハネ伝、第十五章十三節）

八二年十月十日、ローマ法王庁はコルベ神父を聖人に列した。

曾野さんはその文章の終わりで節をあらため、安易な姿勢を問う、として次のように書く。

——コルベ神父はアウシュヴィツで柔和に無言のまま殺されたが、その沈黙はかえって現代社会に重々しい警告を与えることになった。一つは現代人の安易なヒューマニズムの自己満足に対してである。平和や生命をいとおしむという行為は、本来いざという時、自分の命を代わりにさし出すという決意をひき当てるべきものである。署名運動やアピールの採択やデモ参加など、それに比べれば甘い自己満足と自己宣伝に過ぎないことが明白になる。もう一つは神父が強制収容所の中にあつてさえ「憎悪」から解き放たれていたとい

う事実である。「憎悪」することは「正義」だと考える総ての情熱は、つまり左右どちらの陣営であらうと人を殺してゆく攻撃力そのものなのだというのを、神父は四十年前も前に死によって明確にしていたのである。――

\*

このしめくくりの部分から人は何を讀みとるだろう。平和をねがっての署名運動やアピールやデモなどは安易なヒューマニズム、甘い自己満足、自己宣伝。いわば自分にも他人にもなんの力にもなり得ない、と冷たく切りすてられている。だがそれで済むことなのだろうか？ それでは現在の社会は平和を保ってゆく力を、あるいは平和への努力をどのようにしてお互いが日常を生きてゆく関係の中に培ってゆくことができるのだろうか？

街角の小さな店で毎日を家族みんなで働いて生活をたててゆく私たちのささやかな人生。それだからこいつそう平和への希求は強い、と言いたいのだ。私にも戦争体験がある。その体験に会うまでの私の若い時代は日本の十五年戦争の時期と重なっている。その時期を私は教会に通い洗礼をうけた。しかし私は弱いもういわがまま人間で、イエスのきびしい一面が心に重くて教会をはなれた。戦争のさなかに結婚した。そして昭和二十年三月の東京大空襲は私たちの家も町も焼き払った。その同じ戦火は生家の父と妹と末弟の生命を奪った。半月ほど後に、病いにいた母は自殺した。

その母の死のあとで近しい人が私に言った。  
――あなたのお母さん、死んでよかったんじゃない。今こんな大変な御時世にさ、動かなけりゃならない人間さえまともに食べる物が無い。あんたみたいに姑さんがいて病気の実の親がいたら、どうすることもできないわよ――。

現実とはしかにそのとおりだった。そこをしてお母のためになにかをすることができただけの力が私にないこともあきらかだった。＼なんてひどいことを言う、そんな冷たい言い方＼と思いながら私は何も言うことができずにいた。つまり母が死んでよかったのだ＼という背理を否定できなかった。その時の弱く醜い自分を忘れることができない。

八月十五日、日本の敗戦で戦争は終わった。

\*

新しい時代への人間の蘇生はこの戦争の間に世界中の数えきれないほどの人々の死の犠牲のうえにはじめて可能になった、と言ってよいのではないだろうか！

私は生活の必要から働き始めた。働く場での人との交わり。話すこと、聞くことから考えが展げる。ものを読むことに、ある注意がそそがれる。学ぶことはいろいろな接触の中にもあった。

そんな日々の営みのなかで、私は一筋の糸をたぐるように母の死の意味を納得したい、という想いをもち続けてきた。  
――母はあまりに不意に來た夫と子供たちの死の無慘さ、焼

きつくされた家の廃墟に立っての衝撃に堪えきれなかったの  
だろうか！ あるいは全く前近代的な夫と妻の家の中での人  
間関係に不平等を見いだして自ら苦しんでいたのに、そ  
の夫の後を追う形で死んだ、やはり母は父を愛していたのだ、  
そう思うことは私に、ある安らぎをもたらした、といえれば人  
は私の感傷を嗤うだろうか。さらに私の心の底には母は私の  
重荷になるまい、として死を選んだのではないか、とのひそ  
かな疑いが拭いきれずにあった。すべて焼かれ、身は病んで  
いる、その身を寄せるとしたらすでに嫁いで他家の者になっ  
ている娘、つまり私の傍らしかない、としたら、戦時下の日常、  
どんなに辛い思いを娘にさせなければならぬか、母にはそ  
のことが判っていた。母は死をえらんで私をその重荷から解  
いた。ここでコルベ神父の死と母の死とを並べるのは不遜に  
すぎるだろう。しかし私にとって母の死は、人間はなんのた  
めに生きるのか、という問いをふくんでいる。

\*

朝鮮戦争もヴェトナム戦争もその戦火のなかの母と子の姿  
が私の心に痛かった。反戦へのささやかなカンパも、それをす  
るよりほかになんともすることができないのでそれをした。

草の実会での、ある集まりの時、松岡洋子さんが言われた  
ことがある、——お小づかいをさいて、何かの運動にカンパ  
をする、そのようなことで運動をたすけた、などと思つては  
ならない——言い方はこのとおりではなかったが意味はいわ

ば曾野さんのいう、安易なヒューマニズムにあまえるな、とい  
うことであつた。その言葉から私は、自分の行為の一番根元  
のところにとどのような自分をおくか、を考えなければならな  
いのだ、と気づいた。そういうとき母のおもさしいつも私  
の傍らにいた。

そして草の実会は、丸岡秀子さんが言つて下さったことだ  
けれど、会員の一人一人がそれぞれの実をなしていた。寄り  
集まつた雑草が一つの叢をつくるのではなく、日陰の道ばた  
に種を落として根強く実をつけてゆく（草の実会趣意書の一  
節）営みをしてゆく人たちの姿が頼もしかった。政治につ  
いて、社会の動きについて、教育の問題について、女と老後  
について、平和について、戦争について、さまざまな話し合  
いが、地域グループで、問題別の研究会で、機関誌の紙上で、  
ある時は総会のテーマとして、方法を考え、形を考え、話し  
合われ書き合われ、自分と他との関係のなかでお互いがより  
よく生きる道をさぐり合つた。それはいまも変わらず続いて  
いる。民主主義がその過程のなかで大切な一本の筋としてめ  
いめいのからだの中に育ってきている。

そうしたなかから共通の意志として生まれてきたのが戦争  
反対の明確な意志表示への動きであつた。提案があり賛成が  
得られ、反戦のデモの第一回は昭和四十五年二月十五日であ  
つた。毎月十五日の予定は無理とわかり、憲法記念日をもつ  
五月の十五日と八月十五日。デモはすでに十二年間続けられ

ている。八月十五日。私たちは反戦の意志をめいめいの中に  
たしかにし、平和への願いをこめて街の中を歩く。それは自  
己満足や自己宣伝を超えた私たちのしなければならぬ行為で  
ある。戦争体験をもつ者、もたぬ者、ともに戦争のもつ無意  
味な殺戮の結果が、憎悪と不信しか生み出さないことを知っ  
ていて反戦の意味をまわりの人々と語り合わないでいられ  
るだろうか！

詩人、石垣りんさんに「表札」という作品がある。

### 表札

自分の住むところには

自分で表札を出すにかぎる。

自分の寝泊りする場所に

他人がかけてくれる表札は

いつもろくなことはない。

病院へ入院したら

病室の名札には石垣りん様と

様がついた。

旅館に泊っても

部屋の外に名前は出ないが

やがて焼場の鐘にはいると

とじた扉の上に

石垣りん殿と札が下がるだろう

そのとき私がこぼめるか？

様も

殿も

付いてはいけない。

自分の住む所には

自分の手で表札をかけるにかぎる。

精神の在り場所も

ハタから表札をかけられてはならない

石垣りん

それでよい。

——精神の在り場所も／ハタから表札をかけられてはな  
らない。——

そうよ、そのとおりよ、全身の力をこめる思いが私にある。  
私の精神の在り場所、私自身が立ちそこに生きることから、  
平和を求める人びとの集まりに加わってゆきたいとおもう。  
その時私は自分の胸に自分の手で書いた表札をかざってゆく  
だろう。

(みやした きよ)

## わたしは言えない

横山 れいこ

わたしが上京し再び東京での生活を始めて一年半が過ぎようとしています。ありあまる時間を手にして途方に控えていたわたしの前に『あごろ』がありました。たんなる一読者でしかなかったけれど、それは新鮮な驚きと感動に満ちたものでした。反戦といい、反核といい、女性差別の闘いといい、女の自立といい、何十年の生きざまのなかで、手にしたこともない言葉に満ちあふれ、しかも現実の闘いを続けているさまざまな女、女、女たち。とてもわたしにできることではないとおもったけれど少しずつ学び始めていきました。

そんな折、友達とかわした会話の中で、わたしが、「反戦も女性の自立のための戦いも今わたしたちがやらねばならないことだとわかってきたけれど、田舎の母や義姉さんにはとても言えない気がする」という話をしたところ、それはあなたの勉強がたりないせいだといわれたのです。その時わたしは、

都会で生活している人と田舎の生活をまもっている人の違いの大きさを思いました。言えないという意味は、言ってもわからないだろうというのではもちろんなく、学びつつあることが事実としてうけとれないからでもありません。母や義姉に話すのはしのびないという気がしたのです。いたましいというのがわたしの実感でした。農家のくらしはそれほど苛酷だともうからです。確かに農業機械は数えきれないほどありその進歩もはやいものです。昔の農業からは考えられないほど余裕がうまれたといえるかもしれません。けれど現実には、高額な農業機械を購入するたび返済におわれることとなり、現金をえるために一日でも早く農作業を終わらせるということになってしまふのです。それにかつての大家族と違い、働き手が一人あるいは二人と少なくなってきたので、いそがしさの点において昔の農業とさしてかわってはいないとおもいます。

\*

私の家では働き手は兄と義姉の二人です。義姉の一日は朝仕事から始まります。冬を除き、だいたい五時から五時半に起き、畑に出ます。ごはんの仕度は母の役目ですが、ごはんが終わった後、農閑期は近くの会社へいきます。夕方五時に帰ってきて夕食までにまた畑に出て行き、夕食が終わるのが八時ごろ。少し休んで九時には寝ます。朝仕事は農繁期でも変わらずやります。十八歳で嫁いできてからずっと毎日です。特



にわたしの家では父が亡くなっていましたので、初めから一人前の働き手であることを要求されたようです。

母も、今でこそ田畑にでることはなくなりましたが、機械というもののほとんどない時代、二百俵ほどつくれる田をきりもりしていた時には、それこそ一年中朝早く起きて夜の遅い生活でした。今の母に当時のことをたずねても多くを語りません。どんなにきびしかったことでしょう。

わたしの見てきた限り農業はやはり大変な重労働だと思うのです。かてて加えて村の生活というのは決して開放的ではなく、何代にもわたって受け継がれてきた「家」を守り、田畑を守り継がねばならない生活。その中で、個人は全く自由な個人としてではなく、××家の母ちゃんであり、××家の嫁としての生活を要求されます。それは個性を持つ一人の人間としての生き方よりも、家を守り、子を残し、財産(土地)を守り存続させるためのくらしを求められるのです。同調していかなければ生きていかなれない生活です。そんな、まかり間違えば己の存在がつぶされてしまうかもしれない生活を、一所懸命こなしている母の、義姉の、いったいどの部分に、女の自立とか反戦とかの入るすきまがあるのでしょうか。

都会で暮らす人には学んで知れば言えることかもしれないけれど、仮に学んだとしても、知るようになったとしても、××家の母ちゃんであり嫁であるかぎり言う場を持たないのではないかと思っています。

\*

田舎での選挙のことを少し書いてみます。立候補者の世話人というのがたいてい決まっています。昭和五十五年の同時選挙のとき、ついで票を集めて回ります。昭和五十五年の同時選挙のとき、わたしのところにも何人か来ました。そしてこういうのです。「あの人が当選すれば中央に少し顔がきくのでお金をもってこれる。自民党でなければ力もないし、ここの地域の発展にはつながらない。その点あの人なら東京へいっても大丈夫なのだから」

さしたる抵抗も感じず、ああそうかと一票を投じました。そのことがいま現在の政治状況の悪化につながっていると知らされたとき、むしろわたしには驚きでした。//あの人ならこの地域にも土木工事等の仕事をもってきてくれる//ということと、自民党の圧勝によって強引に進められる危険な状況が直接つながるものなのだということをはじめて知ったからです。//政治こそ生活に密着しているもの//だとしたら、まさにここ何年間にどれだけの工事がもたらえるかということこそ、そこに住む人々にとっては重大であり必要なことと受けとめられているのではないのでしょうか。

\*

最後に私事です。田舎での三年間の結婚生活にふれたいとおもいます。精神的に追いつめられてしまった最後の段階で、わたしの心をしめたつばきは「もっと人間らしく生き

# 思想の科学

## 女性問題特集

### ●女が女を見る

82年5月号 580円

女が好き 横井久美子  
 アフリカのおふくろ達 降矢洋子  
 矛盾丸かえの彼女たち 山内陽子  
 女は最後の黒人だ 駒尺喜美  
 自然と人間 高良留美子  
 主婦が主婦を考える 荻野美穂子  
 色恋は人生につきもの 吉清一江  
 女子労働者エリー 内海愛子  
 女の管理者 来栖琴子  
 時代を射ぬいた女の眼 寺井美奈子  
 死にゆく母親 西川祐子  
 女がおんなへと翔ぶとき 永坂田津子  
 俗書故に浮上する女性たち 石井紀子  
 (私の好きな女)  
 松本路子/加地永都子/藤枝澤子/林都  
 森崎和江/富山妙子/大友エミ子/ばく  
 きよんみ/岩井好子/李銀子/関千枝子  
 小林トミ/三井絹子/岸田裕子/永田宗  
 子/大橋成子

### ●「母親」は必要か

82年11月号 570円

母親について疑問・愚問にお答えします  
 真野さよ・袖井孝子・加本悠利代  
 近藤文子・無瀬成恭  
 母なるもの 岡百合子  
 刃を奪われたオレスティスたち 加納実紀代  
 安中オモニの身世打鈴 岸野淳子  
 母親像に呪縛された女 桜井陽子  
 子どもから独立して 望月寿美子  
 教育と「待ちの哲学」 松田ふみ子  
 お母さんの手、かわいいね 志沢小夜子  
 「生命の操作」と親の立場 綿貫礼子  
 コトさんの話 桑川真麻  
 (娘から見た母)  
 小さな生涯 宮下喜代  
 「客地」のオモニ 李 銀子  
 生んで、生れてスミマセン 松原真理子  
 敗者の流儀 高橋幸子  
 女子高校生による母親談義

代金は切手、現金、振替何れでも可  
 送料1冊50円 2冊60円 3冊70円  
 4冊以上当社負担

## 思想の科学社

東京都文京区後楽2-16-2

電話 813-1745

## 女性史と足尾鉍毒問題

足尾鉍毒問題と女性  
 田中正造研究で落ちていること  
 福田英子と田中正造  
 正造の妻カツ像を追って  
 鉍毒地婦人による「押出し」  
 井手 文子  
 佐江 衆一  
 志村 章子  
 大出きたい  
 田村 紀雄

田中正造と代  
 その時  
 Vol. 3

青山館  
 03-813-7431

「たい」という思いだけでした。どう生きれば人間らしいのか、  
 本当の人間らしい生活とはどういうものか、はつきりわかっ  
 ていたわけではありません。もちろん、未来への展望をもっ  
 ていませんでした。ただひたすら、わたしらしく生きたい  
 とつぶやき続けていました。家人に向かいのおもわず声にして  
 叫んでしまったとき返ってきた答え。「おまえがそんなたい  
 した人間なのか!」——三年間の生活を共にした人たちから  
 の言葉でした。返す言葉も見つからず、結局再出発を決めた

のです。  
 東京で生活を始め、開かれた女の人たちと出会うたび、意  
 識の違いの大きさに驚かずにはいられません。そしてわたし  
 の体験がわずか二年ほど前であることをおもうとき、へあご  
 らVのこの十年の歩みの重さを思います。と同時に、だから  
 こそ、女が女の言葉で語ることが大切なのだとも思います。  
 「女の足をひっぱるのは女自身だ」といわれないためにも。  
 (よこやま れいこ)

## 近ごろ心にかかること

斎藤 千代

そのグループを訪れようと思ったのは、案内の手紙の一行に心惹かれたからだった。

「私たちのグループに、もし実績というものがあるとすれば、かわったすべての人が変わった、ということでしょうか」  
東京近郊の、ある都市を、胸はずませて訪れた。

二、三十代、十五人ほどの、どの人も、輝くまなざしをしていた。私はうれしくなり、「平日の午前中に公民館で学習会をお持ちになれる皆さんは、恵まれた方々だと思ひます」と口をきった。

これが、思ひもかけない反響になった。

質疑応答に入ってから、質問はすべてその一点に集中した。「恵まれているとは何ごとか！」

急いで帰る、という一人は、突っ立って鋭く問いかけた。「一つだけ聞いて帰ります。あなたは子どもがいますか。結

婚しますか」

私は不用意な人間だが、それでも、近ごろは、かなりことばを選ぶことにしている。直球を投げたつもりが、フォークやナックルとして受けとめられ、投手の思ひもしなかった。効果？Vを生むという経験を重ねたからだ。

でも、このグループはちがうと思っていた。少なくとも自己変革した女たちだ、と。

「刺さった」ということばの嵐をくぐりぬけて、私はやっと言った。

「正直に言って、とてもショックです」

時間があまりにもなかったので、その夜、私は責任者に手紙を出した。

「恵まれている」というのが、なぜ、そんなに刺さるのでしょう。私は、もし自分が、あなたは恵まれている」と言われたら、//そうです。たしかに恵まれている部分がたくさんあります」と答えるでしょう。私は自分の「恵まれている」部分が少しづつ見えるようになったとき、その対極にある「恵まれない部分」も、少しづつ見えるようになった気がします。それが私の反戦です」

ことばをたらずの部分は、もし必要なら、手弁当でも駆け付けて補足したい、自分のことばにはどこまでも責任を持つ、と書き添えた手紙に、さっそく電話があった。

「次の週、みんなでお手紙をもとに討論しましたけど、

やはり納得できない人が多くて」

来てほしいという。反戦を「女は子を産み育てる性だから」当然、という言い方は、あまり好きではない、と言った私のことばにもひっかかっている人が多いという。

ちょうど『あごら』の追い込みで、秒という時間が惜しい。せめて十二月にしてほしいと頼んだが、「十二月は主婦にとって忙しい時期、どうしても十一月中に……」と、電話の主は言い、「こういう言い方をするのは、恵まれているからでしようけれど」と苦笑した。私は、この問題はゆるがせにしないので、できるかぎり時間を整理してみるけれども、十一月中に時間をつくれるかどうかは約束できない、指定日の前日にもう一度電話する、と答えて電話を切った。

\*

ひとたび「主婦」が話題になると、なぜこうもいろめき立つのだろう。

さまざまな集会で、「主婦」が話題になるや否や、「家事労働も賃金に換算すれば月額二十万になる」「外で働くことだけがいいことか」といったたぐいの声がちまちまあがり、同調する拍手がわき起こるのを、私は何度も目撃してきた。

こうした光景を見るたびに、いつも切なくなる。働いても働いても決して正當に評価されない主婦労働への不満、かといって女に就職口は少ない現実、「食わせてやっている」という夫への屈辱感等々を、感じないではいられないからだ。

そこにはまた、「女なのに、外で働く人」への怒りもある。「女は家にいるもの」を基礎としてつくられている社会は、ひとたび女が家をるすに外働きを始めると、音立ててきしむ。「共働き家庭の周囲十軒に被害が及ぶ」と形容する人もいる。しかし、その現状は、働く女に敵意を向けることで変わるのだろうか。主婦こそ人間的、と強調することで解決がつかのだろうか。

そのグループでも、一人が胸を張って言った。「働きすぎの社会だから、私は働かないで抵抗しています」

「あなたが働かないことで、働きすぎが是正されますか？」と、私が問い返したとき、その若い母の顔は歪んだ。「それはそうだけれど……」と、答えた声はくぐもっていた。

\*

「恵まれている者の裏側に恵まれていない者がいる」と私が気づいたのは、子どもが二歳になった時か、三歳になったころか。

子を持ったとたん、私は自分が生きやすくなったことを感じた。少々のヘマがあっても、「小さい子がいるから」と許される。署名集めに歩いて、「子連れのお母さんが一所懸命やっていることだから」と信頼される。「子ども」という大きなくんしょうを胸にぶら下げて、私は大得意だった。

しかし、ある日、私はふと思った。「なぜ子どもがくんしょうになるのだろう。子どもがくんしょうになる裏側には、

くんしょうを持たないために、肩をすばめて暮らしている人たちがいるのではあるまいか……」

子を持つ女が加わった集まりでは、いつも、自然に、話題は子どものことに移る。子どもを語る母たちは、何と生き生きと美しいのだろう。飛びきりの子ども自慢。いたずらで困る、といった表現のなかにも、そこには子ども自慢があふれている。——だからこそ子どもは育つのかな、と、子を持つてはじめて、思ったことであつた。

そんな話題に、いつも加わらない人がいた。

その人と、ある家を訪れた。歩き始めたばかりのかわいい女の子がいた。その人は抱きすくめ、語りかけ、帰る時間が来ても離そうとしない。はっと思ひあたつた。聞いてみた。

「赤ちゃん、置いてきたの？」

答える代わりに、みるみる涙があふれ出た。

離婚した、とはかすかに聞いていたが、そんな背景があつたのか……。

離婚して、一人、大都会に住むその人は、「若い女だから安くて当然」という企業のなかで、企業批判をすることもなく、「働かせていただいてありがたい」「自分一人の身すぎは何とかできてありがたい」と、黙々と働き続けている。そんな彼女を、「働きすぎ」「母性的でない」と評していた、子を持つ女たち。

くんしょうを持つ女たちは、くんしょうを持たない女を、

何と平気で（それは、知らない、気づかないからだろうけど）足げにしていることか……。

母性は社会保障されて当然、ということとは、裏返せば「母性をくんしょうにしない」ことのはずなのに、そこがなぜか連動していく仕組みを、私たちはほんとうに考えたことがあるのだろうか。

＊

明治以来の教育は、子を持つ母を賛美しつつづけてきたが、その裏には何があつたのだろう。

古い国定教科書で、私は「一太郎やーい」という話を習つた。日清だか日露だかの戦争に征で立つ息子を送ろうと、何里かの山道を駆け抜け駆け抜け老母がたどりついたとき、船はもう出ようとしていた。老婆は声をからして叫んだ。「一太郎やーい。家のことは心配するでねえ。天皇陛下のおんために命をささげるんだぞ。わかつたら鉄砲を上げるぞ」

老婆の年に近くなつたいま、子を産んだ女として、私はその光景がありありと浮かぶ。老婆にとって言いたかつたのは、「一太郎やーい」の一声だったのだと。「おつ母アはここにいろぞ、お前を見送りに来たぞ」。「聞こえたら合図せーい」

「天皇陛下のおんために」は、群なす兵士の中から我が子を見つけるとっさの知恵だったのかもしれない。が、ともかくその母の声は多くの兵士の胸を打った。居合わせた記者の胸

も打ったのだろう。その話は「天皇陛下のおんために」の美談として教科書にのった。『母性』の手本となった。

「天皇陛下のおんために」いつかは『兵器』として戦場で役立つわが子を『陛下の赤子』として、母たちは育てた。多子家庭は表彰された。育児に専念する母、外で戦う父、の構図のなかで、戦争は見事に遂行された。

\*

そのことと、いま家事・育児に専念し、夫を後顧の憂いなく『企業戦争』に送り出す女たちと、似ているのか、似ていないのか。

私たちは、いま女だけで小さなプロダクションをつくっている。全員、子を持つ女たちである。幼児を持つ人が半数、夫の協力度は高いが、『夫を支える女たち』を背後に持つ男だけの、あるいは男を主流とするプロダクションに比べれば、何彼につけハンディは大きい。休日出勤、残業、徹夜もいとわない『男の企業』を主流としてつくられている日本の社会、しかも、『やっかいでコストの引き合わない仕事』は下請けに出すことで支えられている産業社会のなかで、私たちがせっかくだらした『毎週一回休日、週三十二・五時間労働』は、名目だけのものになりがちである。骨のきしむ思いで、仕事と暮らしの両方を何とか支えようとしている私たちには、『働きすぎ社会』の屋台骨を支えている『外では働かない女たち』が、どうしても見えてしまう。

といって、その人たちを責めようとは思わない。ただ気づいてほしいのだ。自分が外働きしないでいられるのはなぜなのか、外で働いている夫は、何をしているのか。

かつて、扶養家族を支えるために、自分の志とはほど遠い（どころか、まさに裏返し）の企業で働いた日々、それは私にとって精神的売春だった。「女が働くこと」というテーマで、ある婦人学級でこの話をしたとき、「それではどうすればよいのか」という解答を、多くの人が「夫も妻も、家事もパンを得るための仕事も、頑ち合うこと」と、見つけた。私は最後に言った。「それだけで十分でしょうか。私には、すべての人が、家事労働も生産労働も頑ち合うこととともに、精神的売春をもたらすような企業が存在が許されなくなる社会になることがどうしても必要のように思われます」と。

「自分にとって、あの精神的売春とは何だったろうか」を考え続けてきた私の、これがいまの解答である。正解かどうかはわからないが、家事労働も社会的労働も、すべての人が、人として当然のこととして頑ち合うとき、精神的売春をもたらす企業の解体も可能となるのではあるまいか。

多くの男たちは、会社の帰りに一杯飲んで憂さをはらす。女たちは夫の帰りの遅さを怒るが、飲まずにいられない、やるせないさの中みを、ほんとうに考えたことがあるだろうか。たとえコピーとりだけに終始したとしても、そのコピーとりの結果が、人間のいのちを豊かにすることにつながるなら、

私には苦痛ではない。どんなに創造性に富む仕事をまかされても、自分の仕事の結果が、自分にとってどうしても望ましいことと思われないことにつながるなら、しかもそのことでパンを得るのなら、私にとっては精神的売春である。

女にとって「恵まれている」と映る、女よりは創造的な仕事に従っている男たちが、自分の仕事を、一種の精神的売春と自嘲しつつ、「仕方がねえや、女房子どもがぶら下がっているから」と自分に納得させている姿を、数えきれないほど見てきた。女たちは男社会を責めるのに急だが、その男社会を支えている自分自身を見たことはあるのだろうか。

\*

人はいざ知らず、少なくとも私は、「子を産み育てる女として」戦争反対を叫びたくはない。どんな戦争であれ、戦争は人間としてゆるされないこと、と、心の底から思うようになったからこそ、私はいま一人の人間として戦争阻止に必死なのだ。

若い人たちに言われた。「情報の第一線にいる斉藤さんには、いまが「危機」として映るのでしょうかね」

私は答えた。「情報の第一線にいるわけじゃないですよ、私は。でも、あの十五年戦争に、幼児から少女への時期をまわること黒く塗りつぶされて、戦争はどうして起こるのだろう、どうすれば戦争を予知できるのだろうと考え続けてきた私は、いま、全身を耳にして、目にして、鼻にして、戦争の音

を聞こうとしているのです。その私には、もう戦争が間近だと、否応なしに聞こえてならないんです」

戦争体験がないからわからない、と多くの人は言う。戦争体験がなかったから、私は戦争に巻きこまれた。——私も長い間、そう思っていた。たしかに私たちは何も知らされなかった。しかし、それだけだったのだろうか。私たちは、ほんとうに知ろうとしたのか。知ろうとしない人びとの上に、「知らさない政治」は容易に敷かれたのではないのか。

私はもうスローガンでは語りたくない。

「戦争反対!」「優生保護法改悪反対!」「労基法改悪反対!」「家庭基盤の充実政策反対!」——スローガンを叫ぶ代わりに、その中みを、ひとつひとつ重く受けとめたい。

優生保護法改悪も、労基法改悪も、家庭基盤の充実も、女(だけ)への攻撃だろうか。その後ろにある、もっと黒い、もっと大きなものを、私たちはほんとうに見すえているのだろうか。「女への攻撃」ということばを使うことによって、「男にも加わえられた攻撃」であることが見えにくくなってはいしないか。

「反対」という代わりに、私は心で受けとめたい。全身で考えてみたい。そして、わかる部分とわからない部分、自分にとって見える部分と見えない部分を明らかにしていきたい。私が戦争阻止に必死なのは、誰のためでもない、自分のためだ。自分が気づいたこと、自分が見たこと、いま、こんな

にもひしひしと感じている戦争の危機に、私の言えることは、私のできる方法の範囲にせよ、行動することを怠ったとしたら、私は自分が許せなくなるだろう。私の理由はそれだけだ。

＊

こんなことを、私は、あの人たちと話し合いたい。約束の時間をつくるためには、働く女は眠る時間を削るほかない。しかし、眠る時間を削っても、それは大事なことのようには私には思われる。それこそは、私にとっての反戦運動にはかな

らないから。  
多数者は少数者を異端としてきた。状況の見えない者もまた互いに異端視し合った人間の長い歴史。恐怖や脅威は、異端者の存在と無関係ではない。同じ女でありながら、異端視するほど無益で不幸なことはあるまい。  
通じるか通じないか、心をこめて話すことから始めてみたい。こちら側の状況を話すとき、向こうの状況も話されるだろう。そして私がまだ見ていない、見きっていないことが、少しずつ見えてくるのではないだろうか。

△あごらVでは、女が真剣に生きようとするとき、その行く手に立ちちはだかる問題を考え合っています。

△あごらVには規則はありませんが、運動の原則としては、次のようなことを掲げています。

## 女の問題を共に考える

### △あごらV

- 1 自分も他人もかけがえのない存在として尊重し、人権を侵害するあらゆる差別・戦争・公害に反対する。
- 2 イデオロギーを先行させず、現実根ざし、地域に密着した運動を行なう。
- 3 個人の意識変革を中心に、着実で持続的な運動を。
- 4 ゆるやかな連帯。ゆるやかな方向性。
- 5 「人はすべて可能性を持つ」を信条に、女性の可能性の開花に力をつけ、社会的活動と結びつける。
- 6 フェミニズム運動の中で、特に情報部門を専門的に受け持つ。

7 どの政党・どの企業・どの団体とも関係なく、自主独立を続ける。

8 会費・基金および事業収益を資金とする。

9 会員は、自分の状況と、さき得る時間や力に応じて運動する。絵を描く人は絵を、歌を歌う人は歌を……病床からでも参加できる運動が基本。

10 どの部門にも「長」は置かない。運営の最終責任は、運営会議とする。

現在、『あごら』『あごらミニ』を発行するほか、読書室・可能性教室・創造力の銀行などを運営しています。産業社会への窓口としてはABOCVを設け、女性の創造力の売り込みや出版活動などを行っています。活動は、北海道から九州まで十三の拠点が軸です。





女たちは！

ことしも八月十五日、渋谷ハチ公前で、女たちは声をかぎり叫び続けた。十時から七時まで、入れ替わり立ち替わり、声をかぎりの女だけのマラソン演説会に、ことしも右翼の妨害は激しかった。

女たちは反戦歌を歌い、手話で「戦争反対」を示し、徹底的な平和方式で妨害とたたかった。

戦争への道を！

ことしの右翼は発煙筒を焚き、空き缶を投げ  
竹ざおでつくなどのの  
いやがらせもしたが、ついに立ち去つた。

野次・妨害にかき消された当日の録音テープを必死に聞きとり、その一部をここに再録する。多くの発言のうち、再録不可能だったものも多いことをおわびしたい。

許さない！



吉武輝子（評論家）これから、戦争への道を許さない女たちの連絡会の九時間にわたるマラソン演説会を行いたいと考えます。

昨年の八月十五日、この同じ場所です。次々に女ばかりの演説会を行いました。次々にマイクを握って、自民党政府のあからさまな戦争準備に対する怒りを、自らの言葉で語り続けました。そしてこの反戦のかがり火を赤々と燃えかかげた女たちが地域に戻り、さまざまな活動の中で反戦の炎を大きく大きく燃え上がらせてきました。

しかし、日本は一年前と比べてますます政治状況が悪くなっております。地球上の至る所で反戦・反核の行動が広がっているにもかかわらず、破廉恥にも自民党政府は軍事費の増大を図っております。それはとりも直さず戦争の危機が増大するということです。

私たちは今こそ、ストップ・ザ・軍事費という言葉をかかげて、日本の軍事大国化への道を何としても阻まなければなりません。

どうか同じ反戦の志でいらっしやる皆様、反戦の炎を赤々と燃えあがらせるために、この九時間にわたる女たちの反戦マラソン演説会に最後までご参加くださいますよう、心からお願い申し上げます。

紀平梯子（婦人有権者同盟）戦争への道はつぼみどころではなく、実はもうすでに大輪の花が咲き誇り、大きな根がはついていると、私も女は感じております。

今の日本の右傾化・反動化・軍国化というものは、今から三十二年前にすでにはっきり始まっていると自覚致します。朝鮮戦争のぼつ発がそれでした。その朝鮮特需で、日本が経済的繁栄をはからず進むなかで、日本の右傾化はたちまち進みました。

攻撃ができる軍隊を持つための憲法九条の改悪、家族制度復活をもくろむ民法の改悪の動き等、昨日、今日、始まったわけではありません。もちろん右傾化がひどくなったのは五十五年のダブル選挙後、一昨年からです。

それは、今までずっと憲法調査会等で燦然しへきた自民党の考え方、つまり、日本の再武装——専守防衛ではなく攻撃能力を持つ軍隊をはっきり憲法の上に位置づけろという、軍国主義化をめざした考え方が中心点だと思えます。すべての事はこのサイクルで回っています。靖国神社法、きょうも総理をはじめ閣僚が参拝しているではありませんか。そして教科書問題でもそうです。

加えて、選挙法改悪をついに実現、これを

通して自分たちのやりたい憲法改悪の道にひたすら邁進しているわけです。つぼみどころかもう百花繚乱、軍国主義の花が開いているではありませんか。

婦人も戦後、参政権を持つことができるようになりました。しかし、過去三十六年間、私たちは日々の暮らしの中で平和・民主・人権・憲法を守るために参政権を有効に使ってきたでしょうか。女は平和を守る権利が誰よりもあるということを想い起こしていただいて、婦人参政権の上に眠ってはいはならないということを、きょう、終戦記念日に訴えたいと思います。

来年は三つの選挙があるといわれます。手紙を書き、電話をかけ、皆様の声を政治に反映させていただきたいと思えます。政治に参加し、政策を変えていこうという意気込みを持って私たちの幸福を守っていただきたいと思えます。平和は座って待っているだけでは手に入りません。

天野りえ（忍草母の会）私どもは戦後三十七年間、北富士での米軍の軍事演習をやめさせるため闘って参りました。私たちは現在、生活の場の八割を演習用地に取られてしまつて

います。そこでは、米軍と自衛隊が一緒にな  
って戦争さながらのものとすごい訓練をやつて  
いるために、土地田畑はものすごく荒らされ  
てしまっています。

富士山は、皆さんの平和のシンボルです。  
その富士の裾野でなぜあのような演習をやる  
必要があるのでしょうか。

私たちは絶対に戦争を繰り返さないため  
に、座り込みを始めて十五年になりますが、  
皆さんも一度、北富士演習場で何が行なわれ  
ているかご自分の目で見て来ていただきたい  
と思います。十月五日は、北富士演習場のド  
真ん中で、忍草母の会の主催で、日米合同演  
習粉碎、軍用道路反対の集会を行ないます。  
ぜひご家族と一緒に遊びかたがた、一度その  
目で、その体で、現状を知っていただきたい  
のです。そして、私たちと一緒に、平和の富  
士を取り戻すために立ちあがっていただきたい  
と思います。私たちはこの先何年かからう  
と、生命のある限り、体を張って闘い続ける  
ことを表明します。

中村紀伊（主婦連副会長） 私は、渋谷駅頭  
で、物価値上げ反対、一般消費税導入反対、  
ストップ・ザ・汚職議員、公選法改悪反対な

ど、いろいろな問題を訴え続けてきましたが、  
八月十五日はいつも、この日だけは家にいて、  
一人心中であの恐ろしかった戦争を思い返  
し、反戦の誓いを心にしみわたらせるように  
してきました。

しかしきょうは、何かもう、やむにやまれぬ  
気持ち。このままにしていたらとてもない  
ことになる、もう待てない、どうしても出て  
こなくては行かない、という気持ちで参り  
ました。

この下にある戦災の写真を見ますと、大き  
な空襲があるたびに町角で黒こげの死体を見  
て、家族ではないか、友達ではないか、と顔  
を見たことを思い出します。それが再現され  
そうな今、八十八歳の私の母、奥むめをは、  
女たちはなぜもつと怒らないのか、と毎日申  
します。

今日の自民党内閣のあの傍若無人、全国区  
を改正して、戦争に反対する無所属を締め出  
す横暴に、なぜだまっているのかと。私も、  
だまっておれないと思います。いま私たち  
が立ち上がらなければ元の道に逆戻りする。  
手紙を書こう、呼びかけよう、と思います。

私は先日、ニューヨークのあの百万人デモ  
に参加して参りました。町中の人々、子ども

も年寄りも若者も、そして婦人たち、すべて  
が自発的に集まって、反戦のデモを行なう。  
あのすばらしいデモに参加して、こうでなく  
てはいけなののだ、一部の者たちの声ではな  
く、みんなの声にならなくてはいけないのだ、  
と痛感致しました。

いろいろな集会で、婦人たちの集まりで、  
日本人は核兵器に反対してこんなにたくさん  
ニューヨークにやってきている。そして、た  
くさんの署名を持ってきた。けれども日本の  
国内ではレーガンの言いなりになって、軍事  
費の増大を許しているではないか。あなたた  
ちはこれに対してどう抵抗しているのか、  
と、いろいろと質問を受けました。

私は本当にそうだと思いました。日本に帰  
ったら、署名して下さった方々に、今の日本の  
政府のあり方、軍事費だけを突出させて、福  
祉や文教を切り捨てていく政治のあり方を国  
民の手で正すことこそ、私たちの平和運動の  
一歩だということを訴えようと思いました。

八月十五日だけが戦争反対の声を上げる日  
ではない。きょうがスタートの日として、お  
隣の方、お向かいの方、一人一人と、私たち  
の一票で政治を変え、私たち女性の怒りを結集  
してそのエネルギーで政治を変え、平和な日

本を築くため闘うことを誓います。

儀 萌子（中野区教育委員） きょうは、戦争を知らない方のがずっと多いので、私の一番悲しかった話をしたいと思います。

三十七年前の話で、私は十四歳の少女でした。家族はバラバラに住まざるを得ない状態で、私はその時、大阪と京都の間にある高槻という所に住んでいました。

六月七日のことでした。その日も朝から空襲があつて、避難した山の上からはるか大阪のあたりに、もうもうたる煙が上がっています。けれどもその時私は、それが私の家を焼いている煙だとはわかりませんでした。

翌日先生に「お家があるかどうか、お父さんとお母さんが生きているかどうか見て下さい」と言われて、見わたす限り焼け野原となつた大阪に帰りました。

このあたりかなと見当をつけて歩いている私を友達が見つけてかけ寄ってきて、こう言いました。「萌ちゃん、あなたのお家も私のお家もないのよ」と泣きました。

焼け跡にヨレヨレになつた父と母が立っていました。私はまるで映画の一コマのように両親に飛びついて、涙、涙、涙だけがありま

した。

家族は無事でしたが、かわいがっていた私のネコは焼け死んでいました。「ネコは家につくつていうけど、本当だね。逃げもせず真っ黒になつて死んでいたよ」「萌子が植えた柿の木の下に、スルメと一緒に埋めてやつたから、お参りしておやり」と母。私は焼けた柿の木の下にうずくまつて、声を限りに泣きました。

何時間くらい泣いたでしょうか。ふと目をあげると、私のコンサイスが、まだブスブスと煙をあげながら燃えています。風に吹かれるたびに、ひらひらと飛んでいきました。焼けたコンサイスは活字が、写真のネガのように、黒い字の部分が白く、白い紙の部分が黒くなるのですね。戦争で勉強することも奪われていた日々ですけれども、いつかは読めると思つていたのに……。

コンサイスが風に散つたあの日のことは三十七年経つた今も忘れられません。そういう悲しいことを、二度と、二度と子どもたちに経験させたくないと思つて、昨年から中野区教育委員になりました。一生懸命頑張つてゐるんですけど、ひとつ皆さんに知ってもらいたいことがあります。

今、見事なまでに教育は中央集権化されて、教育委員の私には、教科書検定に反対する力も、それに対して意見を言う仕組みも何もないのです。教科書を選択する権利も先生方を選ぶ権利も、例えば戦争について広島・原爆記念館に修学旅行に連れていきたいというカリキュラム作成の権利も何一つないという現状に私は驚いています。

どうか皆さん、民主主義を学び、自分たちの子どもに本當によい教育をしてやるためにも、また、外国が怒る教科書を作らないためにも、教育の地方自治というものに目を開いていただきたい。その突破口を開いた準公選の中野の後に皆さんに続いていただきたいと思ひます。

山崎朋子（作家） 私は日本とアジアの社会の底辺社会で生きた女の人たちの足跡を、少しでもとめておこうという仕事をしていきます。

八月十五日がきて、真つ先に私の目の裏に浮かびましたのは、四年前の秋、中国の農村で出会った一人のおばあさんの顔でした。

招かれて訪中した最後の目になりました、働いている人たちの本當の気持ちはどうい

ものであろうかと……。 (右翼の激しい野次と怒号で妨害、中断、「共産党、共産主義者」などのしる声)

司会 私たちは戦争という暴力に対して戦いをいどんでいる。そして私たちは暴力に対して非暴力という新しい、独自の表現方法で、反戦の声をいつまでも、いつまでも、声高く上げていきたいと思えます。吉岡しげみさんの反戦の歌に切り替えさせていただきます。

私が一番きれいだった時 回りの人たちがたくさん死んだ 工場で海で名も無い島で私はおしゃれのきつかけを落としてしまった

私が一番きれいだった時 誰もやさしい贈り物をささげてくれなかった 男たちは鉄のように立ち上がって きれいな話だけを残して皆去っていった。

私が一番きれいだった時 私の国は戦争をやった そんなバカなことであるものか

私が一番きれいだった時 私はとても不幸

福 私はそして楽器を作った 私はめつばう淋しかった

だから決めた できれば長生きすることに年とってからひどく美しい絵を書いた フランスのルオーおじさんのように

司会 今度はみんなで歌いましょう!

我らゆるがず 我らゆるがず

水辺に立てる木の如く 我らゆるがず 戦争は許さず 戦争は許さず

岸辺に立てる木の如く 我らゆるがず 憲法改悪許さず 憲法改悪許さず

岸辺に立てる木の如く 我らゆるがず 核兵器は許さず 核兵器は許さず

岸辺に立てる木の如く 我らゆるがず

山崎 このように力の弱い臆病な私ですら、二、三年前から講演をしに行きます時に、必ず右翼の方から脅迫状がきて、会場を爆破するという脅しをかけてきます。

そのような事態にもう日本は来てるんだということを実感いたします。最近、ますますひどくなっております。ということ、ここ

にお集まりの皆様一人一人の所に、自由にモノを言うなという圧力が足もとにまでしびよっているということです。一人の自由が奪われる時には万人の自由が奪われるその先ぶれであると、ぜひお考えいただきたい。

さて、四年前の秋、私は中国を訪れました。泥にまみれ、はだして働く農民を見て、民衆の本当の気持ちを聞きたいと言いました。すると、一人のお婆さんが、「お前は本当に聞きたいのか」と言う。「本当に聞きたい」「本

当にいいのか」「本当にいい」「何を聞いても怒らないか」——固い握手をして、お婆さんは、やっと話しました。「私たちの村は、一九三七年の十一月に掠奪された。女という女は、臨月の女まで裸にされ、何十回も犯された。日本兵は腹から胎児を取り出し、銃剣の先に突き刺して村を行進し、村に火をつけて焼いた」と、大地を叩き叩き、はらわたが噴き出すように号泣しました。

その場にいた村の人びとは、子どもに至るまでその話をよく知っていて、知らないのは私たち日本人だけだと痛感しました。

私は日本人の一人として、日本民族の民衆としての誇りとその責任において、日本人の犯したかつてないほどの侵略行為を知るこ

と、まず知ることから始めなければならないと考えたのです。無知ということはほど罪悪はないと考えます。

中国との国交を回復して十年になると申しますが、私も民衆とアジアの民衆との国交回復はまだ行なわれていないとあえて言いたいのです。歴史を知り、二度と誤ちを犯さないという精一杯の反省に基づき、民衆の意志と自覚と責任において、真の国交回復の一步を踏みだすこと。それが私たち民衆の誇り、民衆の道であり、それが死者をとむらうことである。生き残っているものには五歳の子でもその責任があると申し上げたいのです。

十返千鶴子（評論家） 私は敗戦の日には二十三歳でございました。ちょうど十代の終わりから、二十代の初めを戦争のさ中に過ごしました。その頃は、女の発言のすべてを許さないという時代でしたけれど、その当時、私たちに何ができるかということをつくづく考えながら過ごしておりました。

その時は、ただ女というものは子どもを産んで、その子どもを国に捧げればよいという、いわゆる「産めよ、増やせよ」、そして「銃後の勤め」という言葉には何かうさん臭いも

のを感じながら過ごして参りました。しかしそのうさん臭さというものが何であるかということは、その時の私にはとうていわからなかったのでございます。

そして、戦後三十数年の間にそのうさん臭さとは何であったのかということを次第に学んで参りました。何のために子どもを産むのか、何のために闘うのかということを読んで参りまして、きょう出て参りました。

そしてこれから何をすれば良いのかは、今まで、皆様方が話されましたように、私たちは女性に戦争に反対し、静かな闘いとして平和を守っていくということであります。そちらのはうで、ずいぶん声高らかに、「共産党／＼」「ババア帰れ／＼」とか聞き苦しい野次を飛ばす方が大勢おられますが、日本の、そして世界の人間として、誰が戦争を好みましようか。平和は大声でわめきちらすものではないのです。どんなにわめかれようとも、私たちはだまって、静かに、最後までこの集会を続けましよう。（右翼の／＼君が代が流し、妨害は一段とひどくなる）

下重暁子（タレント） たいへん聞きたくない歌が流れて参りました。とてもにぎやかに

なつてきて、私の話は多分お聞き取りにされないのではないかと思いますけれど、ああいうものには負けないという決意を持って聞いていただきたいと思っています。

最近、ふしぎに思いますのは、教科書の問題に致しまして、ロッキードの問題でもそうなんです、日本という国は、何か外国から言われて初めて、アタフタと気がつくのかなど、たいへん情けない気がしてなりません。

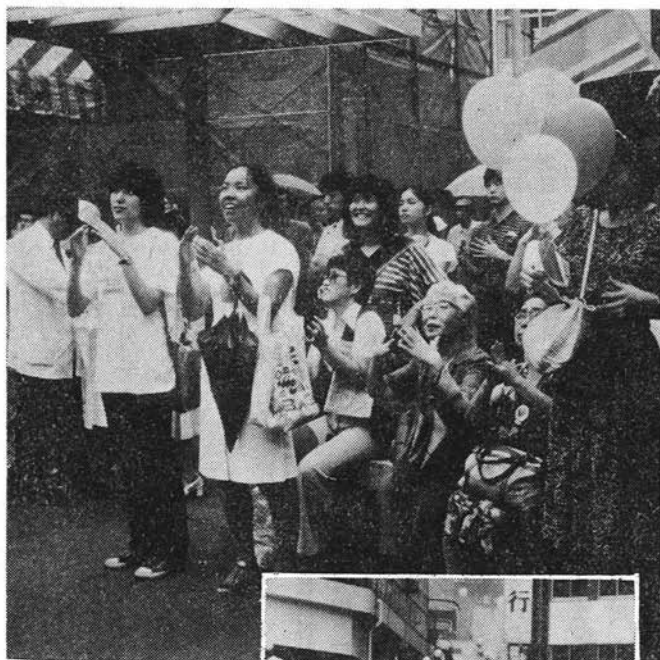
ロッキードの時は、アメリカから言われてはじめてわかったし、今度の教科書問題では、中国や韓国で抗議の声が上がってはじめて日本の政府は気がついた。あるいは気がついたふりをする、ということですね。

本当に、あの戦争が間違っていたという気持ちがあったら、なぜ自然に日本の中から、もちろん政府だけでなく、私たち一人一人の中から声が上がらないのでしょうか。外国から言われて訂正するということではなくて、自国の内側からなぜ声が上がらないのでしょうか。それをもっと深刻に考えるべきです。

なぜそういうふうになってしまったのかという、やはり、あの戦争が誤りではなかったと思っている人たちがかなりいるということだと思えます。

私たちの人生の中でも、仕事の上であるいは恋愛で、本当にいけないと気がついたことは、二度と同じ間違いを繰り返さないはずです。そうでなく、あれは大したことではなかったといいかげんに考えて、ごまかして、認めたくないという風潮が現在の日本をおおっ

ていないか。きょう、敗戦の日にもう一度考えてみていただきたいと思います。  
 こういうふうに考えますのは、私の父がエリート職業軍人であったからです。私は子として、やはり父を愛しておりますから、その父が、中国での戦争で何をしたかと考える



手話で対抗



妨害する右翼

のは苦痛ですが、それを考えることが戦争を考えることであり、二度と同じ誤ちを繰り返さないことになると思うからです。

敗戦の翌日、父は大変な荷物と一緒に戻って参りました。それは全部軍の機密書類だったのですが、毎日毎日それを焼いている、父の厳しい悔悟の後姿をよく覚えております。

その時点で父は、確かに戦争は間違いであったと考えたと思います。ところが、だんだん日本が元に戻っていくのと同じような速度で、父もだんだん昔の考え方に戻っていくのを感じて、たいへんガッカリ致しました。それは、やはりあれは誤ちではなかったと、どこかで思ってたせいでと思うのです。それは父自身の考えだけでなく、私も含めて皆様方の心の中にもあるのではないかと考えます。

ですから、きょうの敗戦記念日は、ぜひもう一度一人一人の心の中をみつめ直し、戦争の誤ちをキッチリと認識して、おかしいと思ったことには勇気をもって声をあげていく、そのようなスタートの日にしたいと思います。

河野貴代美（カウンセラー） 私も平和を守りたい、守るべきだと思います。そのためには、いま下重さんがおっしゃったように、お

かしいな、と思ったときはすぐ声をあげ、行動に移すべきだと思います。

ニューヨークの反核デモは、五十万とも百万ともいわれるほどのものでしたが、アメリカ人の友人に、「一人でも入っていくか」と聞きますと、「入っていく」という答えでした。日本では、組織に属さない人は、なかなか入っていくかない。しかし、あきらめたり、ためらっている間に既成事実がつくられていきます。シマッタと思うときは、もうおそい。平和とは何かということ、一人一人が考え、自分の意志で参加することが大切ではないでしょうか。

青木やよい（評論家） 私は二十年前から反戦運動をやり、原爆の悲惨さを海外に知らせたりしていました。だんだんむなしくなり、エコロジの運動のほうに移りました。公害食品を食べると、私のからだは大変なアレルギー反応を起こします。私のからだがいやになったとき、戦争を拒否するのではないかと思うようになったのです。（妨害激しく、聞きたれず）

駒野陽子（教師） 去年は教育の問題をアビ

ールしましたが、去年からの一年間に戦争への足音はドカドカと音立てながら近づきました。教育がどんなに抑圧されてきたか、国民がどんなに管理されるようになったか、私たちの平和憲法を改正する準備がどんなに着々とすめられたか、皆さんお感じになつていると思います。私たちがどんなに抗議し、どんなに声をあげてもふみにじられていくなかで、今また教科書が書き替えられた。しかも残念ながら外国の抗議によつてはじめて問題化したのに、逃げ回って何一つ対応しようとしな。こういうなかで私たちが予想した以上に戦争へ向かつての速度を早めているように思われます。こういう一連の動きの中で、世の中がどう変わるかを、ぜひ一度考えてみてください。この一年間に、右傾化がどれほど進んだか。考えたり、知るだけでなく、私たち一人一人が、自分のかかわるところで戦争への道を許さない断固たる行動をとらなければ戦争は起こるでしょう。

近藤悠子（婦人民主クラブ書記長） 教科書から原爆の図が削除されたことに、私たちは怒り、八月四日、文部省に抗議しましたが、対応が実に悪い。政府当局は、国内は無関心

だ、ちっとも何も言っていないかと言っている。ハガキでも、電話でも、直接的に抗議しましょう。無名の女たちからたくさん抗議が届けば、少しは耳を傾けるでしょう。ぜひ実行していただきたいと思います。

牧瀬菊枝（作家） 皆さんご存じかどうか、治安維持法という法律がありました。これは日本を戦争へ向けた法律であると思います。

治安維持法は、初めは天皇制を否定する者を罰する法律でしたが、共産党を弾圧したのち、一九三〇年になつてしま。政府に反対する者を弾圧する法になつてしま。予防拘禁所という拘置所ができて、何にもしなくても、政府が目をつけた人たちは全部拘置所に入れ、そしてあの大きな戦争へどんどん進んでいったわけでございます。私はこの目でそれを全部見て参りました。

その状況に、今はたいへん似ている。それを大声で申し上げたいと思います。若い方たちにはおわかりになりにくいかもしれませんが、どうかはつきりと状況を見て、がんばってくださいね。

古賀道子（殺したくない殺されたくない反戦



平和の会) 八月十五日になると、思いだしたように反戦や平和という言葉が巷に流れます。あまつさえ政府は、八月十五日を戦没者の霊に祈り平和を祈念する日としました。

しかし私たちは、すべての戦争犠牲者の死を悼むという立場から、日本人戦没者の目を設ける政府の決定を、平和に名を借りたごまかしであると考えます。たとえ政府が何百回反戦と言おうが、平和と言おうが、自分たちが犯した侵略戦争を帳消しにすることはできない。償うことにはならないと思います。私たちは、彼らに、「反戦だ、平和だ、と口にする資格はないと思います。

昨日、開催されました、「殺したくない殺されたくない反戦平和の集会」に集まった人たちの大多数が二十代前半の若者です。

私たちは、かつての戦争の直接の担い手ではありません。しかし、新たな反動化の道が開かれんとしているこの事実に対しては、全般の責任を負うと自覚する者です。

人類の歴史は戦争と殺りくの繰り返しでしたが、この時代を終わらせ、すべての人類の平和の実現を心から願ひ、役立っていきたいと思います。

飯島春子(消費者運動家) (妨害激しく全く聞きとれず)

宮本なおみ(地域活動家) 私たち平和を願う女たちは、あの激しい野次、右翼を、必ずや圧倒するであろうということを証明したいと思っています。

公選法が改悪され、私たち一人一人が候補者を選ぶという基本的な権利が、私たちの手の届かないところで奪われました。いま、私たち国民は、国会の中で何がやられているのか全く知らされていないことが原因だと思っています。戦争への道もどのようにつくられているのか全くわかりません。犯罪人の人権を奪う法律も上程されましたが、山崎朋子さんの話のとおり、一人の自由、一人の人権が奪われるとき戦争につながる。差別を許すことはイコール侵略につながることを銘記したいと思っています。

司会 妨害がまた激しくなりました。これからしばらく、歌を、声の限り、私たちの反戦の思いを託して歌い続けましょう。顔をあげて、胸を張って、しっかり歌ってください。手をつないで、力強く歌ってください。

我らゆるがず 我らゆるがず  
水辺に立てる木の如く 我らゆるがず  
戦争は許さず 戦争は許さず

岸辺に立てる木の如く 我らゆるがず  
憲法改悪許さず 憲法改悪許さず

岸辺に立てる木の如く 我らゆるがず  
核兵器は許さず 核兵器は許さず

岸辺に立てる木の如く 我らゆるがず

司会 声を通りません。手話のシェブレイコールを続けたいと思います(「平和とは静かなことです」の垂れ幕下がる。一同一斉に立ち上がり、「戦争反対」「戦争反対」「女たちは戦争への道を許しません」の手話を続ける)。

金子みつ(衆議院議員) 今日(八月十五日)は敗戦の日です。日本が戦争に敗けた日です。そして戦争が終わった日です。

私たちはけさ、小平市の無名戦士のお墓の前で、二度と再びこのようなおそろしい戦争はいたしません、ということ誓って参りました。社会党の飛鳥田委員長をはじめとして、大勢の方々がそれぞれ誓いの言葉を述べまし

て、戦争をしないために、軍縮をすすめ、平和を作り出していくことのために闘いますということを誓いました。

戦争は政治の変った形だという人がいます、そんなことを言う人は、その政治が間違っているからだということに気がつかないでいるのです。何も、武力でもって外国と交渉しなくても、話し合いでいくらでも外交はできます。

私たちは平和外交を願っています。話し合いをして、どこの国とも仲良くおつき合いをすることによって、世界の平和を作ろう。これが私たちの願いなのです。（妨害激しく中止。ふたたび手話によるアピールを繰り返す）

小泉美代（三里塚同盟） 私は、三里塚に行くことによって、いろいろな人に出会い、多くのことを知りました。

三里塚で大木よねというおばあちゃんに会いました。権力はおばあちゃんが住んでいるのを無視して、おばあちゃんの家を取り壊しました。

東山かおる君は、闘いの中で権力によって殺されました。

三里塚に住むことによって権力というもの

の本当の姿を見ることができました。権力というものは、もし私たちが黙っていたならば、まっしぐらに戦争への道を進んでいくものだということをハッキリ知りました。

私は三里塚にいて、日本全国の闘う仲間たちや、世界中の闘う仲間たちをたくさん知ることができました。

特に、アジアの人たちや南太平洋の人たちが訪ねてくれました。私は、アジアや南太平洋の人たちが、日本の政府によってどれほど苦しめられているかというのをほとんど知らずにいました。そのことを彼らにいろいろ聞かされて、戦争時代の侵略にも勝るとも劣らないたいへん恐ろしいことが今なお行なわれているという話を聞いた時、私たちが政府と話し合って空港問題を解決すること、これはあり得ないと思いました。

アジアに対してやっていること、日々三里塚の私たちに對して権力のやっていることを見れば、私たちの代表としての政府などでは絶対ないと思います。本当に何をするかわからない。私たちがアジアの人たちのことを人間と思っていない。本当に黙ってはいけません。

私たちは、空港を廃港に追い込む闘いを通

して、皆さんと手を取り合いながら戦争反対の道を闘っていきたいと思います。

石井のり子（三里塚同盟） 私は、三里塚の農家に嫁いで八年になります。婦人行動隊にも入らなかったし、青年行動隊でもないし、現地の集会に行くのが精一杯という状態だったのですが、きょう、ここに闘う多くの皆さんの集会に出させていただけるようになったことを大変うれしく思っております。

右翼の妨害がものすごいのにびっくりしましたけれども、三里塚では、子供を保育園に送っていくのでさえ機動隊が毎朝検問をし、畑に行くのでさえ機動隊が取り囲んで、ひどい時には車から引きずり出して、全くのあらん限りの暴行を働いています。

現在三里塚の状態というのは、いろいろな問題が起こり、ジワジワとからめとられてくるような状態になっています。いま何が本当に必要なのか、それを皆で考える時期、日常的な農業のあり方、暮らし方などを三里塚において問い返す時期が来たのではないかと、日夜考えています。

三里塚同盟は反戦を貫き、平和を願う方々と共にいつも前進することを考えています。

どんなに妨害されても、権力に対しても、右翼に対しても、自分たちがやってきたことを最後まで貫いてゆくこと、それが最後に勝利を呼ぶことだと思ひます。

右翼が大声で妨害してくるならフェアに闘いましょう。私たちは権力が岩山の鉄塔を倒せば、そこに座り込んで闘いました。一つの道がふさがれても、まだそのそばの道があります。最後まで共に闘いましょう。

司会 いま住井す多さんから、「牛久沼のほとりにはじめて反戦グループができました」という連絡が入りました。続いて中山千夏さんから、「参加できなくて大変残念」と、メッセージが入りました。

(中山) 第二次世界大戦の引き金となった日本帝国の中国に対する戦争は「侵略」であったか「進出」であったか、いま盛んに議論されています。

そこでおもしろく思うのは、日本帝国のイメージをよくしようとしている人でさえ「進出」という言葉を持ち出すのがせいぜいで、さすがに「防衛」とは言わないことです。

ところが、当時、政府や軍が発表した文書

には、防衛のためにやむを得ず戦争しなければならぬのだと度々書かれていました。それが侵略か否かは別として、少なくとも防衛ではなかったという事実を知っている我われから見れば、こっけいな気がするけれど、当時の日本人には、防衛のための戦争なんだという気が確かにあったわけです。この事実には、私たちに、大変よい教訓を与えているのではないでしようか。

いま、政府自民党は第二次世界大戦を二度と繰り返してはならないと言い、あの戦争を防衛とは言えません。しかし、防衛のために軍備拡張が必要なのだと主張し、実行しています。

つまり、防衛のためには戦争をするのだという事です。これでは第二次大戦に突入していった日本帝国の姿勢と少しも変わらないではありませんか。

どんなに悪質な帝国主義でも、こちらから攻めてやるとか、侵略してやるとか絶対に言いはしません。いつも相手が悪いから、防衛のためにやむを得ず戦争をするのだから必ず言います。いわば戦争とは、どれもこれも、当事者に言わせれば、防衛のための正しい戦争なのです。だから本当に戦争を二度と繰り返さ

ないつもりなら、防衛のための戦争をも拒否しなければならぬと強く思います。

我われは、経費を、生活費を切りつめて軍事費を増やし、もっと攻撃力のある兵器をたくさん持つべきなのではないか。それとも憲法どおり一切の軍備を捨て、世界に反戦の決意と範を示し、信頼と誠意に基づく外交によって真の平和を求める努力をすべきでしようか。正解は明らかだと思ひます。

もう一度言ひます。戦争はすべて、当事者に言わせれば防衛のための戦争です。防衛のための軍備とは、すべて戦争のための軍備です。この事実をしっかりと見すえて、平和への道を勇気をもって選択しましょう。愛する友人と、そして子どもたちのために。

水沢耶奈(婦人民主クラブ) さっきから右翼が何を言ってるのかと耳をそばだてていましたら、「掃除や洗たくをしていればいいものを、女が嬌声をあげて戦争反対だなんて何を言ってるんだ、このバカ者!」、こんなことを言っておりまして。妨害のための妨害でござります。右翼の考え方を皆さんに知ってもらおうということではなくて、マラソン演説をただ妨害すればよい、という態度だと思ひ

ます。ワァワァ言ってるときは、私たちは手話で対抗しましたが、どんなことがあろうとも、私たちの考え方、私たちの行動によって対抗する、これが今後の大きな仕事だと思えます。

ことしの八月十五日は、昨年とは少しちがいます。ご存じのように、アジアの国々から日本の加害性をハッキリと糾弾されました。私たちが原爆を受けたのは、私たちが加害者だったからだという点をしっかり押さえまさんと、今後の平和運動はできません。国家、政府だけでなく、普通に暮らしている私たち自身、いま豊かな生活を送っている私たち自身の中に加害性を見なければいけない時期に来たと思います。日常的に隣近所にも声をかけて、じつくりと運動をすすめましょう。

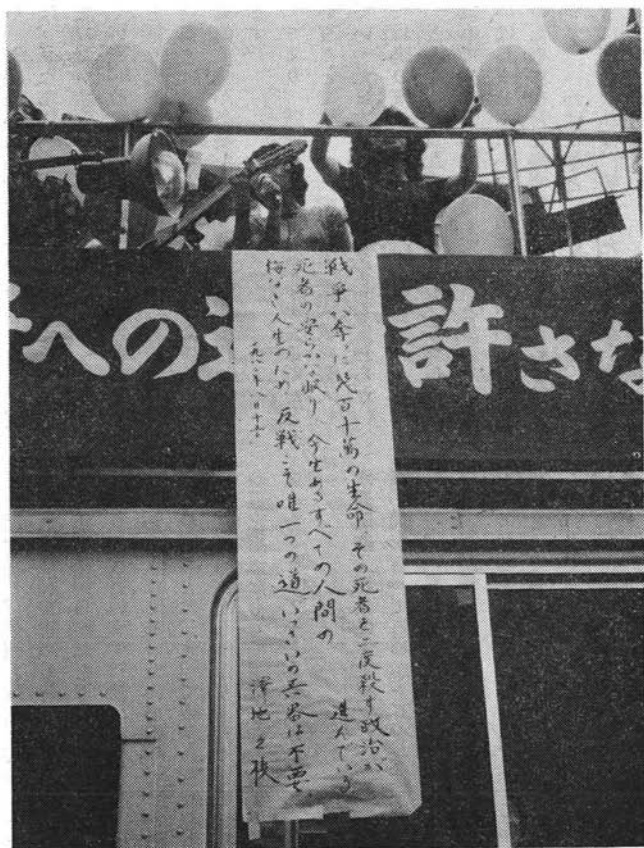
(右翼、ようやく退散)

沢地久枝(作家) 去年の八月十五日よりもからだの具合が悪くなったうえ、高いところに上がりますと、持病があつてこわいのです

が、やむにやまれず上がって参りました。いまここにいらしたばかりの方はご存じないけれども、つい五、六分前までは、この周囲に右翼の装甲車があつて、歌声すら耳にで

きないほどでした。それだけでなく、竹ざおでつこうとした車もあるし、発煙筒も投げ込まれました。ついに投げるものがなくなつて、君が代を歌っていた人たちが投げた武器がコカコーラの缶であつたというのは、まことに皮肉なことだと思つて見ておりました。

私は血の気が多いのかもしれませんが、見ていて本当に腹が立つて、心臓が引き裂かれるような思いがしました。私たちは一切の軍事力を放棄し、国としての交戦権を棄てた国の国民です。まだ現在、私たちの国の憲法は生きております。恐らくこの憲法だけが、日



沢地さんはスピーチはできないからと、大きな紙にアピールを書いてこられたが……。

本の国内で何百万、攻めていった国に対しては何千万という犠牲者を出したあの戦争によって日本にもたらされた唯一の財産であるだろうと思います。

しかしご存じのように、自民党は今まで党是として掲げていた憲法改悪構想を、具体的な内容として発表するところまでできました。そして福祉予算を切り捨てながら、軍事力は増大の一途をたどっています。もはや我が国は、経済大国であるだけではなくて、軍事大国への道をまっしぐらに進んでいます。まさに、戦争への道の坂を駆け始めたところであると思います。

私たち女が戦争への道を許さないという叫びを上げ続けていることは、強大な国家権力に対して、ささやかな力、ささやかな抵抗でしかないと思うのですが、それですら踏みつぶさなければいられない。それが、一九八二年八月十五日、今日の現実であるということ。私たちはしっかりと心に刻みたいと思います。

しかし、どのように妨害があろうと、どのように弾圧しよう、私たちは戦争にいくことが「なるほど」ともである」という理由をどこにも見出すことができないし、軍備を

増やさなければならぬという理由をどこにも見出すことはできない。

あらゆる場所が国境線であるような島国に誰が攻めてくるでしょうか。何の資源もないこの国を武力占領して、多大な犠牲を払う侵略国がどこにあるでしょうか。私たちはそのようなに恵まれた自然条件のある国に生きているのです。

戦争という手段を排除することの可能な実際条件を私たちの国は持っている。私たちの国に武器は全く要らない。

先程まで発煙筒を投げたり、君が代を歌っているだけの、みにくい姿は、あのただ怒鳴っているだけの、みにくい姿は、あの人たちが追いつめられた末の一種の狂気であることを如実に表わしています。あの人たちは私たちの反戦の声を抹殺するロジックを持たない。ロジックを持たない運動というものは闘い勝つことはありません。

しかし、彼らは言ってみれば誰かの手先になつていふことが、もう一つ悲しいことです。彼らを雇い、使っている人たちは絶対にこの暑い渋谷のハチ公前広場などに姿を現わさない。クラーターの効いた所で悠々としてこの夏を過ごしていることでしょう。そう

いう私たちと敵対する権力の本質というものをしっかりと見すえなければなりません。

いま、ここを通り過ぎていくアベックの方たちもある。私はその人たちの未来が幸福であるように祈らずにはいられません。

しかし、八月十五日のこの日、このささやかな、けれど絶対につぶされまいとしている私たちの声がいさつきまで、どのような暴力によって封殺されようとしていたかということ、ここを通してゆく人たちは心していただきたい。肝に銘じていただきたい。見て聞いたことを、どうぞあなた一人の見聞きにとどめずに、あなたの周囲にいる人たちに伝えてほしい。

私たちはもはや現在のこの既成事実の中ではまさに戦争へあと一歩というところにいる。私はそれが今の政治状況だと思います。本当にいま反対しなければ、私たちは永久に効果的な反対をするチャンスを得ることはないでしょう。事が始まってからでは追いつかないのです。

一人一人の声はか細いし、誰だつてそんなにでっかい勇気の肝玉を持つてゐるわけではないけれど、しかし、戦争はいやだ、何とかして避けたいと皆が心の底で思つてゐるに違

ない。その気持ちを中心の中にしまっておくだけでなく、そばにいる人に声に出して言うこと。それが第一歩だろうと思います。

りっぱな人たちだけでなく、私たちみんなが力を合わせて戦争への道にはつきりノーと言いつけていく限り、どれだけ政治状況が悪くなっても戦争は始められないはずです。なぜならば、今の憲法の下においては私たちが政治を握っているからです。私たちは主権者です。私たちがこの国の政治の主人公であるということをお忘れではないと思います。

私は今日進行している政治、自民党がやっている政治すべてに対してノーと言いたいです。ノーと言う勇氣を自分に課していきます。私の声は小さなものでしかない。でもノーと言う勇氣を自分に課していくことが、きょう私が見聞きした、あのすさまじい暴行、言論の暴行に対する私なりの答えです。

私は小さな声でしかモノが言えないけれども、みんなで声を合わせれば大きな声にもなる。戦争はいやだという私たちの意志を貫けば強力な力になる。そのことを信じなければ生きていく意味はないということまで、私は追いつめられたと思っています。力弱い者がお互いに手をさしのべあい連帯すること

この力を不動のものにしていきたい。その第一歩をきょう踏み出したという気がします。

本田のリ子（反徴兵・反安保連絡センター）  
今まで女は男なみになる、男と同じように強くなるということで男女平等を闘ってきたけれど、男が女と同じように、女なみになることで男女平等を達成するということを考えたらいけないかと思っています。男なみに、というのは男を基準にした考え方で、本質的には譲歩じゃないですか。男が女なみになることで戦争を防げるのではないのでしょうか。

戸石あや子（婦人民主クラブ） 右翼の妨害を見て、皆さんはあんなのが右翼だと思いいなくなったでしょうが、あんなのは気の毒な一番の下っ端、チンピラでございまして、あの人たちの奥の奥のほうに、沢地さんが言われたような権力者が、涼しい顔をして控えている。その人たちの手に、教育から何から全部握られているんです。私は年寄りですが、戦前のことをちょっと申し上げましょう。

今を時めく東京大学、そのころも時めいていましたが、そのOBの会に啓明会というのがあり、東大教授とか財界人とか、そうそ

うたる人たちが全部入ってました。その会長が右翼の大立物、頭山満だったのです。そのこと一つ見ましても、東大がいかに右翼と結びついていたかわかりでしょう。また学生とOBを集めた朱光会というのもありました。その会長が東大名誉教授の平泉澄、日本精神史の重鎮です。右翼の精神面はすべてこのような東大系の学園の人たちが握ってました。美濃部さんのお父さんの達吉博士や大内兵衛さんを牢にぶちこんだのも、そういう権力者たちだったわけです。敗戦を機に、その人たちは戦犯とかその他の呼び名で肩をすくめて逃げましたけれども、朝鮮戦争が始まった一九五〇年には復活しています。一九五五年の選挙では返り咲いている。それから三十年、その人たちは着々と文部省工作を始めました。日教組はそれに全力をあげて抵抗して参りましたが、一般の皆様方のお力ぞえがいくらか足りなかったせいでしょか。五七年、教育二法案が通り、それまでは公選制だった教育委員が、みんな天下りになってしまいました。俵さんが、教育委員になってみたけれど、ろくなことができないというのは、そのためなんです。

次が勤評闘争。もう身動きがとれません。

その次が主任制闘争。これも敗れまして、今ではもう身ぐるみ、文部省、教育委員会、校長にがんじがらめにされています。

今回の教科書検定、侵略を進出と書き替えたのは時野谷滋。これは東大の朱光会の人です。教科書調査会の中にはすでに東大の右翼の人たちの手が全部及んでおります。また悪名高い村尾二郎調査官、この右翼系の人十九年間も教科書検定にらつ腕をふるってきたのです。

こう考えますと、文部省の教育と右翼がどんなに深くかかわってきたか。チンピラ右翼などより、こっちはほうがいかに恐ろしいかわかりと思います。愛知県の公立高校では軍事教練をすでに始め、一人の女子生徒が四階の窓から投身自殺しております。私たちの子どもが、もう、そんな目に会わされているのです。

来年の選挙で、右翼の勢力を抱えこんだ党が勝ちますなら、その次はまっすく戦争に続きます。来年の選挙にそのような党に政権を二度と渡さないために、闘いぬきましょう。

安城武子（草の実会） 草の実会は、沢地さんが言われたような細かい力しか持ち合わせ

ていません。ここにいらつしやる方の中にもそういう方がたくさんいらつしやると思います。さて先程から右翼のすさまじい妨害を見ておりますと、戦争中、鬼畜米英、鬼畜米英、と叫んでいた姿を見るようで、たまらなかつたのです。戦争中、言論の自由は圧迫されてついに戦争遂行にまで持っていかれた。八月十五日に、私は、それまでの自分は火がついた人間だったと気づき、今日までただただ平和を願ひ続けて参りました。

ここにいらつしやる若い方々は、人間の自然状態がどういうものかご存じでしょうか。平和なときは赤ちゃんのいのちを守るためにみんなが力を合わせる、そのやさしい人たちが、戦争の中にいるうちに、いのちを奪うことが平気になる。人間は加害者になりうるのだということを、平和な時によく考えておいていただきたい。

軍備は人のいのちを守るものではなく、戦争にひきずりこむものだということを、あの戦争を体験された方々は皆さん覚えていらつしやると思います。戦前、私たち女は声を出すことができませんでしたが、今は主権者です。声が出せるのです。たった一人でも主権者なのだと、どうか思い出して

ださい。

徴兵は命かけてもはばむべし 母 祖母  
おみな年に満つるとも——これは私たち草の実会の会員の歌です。八月七日、彼女は最後まで反戦を戦い抜いて亡くなりました。私たち草の実会は全員彼女の死を超えて、遺志を受け継いでいきたいと思っています。

徴兵は命かけてもはばむべし  
母 祖母 女 年に満つるとも

和氣文子（日本婦人会議） 私は戦争で兄を失っております。兄は齒科医専に行っておりましたがミンダナオ島で戦病死しました。もちろん結婚することもないまま、南の島で散ったのです。私たち一人一人がそういう歴史を持つと同時に、社会全体がそうした歴史を抱えこんでいます。私たちは国語でも修身でも、あの戦争は聖戦だと教わりました。アジアを幸せにするために、八紘一字の戦いだとか……戦後、本当の歴史が明らかにされたとき、ただただびっくりしました。南京大虐殺、朝鮮人強制連行が本当にあったのです。いまそれを隠そうとしています、いったん知った真実を覆い隠すことはできません。私たちは戦争を知らされない子どもたちを作っては

いけない。その責任があると思います。

私たちはいま平和憲法のもとで、少なくとも戦争反対を叫べる。文章に書き、歌にすることもできる。こういう社会的表現の機会を最大限使って、人間同士の争いを阻止しましょう。

先日、広島と長崎の原水禁大会に参加しましたが、若い世代の人たちも一心に活動していました。戦争を知っている者も知らない者も、共通の基盤に立って、新しいエネルギーが生み出されようとしています。

核兵器は無から生まれるわけではありません。原料のウラン鉱は、アメリカではインディアンの人たち、オーストラリアでも原住民の手で掘られ、土地を奪われたうえに犠牲者を出しています。世界の平和を愛する人びとが生活愛する人たちとともにねばり強く闘わなければなりません。

私の住んでおります中野区では、きょう、憲法護持、非核所持宣言を発表しました。これは一万二千人の運動を六月三日区議会が採択、きょう、区報で発表したものです。ちょっと紹介させていただきます。

「町には子どもの笑顔がある。広場には若者の歌がある。ここには私たちの暮らしがある。

海を越えた彼方にも、同じ人間の暮らしがある。いま地球を覆う核兵器は、あらゆる命の営みを、この幸せを奪い去る。私たちの憲法は暮らしを守る。自由を守る。恒久の平和をうたう。私たちはこの憲法を大切に、世界中の人びとと手をつなぎ、核を持つすべての国に、核兵器を捨てよと訴える。この区民の声を、憲法擁護、非核都市、中野区の宣言とする」

皆さんの住む町を全部非核都市に、そして非核地球の実現を目指そうではありませんか。

高木敏子（作家）『ガラスのうさぎ』で、私は厚生大臣から賞をいただきました。賞状を読んでくださった大臣の名が忘れられません。小沢辰男さんという方なんです。私はありがたくて涙がこぼれました。小沢さんと握手をして別れました。

ところが、ところがなんです。その小沢さんが、今の憲法は本当の憲法ではないとおっしゃった。握手してから三年、三年の間に世の中が大きく変わりました。

憲法に「戦争」というこの二文字のために人間が死んでいくことはないということが明

記されたことを知ったとき、大変感動しました。もう戦争で死ぬ人はいないだと思ったとき、憲法第九条は輝く太陽のように見えました。亡くなった父、母、妹たち、学友たち、大勢の近所の人たちのためにも、いのちある限り守り続けたいと思いました。その憲法が本当の憲法じゃないなんて！

少なくとも私の周囲の人たちは、あの憲法が本当の憲法だ、大事な憲法だと思っています。今ならそれが言えます。今なら戦争反対と声を大にして言えるんです。皆さん、みんなで声を大にして言っていきましょう。

橋本佳子（東京大空襲を記録する会）三月十日、午前零時から二時間三十分の大空襲で十万人の人が亡くなりました。その時、私は二十四歳の母親、一年三か月の赤ん坊の母でした。家族と一緒に逃げ、橋の上で、私の母が私に防空頭巾をかぶせてくれ、川に飛び込むように言ったのです。防空頭巾をかぶせてくれたときの母、白髪まじりの髪に火の粉がふりそそいでいた、悲しそうな母の顔。それが私の平和運動の原点になりました。両親も妹も友人たちも、そこで亡くなりました。人が焼け死ぬというのは本当に苦しいこと





樹下のミニ写真展

です。私は二度とそういうことのない町にしたいと、ことは反核運動でアメリカにも行って参りました。空襲の写真は十七枚、ロープにつないで歩いて参りましたら、目にいっぱい涙を浮かべて、向こうの方が、この横断

幕をくださった。青い平和の色をした丸い地球。人種差別のない子どもたち。きれいな花が咲き、汚れない海には鯨が泳いでいます。いま世界の人たちはこういう地球を望んでいるのだと思いました。これを下さったのはカ

ナダの方ですが、中国やフィリピンの方が日本に来て、惨状の写真を並べたら、日本人はこういう横断幕を送るような心になるでしようか。セントラルパークでパネルを並べ、ミニ空襲展を開き、お母さん、お母さん、と叫びながら、私はそのことを考えました。これを見ていただきたくてきょうは参りました。

司会 羽仁説子さん、色川大吉さん、小田実さんからメッセージが入りました。

(羽仁) 私は戦争時代に社会に出ました。日本の政府が軍備拡張を始め、満洲開拓に名を借りて侵略を始め、今の教科書問題と同じにそれを進出と言ひ、子どもたちまで教育し、平和を唱える人をさまざまな言ひがかりをつけて投獄しました。そのとき女の一票はありませんでした。いま私たちには一票があります。二度とわけのわからぬ文部大臣、国防長官などを選ばないために、私たちの一票を大切にしましょう。

(色川・小田) (日本はこれでもいいのか市民連合を代表して) 一九八二年八月十五日、市民一人一人が己の力を問われているときで

す。侵略を進出と言いくるめる精神が私たち市民の側にあつてはならない。市民の道義がいま問われている。その認識に立つて、私たちは、おのがじし、それぞれ推進しあつてきた問題をさらにきわめようとして集会を開いております。反安保をお題目として言うのではなく、さまざまな問題と安保とのかわりを明らかにし、安保をなくすための道筋を見いだそうとする集会です。反核、反戦、教科書……、お題目を並べるのはよしでしょう。市民の側においても道義を正す志の連帯を。

向井承子（ルポライター） 私は小学校一年で終戦を迎えました。東京の空襲で家を焼かれ、北海道にのがれました。鬼畜米英ということばを子守り歌にして育ちました。私より少し年上の方たちは価値観の転換を迎え、こんなに大人の考えが変わるのかということと同時に、自分の中が変わってしまうのが怖いというようなことをよくおっしゃいますが、私は何もわからず、怖いとも思わず防空壕を出たり入ったり、母の手を握りながら、ラジオのことは同じように、死ぬときはみんな手をつないで天皇陛下万歳と言つて死のうねと言ひ、毎日が覚めたら、きょうも生きて

たね、夜寝るときもきょうも生きてたね、と言つたのを覚えています。

戦争の恐怖は空襲でまざまざと目のあたりにしましたが、それ以上に、ただの人間が狂気の中に追い込まれるのを感じました。弱いものが追いつめられて狂気になることもあれば、強いものが自分を勢い立たせて狂気になることもあり、戦争中はあらゆる人が狂気でした。空襲で逃げまどう私の上を、何人の大人たちが走り去ったか……。誰も起こしてくれず、私の腕をローラーが通つていったような感じでございました。ああいうことが二度と起こらないようにするのが、いま親になつた世代の私たちの務めではないかと思わずにはいられません。

アメリカの戦闘機に高射砲が当たり、アメリカ兵がパラシュートで降りてきました。アメリカの若者というより、それは鬼でした。みんなが竹槍をもつて駆け寄り、は、ち、そこそこに見えるような若者をなぐり殺してしまつたのです。かわいそうにと思ひながらも、アメリカの鬼が殺されることに私も手をたたいた記憶があります。

つい数日前ですが、中国人の妻となつた方のお話を聞きました。旧満洲で逃げるとき、

まず年よりから殺された。鉄砲の音が鳴つても誰も驚かない。どこそこのお婆ちゃんが見えなくなったから殺されたね、と。息子が母親に銃を向けて殺さざるを得ない状態だった。収容所の中で次つぎ死んでいく人間を何とも思わなくなった中で、自分が生きていくためには中国人の妻になる以外なかった、と泣いて話されました。日本人の残虐行為のおかげで、どれほど肩身の狭い思いをしつゝ暮らしてきたかわからないということです。

昭和二十一年六月二十六日、吉田茂首相は衆議院で「一切の交戦権を認めない結果、自衛権としての交戦権も放棄した」と言つていますが、為政者たちが戦争が終わつたとたん軍備放棄と言ひ、世の中の趨勢によつてまた軍拡と言ひ。これに対抗できるのは、国民一人一人の感性ではないかと思ひます。

私は、知らないということぐらい罪なことではないと思つております。情報を自分の力で得るのはだんだん難しい時代に追い込まれましたが、今ならまだできます。ぜひみんなの力で正しい情報を知つていきたいと思ひます。

寺田かつ子（生協運動） 渋谷駅頭の皆さん、私たちは本当に戦争を許さないということを

一人一人確認し合おうではありませんか。

私たち消費者には四つの権利があります。

その最大は安全の権利です。私たちはこの安全の権利を最優先して運動を続けて参りましたが、安全性の最たるもの、それは平和です。

いま私たちが手にしている平和は本当に尊いものです。一人一人が本当に真剣に考え、発言していくことによって守りぬきたい。私の青春は全部戦争のために消えました。あの時代が二度と来ないように、私たちは声を大にしていびます。戦争はもう二度といやです。みんなで力を合わせようではありませんか。

井上節子（戦争への道を許さない女たち神奈川の会） 神奈川でも昨年の六月十三日と今年の七月六日、横浜で「戦争への道を許さない女たちの神奈川集会」を開きました。

私の住む横浜では、この春から教育委員会が、市内の各小中学校校長に「児童生徒問題行動報告書」を通過しました。校内暴力、怠学、家庭内暴力に該当する子どもの名前、住所、親の名前まですべて報告、しかも親が学校に出す家庭環境調査表まで出させるということです。教育委員会はまた、神奈川県警の防犯少年課長や、横浜市の寿警察の少年課長

を採用しました。今年の初めまで現職の警官だった人を、非行防止の活動をするという名目で採用したのです。多くの市民の反対にもかかわらず、その元警官のいる児童生徒補導センターに、子どもの名、親の名、家庭環境調査表が送られているのです。

私の家は小学校のすぐそばですが、毎朝、朝礼のとき、戦時中の軍事教練と同じような形で、子どもたちが両手を高くあげ、両脚を高くあげるといふ訓練をさせられています。

六年生の私の子どもは毎朝バスケットボールの早朝訓練をしています。名前を前後につけています。管理教育——管理されなければ動かない子どもたち、管理しなければ安心できない教育の中で、戦争への道が着々と敷かれています。日常生活管理を許すなら、いくら戦争反対を叫んでも戦争への道が敷かれるでしょう。一人でも多くの声をあげて、そういうことを許さないように、声を大きく広げていきましょう。がんばりましょう。

高良留美子（詩人）

「春の来訪者」

ある人は  
——中国残留孤児をむかえて

右手の人さし指の傷痕から肉親に見出された別の人は 両眼の大きさのちがいがからまたある人は たったひと言覚えていたモチという日本語から肉親はかれらを娘や息子と確認した

親やきょうだいの膝の上で故郷に建つ父親の墓の前ですでに子どもではなくなった孤児は泣く

出会い ふたたび別れていく肉体のあいだを長すぎた歳月がきしみながら流れる

わたしたちが見すてきた 子どもたちわたしたちが産み

そして見すてきた子どもたち

かれらの姿をとおして

死んだ子どもらの顔が見えてくる

母親の手で 井戸に投げこまれた幼な児

泣き声をたてる前に

首をしめられた赤んぼう

この世に生まれてきて

幸うすかった小さな生命——

栄養失調で はしかで チブスで

零下数十度の冬にかけて

かれらは死んだ、

その身体は

凍てついた地面を浅く掘って埋められ

わずかな野の草が

供えられただけだった

わずかな人の涙が

注がれただけだった

わたしたちが見すててきた 子どもたち

わたしたちが預け 売り払って来た

子どもたち――

かれらを養ってくれたのは

その土地の人びとだ

(わたしたちは かつてその人びとを

なんといつて侮蔑してきたか)

大陸の大地に生き

その土地を 肉親を

奪われてきた 人びと――

(わたしたちは かれらの死者を

悼んだことがあったか

かれらの孤児を

はぐくんだことがあっただろうか)

豊饒をもたらず まれびとのようではなく

禍いをもたらず 悪霊として

わたしたちの軍隊は大陸を蹂躪した

焼きつくし 殺しつくし

犯しつくした

それが わたしたちの父や夫

叔父やいとこや兄弟だ

くにに帰れば善良な父になり

勤勉な働き手となる 男たちだ

桜にはまだ早い

このくにの早春のかすみにつつまれて

すでに子どもではなくなった

孤児は泣く

かれらの魂と肉体は 二つの家族

二つのくにのあいだに引き裂かれる

そのかたわらには

肉親にめぐり会えなかった人びとの

声もなく立ちつくす姿がある

これが戦争だ

戦争の本質だ

三十六年目に鏡に映し出された

わたしたちの姿だ

わたしたちが

大陸や島々の死者をいたむとき

わたしたちが武器をすて

その手でかれらの孤児をはぐくむとき

凍った大地の下で頭をもたげる

草の芽のように

いつか 子どもらは目覚めるだろうか

花咲く春の大地に踊り出て

国境をこえ 海をこえて

走ってくるだろうか

笑いながら 叫びながら 歌いながら

わたしたちの名を 呼びながら

諸民族の子どもらと 手をつないで――

斉藤千代(編集者) この車の前に二本の木

があるのが見えますでしようか。皆さんから

向かって左の木の下には南京大虐殺、右の木

には東京大空襲の写真が飾られています。後

ろのほうの方は、お帰りまでにぜひごらんに

なってください。

けさ早く、このパネルを並べながら、私は

何とよく似てるんだらうと思いました。どち

らも死んで行ったのは庶民たち。どこにでも

いそうな親父さん、お袋さん、子どもたち。

でも決定的にちがうところもあります。東

京の人たちは、走って走って走りぬいて倒れた人たち。南京の人たちはじゅずつなぎにされています。東京の人たちが最後に見たのは、飛行機、火煙、焼い弾。南京の人たちは人間だったでしょう。自分を刺しにくる人間は、そのときどんな顔をしていたか。彼らはどんな表情で刺す人間を見返したか……。

けさ、このパネルの前にたたずんで、いつまでもいつまでも見つめているおじいさんがいました。雨にぬれながらあまりいつまでも立ちつくしているの、聞いてみました。

「戦争にいらしたのですか」

「ああ、そうだよ。上海、徐州、南京……、みんなどこだって同じさ」

「上官の命令で？」

「上官？ そんなものの……」

誰が言うでもなく、集団として狂気になった、何も南京だけじゃない、あらゆる都市で狂気の限りを尽くした、と、ことば少なのおじいさんの、ことばの裏から感じとりました。

戦争に赤紙で召集した男たちを、軍隊はまず、あらゆる方法で人間性を剝奪したといいます。ビンタを食らわせ、体罰を課し、人間を人間でなくし、生ける兵器とした。そうでしょうね。人間のままでいたら、人間を殺せ

るはずがないでしょうね。

六年も戦場にいたというそのおじいさんは、やせて、寒そうな背中でした。何を聞いてもそれ以上は答えないおじいさんの、骨の浮き立つ背中を見ながら、人間でありながら人間でなくされた人の悲しみを感じました。

戦争は残酷ですね。

戦争による女の悲しみは数えきれないほどありますけれど、戦争に征かされた男も地獄の苦しみだったことでしょう。

ほんとうに何というバカなことをしたものだろうと思います。なのに、悔んでも悔みきれないその愚かなことが、また繰り返されよ



戦争反対の署名も集める

う。としている……。第二回国連軍縮特別総会へ向けて、この春から夏、私たちは三千万もの署名を集めて持つて行ったのに、総会は何の決議も出せませんでした。私たちが最後の希望を託していた国連さえも、もはや力を失ったいま、頼れるものは市民の連帯、海を越えた市民の連帯以外、ありません。

怒濤のような戦争への傾斜を食い止められるのだらうかと、私は正直なところ、ほとんど絶望的な気分です。ダブル選挙以来、さらに去年から今年、外ほりはすでに埋め尽くされ、内ほりも残るはわずかです。残る希望は私たちの連帯と行動だけ。市民が連帯し、すべての国で戦争反対の政府を選ぶことです。

去年、あの激しい右翼の攻勢を、私たちは期せずして湧き起こった「帰れ、帰れ、」のシュプレヒコールで撃退しました。

ことしの私たちは、徹底的に無視し、手話で戦争反対を訴え、歌い続け、話し続けました。去年、「機動隊に守られるなんて卑怯だぞ、機動隊がいるからきょうは帰るが、必ず仕返してやるからな」と捨てぜりふをして去った右翼は、ことしは黙って去りました。

私たちの連帯の前に。

歌いながら、みんなで腕を組み、肩を組みま

したね。互いにふれあったあの温いほだを思い出しましょう。静かでやさしい方法でも、連帯すれば敵を追い払うこともできるかもしれない。そこに希望を見出したいと思います。

このスローガンにあるように、平和とは静かなことです。平和とはやさしいことです。静かでやさしい女たちにも何か一つはできることがあると思います。明日といわず今夜からでも、さっそく新たな攻撃が加わるでしょうが、明日といわず今夜からでも、私たちの

できる、その一つを実行しましょう。私は私のできることを実行します。少なくとも、いま女の一票がある。その重みを、ほんとうに考えていきませんか。

柴山恵美子（婦人労働研究家）　ご存じのように、日本とドイツとイタリアは、第二次大戦の前、三国同盟を結び、世界大戦を起こした国であります。そのイタリアにおいて、第二次大戦の終わりにレジスタンス運動が起きています。三国の中でイタリアにだけレジスタンスが起き、ムッソリーニ政権を倒し、その勢いを借りて無条件降伏したという歴史的経過があります。

ヨーロッパ全土で第二次大戦中に、ファシ

ズムを倒そう、戦争に反対しよう、パンを、自由を、ということと命をかけたレジスタンス運動が起きた中で、イタリアにも起きた。連合国軍がイタリアに入ったときは、もうすでに自分たちの手で自分たちの権利を解放していたわけです。

私は昭和五年生まれで、戦時中は軍需工場に学徒動員で働いていましたが、イタリアでも軍需工場への動員があり、十二時間労働、そして賃金もだんだんと切り下げられ、半分になり、しまいには凍結されました。日本でもそれは全く同じなんです。その中でイタリアでは何が起こったか。戦争をやめなければパンを食べられない。配給が少ないのは戦争のためだということで、イタリアでは大ストライキがあったのです。防空壕に逃げていた時間、賃金カットしたことへのストライキもあった。日本ではなぜそれが起きなかったのでしょうか。

三国の中で徹底的な反戦運動がなかった日本一国にだけ原爆が投下されている。これは歴史的に回避できることだった。落とされないうですむことであつた。なぜ私たちはそれを食いとめられなかったのか。いままさに戦争原因の追求を明らかにしなければ、それを明

らかにすることができるような一人一人の国民にならなければ、ほんとうの意味で戦争を阻止することはできないと思います。

戦争は反対だけど、行革には賛成だという方が最近非常に多い。ところが行革というのは福祉切り捨て、まさに戦争への道です。来年の選挙には、行革に反対する人を選びましょう。でないとならば戦争に反対していてもからだは戦争に持っていかれるということになります。私たちの力を結集してがんばっていきましょうではありませんか。

仁ノ平尚子(教師) 江戸川区の教員にこの四月からなりました。私の小学校であったことを聞いてください。

春の運動会のことです。六年生の女の子が応援団長に立候補しました。彼女はなれませんでした。女はダメだ、男が団長にきまつてゐるんだ。彼女は応援団長になれずに、なんとチアガールになりました。

男の教員が職員室で話していることは、「あいつは自己顕示欲が強すぎる」——そういうことを平気で言います。時あたかも甲子園。皆さん、甲子園のようすを思いだしてください。女の子はチアガールになるだけです。そ

こに戦士と銃後の妻の関係を見てしまうのは、私だけでしょうか。

高校生の家庭科女子のみ必修。男子が柔道や剣道をやっている間、女の子は料理や裁縫しかやれない。公教育で男女差別がまかり通っています。「女性に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」が批准されないかぎり、男女差別の公教育は続きます。

私は小学校の教員です。私は、いい女の子をつくること、戦争はいやだという女の子、生意気な女の子をつくることに熱中しています。これが私の反戦です。

司会 ではまた歌いましょう。憲法の前文と第九条を歌にした『決意』です。文部省は憲法の前文を削除しようとしています。私たちは決してこれを忘れたくない。その意味においても歌いましょう。

### 『決意』

我らは 平和を愛する諸国民の  
公正と真義に信頼して

我らの安全と生存を保持しようと決意した  
日本国民は 国際平和を切実に希求し  
国権の発動たる戦争と 武力による威嚇

または武力の行使は  
永遠にこれを放棄する

前項の目的を達するため  
陸海空軍その他の戦力は

これを保持しない

陸海空軍 その他の戦力は  
これを保持しない

司会 もうひとつ、『あたりまえの地球』を。  
やさしいメロディー、やさしい歌です。

### 『あたりまえの地球』

海に魚が泳ぎ 空には鳥が飛ぶ

そんなあたりまえの地球

いつまで残るだろう

わたしたちの海と 海の魚たちと

わたしたちの空と 空の鳥たちと

そんなあたりまえの地球

いつまで残るのだろう

そんなあたりまえの地球

いつまで残せるのだろう

原発ゆるすな 原発ゆるすな

土には花が咲き 町を子どもが駆け  
そんなあたりまえの暮らし  
いつまで残るだろう

わたしたちの土と 土の花たちと  
わたしたちの町と 町の子どもたちと

そんなあたりまえの暮らし  
いつまで残るだろう

そんなあたりまえの暮らし  
いつまで残るだろう

原爆ゆるすな 原爆ゆるすな

司会 ここで総評婦人部長の山野和子さんと



評論家の樋口恵子さんのメッセージをお届け  
しましょう。

(山野)日本の軍事大国化は、ついに軍事的脅威としてアジア諸国の批判と抗議を浴びています。一方、多発する国際紛争に加え、米ソのエスカレートする核軍拡競争は、核競争の危機を現実のものとしています。第二回国連軍縮特別総会は、反核軍縮を求めてわき上る世界の人びとの声に応えることなく、反核軍縮の決議はできませんでした。平和を守り築くために、いま私たちに必要なことは、政治を反動勢力の手から奪い返すことです。そしてアジアの平和、世界の平和を推進するために、各国の平和勢力との連帯をいっそう強めることです。一人でも多くの人が、平和を闘う旗のもとに結集されることを願ってやみません。

(樋口)一年前の八月十五日、日本の女性が、やむにやまれずこの場所に集まり、反戦マラソン演説会を開いたときに比べれば、この一年間の世界に広がる反核軍縮運動の高まりは目を見張るものがあります。人間が生きのびるために、世界がどんなに危機に満ちている

か、多くの人が気づきはじめてのです。でもまだこの声は世界を変えるに至っていません。

とくに日本では、行革路線、教科書は過去の歴史を書き替え、戦争を肯定する動きがいつそう強まっています。また民族を救うを旗にするしに、人工中絶を規制する方向へ優生保護法を変える動きも激しくなりました。戦争を推進して何が生命の根源でしょうか。人的資源として産めよふやせよという戦前への逆もどりが本音ではないでしょうか。

私たちはもう、加害者になるのも被害者になるのもゴメンです。わが子を戦場へ送る加害者になりたくはありません。人を殺し傷つけることをしたくありません。それには、日常的に被害者にならず、おかしいこと、差別されることに反対することだと思っています。

\*

以下、菅原節子、福井浅子、黒田美代子、清水静、大倉八千代、古沢久美子、北沢洋子、内海愛子、串田久子、近藤和子、山田光枝、沼口朋子、山下正子、町野カリド、五島昌子、中島通子氏らの、それぞれ情熱あふれるスピーチが、夜七時まで続き、広場と車上と、一体になった盛り上がりの中に、反戦の決意をさらに新たにして終わった。



# 平和の検証

## いまなぜ沖縄戦なのか

沖縄戦の悲劇は突然に起こったものではなく、長い差別の歴史のうえに起こるべくして起こったものであることを、これはまた如実に示している。性・民族・人種・宗教など、あらゆる差別こそ戦争への道であることを私たちは主張し続けてきたが、戦争の原点を考えるうえで、どんなにつらいことであらうとも、沖縄戦を見なおさなければならぬまい。(なお、同紙では、引き続き第二部「三七年度の風景」を十月三日～十三日の十回にわたり掲載した。十一月五日からは、第三部「根からの問い」を掲載中である)。

教科書から沖縄戦の「住民虐殺」が削られたとき、耐えに耐えていた沖縄の人びとも、ついに声をあげた。地元「沖縄タイムス」「琉球新報」の二紙には、連日、投書が山積したという。「沖縄じゅうが湧き立っています」との声を私たちは聞いたが、本土のマスコミは、中国、韓国の対応を伝えるのに急で、沖縄の怒りはほとんど黙殺された。

「沖縄タイムス」では、反響のあまりのすさまじさに、実相を取材、八二年八月十四日～九月二日、三五回にわたって「第一部実相」として掲載した。同社に懇願し、そのご好意により、第一部全篇をここに掲載する。読み続けるのにはあまりにつらい記述もあるが、どうか読みとおし、いただきたい。

## ●戦争があつたとき教科書が変えられた!

- 1886 (明治19年) 検定制度発足「小学校ノ教科書ハ文部大臣ノ検定シタルモノニ限ルベシ」
- 1889 (明治22年) 大日本帝国憲法発布(2月11日)「天皇は神様の子孫で、絶対の力を持ち、批判を許さない永遠の君主」と定めた
- 1890 (明治23年) 「教育ニ関スル勅語」発布 日本人民は「臣民」とされ、臣民は「一旦戦争が起つたら、軍隊に入り、天皇の世の中が永遠に栄えるように身を捧げよ」
- 1891 (明治24年) 「修身」を国民教育の基礎として重視
- 1894 (明治27年) 日清戦争
- 1897 (明治30年) 文部省に視学官・図書審査官・学校衛生主事を置く
- 1900 (明治33年) 小学校図書審査委員会のメンバーより、小学校教員および民間人を除外
- 1903 (明治36年) 小学校国定教科書制となる
- 1904 (明治37年) 日露戦争
- 1910 (明治43年) 第2期国定教科書
- 1918 (大正7年) 第3期国定教科書
- 1931 (昭和6年) 満州事変
- 1933 (昭和8年) 第4期国定教科書
- 1941 (昭和16年) 太平洋戦争/第5期国定教科書
- 1947 (昭和22年) 教育基本法公布/6・3・3制発足
- 1948 (昭和23年) 教科書検定制度発足
- 1950 (昭和25年) 朝鮮戦争
- 1955 (昭和30年) 民主党「うれうべき教科書の問題」
- 1956 (昭和31年) 「任命制教委法」↓(のみ強行成立)「教科書法案」↓(廃案になったが教科書調査官制度導入)
- 1958 (昭和33年) 学習指導要領の全面改訂↓「日の丸・君が代」の強制「道徳」の特設
- 1963 (昭和38年) 「教科書無償化」をエサにして教科書統制、広域採択の強化
- 1965 (昭和40年) 教科書検定違憲訴訟(家永裁判)
- 1970 (昭和45年) 杉本判決/平和教育、同和教育運動の高まり/公害反対等の住民運動の高まり
- (沖縄県教組の資料から)



平和への

**検証**

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 2 ◆

## 第1部 実相

「あんまり苦しがつてです  
ね。手を二人握つてですね。  
ガチ、ガチとふるえて、なにも  
いわんでガチ、ガチしながら  
大きな声を出して泣いて死ん  
だんですよ」。

前田ハルさんが沖縄県史に

「人」の表示は「語っている」

証言であ

る。日本軍　まず歩いてみた。屋敷の略の弟や妹が。その空き地に  
に弟や妹が　図を頼りに「入」の標示を追　はブロック建ての住宅。

刺され、斬つていくと、殺人現場の真

西上村元小（いりういなか）腰をおろしている。「牛蔵さ

の状況を詳もどくわいの屋号をもつ金  
城半蔵さん（四七）と真栄平五二  
金城半蔵さんへは、大城

いる。「語番地」の屋敷内では、金城ユ藤六さん（曹屋武小学校長）が当時の出来事をよく知って

るだろう。Ⅱの父親が首を斬られて死んでいる一人としてあげたお年寄

かー  
次の日も  
でいた。ガシマルの校にも  
りた。

真 栄 平  
〈中〉

たれるようにしてあべちをか 「じいじガシユマルがあっ

「これ西上申元小にはいま、ガジ」と、齋宮の頬を指さすと

真  
榮  
平

〈中〉

「ここにガシユマルがあっ

て首を斬られ、お金を抱いて、お金を抱いて。

國を説明して話をするのは難

しいと思つた。しかし、目  
本軍の「やり方」を聞かなければ

うまく表現はできないが

「伝えて欲しい」との心があつた。「ゲートボールはやら

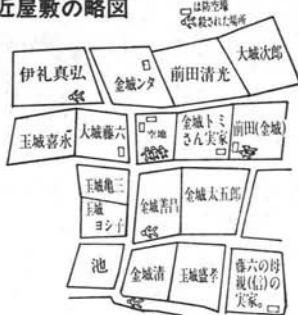
田舎字を助けたのに耳が三日で目であつた。

「弟をおんぶしている妹を刺したから、妹は、手を放し

である。前田さんは孫と二人

で留守番をしていた。  
 (「平和への検証」取材班)

弟も妹も斬られ…



続々と上陸する米軍。この後  
住民を逐き込んだせい惨な地  
上戦となる

.....

おんぶされていた弟も斬つた

れていまして、**腸があらう**

「まじりかたは、まじりかたでございませう。まじりかたは、まじりかたでございませう。」

たんです」。証言は続く。

それでは、早く斬つてしまふな。

れは、國がはじめて出てお

た。

になる。前田さんは孫と二人

で留守番をしていた。







# 平和

## 検証

いなぜ沖縄戦なのか

◆5◆

### 第1部 実相

「情報する量がなくて、簡単にこわくなった。自然にみな無口になった。話をやるスパイと思われないかと不安で……」

仲真良成さん

小橋川区  
防衛部長九人  
の建設  
人々を恐怖  
に包んだ。

と海岸には  
上陸した米  
軍、両方にはまわされず、  
発砲は九月七日の鹿山隊降  
参時。

「山の兵隊と人々は密着で、  
日本海軍と沖縄方面軍の密着  
部隊は、鹿山隊の大部三  
二〇〇、この島最南端の  
頂上基地にあった。鹿山正  
兵隊を隊員三千数人。も

ともに戦闘部隊はなく通商  
任務をおこなった。小隊の  
小隊の海軍中隊方面軍根拠  
隊へ大田美少将の指揮下に  
あった。

三月二十日を過ぎると、米  
軍の久米島空襲が本格化、上  
陸間近の情勢はびびった。

鹿山部隊は山中の壕に、島の  
人々は海岸べりの岩場や自然  
洞窟に身を隠した。

六月十四日、牧場主・高城  
英明さんの義弟・中学生と  
仲間、農薬・比嘉島さんの  
三人が、密に運ばれた。

「スパイと比嘉さんの  
三人をスパイ扱い  
三人をスパイ扱い  
三人をスパイ扱い

一目散に逃げました。北  
郷民の証言だ。  
その翌日、鹿山隊長から員  
志川、仲里村の村長、警防  
団長あてに指揮官通告が出さ  
れる。

「難攻者」対スル敵、取  
八四四知サルモ、当面、関  
係事項シテハ、謀略的見地  
ヨリスル条件付送達、放免、  
戦略的利用シテ、陸作戦時  
ノ適案、並ニ陸軍サクル  
事ナリ。

「故ニ石破書者ヲ本島ノ如  
何ナル場所ニ上陸降島スル  
共ニ耳、家族ハ勿論、一般部  
隊員トシテ、直接ヲ射撃、  
築直ニ軍用二報告、連行  
ノコト」

さらに連発は、米軍の重火  
器を撃つという脅威で、敵  
側スパイト見做し、銃殺  
ス。其の旨ニ相対シタル

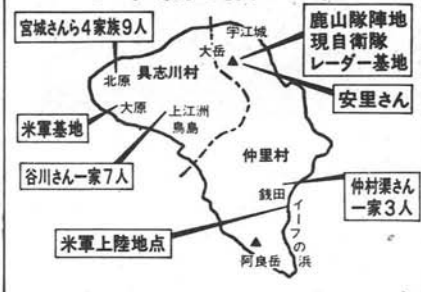
「山の兵隊」②

## 不安で…無口に



自願をかけた投降する日本兵 後方から両手をあげ、素足の少年兵が不安に近づく

### 住民虐殺現場



ず、山兵隊が先にわかった  
のでしょ。仲真さんら  
時を知る人々は話さず、米軍に  
ら致された人、会った人、軍  
に連れ込まれた区長と警防  
団長、すべてがスパイ容疑  
として殺された。連通通りの  
その後、あかあかと空を染  
める火を北原の人々は見た。  
深い日影の下、ミがそ  
とく、虐殺のあった住居跡。  
糸数警防団長の兄・新見盛孝  
さんの知が、隣にある。  
「盛孝さんは九つの遺体  
に一本ずつ並べられていたで

場合、関係者並ニ責任者ハ軍  
則ニ照シ、厳重処罰ス。(原  
文のまま、抜粋す)  
スパイと見做された人々の  
度に高まった。  
六月二十日、米軍は仲里  
村イフに降。同時に、ら  
致された比嘉さんと高城さん  
の義弟が捕縛された。

他の六人も容疑で  
いっせいに処刑  
二十一日深夜、鹿山隊の  
命令で、鹿川共見区長、糸数  
盛徳警防団長を含めた、関係

「山の兵隊」が持っている  
わけは、米兵だ。今でも、  
あかあかと空を染める火を  
見た。深い日影の下、ミがそ  
とく、虐殺のあった住居跡。  
糸数警防団長の兄・新見盛孝  
さんの知が、隣にある。  
「盛孝さんは九つの遺体  
に一本ずつ並べられていたで

# 平和命令

## 検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 6 ◆

### 一家皆殺しに...



血塗まり、手首を受ける。痛みも感じないのか、少女の目は空を見つめる。

六月十九日の小川共興  
区長ら九人の殺害の二日前、  
山中では郵便局長、安里正二  
郎さんが殺されている。

## 第1部 実相

これは私  
みから筆  
を、銃を  
銃に刺し  
また。え  
え、銃を  
一発撃つ  
ね、一発で  
は死にま  
せむら、  
苦しむ  
る。かわい  
そうだから  
ら、兵隊に  
ちゃんと銃に刺さるさとい  
て、圖からうつやて、思  
を引かせたな。その時、  
年4月、サンデー(毎日)。  
鹿山正蔵は語っている。  
安里さんは二十日、上陸

## 山の兵隊 ③

降く、テントをほったモクマ  
オの防衛林にも、ヒキ姿  
がなれる。  
その林から、約百、内側に

と江州朝倉さんの証言。  
明男さんは、本島部隊  
の兵士として戦い、南米捕  
虜となつた。米軍は久米島上  
陸を前に、明男さんら出身  
の兵が事情を聞いた。上陸  
前に、鹿山正蔵を行つた。米  
軍に、明男さんらは「島は  
家族がいる。鹿山さんらに  
民みんあられると訴えた。  
明男さんらに、鹿山さんらに  
民みんあられると訴えた。  
明男さんらに、鹿山さんらに  
民みんあられると訴えた。

明男さんの遺族は、戦後真  
相の究明に乗り出した。兄の  
村崎さん、北段で  
殺された小橋川共興区長の  
弟、共興さん共に出発を  
作り、四八年、米軍司令部  
琉球警察に送られた。「マッ  
サー司令部」に出た。  
糸満署では、島出身の兵や  
住民から事情聴取もした。だ  
が結局は、日本人同士のこと  
だ、うやむやになったと  
要約。  
「明男がスパイとして殺さ  
れるのは、あらめわやす  
い。だが、妻、乳飲み子で  
、ひびく」と語る強  
める。  
一週、日軍本部が、明男  
の手元にあった。  
バツ印のついた明男さんの  
項、昭和二十年七月十四日  
時刻不明、沖縄方面戦死。  
妻シゲ子と明男ちゃん  
「昭和二十年七月十三日午後  
十二時、本年戦死」。  
「國で明男に召戸、シ  
ンに三万円、明男は戦死者  
者といつて、見舞金三万  
円、十年前、佐藤首相國会  
で語つた、國による補償  
は終わっている。中身で  
す」。  
「(平和への検証 版材送)

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 7 ◆

しんでいました。  
 り。具志川 案内してもらったNさんは  
 村崎島の海 強い日差しに輝く浜辺を指さ  
 辺。 して言った。

もう死んで  
ました、と幼児を抱いた兵隊  
四、五人が来た。護摩の上か  
ら浜へおじいさんを投げ捨て、  
て子供は兵隊が下まで運び、  
死体の上に置いた。小さな声

## 「疑」が殺害理由だった

「日本名・谷川昇」一家だった。ちょうど旧盆の十三日、長男・一男君の誕生日の夕暮、米軍との接触や民家を巡る仕事から疑いをかけられた。

住民を戦禍に巻き込んだ沖縄戦。恐怖と虚脱の中で捕虜とな  
った

朝鮮人といふことも、容疑を深めたといわれる。子供が多々、戦争で商売もできずから突つたためです。米軍から針を手に入れた住民の人々と交換していたと島の人々は語る。また、一男君が風邪で栄養をつけさせようと米兵から食糧を得た。その後、に処刑され、との話が広まったといふ証言もある。

うたさんは、他の車も同じく国防婦人だ、し車にも積極的に協力、赤子を背負って食糧を運んだ。

二十日朝、うたさんは日本車からハイム目をけられていた。何かが助けて下さい、工場の警防団へ依頼し、たむきは合衆さんが群衆おたてて、夫は、死の布を感としていた。

泣きじゃくる姉妹  
山に連れ去り絞殺  
山の兵隊たちは、村会に近づくと、近所の公民館に閉ざったと愛媛告げた。谷川は待たせられ、去々んを連れ、島崎に連れられて、うたさんと一男、赤っくんは待たず、おとせられ、日

にして古里に帰った。  
九月七日、鹿山隊長らは  
軍に降伏、翌八日、久米島  
去った。島の戦後が始  
った。だが、島に残った鹿  
隊の地元出身兵、さらに住  
避難民にとって、さまざま  
思いと苦しみと悲しみは、  
しる深まった。

谷川さんらの遺骨は、一九七九年、古里に戻り、韓国忠清南道にある「望郷の丘」に埋葬された。死後、三十四年にして古里に帰った。

その様子を見ているだけだった」。直接、指揮した常恒定元電喜長の証言だ（「沖縄の日本軍」）。

なもんです。山に入って、兵隊が絞殺用の縄をなつたが、すぐ側において、子供たちは何のための縄なのかも知らずに

「山に連れて行くいうても、子供はなんにも知りやあせんから、そりゃあ、もう無邪氣に見された。」

谷川さんは島島の民家で約七百里離れた松林で首を絞め殺される。

本力で斬殺。泣きじゃくる綾子ちゃんと八重子ちゃんは「母ちゃん」とさうへ里れて



# 平和への検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 8 ◆

「終戦(問題)でしょう。そのとで来たな。ハイと。だんな事だんな。ハイと。いいいます。戦せるべきだ」と。早口

ていはい。これははるる言えまう。僕たちの時代は、軍のワケでしか行動はきないし、軍の命令によつてしか配属されがった。あたした人間は、こわいんです。郷

里の島に襲われ、殺害事件に「あたした」苦しむ。客を訪ねたのは、終戦翌日の、戦況を訪問。留守です。と応対した。来客を告げると「何でいまさら、必要な

ものだった。三度目にし会えた。さき、せきふん信しは、加害者として知らずにはいられなかつた胸のの苦しみを伝えたい焦りと、何

## 第1部 実相

### 山の兵隊

⑤

## 寡黙の背後に



住民は逃げまい、自然洞くつや壕に隠れた。赤っちゃんをしっかりと、捕縛となる母親

だが、多くの村民は話したが、なかなかならなかつた。『村民の言葉で』一スバ、イ縫を民を海殺した砲山、正兵衛長、皆憎定軍曹の証言のひびの意味は深い。戦時下の重臣、休の中で、あり得た事実、戦後の島の人々を驚かす。中村さん兄弟は、簡略、事実に触れたが、らぬ島の人たち。『いまは、戦争を距離出す

く、にしてみてもありある惨殺行為に対して所信して糾弾する。(只志川扶成、談文、七二年四月三頁)。村時に仲村、明村長を訪ねた。「あまり触れながらないんです。でも戦中を懐かしく持ちはさんな同じです」。村民を代表して、言葉少なに語つてくれた。大居から連なる山の頂上に、下り、剣レターが、残さずには残る。島のどこからとも見えるこの基地、かつて砲山の軍用基地の後、米軍、戦後、自衛隊のレーダー基地が置かれた。王朝時代、中国からの船を狼狽(のろ)を、あけて前里に伝えたと。東シナ海から米兵への侵入ルートにある久米島。王朝時代の戦船は、旧米軍、米軍、自衛隊と軍事基地となつて今に、あんの家を出て、山頂のレーダーが見える。こんな田舎に、基地はない方か。戦中、戦と超えん方か。それけは、お願いた。左腕の腕の、二つの指を立たさん、の声を、激しかつた。『平和への検証(取材集)』

いまなぜ沖縄戦なのか

していて元

小屋をつくりましたよ。すず  
きでふいたたけの粗末な小屋  
でね。雨が降ったらびしょぬ  
れ。最初のうちは役場で手続

したが、戦争がひとくなるで、  
もう、どこから来たかわか  
らない状態、どんどん流れ  
込んできました」。

安住の地を求

めてしまふ。

浦安市内間の島袋ツルさん

敗殘兵

本欠け、胸にくっつか、黒い  
斑点(はんでん)があった。  
手りゅう弾の破片である。

が決まった。当時、大宜味村の兵事主任だった山城宗広さん<sup>（注）</sup>が言う。「疎開者の受け入れのため山にいくつも仮せき筋にあたる伊波力メさん

北部に避難した中・南部の人たちは、飢えと闘いながら山の中をさまよった

れて夜歩くという面目でし  
な。学校で泊まったり空室家  
で泊まったりして十日ぐらい  
で高良・新川（東村）に到着  
しました。山奥に一週間くら  
いたので、そこでもお腹に  
あって、にじにじと汗がここ  
で死ぬよりも痛うろつ、と言  
ったんです。食・物はなんに  
もないし、それは朝鮮人はあ  
われでした」。

「それから、引き揚げよ」と思つて平良に行つたらアメリカに待てと言われて、ジープに乗せられ設野島に居たんです。午後六時ごろでしたかね。羽地の田井等まで連れて行くはずでしたが、時間がないからと言つて降ろされたんです」。

市宮城に住む金藏政子さん（旧名カマシ）一家五人もやはり、このトピックで喜喜した向かっているが、署名真は受注できる場所ではなかった。

そのころ、郡朝市町に住ん

「家には、  
米軍の食糧で  
やっと安ど…  
美代さんが言う。」「家は、  
現存の者二人とともに、  
湖西市屋敷組」一家七人は、  
真に思った思つたらもう、  
家には焼かれる、危ないと思  
つて山の中へ逃げ、東村の安  
部南岳をいくぐり、歩いて

中村繁さん(中・南部の3  
難民は)として、寝ざぬ米  
空き釜を以て寄せて。地方  
人たちはすでに、三、四  
れた山奥の小屋に避難して  
た。米軍から襲撃をうけた  
避難民は、頭から放散  
れ安の匂がさへ味わった  
バクリと口を開けて待機  
る。機銃をたがえ予想し  
た女つか。

(平和の検証「取材記」)



**検証**

◆11◆

[illegible]

敗殘兵

「子さん（こさん）も、一友軍」の言。その人の嫁さんが「ウッター」  
葉から不自然な何かを感じオトーや、ヌーノンチ、ナチ

中・南部から北部の山中に避難した人たちは、年寄りや女性、子供がほとんどだった。



たという。「信子はね。学童  
疎開するつもりで、もんぺも

つててあったんすよ。背も胸も体格もあった。だれよりも気風もでしたが。そりう言ったきり、あは這處にゐるななかつた。

服れたをえられた人、手をはき取られた人、足首をくたかれた人、悲鳴もつかつかない老嫗の泣き声、「アキカミヨ」といふこと。阿彌陀佛の中で、羅難民は必ずしも待たなかつた。

早朝、渡野喜屋部落を通り  
かかった米兵によって、避難  
民は病院や収容所に送られ  
た。

「ト、總てのふたれとちがひは、

を償った。

阿鼻叫喚の中で

なすすべもなく……

伊波善光さんの話。「お

いかに見えたか。時やみの

殿という音が聞こえて

その後、1971年

今だから言えた

王を死なせた。即ち死な

# 平和への検証

## いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 12 ◆

### 第1部 実相

大宜味村愛野喜屋(現在の白浜)で起きた日本軍による避難民殺害事件は、今でもはっきりしない部分が多い。その一つは「なぜ、友軍が住民を殺害しなげなれたらなかつたのか」という疑問だ。

### 敗残兵

④

敗残兵と避難民の山中でひしめく。敗残兵は、友軍が住民を殺害した時、浮び上がったのは、船を苦しめながら敗残兵におののく敗残兵の真実な心理状態であり、帝国民の無残な姿である。

敗残兵と中・南部の避難民、地元住民が国境、東村山中にひしめき、わずかな糧を求めてまわった。大宜味村大保の区長、照屋保さん

八重岳攻防で、敗地にまみれた本土部隊は、一九四五年四月九日、敗走する日本軍を追撃した。大保部隊の南二、三キロ、早稲、多野谷に後退した。

一部、本土部隊を制止した米軍は、敗走する日本軍を追撃した。大保部隊の南二、三キロ、早稲、多野谷に後退した。

## 恐怖にかられて



敗残兵の中には、身の危険を察して住になりすます人も少なくはなかった。

「スパイ集団として部族を襲い、殺害した」とある。愛野喜屋の避難民は「スパイ集団」とみられた。「スパイ部隊」を襲い、「スパイ」を逮捕する計画がめざされ、「一行」は「スパイ」を捕らえてから山小屋を出た。

その後、何が起きたかは、これまでふれた通りである。

敗残兵の中には、身の危険を察して住になりすます人も少なくはなかった。

敗残兵の中には、身の危険を察して住になりすます人も少なくはなかった。

敗残兵の中には、身の危険を察して住になりすます人も少なくはなかった。





# 平和の検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 14 ◆

## 第1部 実相

伊平屋島は孤立していた。本島を短距離二の三の船「伊平屋丸」は、豊後、瀬田、豊後、空襲で破壊され、すでに伊平屋島に破壊された。

敗戦兵が島に渡ってきた。その後、米兵捕虜と毒薬の少年、さらには住人がチナース（富納志）と呼ぶ島民の島で、さん（当時四十歳）の歳数が起る。イクサはなつた。船十の光景が、旅へのおもいをかもし出していた。なぜ殺さなければならなかったのか。海は空であった。なまご

伊平屋には、米軍が上陸していた。たこの島で昭和二十年六月から九月にかけての出発である。なまご。八月二十日午後二時、渡りしかなる。飛べた。ウオが海面に波紋を起す。久地新地から第三伊平屋丸（三七七）に渡り、湖のそばであった。「敗戦兵が定例便で二日往復、午後二時出航である。船内のテレビ

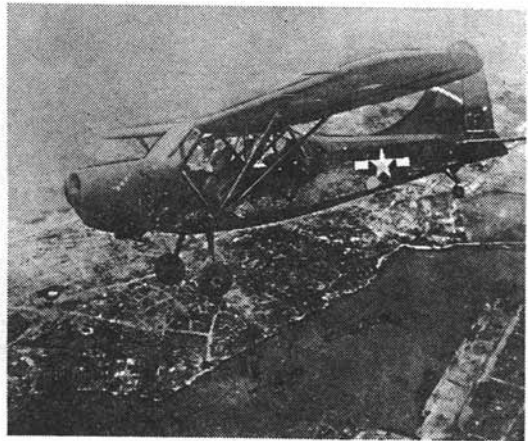
① 敗戦兵が島に渡ってきた。その後、米兵捕虜と毒薬の少年、さらには住人がチナース（富納志）と呼ぶ島民の島で、さん（当時四十歳）の歳数が起る。イクサはなつた。船十の光景が、旅へのおもいをかもし出していた。なぜ殺さなければならなかったのか。海は空であった。なまご

## 「喜納主」虐殺

①

② 敗戦兵が島に渡ってきた。その後、米兵捕虜と毒薬の少年、さらには住人がチナース（富納志）と呼ぶ島民の島で、さん（当時四十歳）の歳数が起る。イクサはなつた。船十の光景が、旅へのおもいをかもし出していた。なぜ殺さなければならなかったのか。海は空であった。なまご

## 孤立した島で...



日本軍や住民から「不」と呼ばれ、これに見つかると島民は殺された

向かっていった。

を覚えていた。

島の足跡は、島民の所にある。小型バスや軽自動車があるが、団体客が多かった。いかに足を確保することばき、内化部軍その約一六〇人を、船作の感念な地を、知られていた島民は、キビ作に代わり、農業基盤を整備のフルやラックが十通り

日の丸の旗と火薬米兵と交換して漁

「伊平屋島の虐殺の真相を明らかにするのは困難である。それは、島民の中心的な役割を果たしたのは特務隊員や敗戦兵グループであったが、村民の一部も協力したと思われるからである。これが伊平屋島の虐殺を調査した人たちの見解である。「証をたどるのは難しいことになった」。

チナースの義勇、喜納政和さん（今は内化台島の島民であった）。

「兄はバタロー（家通）をやっていった。それで伊平屋と行き来していたわがす。伊平屋はすでに米軍が上陸して、その米兵が目の丸をお土産に取っていたらしく、目の丸を交換に薬をもらい、それで漁をしていたのだ」。

それが、プバイに仕立てあげられていく。おやじが病気で、伊平屋の島に寄せろです。わたしが殺される、知って兵に出てきたのだ。と、島民をようと

# 平和

## 検証

いなぜ沖縄戦なのか

◆15◆

### 第1部 実相

「兄チナースは戦前  
機務長としてシガポール  
に渡った。

この時英

領を結ぶ

ようになっ

たのではな

いですが、

島帰って

きてからは

バクロ

（家商賈

をやって伊

平屋をサバ

二で住ま

ていたけ

「の丸を荷に換するこ  
とが敗戦兵たちの反感をか  
なでしよう。しかし、スバ  
イとはい。戦争は終わって

いたのなら、当時は食る  
物もなく、兄の丸を来  
るの火薬と交換して魚を  
いなければと平和さ  
明を二個ずつあげたので、大  
切なまき向本がすつ集めて  
ですね。全国で世話にわ  
けです。多しの証言から敗  
残兵たちは伊平屋の米屋を  
襲撃する上か「島をすた  
めにきた」一馬つたい返り  
戦犯を報告する任務にあ  
なと、住民を殺して、

住民の心にも印象が残る  
人物は伊平屋、神崎身  
の兵士、それと地元の島  
の長老、不時着した住民に訪さ

をしていたからね。  
「戦争がうなっているか  
わらないです。そんなこ

した木倉重忠であった。  
取材する中神崎出た兵  
士が現在、石川町に住んで

食糧など出し合い  
島をあげて世話……  
伊平屋で敗戦を語る人  
は多かった。それは当時  
彼らに対して島あげて世話

「喜納主」虐殺  
②

を

を

を

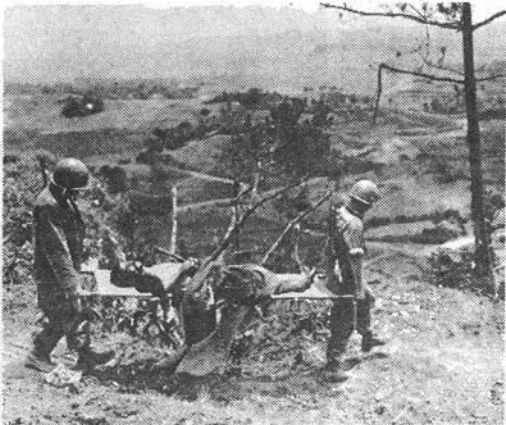
を

を

を

を

### 浜で待ち…射殺



戦時に巻き込まれ負傷、米兵に拘束された住民

をを教えられた。「証言  
してくれればすべてがわ  
かる。元兵を訪問したのは伊  
平屋の敗戦を終えた日の  
であった。当時、二十四歳  
の兵士、それと地元の島  
の長老、不時着した住民に訪さ

多明らかに証言しても  
らないかと頼んだ。しか  
し、ダメであった。  
元兵士は人語から話  
じめた。

部隊は国軍安隊の手、部隊  
を襲った。伊平屋は重傷を負  
った。中隊長は山太尉である。  
大尉の名を出たので、平山  
伊平屋に渡った他の兵の姓  
名を聞いた。「平山利太尉、  
ほかはタタタ、タタは病  
死したらしい。」「タタか  
な間て戦をいってわ

りませ。思い出たくな  
い表情をせ、黙った。  
「千部隊は四月十旬には  
ほとと、遠く状態です。部隊  
の集合場所は「タタワ島」多  
野島だった。で東岸の有  
銘から福地に向かったん  
です。福地は米軍一週、  
多数の死傷者が出た  
そして、安隊国軍校にた  
どりつて。この時は平山太  
尉のほか八人である。「号  
に脱出しようというです。  
わたしは号に逃げると  
神崎の戦場を離れること  
なり、戦場離脱の証言として  
如斯にそれと伊平屋行き  
を語ったのです。伊平屋  
には妻（病気で死）の実家  
がある。  
山越えて佐手船待て出で  
サバニを探した。御殿の傍  
に隠れていたサバニを見つ  
けたがいかいがない。「豚小屋  
を調製する「ニカチャ  
」というがあるさ。サ  
イウのがあるさ。サ  
あれ、棒をついて、ゲートルで  
巻いていかいしのです。  
夜明け前まで伊平屋にた  
どる番がなければならぬ。  
タタタとタタタは病  
死したらしい。」「タタか  
な間て戦をいってわ

（「平和への検証」取材班）

（「平和への検証」取材班）

（「平和への検証」取材班）

（「平和への検証」取材班）

（「平和への検証」取材班）

（「平和への検証」取材班）

（「平和への検証」取材班）

（「平和への検証」取材班）

（「平和への検証」取材班）







# 平和

## 検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 18 ◆

「うちの父は平山尉がいたんです。彼らはあの馬小隊に陣営してね。いつも集まっていたんですよ。」

簡見(よ)

の 無茶の

東洋鐵工

さん。平

山尉が敗

残兵が持

込んだ弾

ではな

「兵隊が海に投

明かした

村曹がケ

リと戦に備

え準備は

んだものよであ

うに接戦でいたのかに

いての確な証言は得られ

かった。しかし、接戦の事実

を浮き彫りにする多くの「出

来事」を語ってくれた。そのほとんどは、佳民の親々の行動や考え方が彼らに伝わった結果としての「出来事」であ

たてつく者には

いやがらせも

C.S.Sの問題、島を訪れて

いた元伊豆名国民学校の教

師、高屋文雄さんなどは、

「兵隊が海に投

ををりきた」というのでお

かしと聞いて、「いまごろ守

りたるわけはな、こんな

人たちの世話をやる必要はな

い」といった。するとわたし

が彼らに担われているという

のです」。

さらに「島には一人ア

な

な

な

## 第1部 実相

### 「喜納主」虐殺

⑤

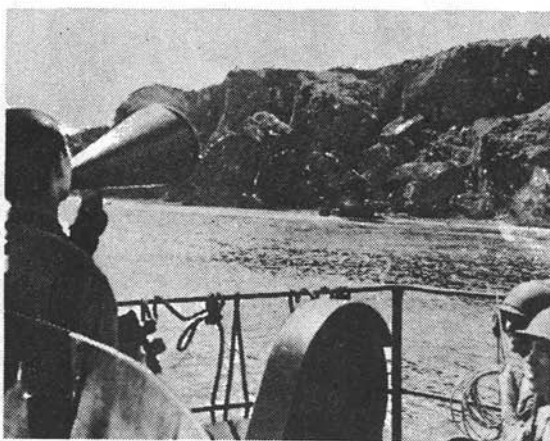
民の「協力」があったのでは

ないか、それが伊豆の虐殺

の全容解明を難しくしている

上の指図は、千七百名のい

## 一部に協力者？



日本兵に敗者を呼び捨てする米軍

にゴザートで待てる。釣

りをしている。潮に流さ

れたらしい。これも敗残兵ら

が自力で斬り、かいなで

捕獲する。

島の人間たちは

関係ない「出来事」

奄美の少年、糸瀬亮のよ

うにして伊豆に買われてき

た

た

スパイとみなされる。父が病

氣で亡くなった伊平屋から呼

び寄せられ、浜に置いたこ

ろで敗残兵が前後から射殺

いずれも佳民とはかわり

のないう出来事として書

特務教員や敗残兵らが島を戦

時下の状況におき、佳民を引

き締める手段として犠牲に

たことはほぼ明らかになっ

た。しかし、佳民側は疑問

が残った。

「だがチナースを呼び

寄せたんですか。日のお物

々交換に使っていたのは特務

教員や敗残兵が直接知り得た

のですか。義勇の喜納政和

さんは押し黙った。

妻だった人がいた。娘もいた。

「島ではチャーサーシガ、

マキヤセ」(やられの)が負

けさど、被害者は被害者で

しがあり難いとは多しは語ら

なかった。そして、那覇住

むチナースの長男もわた

しからばなにも話さずとほ

い。島のたちが事実を伝え

てくれればそれは一言

だけであつた。

「平和への検証」取材班

「平和への検証」は、あす

# 平和命令

## 検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆19◆

摩訶、八月十六日夕。塔は、各鎮慰霊が建ち並ぶ丘を、遠く眺めるかのよう建てていた。「韓国人慰霊塔」。

「わざわざ

離れた場所を選びました。私たちが、韓国人慰霊塔の感情がしになる。

「軍夫」「慰安婦」

## 第1部 実相

都道府県の中に組み込まれ、韓国人慰霊塔は、七十年に満ちた平和祈り時代を思い

出さるんです。金東善さん（日本大韓民国慰問員）は、本館記者の。控えめな声で、一九二〇年の併合以来三十六年間わたる

日本支配、朝鮮の人の苦悩

「三・一独立運動」が「暴

動」となり、「強制連行」は

「徴用令の適用」に委ねられ

た日本の終極目標、金さん

の慎重な案の底に、日本人

の乗車拒否、反日者が続

く韓国人のニュースが「重写

」になる。

「軍夫」「慰安婦」

強制令として虐殺

塔は、七十年に満ちた平和祈り

によって建てられた、平和祈り

兵、徴用として動員された

「朝鮮の碑」

①

金さんの機嫌が、口元が口元

また、慰霊の碑に「韓国人慰

安塔」大韓民国大統領朴正

煥は、過剰な平和祈り

の「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

## 誰のための忠誠



日本兵、住民の海を渡る橋、外を渡る米兵

金元光さん、現在、韓

国慶節北東部地区で、韓

国慶節を祝っている。「たれの

ための忠誠か」と憤りつつ、

「軍夫」「慰安婦」として

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「鎮魂」に就いては

「徴用」に舌先を

かんだまま絶句

四四年七月十日、昨夜十時

に受けた徴発令（午前九時

）に面（村）事務所に出頭

し、たればならなかった。

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「徴用」に舌先を

かんだまま絶句

四四年七月十日、昨夜十時

に受けた徴発令（午前九時

）に面（村）事務所に出頭

し、たればならなかった。

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「徴用」に舌先を

かんだまま絶句

四四年七月十日、昨夜十時

に受けた徴発令（午前九時

）に面（村）事務所に出頭

し、たればならなかった。

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

「たればならなかった。」

# 平和の検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 20 ◆

「朝鮮人軍夫」として沖縄に強制連行された金元栄さん（左）。手記は金元から採る。

## 強制された 資金労働者

五月二十日  
沖縄に来た朝鮮人軍夫は、特設土木労働隊いわゆる「曉部隊」だ。港灣の荷役や壕掘りなどの陣地構築、戦場の一切恩給や年金の補償はないと大城さん、植民地・朝鮮のほうでは、天皇の命令として取り出され、死なされた。

## 第1部 実相

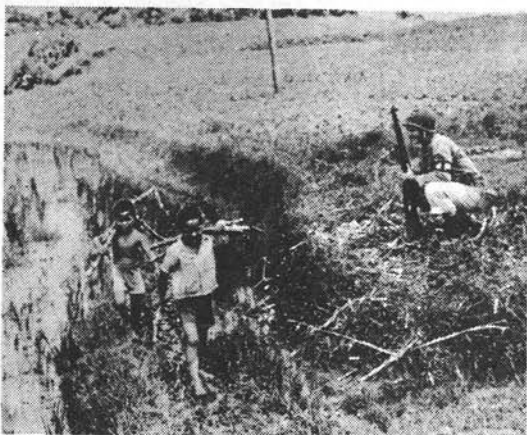
戦士を受ける。だが、下関に身と同時、「逃」の手配。防衛だとして車に没収される。金さんらは、奄美大島、徳島などで陣地構築を行っていた。その年も押し詰まると十二月二十四日、那覇港へ。

## 朝鮮の碑

②

だに明確でなく、ちろん死に「亡者数も不詳」とされてい

## 死亡者数も不詳



キレを運ぶ供たち。笑顔で見守る兵はMPOの印章をつけている

### 五、六十人の死体転がる

の顔が見つけられるものになつて、やとトラックが到着した。一人が弾箱二つずつ持った。五月三日、軍司令部は里にあった。ここから那覇まで弾丸を運搬するのが任務であったが、敵砲撃のため中途で退却した。

五月十四日、南へ撤退途中、兄に会った彼の顔を覚えて、

敗戦が相接したときと異ならなかった。毎晩、食糧運搬のため四里の道を往復したものだ。このように体になつてしまった。

六月十五日、ここから一里半前方が一機をいっただ。迫撃砲が砲撃攻撃が各自集中した。午後七時、百五十名が弾丸運搬に動員された。一里ほど行き百五十名を合流した。

後進するため軍人が牽引車に水をつけた。弾丸が爆発、米軍から容赦なく、射撃を加えてきた。

六月十七日、午前三時ごろ、出動した隊員たちが帰って来た。半数以上は帰って来ず。

そして、六月十八日、米軍各部隊に隊員十余人が集まり、カヌをわけて最後の食事をした。金さんは仲間一人と寝た。七月七日殺降する。

金さんの手記は、七月十一日の石川収容所に終わる。他の水勸隊の行方を通じて、多くは鹿児島に渡ったとわかった。そこで、船を告げ、送られた朝鮮人軍夫の数が多く残った。その一つ、陸間味村回廊を訪ねた。

（平和の検証取材班）





# 平和への

## 検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 22 ◆

### 第1部 実相

「悪いことをしたのですから、逃げ隠れさせろ。取った朝鮮人軍夫を指すらしい。村に定めてくれたお米を渡さないと、落ち着いては低く軌を一にしている。」

悲劇は45年3月28日夜起こった。

渡瀬敷に配備された

海上挺進第三戦隊隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

三戦隊副隊長・赤松嘉次大尉

### 朝鮮の碑

④

「五人くらいでしようか、三月十三日の米軍の本格突襲、赤松隊は、海上特攻を求められ、溺りました。」

「歴史」に防衛隊員の証言がある。日本軍はもみや

## 逃亡兵として処刑



摩間味港に突入する米軍の水陸両用戦車（四五年三月二十日）

なら朝鮮は殺さなかったらと思います。誰が考えも自分の名を斬るとはありませう。証言者は、部下の軍夫をわがわがていと述べている。

「私も死ぬつもりでいましたから……」

六月十日、軍夫の集団逃

ら倒れ、起きあがらずに死んでいく。『軍夫たちは餓えて、力尽きた。』証言者は、部下の軍夫をわがわがていと述べている。

「私も死ぬつもりでいましたから……」

六月十日、軍夫の集団逃

「私も死ぬつもりでいましたから……」

六月十日、軍夫の集団逃

六月十日、軍夫の集団逃

「私も死ぬつもりでいましたから……」

六月十日、軍夫の集団逃

六月十日、軍夫の集団逃

「私も死ぬつもりでいましたから……」

# 平和命令

## 検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 23 ◆

### 第1部 実相

『軍中に安婦十一名が  
半分の女を見た。彼女らは、女  
子挺身隊』といふ名の下  
で強制的に連れて来た

朝鮮の女子  
たちであつた

人間とみなされ  
なかつた慰安婦

『慰安所』(韓国)  
『慰安所』(韓国)  
『慰安所』(韓国)

『軍中に安婦十一名が  
半分の女を見た。彼女らは、女  
子挺身隊』といふ名の下  
で強制的に連れて来た

### 朝鮮の碑

⑤

慰安所が再々歓迎してくれ  
た。だが気が晴れなかつた  
朝鮮人軍夫、金榮さんの  
手記。四五年、月十五十六  
日、麗山半島のたもとだ。

『軍中に安婦十一名が  
半分の女を見た。彼女らは、女  
子挺身隊』といふ名の下  
で強制的に連れて来た

## 慰安婦に“徴用”



慰安婦たち。『華屋の娘』と写真の頭がついている(沖縄戦後、日米  
史、月刊報知)

は、四五年三月の十五日、  
が死した。船は出馬に  
つて、そこで日本兵からお  
前たちは口から日本女子  
挺身隊になり、軍のため  
身を挺して働くことになる。  
と命令を受ける。文さんら  
は初め慰安所製と知らず  
だまされて連れて  
こられて苦海に  
『私たちは一晩中、抱  
きあって、オシマ、オッ  
パを離びながら泣きあし  
ました。習いから私たちが  
うきうきと自白する慰  
安所になりました。他の  
女たちは昼十二時から夜十二  
時まで一日二十名の将兵の相  
手をとられ、片手にお金を  
持てて別なところで順番を待  
っている兵隊たちの姿が連日見  
受けられました。』  
慰安所は当時、県内各地に  
あった。いわれ、慰安所を  
に接する兵隊の証言でも、  
里洞令儀、知念、那覇山、  
さうして慰安所がいたという前  
線、那覇、那覇(二万所)、  
波谷、糸満、波谷、糸満、  
で食料内に慰安所があった  
ことがわかった。そして、  
古、那覇、那覇、那覇、  
とどこいふところであつ  
た。その数は、しかし不明  
だ。

『慰安所』(韓国)  
『慰安所』(韓国)  
『慰安所』(韓国)



# 平和への

## 検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 24 ◆

### 第1部 実相

「アシメアシメ」ーお  
ばあ、と叫びける声に

中はひっ

それと汚

えない。

「きよう

から両腕の神経痛もひどくな

った。「愛媛県での避難生活

が原因らしい。痛むと二、三

です」。

翌朝、閉じ込められたままなん

です」。

案内して

くれた金

賢玉さん

は申し訳

なさそう

に話す。

道出身、六十歳。七歳で下

女に出され、以後、朝鮮各地

を流れ歩く。二十歳のとき、

だまされて従軍慰安所。四

年秋に愛媛へ。アキコ

と呼ばれ、六人の同じ朝鮮人

と隣り合

は、アキコ

と隣り合

は、アキコ

と隣り合

は、アキコ

慰安所と続いた。

軍は慰安所をどう考え

たのだろうか。「内務省」

という一つの資料がある。第

二十四師団歩兵第三十二聯

隊（山一四七五）、日付は昭

和九年十一月。その附録

第四に「軍人慰安所二箇所

規定」がある。

この規定は、三千、頭を附

則からなり、料金、使用時間

から免状費まで実に細かく

規定している。例え。

「三、防衛地区内軍人慰安

所八地方官署二利用シメ

サルモノト又軍人軍属八地

方官署利用シメテ之と

軍の費用を省、之、遊興

税八免税ス。」「二、営業

主入館生助費ヲ免額シ戦力保

持ニ遊藝ナラシムモノト

ス。性別別として、慰安所

毎旬一回三回の検査食

医が行なうを定め、さ、

特に検査受けている。

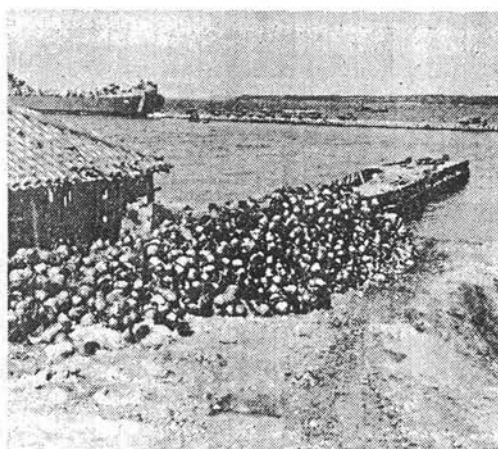
料金は、将校四、下士官

二四五銭、兵四、使用

時間は、「兵士一時ヨリ十

七時迄」「下士官七時ヨリ

## 依然ヤミの中に



洋上に漂うた約平島市の橋に山積された日本軍の鉄片ト

んも語る。それを「戦いの恐ろしさ」と強調した。

バクさんは、七五年に上つ

と韓国籍をた。戦後、三千

三年間、彼女は何回も来、

彼女の家を訪ねてきた。朝鮮

で生き延びてきた。朝鮮の

歴史を見るより、そのよ

ね。金と金、川を固

く閉め、国境二つの部屋

で寝ているバクさんに、結局

ひと言もかけると、引き

返した。

◇ 戦犯になった官憲の嘉

数地。足は、嘉数公

卿として山に似ている型な

っている。その頂上、朝鮮

人兵三百八十人をまつる

「官兵の館」がある。明確に

朝鮮戦犯が町に建ててい

る塔である。本部町では、

国軍支隊（十部隊）関係資

料に六百八十八人の名が記

されている。それが、ほと

どどの事実、慰安所、八重

山の現状を朝鮮人犠牲者

は、その数をも「大正」の

ままである二、三、五、五、五

制、慰安所、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

後、戦後、戦後、戦後、戦

### 朝鮮の碑

◎

方官署利用シメテ之と

軍の費用を省、之、遊興

税八免税ス。」「二、営業

主入館生助費ヲ免額シ戦力保

持ニ遊藝ナラシムモノト

ス。性別別として、慰安所

毎旬一回三回の検査食

医が行なうを定め、さ、

特に検査受けている。

料金は、将校四、下士官

二四五銭、兵四、使用

時間は、「兵士一時ヨリ十

七時迄」「下士官七時ヨリ

二時迄」「将校七時ヨリ

二時迄」。

さ、附則

では、「一般慰安所は共有親

念ヲ徹底シ古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底

シ、古有親念ヲ徹底シ、古

有親念ヲ徹底シ、古有親念

ヲ徹底シ、古有親念ヲ徹底



# 平和の検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 26 ◆

## 第1部 実相

バックナー中将がめられた  
なみ（男性）を二列に並  
べて殺したと  
いう話は、米  
海軍国史だけ  
でなく、隣の  
真菜里でも聞  
けた。国吉、  
真菜里の両  
方（旧高村）  
で似たような  
事件があった  
のか、それと  
も、単一の事  
件を伝えてい  
るのか、然しな  
るが、国吉で  
あるか、米兵に  
住民を殺害事件  
があったこと  
とは、目撃者の  
証言でははっきり

している。  
「全部が米からの避難民  
で、眞里、コザ、中国の人が  
まじっていた」と盛孝さんは  
言う。それにしても大軍の住  
民殺害事件（盛孝さんの推定  
では一人以上）はほんたに、  
バックナー中将の死と関連し  
て発生したものなのだろう  
か。

観察中、この地で戦死した。  
一九四五年六月十八日、  
その時すでに国吉、真菜里  
は米軍によって制圧され、東  
の新垣、真菜里も包囲されて  
いた。圧倒的な火力を背景に  
歩み、摩訶に迫る軍。  
国吉高地は、十六日未明、米軍  
の攻撃を受け、十六日昼ま  
でに米軍の手におち、真菜里  
の集落も十七日のうちに占  
領、突破されていた（二）

### バックナー中将の死

た高村に、バックナー中将の  
記念碑がある。米第十軍司令  
官、サイモン・B・バックナ  
ー中将は、部隊の戦線移動を  
の局中で、米軍は司令官を失  
ったわけだ。

第三軍の激戦後、八原  
博隆佐は、戦後、語ってい  
る。「三戦後の軍司令官  
バックナー將軍を討ち取った  
時は、これを勝負は相討ちだ  
といった気分さ。周囲く  
つに傾いていました（陸  
上自衛隊幹部学校「沖縄戦

調和録）。  
調和録は、第三軍司令部  
のあった摩訶の案（二）  
のこと。絶望的な戦場の中で  
戦い、戦い、意気消沈する日本  
軍に、つかの間の「活気が  
よみがえった」と入屋大佐  
の話は伝えている。  
これに対し、米軍司令部

官の報告をどのように受け止  
めたのだろうか。ジェーム  
ス・ペロート、ウィリアム・  
ペロートの記した「鉄の嵐」  
にあえて、バックナー中将の  
死は、新聞で大きく取り上げ  
られ、アメリカ国民にシッ  
タを与えた。  
しかし、米軍側の戦記は、  
実相の通りだったのか。

## 報復か偶発か



南へ南へ日本軍を追いつめ、進める米兵

当然のことながら報復措置を  
取ったかどうかについては、  
何もわかっていない。米軍側  
の文書によって、この問題の真  
実を確かめるのは恐らく無理  
だろう。「沖縄史」は、当  
時の国吉、真菜里両方の状況  
を聞き取り調査した結果とし  
て、米兵にも住民大量被害  
事件は「バックナー中将の戦  
死とは関係ない」と結論  
づけている。

いったい、どこで、住民大  
量被害事件とバックナー中将  
の死が結びついたのか。発生  
場所が同じだったためか、そ  
れとも同じように起きたため  
なのか。それにしても、事件  
に遭遇し、連く生々現れた  
人の証言がないことが気にな  
った。

# 平和への検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆27◆

バックナー中将戦死したつ  
わる米の住民大被害事件  
について「沖縄県史」は「無

根のデ  
マ」であ  
り、同中  
将の戦死  
とは関係  
がない、  
と断定し  
ている。

## 第1部 実相

友軍がいて入れず、戦車隊の  
が、事実  
は、どう  
なかつ  
た。佳良  
の伝聞証言、決して間違  
ではなかつた。

事件に遭い、運送生き  
残った人の生き証言によ  
って、同事件は、やっ、もや

の中からその輪郭が現し始め  
てきた。  
無線を使い大声  
那覇市安部二、幾合長範  
さん、五十歳。沖縄戦当時、  
国学校六年生だった幾合さ  
んは、髪型、髪型、髪型をか  
いへりながら南をさまよ  
い、糸満市真栄里(旧高麗)に  
着いた。「夢という夢には  
友軍がいて入れず、戦車隊の  
中に木枝、わづををかき  
て座っていた。そこを幾合さ  
んは思い出す。父、弟、お  
い、とが一緒だった。

## バックナー中将の死

(再)

ある日の昼、幾合さんは米  
兵が倒れているのを、自分た  
全、覚えていないという。だ

## 戦死の場面目撃



基は、妻を追われた住民の数少ない避難場所だった

れが死んだか、もちろんそ  
の時とはわからない。しかし、  
現場が、現在、バックナー中  
将の記念碑の多近うにた  
ること、屋敷にたこと、幾  
合さんははっきり覚えてい  
る。しばらく時間がたった  
同日の昼間、近くにいた難  
民は米兵に集められた。  
「避難民はあそこ、ヒー  
ジャーヤー(山羊小唄)とか  
物を持ちた人もいたし、軍服  
をまじりつた、大きな木の  
下、下の中、どこにでも  
ました」  
一人に何十発も  
「男ばかりが馬車道の道の  
そばに並べられた。女子供  
もいたが、あち行きな  
さい、と分かれた。男は二  
十人くらいですわね。着  
たのわしりを撃たれた。弾が真

酒し、幾合少年はの場で、  
まん絶した。  
現場の位置、米軍の残部  
な驚かす、当時の戦況など  
からして幾合少年が、バック  
ナー中将戦死の歴史の場面を  
目撃したのは間違いないさう  
だ。その後、起きた投擲事件  
も、同中将戦死と関連させる  
と説明がつかない。  
この事件を理解する手がかり  
が、実は、ベトナム戦争に  
あった。ある米兵の証言によ  
ると、当時、米軍は、先頭の  
戦車が地雷に引っかかった場  
合、戦車自体が起爆装置を踏  
みふちのとなりにして敵兵に戦  
術とらなつたが、先頭の  
戦車が無事で、次の戦車や  
られた場合、「ベトナム」が  
誘導線が発火装置を押しした  
ものとみえて、見ざる殺りの  
相をやつてた。しかし、  
普通、地雷の場所でも、雷や  
つづけるというコマンドが  
いた、という(全多勝一「戦  
場の村」)。軍隊が戦術的  
である事態が生じた時  
どのような戦術行動をなか  
を、この証言が示している。  
(平和への検証「取材班

## ◆ 28 ◆

その研究費に、一任に成程と集団自決は同一線上的もの

## (「平和への検証」取材班)

## ①

その研究家は、一住民の自殺と集団自殺は同一線上的ものと

（「平和への検証」取材班）



# 平和命令検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 29 ◆

23日から大空襲

「父が朝までにきりを入  
れです。迎えにきたよ  
うでしたが、  
なにもいわず  
に帰ってしま  
ったあの時、  
父に声をかけ  
られていたら  
わたしも死ん  
でいたです。  
す。中村米  
子さんは  
善(ふし)を  
おき、父親と  
の別れの時、  
から話しては  
めた。米軍上  
陸一日前の三月十五日朝の  
ことである。

## 第1部 実相

慶留間島は三千から大を隔っている。住  
民は海上に居る。渡  
嘉敷、味、阿嘉島の島々も  
同様であった。二十四日後  
には艦隊攻撃もはじまり、米  
軍上陸の間いことを告げて  
いた。住民はどの時か山の  
防空壕に避難する。  
「部隊の住居は二の場、  
一中隊に集り、そこから第  
二中隊、第三中隊のいる阿嘉  
島の時、なぜか、頭にくん  
です。中村さん。海上に  
進軍(野田義隆氏)

## 集団自決

②

第一中隊は部族長の山の  
中腹、阿嘉島に面したところ  
に駐屯、阿嘉島とは約10海  
のです。」

「わたしからよー」



妻のなかで抱った子供にクレイションをする米兵

中村さんの話と同内容の  
ことを次の訪問先でも聞い  
た。  
中村武次郎さん(昭和50年  
十六歳で、第一中隊の作業を  
手伝っていた。父親を早く  
亡くし母の三人暮らしで  
あったが集団自決で姉を失  
う。「一本の樹と姉とわた  
しが首を絞めたのです。二十  
歳だった姉はわたしからよ  
う。わたしは母にせがみ、  
母は姉を絞め、わたしは自分  
で絞めたのです。死にま  
せんで。母も同じでした  
と、仏壇の上にある姉の写真  
に目をやった。そのそばには  
母親とてなった母親の写真  
もある。「娘を自分の手で殺  
してしまふことがいふ心  
のなかであるようにした」。

ほとんどの住人の接解はな  
った。戦の前にはカツオ  
節工場があつて、その工場  
には大企業発表の戦果が  
出していた。  
武次郎さんの話は、  
いつごろから村役場の人  
や区長から捕らえられた  
米軍のやり方が話された  
のです。サイパンでの話が多  
く、女は強かんして戦車  
でひき殺したり、船に寄せ  
殺すとかでした。いまえ  
るで、日本軍がやらないを  
そのまま米軍にあてはめ  
られます。  
武次郎さんの話を裏付ける  
ように米軍の上陸と同時に捕  
縛されるのを免れた住民は、  
われ先に死に向かう。二十  
六日のひと時に三三八人を  
絞め合い、まは首をを  
「戦争に迫れるようにし  
て南洋から引き揚げてきた  
家があり、父親は体が弱  
けですが、この家族七人が一  
つに木を首をうってしま  
つていまだに思い出さ  
がします。武次郎さん。  
(平和への検証)取材地

平和の

**検証**

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 30 ◆

## 第1部 実相

**第1部 実相**

世帯数千人、人口十万人を擁する蘭館開港地。四月朔日（現・江戸）ある。あはれと見ゆる南蛮船が、

雲湧けきて  
襲の戦争を起す。  
七年の歳月、王たるわづかか  
人の語部  
に我し残り  
なかつた。こ  
の語部かい  
ちも年老い  
会つてゆめ  
そくれのまへ  
は中村米三

と中村米三郎の二人行けるであつた。

「わたしの家の向かいにお  
じいさんがいましたよ。もう

水雷隊（朝鮮人軍夫部隊）十人（軍人のみ）であつた。こゝ

## 集團自決

十二人、基地大隊六十五人、

水雷隊（朝鮮人軍夫部隊）十人（軍人のみ）であつた。こゝ

ていたのが――

×××

座間味島での集団自決をみ

いさぎよく死を



米兵の説明を受ける鉄血勤皇隊

とげんな顔をした

死ぬのであれば……

仲宗根善道さん（左）の毛は米須農協スーパの近所にあった。花売りのおばさんたちから紹介を受けた。塚のなかでの出来事をよく知る一人であった。

仲宗根さんは昭和十九年の十一月か十二月（はっきりしないという）に防衛隊員として八重瀬で召集。隊長付き当番であったというが、仕事は弾薬輸送が主であった。

「十九日(六月)には真里の「マヤアーンゴ」にいたのです。午前十時ごろ監獄に出ると敵が国書の方からやってきたので、体当たりしようとしたら真栗里の方向に行ってしまった。あの時、敵がこちらに向かっていたなら、と振返る。

「その夜でした。隊長から八重瀬に弾薬輸送を命令されたのですが、戦争は敗けるのだから死ぬのであれば家族に会って死ぬのがいいと思い、逃げました。同じ部落の人が三人いて、合わせて五人でした。」〔平和への検証「取材班」〕





# 平和への

## 検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 32 ◆

### 第1部 実相

一瞬、「死」が走る  
米兵の「ガミッ、ッ」  
での集団自決は、眼の出来事  
であった。逃  
げ場のない壕  
に投け込まれ  
た米軍の手り  
ゅう弾で、壕  
内に「死」が  
走ったのであ  
る。この時  
すでに「死」  
への条件整備  
は終わってい  
たとみられ、  
引きがね  
は米軍の手り  
ゅう弾一発で  
太であった。

仲宿根さんの証言であるよ  
うに「神神」は降参する。どう  
せ死ぬなら家族に会ってか  
い

「と、戦況を極めて、家  
族のもとに戻ってきた防  
衛隊はとって「死」は「死  
にます」だけの問題、条件  
は整っていた。それを食い止  
めようとした。婦人の子供  
たちの「水を飲め、ばい飲ん  
で」とか言いながら下で  
あったささいな死に際して  
の欲求であった。カミントッ  
プでの集団自決の数は確認  
できなかった。

な「流言蜚言」の語の  
ほかに、民衆強要が最の「動  
機」として浮かび上がってい  
るからだ。

住民は男女間わず

それは米軍一陸二日前の二  
十五日（三月）夜、海軍艦通  
第二戦隊の船給隊長からの  
軍命、「住民は男女を問わず  
軍の戦場に引き、老人子供  
は村の忠告に従い集合、玉砕  
すべし」である。

慶留間島から阿嘉島を経て  
座間味島に渡ると、つとま  
いので、事象のことをよく

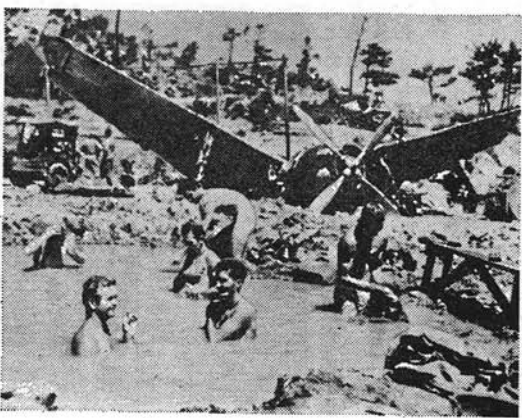
座間味島の集団自決は、

### 集団自決

⑤

その実数もさることながら  
「背景」がはつきりしない、  
「智の主人」などか殺害  
を、当時の島の状況に

## 玉砕すべし



占領した集約飛行場で水浴びをする米兵

でも聞いておきたかったから  
いのである。

「機隊長が「八月八月  
前」で泊まったはずと  
村役場付近にある旅館の主人  
は、教習所問題に関心を  
示し、文部省を批判した後、  
突然に「機隊長」を口にし  
た。

主人によると、機隊長は  
しまり、「自分か命した  
た。

島をこっそり訪問  
海兵隊は「昨年の冬にも

の「はなし」を語っていた  
のである。

「機隊長が「八月八月  
前」で泊まったはずと  
村役場付近にある旅館の主人  
は、教習所問題に関心を  
示し、文部省を批判した後、  
突然に「機隊長」を口にし  
た。

主人によると、機隊長は  
しまり、「自分か命した  
た。

島をこっそり訪問  
海兵隊は「昨年の冬にも

確信を「を」贈るためであ  
った。夜の飯知島の座で、海  
兵隊長は初めて自分の名前を明  
かす。

その時の機隊長村長は二人  
は通る。

酒を酌み交わしている時、  
一人ひとりがたしは機隊長  
すという。参加している人  
なほみんなつづいた。

ほとんどの人が好意で、演  
壇にあがってあいさつをて  
もらってきくとの声もあつた。

機隊長は「そんなとは  
できない」と断つたが、この時  
村の幹部は「マスコミ、マス  
コミが断じた。

機隊長は、集団自決を家族  
ばらばらでつづけたので、実数  
を確認することは難しい。一  
説には「三百人余といわ  
れるが、現在確認できるのは  
三百人強である」という。

部隊長から自決命令が出た  
たは多くの証言がほぼ  
確認できると書く。

軍命があつたのか、なかっ  
たのか、の問題は座間味の集  
団自決の事実をみるうえで大  
きなウェイトを占めているの  
である。

（平和への検証取材材

の兵士十三人とも）島を訪  
れたのである。村に地蔵堂

そして、八月、生れ飛り  
の兵士十三人とも）島を訪  
れたのである。村に地蔵堂

そして、八月、生れ飛り  
の兵士十三人とも）島を訪  
れたのである。村に地蔵堂

そして、八月、生れ飛り  
の兵士十三人とも）島を訪  
れたのである。村に地蔵堂

そして、八月、生れ飛り  
の兵士十三人とも）島を訪  
れたのである。村に地蔵堂

そして、八月、生れ飛り  
の兵士十三人とも）島を訪  
れたのである。村に地蔵堂

そして、八月、生れ飛り  
の兵士十三人とも）島を訪  
れたのである。村に地蔵堂

# 平和命令

## 検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆33◆

### 第1部 実相

「忠魂碑前に集合」

二十五日(月)夜の「忠魂碑前集合」玉砕よし

の軍命はほとんどの住民にわたって、たがいは老人、子供を抱えた。ただ、時間のすれによって、貴が集合できずに四肢、すよと云うのですが、その後、すよの首を切て「すね」。

ふん着の目、村三殺しは多く、明けて二十六日、米軍上陸の日は、村三殺しの妻で集団、この妻に入らなかつた。

母も一緒に、この時は、はるかに激し。

しへやんの思いで碑に近づくと、そこには校長生と奥さん、それに別の一家族がいるだけでした。」と量美

ら手りゅう弾が投げられまし

た。しかし、一人の先生の

が死に、女の子が重傷を負

た。たが、校長生には

みんなの死のを見つめて

から死ぬまに頼んだはず

が、校長生は奥さんの首を

切った。奥さん、あてす、あて

すよと云うのですが、その

後、すよの首を切て

です。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

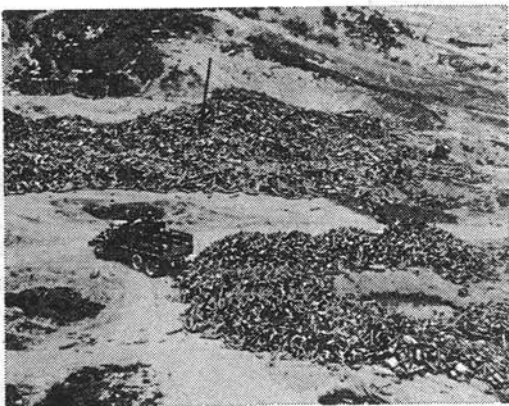
た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

### 「村史」も避ける



すさまじい物量戦を物語る素さうの山

二人に会った。二の二人は、「村三殺し」の軍命があつた。たが、奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

語り内容は、軍任民が同一基盤に立っていた。とい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

た。奥さんのい

# 平和

## 検証

いまなぜ沖縄戦なのか

◆ 34 ◆

「警察を捕まえて（山崎）  
自今語らばその確拠に廻り  
現在上級者の指揮に依り

### 第1部 実相

め最後ま  
し、生き  
て敵囚の  
辱を受く  
ることな  
く、悠久  
の大義に  
生くべし

### 命（ぬち）と宝

①

第三十  
二軍司令  
官牛島満  
中将は、

『本報』を求めると命令を各  
部隊に伝え、自害した。決別  
の辞にわく。

矢張り米軍は東マテ

散ルトモ

瀕死の瀕死の瀕死の瀕死

「警察の降伏」をいささ

しとしない旧日本軍の玉碎思

想については、戦後、多くの

人によって語られているが、

取材班は、沖縄戦戦史の証

言を採録する過程で、玉碎思

想とは質素な考え、何處も

へん、早く戦ひなさい」。

どうせ負けい、死ぬな

ら、一緒に、兵隊や奥さんを

初め、防衛隊員として山部隊

に入隊した。首里、識名、津

嘉山、東馬平、与座を部隊と

とに分けた。Aさんは、

負けい、な、な、な、な、な、

知り、部隊を離れる。家族の

いる家に戻ったAさんは、母

親と奥さん（とされた）「ど

うして戻つて来たの」「た

いへん、早く戦ひなさい」。

どうせ負けい、死ぬな

ら、一緒に、兵隊や奥さんを

殺して、一緒に、兵隊や奥さんを

殺して、一緒に、兵隊や奥さんを

殺して、一緒に、兵隊や奥さんを

殺して、一緒に、兵隊や奥さんを

殺して、一緒に、兵隊や奥さんを

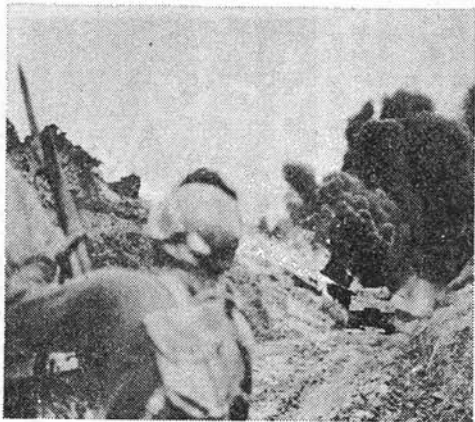
殺して、一緒に、兵隊や奥さんを

殺して、一緒に、兵隊や奥さんを

殺して、一緒に、兵隊や奥さんを

殺して、一緒に、兵隊や奥さんを

## 玉碎思想は希薄



米軍上陸室と見るや日本軍は多くの住民を防衛召集し、戦場に駆り出した

したとに等る。負けい、

がそうきたのか。し、

Aさんの行動は決して、戦

行動ではなかった。

☆ 元防衛隊員のBさん

は、高麗の妻、八重瀬ま

で沖縄を運ぶようにの命令

を受けた。日本軍の敗北決

定的となつた五月十九日のこ

とである。「どうせ沖縄玉

砕する。死ぬなら家族に会う

から来よう」と、Bさんは

A、Cさんが断片に語った

他の四の防衛隊員に話を

呼びかけた。「もし勝たら

親防衛隊員で、戦車攻撃を

命られたが、途中で考えを

変え、部隊を退出した。

家族のもとに走った。

☆ 文相のことは絶対ふれ

ない、との条件で目の沖縄

隊に呼ばれ、各部隊に配属さ

れた。対象者は満十七歳以上

満四十五歳までの男子。しか

し、兵力不足を補うためから

次第に年齢制限は有る無実と

なり、口頭で壕から駆り出さ

れるというケースも生じた。

徴兵による軍需教育を受け

ていない防衛隊員は戦場と

陣地構築、弾薬輸送、伝令通

信などに従事した。竹やり訓

練習の経験しかない防衛隊

員は、自るを「隊員」と呼

んだ。「これは軍を以て召

集めたのではなく、防衛召

集の名の下に、実は勇兵（ベ

ーリ）部隊を編成したので

あった。軍天では都合が悪い

ので、召集というこ

に、軍需が新設したのである」

と、池田敏秀氏は「沖縄に

生ずるの中で指摘している。

多くの防衛隊員は、軍の玉

碎思想が希薄だった。訓練も

軽すぎた。家庭からそのまま戦

場に駆り出された防衛隊員

は、従来、彼らが生きていた

考え、「命軍」ないう

考え方に従つて行動したので

はないか。

（「平和の検証」取材班）

# 平和命令

## 検証

いなぜ沖繩戦なのか

◆ 35 ◆

「これはほんたうな戦争で殺れやしないよ、もしも沖縄に軍が上陸しても捕虜になるか、心配するな」。

「君たちは目から陸軍二等兵と書かれて、ウリハ一思った。自分たちとしては兵隊という意識はなかった」。

「君たちは目から陸軍二等兵と書かれて、ウリハ一思った。自分たちは兵隊という意識はなかった」。

## 第1部 実相

当時、県立図書館の司書だった池宮城秀意さんへ、その言いつて陳列に旅つて妻を助ました。一九四八年八月十日、池宮城さんの下防衛召集の令状が届いた。池宮城

## 命(めち)と宝

兵の中には、いくらか生計が神があつたかもしれないが、多くの防衛隊員は、玉碎といふことをほとんども考えない。ある意味、兵の証言を引く

## 戦場で悟った本音



宜野座近くの森の中で授業。学校教員は米軍政の監督下で再開された

う。「天皇陛下のため、敵の戦車を身を挺して粉砕してやりたい」と祈じられたある防衛隊員の語。

「われわれ考えた。つまらぬ二男一子になれ、ということである。そんな虜虜などかやれや、軍隊教育もろくに受けていないわれわれに対して何と無茶なことを言つ。(中略) よし、こんな

池宮城さんへ、「沖縄戦を考へる会」の会長として沖縄戦の知り見し、体験繼承に精力を注いでいる。沖縄戦で沖縄の人たちは戦争の本質を完全に学んだ、という池宮城さんの言葉の中には、体験者の確信が脈打っている。

同会事務局の大城博保、史料編纂所主任専門員は指摘する。「戦場における沖縄民衆の生きざまは、米軍を監視する時、それから立ちのぼる言葉である。よく防衛隊の行動を追跡していくと、最後につまぬのは、命と宝、という本音であった。『命の宝をかくらへてきた沖縄の民衆にとって、命と宝、という言葉は胸にすうじり、断つていゝ宝はある。その言葉こそ、われわれは、死んでいゝ宝の両方を失つたのである』(新沖縄交43号「戦争体験は継承するか」)。

(平和の検証)取材経  
第一部おわり

# 歴史の下した判決

日本の教科書改訂による歴史改ざんをめぐる法律問題

陳チエン  
体テイ  
強チヤン

日本文部省は教科書改訂にあたって歴史的事実を改ざんし、日本軍国主義の侵略行為を美化したが、これは中国人民のきわめて大きな怒りを呼び起こしたばかりでなく、日本の侵略をうけた各国人民および日本国内の正義を主張する世論からも激しい非難を浴びた。

日本の教科書改訂による歴史改ざんはいくつかの法律問題にまで関連する——①侵略戦争とはなにか ②一九三一年から一九四五年にかけての日本の中国に対する戦争は『侵略戦争』なのかどうか ③国際法によれば南京大虐殺はどんな性格をもつものか ④中国か日本側に教

科書改訂の誤りを是正するよう要求することは日本の内政への干渉なのか などがそれである。

日本の対中国戦争の性格

なかでも根本的なものは、日本の中国に対する戦争の性格である。

一九三一年の『九・一八事変』から一九四五年八月十五日の日本降伏までの十四年間、日本軍は中国の広大な領土を侵略、占領し、一千万にのぼる中国人民を殺害し、

中国の財産を大量に略奪、破壊した。戦争は日本が起こしたものであり、中国の領土でおこなわれたものであって、その目的は中国を滅ぼし、アジアに覇を唱える野望を実現するところにあった。日本の中国侵略という歴史的事実は、多数の国際文書によって厳正な判断が下され、動かしがたい証拠が山ほどあり、言い逃れのできないことである。

一九三三年二月二十四日、国連総会で採択された報告書により、『九・一八事変』以後の瀋陽および中国の東北地区における日本の軍事行動は「自衛のための措置とみなしてはならず」、「日本の紛争全過程での軍事施策も自衛のための措置とみなしてはならない」と確認されている。

一九四二年一月一日に採択された連合国共同宣言では、連合国は「世界を征服しようとする野蛮かつ横暴な勢力に抵抗する共同闘争に従事している」と宣言した。

一九四三年十二月一日の中英英三国による『カイロ宣言』では、「日本国の侵略を制止し罰するため、今回の戦争をおこなっている」と宣言した。

一九四五年七月二十六日、中英英三国による『ポツダム宣言』は、「ただちに無条件に降伏し」、「カイロ宣言の条件をかならず実施する」よう日本に要求した。

一九四五年九月二日、日本は無条件降伏文書に調印し、

「ポツダム宣言の条項を誠実に履行する」意思を表明した。日本は『侵略』の判断を確かに受け入れていたのである。今日において日本の一部にこの定論をくつがえそうとする者がいるが、それは決して許されない。

日本の対中国戦争の侵略性は国際法によって規定されている。一九一九年に調印された国際連盟規約第一〇条によると、「連盟加盟国は、加盟各国の領土保全および現在の政治的独立を尊重し、また外部の侵略に対してそれを擁護することを約」している。これからも明らかにように、連盟加盟国の領土保全や政治的独立を犯す戦争はすべて不法であり、他の連盟諸国にはこの『外部からの侵略』に抵抗する義務がある。

一九二八年八月二十七日に調印された『パリ不戦条約』の第一条では、締結国は国家政策の道具としての戦争を放棄すべきであると規定されている。極東国際軍事裁判が一九四八年十一月十二日に発表した、日本の戦争犯罪人に対する判決文では、『パリ不戦条約』に違反して戦争を引き起こす行動は「すべて犯罪行為とみなすべき」であると指摘された。そこからも知れるように、日本が侵略戦争を起こす以前に、侵略戦争はすでに国際法によって禁止されていたのである。日本政府が中国侵略戦争を起こしたのは法を知りながら意図的に犯した違反行為である。

侵略戦争禁止についての法律・規定は第二次世界大戦以後、以前よりも明確にされた。国連憲章第二章第四項では、「すべての加盟国は、その国際関係において、武力による威嚇または武力の行使を、いかなる国の領土保全または政治的独立に対するものも、また、国際連合の目的と両立しない他のいかなる方法によるものも慎まなければならぬ」と規定している。一九七四年十二月十四日に国連総会が採択した『侵略の定義』が指摘しているとおり、国連憲章に挙げられた、他国の領土保全および政治的独立を侵害する行為が『侵略』なのである。日本の対中国戦争が『侵略戦争』以外の何ものでもないことは明白である。もしも日本の対中国戦争が『侵略戦争』でなければ、この世に侵略戦争はなくなるであらう。

一九七二年の中日国交正常化に際して、日本は『中日共同声明』のなかで、日本側は、「かつて日本国が戦争を通じて中国人民に重大な損害を与えたことについての責任を痛感し、深く反省する」意思を表明した。また、一九七八年に調印された『中日平和友好条約』では「共同声明に明記された諸原則は厳格に順守すべきである」と規定された。日本政府は何を「反省」するのか。反省すべきなのはその中国侵略の犯罪行為にほかならない。もし侵略がなかったなら、反省の必要などどこにあろう。現在、一方では、日本政府は「日中共同声明で表明した、

過去の戦争についての責任を痛感し、深く反省する立場を変えるつもりはない」と言いながら、他方では文部省は中国侵略を根本的に否認している。これは自家撞着ではないか。

### 南京大虐殺

南京大虐殺は人類史上、言語に絶する野蛮行為であった。この点は東京国際軍事裁判で的確かつ具体的に述べられている。「中国軍が南京陥落以前に撤退したため、日本軍は南京占領時に抵抗をうけなかった」。日本兵に殺された、身に寸鉄も帯びない中国民衆は総計二十万人以上、埋葬班に埋葬された遺体だけでも十五万五千体に達した。大虐殺、大略奪は南京陥落後、六、七週間も続いた。これらすべては法廷の動かせない証拠によって下された結論である。しかし日本政府の高官はあろうことか、「歴史的事実かどうかは、判決文だけではただちに断定しがたい」と言っている。この言い方は東京裁判を頭から否定しようとするものではないか。

南京大虐殺は戦時国際法に対する重大違反行為である。中日戦争勃発当時、中日両国はともに、一八九九年の『ハルビン条約』当事国であった。同条約の陸戦法規によれば、防備なき都市、町、農村、住宅地区、建物に対

する射撃、爆撃を禁止する、都市、町あるいは地方に対する略奪を禁止する、占領地での略奪を禁止する、個人の生命、財産を尊重する——などが規定されていた。日本はこれら諸規定を無視し、承知のうえで法を犯したのである。

### 教科書検定

ある国の教科書の検定は一般的にはその国の内政問題である。しかし、日本の教科書検定は、内容が他国の歴史、他国との関係に及び、世界の平和と安全に影響し、さらには他国に対して果たすべき国際的義務にそむくものであるため、まったく別の問題となったのである。したがって、関連国には日本に改正を要求し、義務を履行するよう要求する権利がある。日本による中日戦争史の改ざんは中華民族に対する侮辱であるだけでなく、世界の安全と平和を脅かす軍国主義に道を開くものであり、『降伏文書』と一九七二年の『中日共同声明』など諸文書に書かれた、履行すべき義務にそむくものでもある。これらはすべて中国の利害にかかわる重大な国際問題であり、内政問題などでは決していない。

以上の分析から次のような明確な結論が引き出され

る。

一九三一年の日本による中国侵略戦争以前にはやくも『侵略戦争』の概念は国際法によって明確にされ、近年になっていっそう明確かつ具体的になった。野蛮な作戦方法の禁止も国際法によって明確にされている。日本は軍国主義政策をおしすすめるため、敢えて『国際連盟規約』と『パリ条約』を踏みにじり、侵略戦争を起こした。敗戦後、日本は戦争犯罪を深く反省し、他国を征服、侵略する野望を放棄する意思を表明した。それをふまえて、中国人民は中日両国人民の友好のため、日本人民と世々代々友好的に付き合っていくために賠償金の要求をすべて放棄したのである。中日国交樹立の基礎は日本が中国侵略という犯罪行為を認めることにあった。日本政府が、中日国交樹立についての政治的、法律的基礎を揺がすことなく、歴史の教訓を真剣に汲み取り、憎むべき、恥ずべき侵略戦争の残虐さを深く認識し、世界平和のためまた日本人民の平和のために、そして中日両国人民が世々代々友好的に付き合っていくために、自らの約束を守り、自らの国際的義務を履行することを、われわれは心から望んでいる。

（筆者は中国国際法学会副会長）

『北京周报』No. 36より転載



# 十周年記念公募論文佳作発表

『あごろ』創刊十周年を記念して公募した論文、「基本的人権としての女性解放」に、私たちは多くの期待を抱いたが、残念ながら応募数は十篇、うち四篇を候補作として、十一名の選考委員が慎重に検討した結果、結論としては「入選作なし」となった。十篇の、どの作品にも、「論文」の必須条件である抽象化と理論化の弱さが残念ながら目立った。「基本的人権としての女性解放」というテーマそのものがむずかしすぎたためかとも反省しているが、これが現状でもあろうか。その意味では後藤悦子氏の作が注目をあつめた。深見氏とともに佳作とし、次号に掲載することとする。

「女性解放論」には、現実の運動としての体験とともに、ひとりの女としての自らの体験も必要かもしれない」とは、ある選考委員のことばだが、今後は熟年バワの参加も期待したい。

なお、編集部では、埋もれた声、埋もれた作者の発掘を目指し、今後とも、引き続き、論文・エッセイ・実践記録・報告・詩等を広く公募することとした。ふるってご応募いただきたい。締切りは特に設けない。枚数は、掲載の都合があるため、一篇五十枚以内(短くてもよい)、掲載料は本誌の規定による。「入選」に該当する秀作には、藤井恵美作「陶箱」(五万円相当)が副賞として贈られる。

## 佳作「母子家庭」から

深見 史

もはや誰の目にも疑うことのできない反動化、軍国主義化の道を進む日本である。この時代に生きていること自体、さまざまな苦しみを背負うものだが、いわゆる「母子家庭」で

ある私の家庭の現実をみつめ直すことから、この世を正確に知りたと思う。

### 一、「母子家庭」とは何か

母子家庭とは、わずかな児童扶養手当、あるいは生活保護を受けるために、有形無形の抑圧下にある母と子によって構成される家族である。「母」はここで、その言葉の表現する

〔候補作〕

(◎は入選、○は佳作)

深見 史 母子家庭から ◎○○○

後藤悦子 社会の単位をめざして ◎○

いのうえせつこ 女性障害者と人権 ○

大林美穂 基本的人権としての解放 ○

すべての觀念をひき受けねばならない。すなわち「母」は、夫のある女が日常の中で二つの仮面（「母」と「女」と）をつけはずしするわずらわしさから解放される。「母」は四六時中、「母」であるのみだ。夫のある女にとって、産につらなる性は話題となりうるものであるが、母子家庭の「母」にとって性は、今もなお、はっきりとタブーである。

しかも、この場面において、夫との別れ方、生別か死別か、また、離婚の際に、夫から別れたいと言ったのか、妻から別れたいと言ったのか、というところで複雑な差がでてくる。

母子家庭というからには必ず子がいるはずで、子がいる以上、かつては必ず男との関係があつたはずなのだが、母子家庭の母ほど、性的でない女はない。

（ここでいう「母子家庭」とは、自ら「母子家庭」と表現されるものをいう。独身の女と、その子、という組み合わせとは若干の相違がある）

ある母子寮で、私はかなりショックを受けたことがある。

そこは私が毎日仕事で寄る寮なのだが、日によってトイレ（共同）をかりることがある。「幼児用」「子ども用」「大人と子ども用」「大人用」の、四種類の文字が書かれたドアのむこうは、たしかに便器の大きさに差があるのだが、「大人用」「子ども用」は入ってはいけません、と添え書きがある）には、数個の汚物入れが置いてある。「大人と子ども用」のトイレには汚物入れはない。

ある日、寮母さんが声を震わせて怒っているのにでくわした。

「どの子がここに入ったの！ 子どもは入ってはいけません、と書いてあるでしょう！」

その時、私は、まぎれもなくその汚物入れには汚物が入っているのだと、母子家庭の母の性が、汚物として閉じ込められているのだと感じた。子どもとともに、性を知り、性を語ろうとすることは、とりわけ母子家庭においてむずかしい。母子家庭は不幸であるので、そのもととなった母の性は汚物なみだとする、いわば母子家庭イデオロギーが、何のかんのといっても、なお健在であることは、実感されるのだ。

差別は常に貧困をともしなう。母子家庭の働き手だといったところで、男なみの賃金がもらえらるわけなし、幼児かかえての就職はそれ自体むずかしく、よって概して母子家庭は貧しい。翔んでる、キャリアウーマンの、未婚の母の、といった例は、ごくわずかにすぎず、おおかたの母子家庭は、惨状とさえいえる経済状態にある（わが家もむろんそうである）。社会全体が平等に貧しいならともかく、片や物質文明に浸り、立派な家に住み、うまいものを食ひ、きれいな服を着て、やりたいことをやっている人々が、貧しいことは、苦しみにつながる。

（日本は豊かになつて、今や飢える者はいない、などと本気で信じている人がいるのが信じられない。常に表通りしか歩

いたことがないのだろうか。繁栄の日本、などと言ったところで、廃屋に近い小屋に住む、まさに極貧のくらしをする人々がたくさんいることはかくしようのない事実なのだ。貧困は、充分に課題となりうる。

貧しくたつて暖かい家庭であれば……というのは正しい理想であるし、実際に、金の力というものはたいしたものではないのかもしれない。けれども、貧しさの生みだすものは貧しさだ。教養や、学力や、時間的余裕から創られる文化的素養というものが、好奇心、さまざまな夢、理想、そういったものを、多くの場合、貧しさが奪ってゆく。そして、子どもたちが、与えられなかったために育ってゆくチャンスを失った才能、あったかもしれない才能を、むざむざ埋めてしまうのを眺めるしかない、貧しい母は、やはり哀しい。少なくとも、子どもたちに幅のある選択をさせることのできない状態は、貧しいといえるのではないか（今、子どもに対して全的責任を負うのは、親だけなのだから）。

類としての子、あるいは、民族としての子という視点の、完全に欠落した日本では、子どもの養育、老人の介護、病人の看病のいっさいが、家族にゆだねられ、その不可能なものにはしぶしぶ涙金を出して福祉と称するケチな行政がまかり通っている。助けてやっているのだぞ、という意識が、なぜか市役所の窓口にまでゆき渡って、実に不快なおもいをしなければならぬ。これも、貧困への差別といえるのではない

いか。それでいて、わずかな給料から、しっかりと税はひかれるのだ。

母子家庭には、女抑圧の集約的表現が見られる。すなわち、「母」イデオロギーと、経済的圧迫である。

「母」イデオロギーは、ここではかなり整理されて、有夫の女、あるいは未婚の女にある二極分解（「母」と「女」性との生殖の分断）の混乱はさけられる。安心して聖母を演じていれば、問題はないのだ。なかでも、夫に死別した、貧しい母で、処女懐胎で子を産んだごくふるまう女は、母子家庭のあるべき姿を演出する。離別した女は、その罪（離婚の罪）をあがなうべく、性的なおいを、子どもの前からも完全に消さなくてはならない。

夫に去られた女は、その不運にもめげず、子のために、けなげにふるまわねばならない。

（母子家庭）になってから、ワイ談をしかけられることがなくなったのが意外だった。まず人々は、まあ、たいへんね、と、言い、がんばるのよ、と励ましてくれる。男、いなくていいの？ と、なぜ誰も聞かないのか、ふしぎな気がした。夫のあるうちは、きわどい冗談も平気で言ってた人が、なぜこどもふんわり柔らかくなるのか。結局、私は女でなく、母であるので、その母を汚す（？）ような言葉は、母子家庭を冒と

くするものであるので、人々は上品に、礼儀を守った、とすべきなのだろう。

母子家庭の貧しさは、女一般の貧しさと同義であり、多くの場合、有夫の女であれ、その潜在的貧困に変わりはない。

私の例でいえば、日給にして、かつての夫の四五パーセントの給与しかない。同じ年齢で、労働の質も量もさほど違わず、しかも子ども二人を扶養する私が、男の半分以下の収入しかないのだ！ 今どきこんな額で、大の男が働くか、というほどの給与で、大の女の私は子どもを養なわねばならない。児童扶養手当の申請に行けば、さんさん待たされたあげくに、のろのろと事務手続きをされ、「一か月後には許可がでると思うが、その時はまた印鑑を持って来い」と言われ、そのために一日分の給与をさし引かれた。「これが世間の風の冷たさ」なんぞと悟りすまずわけにはいかない。

母子家庭は、女差別を集約的に表現するところである。

## 二、「母子家庭」になったいきさつ

二十歳で最初の子を産んだ。恋の結果というには余りに幼ないものであったが、性を知り始め、そのゆく末を知りたいと思つての、選択だった。そうして、私の二十代は、子ども、子どもを産むこと、育てること、すなわち女の性についての、

疑問と格闘することに終始した。本を読み、人と話し、考え、それでも解明しない、女の性というものに、もうすぐ三十歳になろうとする今も、疑問だらけだ。

妊娠ゆえに結婚した男に対して、同棲しはじめて何か月もたたないうちに、私はすっかりと失望した。私はとんでもないまちがいをしてしまったのではないか、と思うのに、何年もかからなかった。

男は、私の疑問に耳をかそうとしなかった。男は、子どものおむつ一枚洗おうとしなかった。男は、私がメシ炊きにあけくれるのを当然だと思っていた。

男はついに、私を空気であると錯覚しはじめ、何をやって、私は女房にとどまるであらうと思いはじめた。

男は浮気をし（恋愛ではない）、へたなウソについては私を惨めにした。

実に九年間、私は充分に惨めになったので、別れることにした。八歳と二歳の子を連れて離婚した。

離婚したのはみんな私のわがままで、子を不幸にし、親（!?）に心配をかけ、母とは思えない所業だということになった。けれども、あの日、屈を出した日の、さわやかさを、私は忘れない。なぜこんなに時を費やしたのか、なぜあんなに、離婚を怖れていたのか、今となつては、それがむしろ解せないのだ。

最初の子を孕んでいた夏、私は毎朝、新聞の求人広告に見入った。子が生まれたら、私は行くのだ、と決めていた。できるかどうかわからない。が、永の道づれではないとわかった相手とくらすよりは、独りのほうがいさぎよい、と思っていた。けれども、私は行けなかった。産後の出血は三か月も続き、子は泣きわめき、乳は張り、子育ての苦しさに、自立の計画などふっとんでしまった。まだ時が足りなかったのだろう。私は幼なく、男に甘えることに慣れ切っていた。

私はむやみに怖れていた。専業主婦の、密室保育と、自身の展望のなさにうんざりしながらも、そこは一面、温室でもあったのだから。

いつかは必ず壊れるにちがいない家庭ではあった。私はいやいやながら家事をし、いやいやながら子どもとつきあい、自己嫌悪にかこまれていたのだ。

三年目に私たちは沖縄へ移住した。台湾に近い南の果ての島へ住みついた。そこで五年、自由と、怠惰の生活の中、予想に反して、かえって夫婦のつながりは薄れていった。それはおそらく、南島の開放性と、くらしやすさが、私を陽気にし、男への陰湿なうらみを解き放って、どうでもよくなったためだろう。

私はぐじぐじと男との関係に悩むのがめんどくさくなり、うらみつらみを、あげつらうのにもあき、時の満ちたのを知ってしまった。

憎しみさえなくなったとき、別れる以外に手がなかった。私は子ども二人と共に日本へ帰り、二十九歳にして初めて就職した。

働くことは嫌ではない。けれども、できればあまり働かずにいて、子どもとつきあう時間が欲しい。と、そんなことを思うとき、ああ、これで私も、一人前の口がきける、と一瞬思う。このことこそ、私の、九年間の結婚におけるみじめさであったのに。専業主婦は、夫の当たりはずれによって、その抑圧の度合を異にするが、潜在的な母子家庭は、その貧しさのために、非常な抑圧下にある。しかも、その個々の苦痛を吐き出すには、経済的裏打ちのないために内気になる。夫の、「俺が養ってやってるんだ」の声と呼応する自分自身の、声がある。それでいて、そうあるしかない状態なのが、大半なのだ。私は今、結婚している時に比べて格段に貧しいが、それでも、今のほうが苦痛は少ないと言いつける。あの日々に比べれば、少なくとも私はもう、男との関係のいやらしさ、貧しさを、恥じなくてもいいのだから。

### 三、「母子家庭」の今後

母子家庭＝福祉の領域、として考えられることの不如意さを、何と言えはいいのだろうか？ 抑圧からの解放を望むこ

とは、福祉の充実などとは全く違うのだ。

この十年、差別との闘いは高揚し、現在、一定程度の答えに達したように見える。

「障害者」解放運動に、その視点の広がりを支えられた女性解放運動は、それまでのいわゆる革命運動の質を、根本から変えていった。

かつての革命家は、資本主義の発達に伴う科学による生産性を、革命の側においても認め、労働の軽量化をそこに夢想するほどであった。社会主義的、あるいは民主的と注釈をつけた上で、科学信仰のもと、分業を容認した。

（保育は保育に、食事は食堂に、洗濯は洗濯屋に……と、それが女を救う社会化であると、まじめに議論された時代があったのだ。）

ところが、そうした生産性、効率性から排除された「障害者」が、福祉に閉じ込められることを拒否し、運動の中ではじめて、生産性論理に疑問符をつけた。

それまで、革命においてさえ、効率が問題とされ、分業は当然とされ、「革命のために……」式の、本末転倒な方法がとられてきた。

弱者は救済されるものではなく、むしろ弱者の中にこそ真の人間への解放の道がある、とする発見は、たとえば女に、子どもを労働の障害物とする見方（これが保育所増設、職場よこせ運動（の、み）へとつながる）を捨てさせ、子と共に育

つ道を探そうという方向を選ばせた。保育、育児が、子育てとなり、ついには「育ち合い」と変化してゆく過程に、それはみられた。

また一方で、地球的規模での汚染、戦争の危機の到来は、生存そのものの危うさを多くの人々に感じさせ、昔ながらのヒッピー運動とむすびついて、一種の帰農ブーム、自然食ブームをよんだ。重要なのは、そこで、単に非汚染食品を好むだけの人々の中から、現実には、自ら帰農したり、あるいは反原発運動にうち込んだりする人々が多数現われたことだ。これは今までの、いわゆる大衆運動とは性格を異にし、いかなれば人類としての最後の闘争ともいえるものだ。

エコロジー運動は、破滅への危機感から生まれたものであるが、科学偏重、生産性優位の分業社会を否定する中で、女性解放運動、あるいは「障害者」解放運動と密接に結びつく。いったい女が、男なみの労働と、男なみの昇格と、男なみの賃金を得たところで、それが解放に結びつくのか、というおもしろいことがある。人々のそれぞれの「職」の分断され、専門化され、無意味化された内実に、今以上の期待をかける必要がどこにあるのだろうか。

差別は、はたして不平等によって生じたものだろうか？  
女が差別されるのは、男と平等でないためだろうか？

極端な例で言えば、アメリカの徴兵への女性参加である。兵役であれ、労働の場であれ、それを支える思想はひとつで

ある。男女平等主義は、女を男なみの非人間的労働にひき上げ、生産性の前に自分を奴隷化することだ。保護か、平等か、などというピントはずれの問題もそこから生まれてきたものだ。

むしろ女は、それまでの女のくらし、子どもと老人と「障害者」の「介護人」であった生活に、男をも引き入れる方向をとりたものだ。それは社会化という名の、国家管理ではなく、未来の関係を射程に入れた、共同化であり、小さな共和国への道につながるであろう。

労働の過酷であることは、そういった関係の求め方まで妨げる。女はここで、男なみの労働を手に入れることでなく、男とともに自身の労働をも軽減、短縮することを求めるべきだ。//不況//の言葉にまどわされてはいけない。こうして私ですら、適当に収入を得て、貧しいながらも食ってゆけるのは、わが祖国、日本が、経済侵略国であるからであり、肥大した都市生活を維持する欲望のために、自分を含めて日本は、いつでも再び侵略を開始するであろうことは、明らかなのだ。他国の犠牲の上に立っての、この繁栄、進歩、そして個々の自立や解放は、それだけで充分に危険であり、少なくとも一面的な見方ではある。目先のささやかな自由にまどわされて、この事実を忘れてはならないと思う。

とりわけ今、日本を含めた世界は、最終戦争の予感に満ち、誰もが危機感を持ち、子の未来をバラ色に描くことに自信を

失っている。

次の日に、いきなり戦争が始まったとしても、それほど意外感を感じないであろうと思われることは、実に恐ろしいことだ。

多かれ少なかれ、みな、その労働や存在を通して他国の戦争に加担してきたのだから、いつ自分の街が戦場となってもふしぎはないのだ。

こんな時代に生きて、いつまでも、「運動は進展している、夜明けは近い」と楽観しているわけにはいかない。

日本でも離婚は増えつづけ、結果として母子家庭も増大する一方だという。事実、まわりを見わたしても離婚は、ごろごろしているし、一昔前ほど珍しくはなくなり、興味の対象にもならなくなってきた。これはもちろん「近ごろの若い者は結婚に對して不まじめだ」からではなく、女の側に若干の経済力がついてきたためだ。そしてそのことは、アメリカの離婚率5割というのと並べあわせて、国レベルでの豊かさとは無縁ではない。

母子家庭はいまだ多くの制約、差別の中にあるが、母子家庭の絶対数の増大は少なからず変化をもたらすだろう。ただそれがどういう方向へ向かうものかは、まだ明らかではないが。ただ言えることは、すでに「あったはずの家庭」を壊してしまった(あるいは壊されてしまった)母子家庭の女は、守

るべき家庭、守るべき今の幸福がない、ということだ。このことは非常に幸運なことだ。豊かで、一見平和で、問題のない家庭をもつ人々が、その幸福をのがしたくないとすることが現状維持Ⅱ侵略国日本の現状維持Ⅱ維持するためにはもっと侵略してもいい、とつながってゆく（かもしれない）ことを考えると、我々母子家庭の人間は、その貧しさゆえに現実をみきわめることができるにちがいない。

戦争反対、という言葉がもし、今は平和であるから、という考えに基づいたものであれば、その反戦の意志は、いつでも戦争参加へひっくり返る質をもったものだ。この日本の平和は諸国の犠牲の上に成ったものであり、この平和を守る、とは、この日本の現状を維持することにはかならない。どのでもない、ただの平和、などという漠然とした平和はありえない。今、現に抑圧を感じ、自らに戦場を意識する者は、だから、守るための反戦を口にしない。今はすでに戦時に等しく、いまだかつて平和は訪れなかったとする時、世界への視点は移動する。

同様に、その多くを下層労働者とする母子家庭の女は、すでに上昇指向から解放たれているゆえに、体制内をよじ登ろうとするあがきから自由である。これはそれぞれの個人の意志によるものであるより、母子家庭の現実（破綻した家庭・家族）が、すでに非体制的であるためだ。

危機に際して、再び階級性が問われようとしている。十年前の、リブの登場以来、それまで新左翼の中にさえ深く巢喰っていた差別（Ⅱ分業容認）の前に、「革命のために、男も女もあるか」の言葉の前に、多くの女たちは、「女一般」の中に真理を見いだそうとした。

姉妹たちよ、の熱い呼びかけをもって。そしてそれは結果として、当初からいくつかの「党派」に批判されたとおり、没階級性ゆえに、風俗の流れとの呼応による一時的高揚はありはしても、一貫した論理と方法に欠けてきた。街角でみかける女の服装が軽いから、出世する女がでてきたから、はつきりモノを言う女が多くなったから、女の解放は進展しているのだ、といえるだろうか。

階級性の中に解消されてきた性差別、雑用をおしつけられ、ゴミ箱のような扱いに甘んじてきた女は、まさに女階級とさえいえるほどの被差別者であったし、今も相かわらずそうである。闘う部分のふきつけが効を奏し若干の改善がみられるにしても、しよせんそれは改善にすぎず、そこにおいても、ましな場所にいる女と、そうでない運の悪い女に分断し、適度の満足と、なり上がり願望をそれぞれ導くにすぎない。

労働基準法改悪の動きは、これまでの運動に表われた言葉をすべて逆手にとっている。機熟し方を見るに敵は優れていると思わざるをえない。



女性の地位向上と、男女平等、能力開発という言葉をつかり、使用した時が、誰でもあるにちがいない。それは個々の歴史の中で、たえず問題になり、「私にもできたのに」「もっとやらせてくれれば男よりも役に立てるのに」風な意識が、女性解放へのおもいの基盤になりえたであろうから。「婦人の能力を生かす」ことを大義名分に、これだけは反対されないだろうと冒頭にかかげられるとき、それは完全に女とその運動をなめたものである。

女 の能力開発、平等は、上層の女へのエサで、労基法改悪の主な目的は大多数下層部分の労働強化にほかならない。保護か平等か、という二者択一の問いがでてくるのも、女の社会参加と、そこにおける男との平等が、絶対的な女の側の要求であると信じられ、あるいは信じるふりをされているからだ。

数々の新刊女性誌が、イキのいいキャリアウーマンを特集し、あるいは文化的生活を創造する主婦を集め、やればできる式の風潮を作り上げようとする今、それに乗って、女は生きやすくなったと思うことと、政府の動きは、同じ根から出たものだ。「女は家事にいそしんで、良い妻、良い母になるべきだ」という言葉が、実に古くさいおしつけと一般にも感じられるようになって久しい。それが、さらに女の差別と分断をよびこむことになるとは、実にひどい策略だと思わざるを得ない。できる女はできる時代だ、できない女は無能なのだ。

から従来どおり黙っているべきだ、というのが、敵の言い分であり、何となく女の側も認めてしまいう質をもった言葉だ。すべての事象が戦争に向かう今、女性解放運動のバラバラな進み方は、そろそろまとめられ、統一すべき時にきていると思う。労基法改悪にみられる分断攻撃と労働強化に対すべく、階級性をとり戻すための作業が、今必要であると信じる。

#### 〔筆者のことは〕

私の二十代は「結婚」にこだわり続けた十年でした。この十年を整理したい、「結婚」が何であったのか、男との関係とはそもそも何なのか、を知りたい、と思うのですが、まだ何の解答もみつかることができません。

とにかく、現在の自分を、まちがいだらけであるにしても書きとめておくことしかありません。

△略歴Ⅴ 一九五三年 松山生まれ。二十歳で出産。二十三年のとき、夫と子とともに沖縄西表島へ移住。農業・漁業をめざす。そこで第二子出産。五年半後、離婚。現在二十九歳にて初めて就職し、半年。

### ◆選者のことば◆

（紙面の都合で深見氏に関するもののみ掲載。全般は次号に。）

◆母子福祉法において、「母」が決して一人の人間としてみられず、夫を亡くした「妻」、あるいは子の「母」という役割としてのみ社会保障の対象となりうること、女「性」はそこでは全くタブーであることなど、女性問題の一つの核心である「母子家庭」をその内部か

ら、しかも、これら「寡婦」、「母」としての眼ではなく、一人の「女性」として見直したものであることが大変良いと思う。母子家庭、母子福祉を考え直すための新しい視座を提供していることを、高く評価したい。後藤悦子氏を選、これを佳作に推します。（久場嬉子）

◆母子家庭を原点にすえて、自分の体験と実感から論理を展開しており、説得力があります。救済されるものとしてではなく、弱者の中にこそ真の人間の解放の道があるとする視点に、ほんものの自立した女の強さと自由な精神が感じられます。第一位に推します。（中村智子）

◆母子家庭の担い手の体験を基礎としており、他の作品に比べて理解しやすい。しかし、母子家庭という角度から女性解放を展望するには母子家庭のもつ歴史的、社会的意味をふまえた理論化が必要ではないだろうか。（水田珠枝）

◆経験から入っているからでしょうか。私にはこれがいちばん読みごたえがあったのですが、肝心のところがはつきりしない。つまり「階級性の中に解消されてきた性差別」という指摘から、結論の「階級性をとり戻すため——」へのつながりがわからないのです。（駒尺喜美）

◆母子家庭というものを、この社会の女性差別と弱者差別の一つの集約点と見て、自分の経験にもとづいた考察から、女性解放のとるべき方向性や価値観にまで筆をのびし、四篇のなかではもっとも読みごたえのあるエッセイでした。女性解放運動の統一についての提言は、これまでの経験もふまえて考えることが必要でしょう。（高良留美子）

◆①主張の明快さ、②主張の独自性、③主張のもつ説得力、④平易な文章の四点から、第一位にすいせんしたいと思います。とくに、著者が母子家庭へのみちを意思的に選択するという自分史のなから獲得された視点——①母子家庭は女性差別の集約的な表現である、②非主

流で抑圧された母子家庭であるがゆえに、現代社会の内包するはずみを見透し、その変革への可能性をひめている——は、女性解放運動の方向を考える上で、きわめて示唆的です。（天野正子）

◆心情的には、いわんとすることは汲みとれるし、よくわかるが、これからの展望を書いていないところが致命的と思った。もうすこし自分のおかれている状況を客観視して書いてはしなかった。（山下智恵子）

◆筆力といい視点といい、ちょっと魅かれました。ぐんぐん引きこんでゆく筆の力もあるのでしょうか、母子家庭という立場から、私などの見えないものをキチンととらえ、何かをつきつけてくるような迫力が文面から感じられます。しかし今回の論文の主旨が人女性解放の理論的支柱となる論文Ⅴというのである以上、論旨の骨組みが弱くはないでしょうか。（福田光子）

◆女性解放論も各論時代と申しましょうか、いろいろの立場、さまざまな女の状況から論じられるようになったと思いました。ただ「母子家庭」のとらえ方ですが、社会的に置かれている状況はその通りだと思いますが、母子家庭を営む側として論じる場合は、もっと主体的な展開があってもよいのではないのでしょうか。専業主婦のとらえ方も、一考を要すると思います。母子家庭ゆえの良さにも、焦点をあてていただきたかったです。母子家庭育ちの私ゆえに、書き足したい部分がいっぱいあります。（高橋ますみ）

◆「女抑圧の集約的表現としての母子家庭」という、自らの置かれた状況から出発し、自由に生きるために、女性の問題を社会への広がりの中でとらえようとしている視点が生き生きしている。（大脇雅子）

◆多くのいい（目）と（芽）を持ちながら、前段と結論がつかまらない。論文でなくエッセイにとどまったのが残念です。（斎藤千代）

# 女性のほんとうの味方は？——五政党の婦人政策を聞く——

国連婦人の十年の後半期、各政党の婦人対策はどのように進んでいるのだろうか。いよいよ緊迫した政情の中、近づく選挙の判断資料として、国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会（加盟四十八団体）は、九月十六日、「五政党の婦人政策を聞く会」を開いた。事前に質問状を提出、項目順に各党代表が態度を説明、質疑応答が行なわれたが、各党の婦人政策に対する姿勢がおのずと明らかになった。その要約を紹介、参考に供したい。

## 各政党の婦人対策に対する質問事項

### 一、育児休業法案について

- (一) 育児休業制度は公立学校教員、看護婦、保母など一部に適用されていますが、この制度を他の一般労働者に拡大適用する必要性を認めていますか。
  - (二) 具体的に一般労働者への拡大のための法案を持っていますか。
  - (三) その法案の骨子はどのようになっていますか。
  - (四) 育児休業期間をどの位必要と考えていますか。
  - (五) 育児休業中の賃金について
  - (六) 無給を原則とするか、有給を原則とするか
  - (七) 無給に代わる手当、また有給の場合の支給高について
- 四 育児休業制度に対する党の現況はどうですか。

### 二、母性保護と男女雇用平等法案について

- (一) 母性保護と男女雇用平等法との関係をどのようにとらえていますか。
  - (二) 母性保護についての党の具体案はありますか。
  - (三) 男女雇用平等法について
  - (四) 党に法案もしくはそれに代わるものがありますか
  - (五) 具体的な救済方法についての構想
- 三、パートタイマー対策について
- (一) 労働基準法との関係について
  - (二) 社会保障問題について
  - (三) 賃金格差の是正について
- 四 課税限度額の引上げについて
- 四、臨調基本答申と婦人関係対策
- 五、家庭科の男女共修問題

自由民主党 石本 茂氏<sup>しげ</sup>  
(国連婦人の十年に関する特別委員長、参議院議員)

一、育児休業法案について

(一)「育児休業制度骨子」として具体的な法案のもとになるものを持つております。

これを基にしまして法案を作り、国会に提出してその成否を問いたいという態勢ができています。しかし党内には一部反対者もあり、経団連や日経連などには、育児休業制度が拡大するとかえって女性の就業が困難になったり、排除されるおそれがあり、時機尚早ではないかという意見があります。

しかし、政府は七月十六日、婦人少年局内に男女平等法制化準備室を発足させ、「育児休業を促進するための法制その他」について昭和五十八年通常国会までには法制化へ向けて努力すると言っておりますので、党としても、この法制化自体には誰も反対しておりません。一歳に満たない乳幼児の保育、育成という意味からも、この制度は一日も早く取り入れなければならぬというのが党の現在の意見です。

(二)「育児休業制度骨子」の目的は、母である労働者の育児休業に関する制度を設け、その雇用の継続を確保し、もって母である労働者の雇用の安定を図り、あわせて、子の健全な育成に資することです。その休業の権利も「一歳に満たない子の母である労働者」となっております。これを「両親」を対象にすべきであるという強い意見がありますが、最終的な結論はまだ出てお

りません。

(二) 労働基準法に基づく産後休業後、子が一歳までの間で、当該労働者が請求する期間継続してとれること。

(三) 育児休業手当を除き賃金は支払われない。ただし労働協約等によって賃金が支払われることは妨げない。

(四) 原則として無給です。

育児休業中に賃金が支払われない場合は、休業中に労働者が負担する雇用保険、健康保険及び厚生年金保険の保険料相当合計額のみ手当として支払う。

四 党の要綱の内容がまだ最終段階とは言えない現状です。

「骨子」の中に「零細小企業についての特例」として零細小企業の場合は、この法律が出来ても、ついていけないだろうという事で除外しています。しかし零細企業であっても、働く婦人に変わりがありませんので、特例を排除すべきだという意見があります。ですがこの意見が通ったわけではありません。

二、母性保護と男女雇用平等法案について

(一) 母性保護を確立しなければ、男女平等法はできません。

(二) とくに具体案はない。

五月八日付けで労働省発表の男女平等問題専門家会議の「男女平等の判断基準」にそって検討していきたい。

(三)「雇用における男女平等法(仮称)」案をつくっており、主要事項の改正のために全精力をつくします。国連婦人年の最終年には、是が非でも、男女平等法を通すという方向づけを一生懸命している最中です。

(四) 別がない。

### 三、パートタイマー対策

(一) パートタイマーといえども労働基準法に定める保護規定の適用を考えなければなりません。短時間勤務だからといって、労働基準法に定めてある保護規定さえも無視しては、雇用は成り立たない。そこで法の根拠を追求する必要があります。

(二) 具体的対策はない。

(三) 具体的対策はない。

(四) 具体的対策はない。

パートタイマーの問題は、婦人労働者が大部分のウェートを占めているので、今後とも実状を調査しながら進めていかなければならない。

就職する際の労働協約に、明確に給料、時間、待遇をきめておくことをパンフレットの指導書を通して各事業所に徹底するように言っております。

### 四、臨調基本答申と婦人関係対策

臨調事務局原案では婦人行政機構のあり方として、婦人少年局と労働基準局、大臣官房の統合を出していますが、これは、婦人少年局を解消することだと受けとっています。即ち、いま婦人少年局がしている仕事を二つに分けて廃止する趣旨と受けとりました。この問題についても労働省を相手に折衝を重ねていかなければなりません。戦後から一生懸命に婦人あるいは年少労働者の問題を取り上げて頑張ってきた婦人少年局の廃止は絶対に反対であると、党をあげて全力で阻止致します。四十八団体の方も廃止を止める方向に先頭に立っていただきたい。

### 五、家庭科の男女共修問題

男女共修にする必要がある。

従来は、女子生徒だけ必修科目としたが、文部省は四月から、男子生徒にも選択できるようにしました。四単位のすべてを男子生徒が実習する必要があるかについては考えなければなりません。少なくとも家庭に関する経済問題とか、家とはどういうものかという問題、保育の問題も母親だけの役割ではない時代になっているので、せめて半分の二単位は当然共修していくべきではないでしょうか。

政府の意見は外務省は共修を、文部省は選択を主張し合っており、党内の意見も分かれております。私自身いろいろ先頭に立って言ってきましたが、男子の議員を先頭に立てていったほうが早く進むのではないかと思ひ、男性議員をあらゆる面で先頭に立てて、問題解決の方向に向かいたいと頑張っています。

\*

Q 家庭科の問題を担当している議員はどなたですか。

A 党には婦人問題対策特別委員会があり、その委員長は、谷川氏です。元文部政務次官をされまして教育には熱心な方です。

Q 自民党は政権政党です。私たちはすでに、婦人の人権の基本線である性の問題、特にトルコ風呂について七回公衆浴場法改正案を提案していますが、自民党議員の賛成が得られません。特に婦人議員の立場から発言をお願いします。

A この問題について私も提起しました。しかし、男性議員からは「性の問題は簡単に法律で決めて守れと言っても無理だ」と言われた。婦人対策特別委員会はトルコ風呂の廃止に手を貸して欲しいと主張しています。ここまで荒れ果てた性の問題は、法律が通

っても別の問題がでてくる。この問題は難しい。私自身はいつも何かしなければならぬ、今後の対策をどう練っていかうかと努力しております。

Q お言葉を返すようですが、これは任意売春ではなく公娼制度といえます。男性議員の協力は得られないとしても、議員個人で、我々の誓願書の紹介議員になっていただけませんか。

A 党には一つの方針があり、私も黨員である限り個人の資格では参加できないことを理解して下さい。

Q 男性議員を表に立ててやったほうがやりやすいということですが、議員さん自体がそういう考えを示されるのは情けない。その壁を破っていただく方法はありませんでしょうか。

A 私は、自民党議員となつて、ここは男性社会だと痛感しました。最近はどうぞ女性議員がふえており、自分も先頭に立つてやっております。ですが、多くの男性議員を説得しなければなりません。一人でも多くの協力者を求めるという意味で、男性を立てるほうがやりやすいということです。

## 日本社会党 田中寿美子氏

(婦人対策委員長、参議院議員)

### 一、育児休業法案について

(一) 要綱と法案ができています。

第九十六国会に社会党案として提出しましたが、提案に至りませんでした。二、三年前から検討していますが、わが党案で

は、育児休業に所得保障をしますので財源を考えなければなりません。働く母の子どもが現実には守られなければならない。女の人の働く権利、就労権を保障しないと生涯を通じた生活権は保障されません。子どもが生まれたから辞めなければならぬという「育児のためのやむをえない辞職」がなくても済むようにしたい。

(四) 「子どもを養育する男女労働者」を対象とする。

現在の育児休業法は、一九七五年国際婦人年に、社会党が六、七年前から出していた法案がもとになってできたものです。これは公務員の女子教員、看護婦、保母を対象にしたものですから、無給で女性のみを対象とし、職種にも制限があります。これをすべての職種に適用する必要があります。また子どもを養育するのは、女性に限られませんので、対象を男女労働者とし、男性を含めた「子を養育する労働者」と致しました。

ヨーロッパの先進資本主義諸国や東欧諸国は、すでに有給あるいは無給で、育児休業は常識になっております。差別撤廃条約の一番の主旨は、前文で、女の人が母性として生命を産み、家族に対する非常に大きな責任を負っている、そのために差別をされてはいけないということです。また、昨年採択された、ILO一五六号条約と一六五号勧告にも、女は家族的責任のために働く場所で差別を受けてはならない、子どもの養育に対する義務は両親の共同の責任であるべきだと強調されています。これも批准しなければなりません。このような国際的な婦人運動の中で、先進諸国が差別撤廃と母性保護をどんどん実現しているときに、この育児休業法の実現は絶対に必要だと思っ

ています。

(二) 子どもが生まれた後、満一歳までの期間とする。

この期間は延長することができ、労働者がこれを請求した場合は使用者はその請求を拒んではならない。また、育児休業をとったために、不利益な取り扱いをしてはならない。

(三) 有給を原則とする。

(四) 支給高は、賃金の六〇パーセント給付とする。

スウェーデンでは九〇パーセント、イタリアでは三〇パーセント出しています。

私どもは、その財源は雇用保険で出せると思っています。雇用保険には、すべての働く人が積み立てている失業保険と、企業側が積み立てる雇用安定資金と両方あります。これが非常に黒字です。失業保険の残高が五十七年三月で五、九七〇億円、雇用安定資金は一、六〇八億円です。女の人が生命を生産する重要な仕事をしている以上は育児休業に所得保障をしてもよいはずです。六〇パーセントというのは、健康保険の休業中の給付六〇パーセントと同計算ということです。

四 育児休業法も雇用平等法もわが党の立法です。国会は、政府が出す法律しか重きを置かないくせがついておりますが、三権分立の建前上、もっと主権者である皆様方の要望が盛り込まれた立法がなされなければなりません。そういう意味で私どもは少し理想的な法案を出しているわけです。ですが残念ながら政府提案がでてきたら、他党はどの党も政府提案でということになりましょう。私どもは、自分の法案をぶっつけて、もっともつといいものにさせるつもりです。男女共に一定の所得保障が

あり、元の職場に帰れる、という育児休業の原則をきちんと踏まえた法案にしなければなりません。それにはやはり、皆様方のプレッシャーが必要です。数から言いますと、私どもの数は、自民党やその他の野党が全部政府提案に賛成した場合には負けます。そうならないために、ご支援をお願いします。

## 二、母性保護と男女雇用平等法案について

(一) 母性保障がなければ、男女の雇用の平等もない、雇用における平等がなかったら、母性保障もできない。そういう意味で、私どもは労働基準法の一部改正——これはほとんど母性保障を強化するのですが——を考えております。前々回の総選挙の時に、母性保障政策を発表しました。私どもは、「母性の社会性、つまり生命を産み出す、生産をする仕事を尊重する立場に立つ差別撤廃条約の基本理念」に立ち、「母性保護」というより「母性保障」を考えています。女性の全生涯を通じて生活権が保障されるためには、労働権が保障されなければなりません。働く女性が辞めないで済むように保障され、同時に、労働ができなくなった時には社会保障がちゃんと与えられていなければならぬ。年金にしろ、医療にしろ、福祉にしろ、両方が与えられていなければならないという意味で母性保障の各種の制度を考えております。

(二) 具体案として(1)妻の年金権が問題になっていますが、すべての個人が、男女いずれにしても生涯通じて「一人一年金」が必ずあるように年金制度を変えなければならぬ。現在はまだそうっていない人が多く、夫の死後、夫の遺族年金で食べなければならぬ人、母子年金で食べなければならぬ人が大勢

いる。とりあえず、遺族年金額を夫の年金額の八〇パーセントまで引き上げ、また離婚などによって全く無年金になってしまふような女性に対して、夫の年金の二分の一が保障されるようにしなければいけません。定年の場合にも、女性の場合五年早く定年が来るという習慣があります。当分の間ですが、本人が希望するならば、五年早く辞めても、年金を減額年金にしてもらえるようにするとか、過渡的対策が必要と考えております。

(2) 高齢者問題というのは女性の問題だと思ひます。老後の医療、福祉年金、住宅その他が急速に進められなければならぬ。地域の中で楽しく暮らせるような生きがいについても考えなければなりません。

(3) 出産医療の給付について、私どもは、出産費は自己負担であつてはならないと主張しています。「出産費国庫負担法」を考えたことがあります。この中に保障保険法と健康保険法の一部改正があります。出産は健康保険扱いにされていないので出産費は自己負担です。そのためILO一二五号条約という社会保障最低基準に関する条約のうち、母性給付のところは日本は批准できないのです。医療給付についても、どの国も出産費用は当然国の健康保険の対象にしているにもかかわらず、日本では対象になっていないので医療給付のところも批准されていません。

私たちは、ILO一二五号条約を、非常に不完全な形で一九七五年に批准しましたが、これらの点をILO一二五号条約に相当するように批准し直さなければならぬと思つています。健康保険法の一部改正により、健康保険で支払ってもらふ部分

と、自己負担分を国庫が負担するという意味で母子保険法の改正を考えています。

(4) 母性保護の中では「婦人検診」制度を提案しております。十六歳以上の全女性が年一回以上健康診断を受ける制度です。家で商売をしている人や家庭婦人には全然健康診断を受けない人たちがいます。十六歳以上の全女性は年一回健康診断を受けて早期に子宮ガンや乳ガンの発見ができるようにと考えます。

(5) 法案と要綱があります。これはわが党の立法です。労働基準法の強化改正の意味になります。

(6) 強力な行政委員会を中央と地方に設置して、雇用の平等の問題について、不平等な扱いを受けた女性を救済する制度を考えています。この委員会は、使用者委員と労働者委員と公益委員の三者構成とし、半数以上を女性にすることや、地方の場合には、苦情処理の窓口を備えて平等委員会の審査にかけるまでもなく、その場で解決してもらふこともあります。

最近、雇用における不平等を裁判に訴える女性が多いのですが、十年もかかります。ですから行政救済をしなければいけません。行政救済をする場合に中央と地方に委員会を持つと時間がかかるのではないかといいことですが、地方の平等委員会に問題を持ってこられた場合には、指導できるものはどんなさばいていく。それが駄目な場合に委員会にかける。そして地方の委員会の決定に不満な者は中央の委員会に十五日以内に持つてくる。中央の委員会の決定に不満な場合に初めて、東京高等裁判所に訴訟を起こすことができるように、できるだけ簡易にしました。行政救済ですから、ほとんど費用はいりません。狙い



は、日本のように長い間男女差別の習慣のあるところでは、自ら差別を掘り出して窓口に持って来なければ駄目ではないかという事です。そういう運動を伴う意味をもつ案でもあります。

男女雇用平等法案には十七条の準則を作りました。準則というのは、差別とはどういうことをいうのかという内容のガイドラインです。政府の婦人少年問題審議会が検討するのは、ガイドラインをどういうふうにするかということですが、その案として、私どもで何年もかかって作ったものです。

### 三、パートタイマー対策

(一) パートの人も、労働基準法をはじめ、健康保険や厚生年金や、雇用保険等全部の適用を受けられるはずですが、それを受けさせるように努力しなければいけません。

世界的に女性にはパートタイマーにどんどん追い込まれつつあり、数が増えています。今までは、ヨーロッパでは、移民労働者とか低所得労働者などにパートが多かったのですが、技術革新が進んで来た現在、かえって女はパートに追い込まれていく状況です。パートや臨時で働く婦人の権利を守るといふことは、常用労働者が一生懸命にやってあげなければいけない。(二) 労働基準法の完全適用、健康保険・厚生年金・雇用保険への加入など、常用労働者との差別をなくします。

(三) 賃金を普通のフルタイマーの人と同率の時間給に計算しなければいけないし、労働基準局の監督官は低賃金を十分に監督して欲しいと思っています。

(四) いつも議論して問題になるのは、パートの人の課税最低額の七十九万円です。七十九万円まで働いたら止めておくと、その

ほうが扶養家族になる、多くのメリットがあるということですが、婦人解放の正論としては、「女も夫に頼らず、自分でたくさん稼いで、相応の税金を払え」ということになります。ただし現実の問題としては、前者のような主婦たちが多いので、政策として、課税限度額を一二〇万円まで引き上げることをかかげております。

ついでに、内職など家の内でする場合の家内労働者の最低賃金が非常に低い。内職は企業と働く人が折り合ってやっている状況が多いので、その対策が一番難しい状況です。家内労働者にも十分に法律を適用し、監督も十分にし、賃金の最低額もパートタイマー並みに引き上げなければなりません。

### 四、臨調基本答申と婦人関係対策

私どもは小さな政府に賛成です。行政機関が大きくなって多くの金を使うことは不賛成です。けれども大事な婦人行政強化は、カットできません。婦人行政予算は非常に少ないので、カットしても経費の節約にはなりません。

婦人行政の強化といっても総理府の婦人問題担当室を強化して法の根拠を与えろとか、婦人問題を閣議で発言できるような専門の担当官をおくとかは、あまりお金がかからないのですから、今後力を入れていきたいと思います。

### 五、家庭科の男女共修問題

婦人差別撤廃条約や国連婦人の十年運動の一番の基本原則は、家族に対しても、社会に対しても、職場においても、男女の役割分業をやめて、一緒にやるべきだということです。

これを実現するためには教育が非常に大事ですので、教育の

場から変えたいと思います。

\*

Q 育休法改正の前提条件として、労働時間の短縮が必要ですか。

A 男女の労働者全部に対して労働時間の短縮、週休二日制、年次有給休暇を継続して二〇日以上とれるようにする、深夜営業などは、男子にも好ましくないのでできるだけ少くするなど、男女の労働条件の底上げを基本に考えております。

育休法の改正に関しては、労働団体とも関係があるので、現在は準備中です。

Q それでは、まだ決着がついていないわけですか。

A 社会党案はもう出来ております。が労働基準法となりますと労働組合の団体との合議が必要ですので、調整中です。

Q 各党は「連係」を持っていますか。

A 「国連婦人の十年議員連盟」を結成しました。これは市川房枝先生がいらした時に作ったので、国連婦人の十年の主旨である差別撤廃条約や、世界行動計画などを一応認めた上で成立しています。現在二百五人くらいです。婦人議員は二十五人しかおりませんので、後は全部男性です。会合や主張は毎回資料にして会議に全部送っています。

## 公明党 柏原ヤス氏

(婦人局長、参議院議員)

### 一、育児休業法案について

(一) 「育児休業法に関する政策要綱」をもっている。

(イ) その骨子は「育児のために休業を必要とする男女労働者のために、雇用の継続を確保し、雇用の安定をはかり、子の養育に専念できるようにすることです。

(ロ) 産後休暇終了後、子供が一歳に達するまでを期間とします。休業の請求は、一か月前までに行なわなければなりません。

(ハ) 賃金は、無給を原則とし、ボーナスありません。手当は育児手当として支給します。

(ニ) 育児手当の額は、雇用保険、健康保険、厚生年金保険の合計額を考慮しています。

(三) 全企業に休業法を適用し、男女共に適用する。

各党の案を見ますと、社会党の有給を除けば他党は無給で一致しており、期間も一年間で全党一致、賃金に代わる手当についても全党一致、法適用を男女共通とする点では自民党だけが女子のみとしています。そこで、自民、公明、民社党の一致点を中心にして、社会党の有給を無給にすれば、全政党一致してまとめることができます。有給というのは、現実にはぐわらないのではないかと思っています。公明党としては、単独で法案を作る方向ではなく、各党に呼びかけて、超党派で法案を作っていきたいと考えています。

### 二、母性保護と男女雇用平等法案について

(一) 母性保護を、労基法上で現行のものより手厚くしたい。

(二) 産前産後の休業を、各々六週間は最低保障です。各々十週間に延長する合理的理由があると考えています。

育児時間については、一日二回、各々三十分を一日九十分に延長することを主張している。その他、つわり休暇、通院休暇

等の保障も主張している。

公明党が特に力を入れてきたのは、母子保健法の一部改正です。現行法は、対象になっている女性の範囲が非常にせまい。母というものの考え方から直して、「妊娠可能な女性」として、若い人も、出産を終わった人も、対象に入れる。出産費は将来全額を国が出すべきだと考えて、当面は十五万円を保険から出し、差額を国が出すことを考えています。

### (イ) 法案を作成中です。

要綱は昭和五十五年六月十七日に発表しました。他党より早かったはずです。

(イ) 使用者に対し、募集及び採用、賃金、昇進、配置、定年および退職等の労働条件について性別による差別的取り扱いを禁止すること、また治安の敏速な解決を図るために、労働者婦人少年局及び少年室に雇用平等監督官を配置する。この監督官は、労働者からの違反事実の申告に基づき、必要に応じて事業場その他の施設に立ち入り検査を行ない、使用者、職業安定所その他関係者に質問をし、または報告、出頭を命ずることができ。違反の事実が認められれば婦人少年室長が差別的取り扱いの是正についての改善命令を出すことができる。

次に、労働省の婦人少年局に中央雇用平等審査会、都道府県の婦人少年室に地方雇用平等審査会を設置する。そしてこの審査会は労働者、使用者、公益の三者、各四人の委員で構成する。四人のうち二人は女子を任命するようにします。

社会党のように苦情処理を扱うようにすると、行革が叫ばれ、予算の削減、部局の統廃合が必要なときに時勢に逆行するので

はないでしょうか。

自民党は、男女平等法の実綱すら出していません。平等法を作る考えがあると言えるのでしょうか。

この法案に関しては、全政党一体となって提出すべきで、その方向で今後努力をしていきたい。

### 三、パートタイム対策

(一) パートに従事する人たちの実態の把握、雇用の安定、労働条件の改善を図り、生活の安定のために各制度を充実させたい。

(二) 退職金制度を設けるとともに、社会保険の適用を図ります。再就職にあたり、公共施設または企業内において、必要な技術、技能の職業訓練を実施し、この期間中の生活保障を確立できるようにする。定期検診制度を確立し、保健所において年二回、無料検診を実施することを企業に義務づけます。

(三) 全国一律最低賃金制を制度化するとともに、賃金はフルタイム並みに引き上げます。

高度成長下での若年労働力不足の解決策として増大したパートは昭和五十六年一月現在、三百九十万となり、増加中です。女子は三十五歳〜四十四歳がもっとも多く、五十六年の平均賃金は一時間五百六十円で一般職の九百四十円に比べ著しく低い。

(四) 課税最低限度額を年収七十九万円から当面九十万円に引き上げます。

### 四、臨調基本答申と婦人関係対策

改革の基本的方向性は妥当なものと一応評価できる。が、具体的内容や改革のプロセスについて不明確な点があるし、増税

なき財政再建を掲げる一方、国民負担増を社会保険等に求めるのは問題がある。それに政府の防衛力増強政策に一定の歯止めをかけていないことは遺憾である。行政改革の柱は、中央省庁の機構の整備の合理化にあるが、それに対する大胆な提言はありません。統合調整機能、統合基幹機能の強化を重視するの  
で、総理秘書室の増員とか内閣調査室を充実するとかのポストや機構の新増設が目立つ。それに対し肝心な機構組織の整理合理化には見るべき提言がない。例えば婦人に関する諸政策を推進するための国内行動計画等のように、国際条約と関連するものや、長期的展望に立つ政策等が後退せざるをえないような改革はすべきでない、強く主張したい。

五十八年度予算概算要求を見ると、「婦人問題の統合推進に関する経費」は実質的に変化なく、農水省の「健康の増進と婦人高齢者対策」項目が一割カット。労働省関係では「雇用における男女の機会と待遇の平等促進と環境状況の整備」の項目は二千万円の増額。厚生省関係の母子福祉対策の項目は二百四億円の増額。

このうち農業者年金を手当てするという事で婦人の福祉部分を削減しており、婦人の立場がいつも損をしている。

## 五、家庭科の男女共修問題

男女必修を主張し、そうなるように努力しています。

戦後の教育改革では男女平等の原則に基づいて中、高校での家庭科は男女共修が原則でしたが、六〇年代の高度経済成長への人材教育と称して、女子のみ必修となった。現在、国民の思想の中に、男は外、女は内の意識が強い。男子は職業人志向の

みの教育を受けて、女子は経済的に自立できないゆがんだ結果になっています。

国際的にみても、婦人差別撤廃条約の主旨からは男女共修に改めざるをえないし、ILO条約にも男性の育児休暇があるので、子どもの時から男にも家庭科教育は必要と考える。そこで、①男女の役割分業意識のない教育訓練のために、社会意識の啓蒙が必要。②現行家庭科教育については画一的教育ではなく、社会意識の変化に対応できるものとして男女共修の方向をとるべき、と考えます。

## 民主社会党 加藤綾子氏

(婦人対策委員長)

### 一、育児休業法案について

(一) 育児休業法要綱案を持っている。

現在、国会に婦人議員を出していませんが、一日も早く、女性のために、育児休業法を制度化しなければならないと、私も婦人対策委員長として頑張っています。

(二) 対象を男女労働者とする。働く既婚婦人の増加等を背景として、職業生活と育児との調和をはかるため、婦人の社会的地位の向上をはかる。育児は、子どもの教育上問題であり、本人の健康にも大きな問題である。

最近、父子家庭の増加で、男子労働者についても職業生活と育児の両立をはかる対策が必要となっている。

(二) 労働基準法に基づく産後休暇終了後、子が満一歳に達する日までを限度とする。

(三) 原則として無給とする。

(1) 保険料の本人負担分を育児休業手当として支給する。その理由は有給にすると事業主の責任になり、零細企業などの事情を考えなければならない。「特定事業主についての特例」という中でもいろいろ調整をし検討する余地がある。

四 労働省は、育児休業奨励金を支給しており、大企業の場合は三十万、中小企業は三十五万円ですが、一回限りなので改善していかなければなりません。きめこまかい法律を作るには、女性の意見をきき、女性の協力が必要で。

## 二、母性保護と男女雇用平等法案について

(一) 母性保護と雇用平等法案は切っても切れない立場にある。母性保護の基本法として昭和三十九年に「母性福祉保護法案」を単独で出しました。四十九年には「母性保障基本法」として発表し五十年から国会に度々出しましたがすべて流産しています。丈夫な子どもを産むために一日も早く成立するよう各政党の協力を得よう一生懸命に頑張っています。

(二) すべての女性に無料の健康診断、三十歳以上の女性にはガンの無料検診。また分娩費の最低保障額を十八万円とし、出産手当の増額などを母性保障基本法に盛り込んでいます。母子保健センターの充実と保育所の拡大、産前産後の休暇を六週間から八週間とし、それを九十日に延長することも考えています。

(三) 法案ができています。

雇用平等法は母性保障基本法と相まって制定しなければなら

ない。

(1) 昭和五十四年に男女雇用平等法（仮称）を作成したが、さらに検討し、婦人対策委員会、労基法の改正、特別措置法の作成の方向づけをしております。特別措置法では、募集、採用、配置、賃金、昇給、定年、退職、その他労働条件、職業訓練、福利厚生についての男女の差別的取扱いの禁止を強く主張しています。各事業所に女子労働担当の責任者を置く。都道府県ごとに雇用平等審査官を三名ないし五名置く。それを労働省内の婦人少年局に置いてよい。また雇用平等審査会の設置、婦人手当の条文の整備も必要です。

## 三、パートタイマー対策

具体的政策はまだ出来上がっていない。これからの世代に一番大切な大きな課題ではないかと検討中です。

(一) フルタイマーの人と同じ仕事内容の人は、一般労働者と同じように保護しなければならない。短時間のパートにも、それに適した就業規則を作り労基法を改正して労働条件を整えたい。

(二) いろいろな条件、事情に対して、労働契約をより明確にし、今後ともよく練っていく必要があります。

四 妻の配偶者控除を現状の七十九万円から百万円に引上げていく努力をしています。

## 四、臨調基本答申と婦人関係対策

各地方出先機関の整備について、婦人少年局でいま稼働していないところは問題がありますが、婦人局と少年局の統合には十分検討を要します。民社党は行政改革の臨調を尊重するが、婦人についての答申には慎重を期していきたい。

## 五、家庭科の男女共修問題

小中学校は男女共修、高校は男女ともに選択とする。家庭は男性と女性が協力しあっていかなければならない。男の人にも子育てをやってもらう。家庭科問題は転換期を迎えているので、婦人対策委員会でも検討中です。

\*

Q 母性保障基本法について、勤務中の補食時間とは何か。

A 妊娠中は胎児に栄養を取られるので、小休憩を取って栄養を補給して胎児を保護し、母性を保護することです。

Q 労働基準法制定以来三十二年を経ているので、労働基準法の女子保護規定がむしろ制約となっている現象に対して、保護法の見直しについてのお考えを聞きたい。

A 労基法の改善と特別措置法で時代に沿って条文もそろえていきたい。労基法の改正を先にやりたい。

Q 家庭科共修を高校で「選択」にする理由を伺いたい。

A 男女ともにやらなければいけないという方向づけとして、慎重に取り扱うということです。

## 日本共産党 山中郁子氏

(児童婦人局長、参議院議員)

### 一、育児休業法案について

(一) かねてから要求している「すべての婦人労働者への適用」を国連婦人十年の臨時国会で実現したい。

(四) 婦人の健康を守り、母性保護を拡大するために、労働基準

法に育児休暇を制度化して確立する。現行の基準を下回るものであつては絶対にいけない。

(二) 産前産後休暇は当面各八週間とし、異常・多胎の場合は少なくとも各十週間を保障する。生後一年間は一、九十分の育児時間を保障する。

(三) 有給を原則とする。

(四) その支給高については難しい問題がありますが、有給、原職復帰など、育児休暇の三原則を確保することです。

四 中小企業の場合の配慮も重視し、具体化に当たっては各党の皆さんと協議を重ねて、できるだけ実現していく方向で柔軟に対処したいと思っております。

### 二、母性保護と男女雇用平等法案について

(一) 本来的に男女平等の前提として、社会的な機能である母性の保護が十分に確立されなければならない。

(二) 一九七九年六月に「雇用における男女平等の機会、権利の保障に関する法律」(仮称)と同時に、「労働基準法の母性保護拡充のための労働基準法一部改正」をセットで発表しました。これは、現在財界や政府がねらう母性保護の切り捨てに対抗するものです。

(三) 具体的法案を持っている。

(四) 社会的な機能である母性の尊厳、保護を前提基本とします。婦人労働者の労働条件と職業生活のすべての面で男子と同等の機会、権利を保障することをはっきり確立する。平等法が婦人労働者の人格的尊厳の確立、社会的生産活動において婦人の能力の全面的開花、発揮を保障する内容であることを明確にする。

男女平等専門家会議での判断基準は抽象的でわかりにくい。巧妙に能力差などで男女差別をしています。

男女平等の推進のための行政機関としては、労働省や各省の婦人少年局では限界がある。抜本的に改革・強化をはかり、雇用平等監督官を置いて、行政上の責任は労働省の婦人少年局がもつべきである。そのほかに、三者機関として男女平等委員会を設置する。これは国の機関として、中央と地方に置き、労働者代表、使用者、学識経験者代表の三者機関で、平等行政への不満を提訴することができるようにしたい。

母性保護については、労働基準法の一部を改正し、婦人労働者に対する母性保護を拡充します。

### 三、パートタイマー対策

(一)(二) 労働基準法など現行の法律を適用し守らせることで解決する部分がかなりある。使用者は一般常用労働者のみならずパートタイマーについても「最低賃金法」、「労働安全衛生法」等の法令を重視し雇用するものとされている。が、昭和五十六年度の違反率は六二・三パーセントで、これを守らせることが重要です。また長時間パートの正社員化への道を開く必要がある。

四 婦人の労働を男子に付属するかたちで配偶者控除額を引き上げるのではなく、独立した労働力として扱っていく方向で抜本的に考えていくべきである。

### 四、臨調基本答申と婦人関係対策

基本答申の中に民間活力を発揮させるうえで、各種の規制を緩和していく考え方があがるが、母性保護の緩和につながる問題としてとらえていかなければならない。第一次答申は婦人に種

々の影響を及ぼしたが、基本答申は、それをさらに深める、婦人に特別関わる問題としてとらえ、これを突破していくために頑張りたい。統合の問題は、婦人少年室の強化が必要であり、整理、統合などは断固として反対していかなければならない。

### 五、家庭科の男女共修問題

当然共修を基本にすべきです。したがって技術教育も女子が受けられるようにしたい。選択か必修かの問題は家庭科の中味自体と関わるものです。私どもは当然共修を基本に、いろいろな意見を伺いながらつめていきたい。

\*

Q 婦人問題は「政治の問題」で「国の問題」だと言われましたが、男性優位の日本国内ではどのように国に影響を及ぼしていったらいいのでしょうか。

A 男を立てていかなないとなかなかやっていけないということは決まってしまうと思います。その党が婦人の力をいかに信頼し、発揮させようとするかという姿勢に関わる問題と思う。自民党の体質上前近代的なものが残っており、共産党では主要な部分を女性議員が当たっています。ここ十年ぐらい国会でも変わってきていると思いますが、院外の運動は本当に大事で、請願署名など、かなり役に立ち、皆さんが傍聴にいらつしやるとまるで違います。国民の監視はやはり怖いわけです。皆さん方の運動が政治を良くしていくうえで現実力になっていると、はつきり言えます。

Q 育児休業をすべての婦人労働者にといわれましたが、これは男労働者にといいことですか。

A はい、そういう意味です。

# ERAはアメリカに何をもたらしたか

— ERA法案とアメリカフェミニズムの挑戦 —

杉 本 貴 代 栄



はじめに

一九八二年六月三十日は、ERA(Equal Rights Amendment, 男女平等憲法修正条項)と呼ばれ、特にここ数年、ア

メリカ中の注目を集めていた「法案」の批准最終期限であり、熱い論議を呼びながらも遂に廃案になった日である。男女平等を憲法に明記するよう憲法修正を要求するERAが、連邦上下両院議会を通過し、「法案」という形で成立してから十年目、さらにさかのぼって、ERAが初めて議会に提出された時から数えるとなきに五十九年目のことであった。

「法案」として成立したERAは、憲法修正に必要な手続きとして、四分の三の州からの批准をこの日までにとりつけないければならなかった。必要な三十八州に三州足りず、廃案になったERAだが、その投じた波紋は大きい。ERAはアメリカ社会のさまざまな場面にインパクトを与え、また潜在していた問題をあらわにした。フェミニズム自身もその例外ではない。六十年間にわたるERAをめぐる歴史は、アメリカフェミニズムの現代史の縮図であり、同時に、フェミニズム



を支え、反発するアメリカ社会をも反映させている。

\*

この小論をまとめている今（七月中旬）は、ERAが廃案になってからまだ二週間余りしかたっていない。この段階では、まだERAに対する評価も批評も出そろってはいない。今後、次第に論評されることと思われるが、今までに日本でERAの詳細な報告が書かれていない事情を考えて、現時点で一応まとめておきたいと思う。まとまった資料は少ないが、目下在米中のため新しい情報が入手できるといふ利点を生かして、ERAの意味するものと今後のフェミニズムを展望してみたい。

## ERAの歴史

過去において、アメリカの女性解放運動がこれまでになく盛り上がった時代が二つあった。一つは、一九二〇年代前後の婦人参政権獲得運動の時であり、今一つは、人種差別撤廃とベトナム反戦に端を発し、一九六〇年代に巻き起こった社会改革の嵐の中で生じたウイメンズ・リブの運動であった。この二つのエポックにより、アメリカフェミニズムの運動は活性化され、方向を指示されてきたとも言える。ERAもまた、二つの時代が生み出した産物なのである。

### (1) ERA条文作成前後——一九二〇年代

ERAとは、以下のように単純明快に男女平等を明記した三条より成る条文である。

第一条 法の下の権利の平等は、性別を理由として、連邦または各州によって、否定または制限されてはならない。

第二条 議会はこの条項を、適切な立法によって実効するための力を有する。

第三条 この修正条項は、批准された日より二年後に効力を発揮する。

この条文は、一九二〇年代初頭に、当時の著名なフェミニストであったアリス・ポール (Alice Paul) (注1) によって作成された。同条文を憲法修正案として提出する必要性は、アメリカ憲法には男女平等が明記されていないという事情にある。日本の憲法十四条には「すべての国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別……(中略)において差別されない」とあり、男女同権が「プログラム規定」であるにしろ憲法に記されている。アメリカの憲法の中で、日本の憲法十四条に該当する内容を定めているのは憲法修正第十四条である。「アメリカに生まれ、あるいはアメリカに帰化したすべての人 (Person) は、アメリカの市民 (Citizen) である。すべての市民は法の下に平等であり、各州はそれを制限するような法律を作ってはならない」とあるこの条項は、奴隷制廃止後の一八六八年に、黒人の権利を保障するために作

成された。当時の憲法に関する関心は、奴隷制廃止が最優先であったアメリカの事情を明白に示している。

この条項を、黒人の権利保障からおし広げて、男女平等をも保障していると読みとれるかどうか、初期フェミニストたちの論点であった。「性別により」とは明記されていないが、「市民」とは女性のことをも指していると解釈すれば、女性の権利も同様に保障していると読んでもいい。同条項を根拠にして、当時のフェミニズムの主眼であった参政権の獲得を試みる裁判、女性に制限されていた資格を求める裁判が行なわれたが(注2)、いずれも最高裁において退けられている。これにより「市民」には女性が含まれているとは解釈できなくなり、十四条項は男女平等に言及している憲法ではないという判例が確定していった。そこでフェミニストたちは、十四条項を根拠に参政権を獲得する方向をあきらめ、一九二〇年、憲法修正第十九条という別の条項を作ることにより婦人参政権を獲得することに成功したのだった。これ以後、男女平等を明記した憲法を獲得することがアメリカフェミニズムの共通の目的となったのである。

参政権獲得三年後の一九二三年、はじめてERAが連邦議会へ提出された。憲法修正「法案」として成立するためには上下両院議会で、それぞれ三分の二の支持を得なければならぬ。この時代にあつては支持を得られず、議会にとめおかれたままだった。ERAが両議会を通過するためには、一九

六〇年代のアメリカ中を吹きあれた社会改革の嵐を待たなければならなかった。

## (2) ERA「法案」成立前後——一九七〇年代

一九六〇年代に全米を巻き込んだ波は、公民権法をはじめとして様々な有形無形の影響をアメリカに残した。フェミニズムもその例外ではなく、かつてなかったほどの運動の盛り上がりを見せた。また従来のフェミニズムの系列以外にもラディカル・リブ等の新しい運動が発生し、運動の盛り上がりと同時に多様化した。この気運に乗り、再びERA要求が高まってきた。一九六五年にNOW(National Organization for Women、全米婦人機構)(注3)というフェミニスト組織が結成され、今までバラバラであった運動も方向を定め、まとまりを見せつつあった。ここへ来てようやくERAは、一九七一年十月に下院を、翌年三月に上院を、どちらも圧倒的多数をもって通過したのであった。まさに第一回目の提出時から数えると四十九年ぶりのことである。

これでERAは「法案」として成立はしたのだが、憲法修正のためには、この法案に対する批准を四分の三の州から得なければならぬ。五十州あるので三十八州の批准が必要である。定められた期限は七年(後に延長)であり、期限内に三十八州の批准を集められない場合は廃案になり、連邦上下両院に提出するところからやり直さなければならぬ。

しかし最初、事は案外簡単なように思われた。人々の社

会的関心は六〇年代の引き続きで依然高まっていたし、既にかなりの成果をあげた人種差別撤廃の機運を、性差別の分野にも振りむけられそうに思われた。最初に批准したハワイ州では、上院で議決後わずかに二時間足らずで批准し、E R A法案が成立した一九七二年には早くも二十二の州が批准した。

翌七三年には八州が批准して計三十州。しかしこれ以後急速にベースが落ち、七四年三州、七五年一州、七六年ナシ、七七年一州が批准し、デッドラインの七九年三月二十二日を目前にした七八年には計三十五州で、あと三州が不足していた。これはE R Aに賛同している州が先に批准してしまい、むずかしい州ばかりが残ったため批准が進まないことは無論だが、七〇年代半ば頃から、フェミニズムに対する風向きが変わりつつあったことによる。急速に広まった種々のフェミニズムの運動に、この頃になって徐々に反撃が加えられてきたのである。こういう場合の格好の例としてよく引合いに出されるマラベル・モルガンの『トータル・ウーマン』が出版されたのは一九七三年で、この本はウイメンズ・リブの風潮を苦々しく思っていた人々に熱烈に歓迎された。

こうした時代を背景にして、E R A推進運動は成果が上からず、七七年にインディアナ州が批准したのを最後に、その後の状況は悲観的であった。そこでE R A推進運動の中心となっているNOWは一時戦法を転換し、期限の延長要請を連邦議会に提出した。この期限延長議案は議論を呼んだが（注

4）、結局七八年八月に下院を、十月に上院を通過し、ほぼ三年の延長となり、新たなデッドラインは八二年六月三十日に設けられた。その日までに残る三州の批准を得るために、NOWを中心としたアメリカフェミニズムの挑戦が展開されたのである。

### （3）E R Aデッドライン前後——一九八〇年代

E R A法案を批准していない州は十五州である（注5）。

そのうち、ソリッド・サウスといわれる南部諸州と、モルモン教の支配が強力にいきわたっている西部の数州は、批准の可能性がほとんどないと考えられていた。南部諸州の保守的なことはよく知られていることであるし、一方、ユタ州ソルトレイクシティに本拠を構えるモルモン教は、家族主義の立場に立った家族の結びつきを、死後に至るまで強調しており、反E R Aの一つの大きな勢力となっていたからである。そこで、これらの州以外で批准の可能性が大きい州——イリノイ、フロリダ、オクラホマ、ノース・キャロライナ、の四州が推進運動の標的となった。州における批准の手続きは、ここでも上下両州議会で一定の数以上の支持（各州によって異なる）を得て両議会を通過しなければ批准されない。E R A推進運動としては、世論を喚起するキャンペーンとともに、直接的な運動としては、州議会での議員投票を行なわせるよう働きかけた。

既に悲観的な予測が交わされている中で、NOWは「E R

Aカウントダウン(秒読みE R A)」と名づけたキャンペーンを全米に展開した。批准をした州においては活動資金を募り、まだ批准をしていない州のうち上記四州においては、州議会に圧力をかけるため大量のボランティアを含む運動員を送り込んだ。一五〇〇万ドルを目標とした資金集めは、手紙・電話・個別訪問での寄付依頼、全国一斉に行なうラリーでの募金、Tシャツ・バッジ・ステッカーの販売と、多様な方法で行なわれた。期限切れ間近の八一年末からは、テレビによる三十秒スポット広告をはじめ行ない、キャンペーンを展開した。NOWはこの推進運動の中で、会員を三万五千人から十五万人へと増加させている。

期限切れが間近に迫ってくると世論は再び換起され、E R Aは注目を集めた。推進運動は盛り上がり、標的となった州の州議会の周りを、議員投票を要求する多勢のフェミニストたちが取りまいた。六月に入り、六月五日にノース・キャロライナ、二十一日にフロリダで投票が行なわれた。ノース・キャロライナの上院で、賛成二十七対反対二十三、フロリダでは下院を通過して上院で賛成二十二対反対十六と、いずれも賛成派が過半数を占めながらも、それぞれの州議会の定める定数に足りず否決された。

最後の望みをかけられていたイリノイ州でやっと投票が行なわれたのは六月二十二日であった。下院における投票で、賛成百三対反対七十二。過半数を大きく上回ったものの、イ

リノイ州議会の場合は「五分の三ルール」に制約されており、下院議員百七十七名のうち百七票を得なければならぬ。わずかに四票が足りず否決された。六月三十日までまだ数日を余しているとはいえ、イリノイで否決されたこの時点で、各新聞は「E R Aは死んだ」という言葉を書き並べた。かくしてE R Aは、その期限が切れる前に——そしてもっと以前に——行方は決まっていたのである。

## 反E R Aの動向

レーガン大統領は、その大統領選挙のキャンペーンの中でE R Aに触れて、「『E』と『R』は賛成だが『A』には反対」と述べた。つまり男女平等は結構だが、憲法修正には反対というわけである。この発言は、レーガンの男女平等に対する姿勢を端的に示しており、多くのフェミニストから攻撃を受け、論議を呼んだが、一方、この発言が喝采をもって迎えられる、票に結びついたこともまた確かであった。大統領選キャンペーンの中では、E R A法案と妊娠中絶に対していかなる見解を示すかが一つのキー・ポイントとして注目を集めていた。女性解放の視点が、票の行方を左右した大統領選であったと言えよう。対立候補のカーターと比べて、レーガンのとった反E R A、そして絶対的な妊娠中絶反対の立場は、票を集めた一つの理由でもあった。

ERAに反対する人たちにも、賛成論者と同様にいくつかの中心となる組織がある(注6)。しかし最も多くの反対論者たちは、特定の組織に属していない一般のアメリカ人——特にアップバーミドルと言われる人々——であった。男女平等に根本的に反対なのではなく、男女平等も結構なのだけども、ただERAは「行き過ぎ」だという反対論ほど、そういうマジョリティーの「進歩的」アメリカ人に受け入れられた意見はなかった。過去のフェミニズムの運動により、特に六〇年代のウイメンズ・リブの働きにより、もう女性には十分に権利を手に入れた、ERAがなくても充分ではないかという意見は、男女平等に理解を示している、という姿勢を崩すことなくERAに反対する格好の理由であった。

ERA反対論者のみならず、賛成論者の間でさえ程度の差こそあれ、同様の系列で理解されているこの意見は、基本的な誤謬を内在している。ERAは当然ながら、基本的には、女性の平等権に対する国家段階での声明である。それは残存する古典的差別を一掃するための法的メカニズムの「シンボル」であり、事実上は、既に遂行しつつある社会的変化へのConstitutional Confirmation(憲法上の確認)である。実際の社会的変化の遂行は、現実的には憲法修正とは別の独立した運動であり、その遂行にはまた、独自の努力の積み重ねが必要とされるのである。極論すれば、ERAは女性の日常生活に直接インパクトを与えという性質のものではなく、

たとえERAが成立しても、実際の平等への戦いは、ERA成立前と同様に残されているのである。

静かなる反対者とは別に、積極的に反対運動を展開したグループもある。「ストップERA」「モラル・マジョリティー(道徳多数派)」「モルモン教会」等がそれで、特に「ストップERA」は、NOWに対抗する反対派の中心として積極的な反対キャンペーンを展開した。この組織は、フィリス・シュラフレイ(Phyllis Schlafly)というイリノイ州の家庭の主婦によって組織されており、彼女はこの運動によってERAの「スター」として一躍全米に名を響かせた。ERAが成立すると、女性も徴兵にとられ戦争に加えられる、産休、深夜業禁止等の母性保護がなくなる、離婚の際に慰謝料・養育料がとれなくなる、ホモセクシュアルの結婚が認められて家庭の崩壊につながる、男女共用トイレになる等々が逆宣伝の材料として彼女らによって叫ばれた。これらもまた、憲法修正と社会的変化の実現との混同による誤謬以外の何ものでもないのだが、説得力をもって人々の間に広がった。しかし彼女らは、ストップを意味する赤い衣装を着けて手作りのクッキーを議員たちに配って歩くことはできても、時計の針を逆まわりさせることは不可能である。伝統的アメリカ女性の役割を強調したとしても、現在の労働市場における女性の進出をくい止めることはできない。ERAに反対しても賛成しても、またERAが成立しても廃案になっても、確実に伝統

的な性役割は変化しつつあり、好むと好まざるとにかかわらず、ファミリーライフは変化しているのである。

## ERAの評価、その後

ERA法案デッド・ラインの当日、NOWの会長エリノア・シミール(Eleanor Smeal)は記者会見をし、廃案になった敗因と今後の活動方針を語った。ERAの批准に直接参加するのは各州の上下院議員たちであり、個人としてのフェミニストは、周囲でデモンストレーションをするのみである。議会の構成自体を、フェミニストによる構成に変えていくことが先決であり、今後、さらに政治的な活動を行なっていくことを明らかにした。既にNOWは「政治行動委員会」を結成し、フェミニストを立候補させ、議会へ送ることを活動の主眼としている。一方、同じ日に「ストップERA」のオーガナイザー、フィリス・シュラフレイも記者会見をし、勝因を語った。ERA推進者たちは、ERAによって得られる利益を具体的に提示することができなかった。それにひきかえ「ストップERA」は、ERAによって生じるであろう害を具体的に指摘したと述べ、ERAに対する戦いはまだ終わっていないとつけ加えた。彼女もまた、フェミニストたちの挑戦がさらに続くことを知っていたのである。

ERAへの一般的関心と支持は、一時の悲観的状况と比べ

ると、その最終段階に入ってからかなり高まったと言える。最終時におけるギャラップの調査によると、六一パーセントという支持率が示されている。もはや今世紀中には成立のチャンスがほとんどないという、同情的「支持」が多く含まれているにせよ、これだけの支持を受けながらERAが廃案になった理由をいくつか見ることができる。

まず六一パーセントという支持率を評して、casual(あてにならない)なマジョリティーが支持し、intense(強烈)なマイノリティーが反対したと言われる。この背景には、女性には既にかなりの権利を手に入れたという認識が一般にはあり、憲法修正を切実に必要とは考えていないという面があったことは否めない。現実の権利獲得運動と、憲法修正のための運動が、別個の二本の柱の運動であり、それぞれ不可欠な事柄であるという理解がされていなかったことに原因がある。Casualなマジョリティーが考えているほどERAは万能ではなく、ERAの効果が過大評価されていたとも言えよう。このERAの効果については、むしろほとんど期待しておらず、懐疑的な見解すらERA支持者の中にあつたのである。ERAは国家にとって免罪符のようなもので、ERAによって家は「平等」の外観をつくりあげることができると。ゆえにERAはフェミニストが自らの抑圧と闘うための武器にもなるが、それはダブル・ウェッジの性質を持っているという意見である。この意見は、従来からのリベラルフェミニズ

ムの改良運動の持つ矛盾の性質への批判として、いわゆるラディカル派から発言されている（注7）。

次に、支持団体の問題も廃案の理由に挙げられる。統一不足、活動の足並みが揃わなかった等の批判がある。NOWを中心とした活動が大規模に展開されている一方で、各々の小グループの活動がバラバラで、効果を十分発揮できなかったというマイナスはあった。だがこのことは、不統一による組織力の弱さ、物量面のマイナスということよりも、統一した新しいイメージを作れなかったという点に、大きなデメリットがあったように思われる。

ERA推進運動は、六〇年代後半に出現したラディカルフェミニズムの印象を、最後まで払拭することができなかった。一般的にアメリカ人が抱いている十五年以上も前のラディカルフェミニズムの強烈な印象が、そのままERA運動にかぶせられ、積極的な支持を得られない原因のひとつになっていた。ここ数年アメリカにおいて、ERAをモチーフとしたパロディやギャグがいくかに多く語られ、まじめな議論を遠ざけてしまったかを考えると、新しいイメージを作り出せなかった統一不足は、敗因として十分であったと言える。

もうひとつ別の観点から指摘されている理由に、法的構造上の問題がある。憲法修正のメカニズムの複雑・困難さの指摘であり、この問題は再々議論の場に引き出されている。一般に憲法修正に関しては、法的未決定の問題が多く、今後

いくつかの問題を残している（注8）。

\*

一九八二年六月三十日、ERA法案は期限切れのためその効力を失い廃案となった。しかしERAの廃案はアメリカフェミニズムの決定的敗北とは言えまい。ERAの廃案は、フェミニズムの転換期を示唆しており、従来のフェミニズムを単なる改良／改革という二分法の枠外へ解放することを要求しているのかも知れない。ERAは、単に女性の平等を求めているだけではなく、社会のシステムそのものを平等という視点から改めて再考することを促した。今後も続けられるこのERA実現のためのアメリカフェミニズムの挑戦は、直接的にはアメリカ法システムとセクシズム（性差別主義）に向けられているが、その底流には、さらに広義の「差別」という価値観への挑戦を含んでいるのである。

#### 〔付記〕

ERAが廃案となった二週間後の七月十四日、ERAは成立へのステップを再び第一歩から踏み出した。下院においては、二百一名の連名によりPeter Rodinoが提出し、上院においては五十名の連名によりPaul Tsongasにより提出された。

（すぎもと きよえ カリフォルニア州  
立大学ロスアンゼルス校大学院在学中）

- (1) National Women's Party の会長  
一八七二年にイリノイ州で弁護士資格を要求する裁判が Myra Brodwell にやり起されている。
- (2) ベティ・フリーダンの創立による。
- (3) 期限延長は、憲法修正手続にのっとっていないという意見は、ERA 反対者の中で今も主張されている。一九八一年十二月にも、アイダホ州の地方裁判所の裁判官 Marion J. Callister が、当時の決定は違憲であるとし、話題になっている。
- (4) ネバダ、ユタ、アリゾナ、イリノイ、ミズーリー、バージニア、ノース・キャロライナ、サウス・キャロライナ、ジョージア、フロリダ、アラバマ、ミシシッピ、ルイジアナ、オクラホマ、アーカンサスの十五州である。
- (5) よく名を知られたものだけでも the American Conservative Union, American Women are Richly Endowed (AWARE), the Daughters of the American Revolution (DAR), Eagle Forum, Humanitari Opposes the Degrading Our Girls (HOT DO G), John Birch Society, Knights of Columbus, Ku Klux Klan, League of Housewives, National Council of Catholic Women, the Family Preservation League, Mormon Church, Catholic Daughters of America, Stop ERA, the League of Large Families 等がある。
- (6) Elijah Eisenstein "the Radical Future of Liberal Feminism"
- (7) (8) の問題もこのひとつであるが、もうひとつ大きな論点となっているものに、批准取消しの問題がある。一度批准をした後、その批准を取消した州が五州ある。批准取消しは正式にまだ認められておらず、その五州も含めて三十五州の批准ということになっているが、この法的決定もまた未決であり、今後問題を残している。もし、この取消しが認められるということになれば、ERA は三州の不足で廃案になったのではなく、八州不足していたということになる。

△参考資料△

"Los Angeles Times", "Chicago Tribune", "Wall Street Journal", Riane T. Fiesler "the Equal Rights Handbook" "NOW Times" 等。



8・5、8・6広島

## 原水爆禁止

'82 世界大会

八月五日夕

原爆ドームにほど近い中央公園の広場がきょうの会場だ。草の根元年といわれる今年、多くの人々に開かれた大会にしよう、屋外に出たという。

ようやく和らいだ陽さしの中に、折り鶴行進の人々が次々入場する。色とりどりの折り鶴のレイを首にかけての静かな行進だ。幼い子どもたちもまじっている。

五時半過ぎ開会、手拍子にのって三十一か国八十八人の海外代表が入場。犠牲者を悼んで黙禱を捧げたあと、主催者側から今堀誠二さんと大友よふさんが、海外からは国連軍縮センターのP・ダビニッチさん、アメリカの作家シドニー・レンズさんが、それぞれスピーチをした。

「第二回国連軍縮特別総会は期待を裏切っ

て何の成果もないまま終わった。しかし反核運動は百万人もの人をニューヨークに集め、世論のもつ役割をあらためて確認させた。核軍備は、管理を任された人間をケダモノにしてしまう。想像以上に切迫している核戦争の危機を阻止するため、世論の力を行使しよう」

が一致した要点であった。

そのあと、イブ・シモンさんや佐藤光政さんの、反戦の希い溢れた熱唱や、中学生らの演奏が広場の雰囲気盛り上げた。

すでに夜に入った終幕近く、全員のダイ・インに入る。炸裂音と共に三万人の参加者が一斉にその場に倒れ、死を表現して、核兵器を使用する者への抗議を表わした。



最後に「ヒロシマ・アビール」を採択し、全員合唱で幕を閉じる。海外代表は思い思いのプラカードや垂れ幕を持ってステージに勢揃いし、//原爆を許すまじ//の大合唱に和した。

\*

草の根の人々の連帯は、果たして狂気の暴走の歯止めになり得るだろうか。この小さな惑星が、永劫の廃虚と化してしまわないうちに、断崖のふちから引き返してほしい。そのために私は何ができるだろうか。問い直したヒロシマの夜であった。

八月六日・婦人の広場

世界大会二日目の分科会は、//婦人の広場//に。参加者七百二十名。海外からの招待者六名。

冒頭、主催者代表の紀平梯子さんから、昨夜、アメリカの地下核実験が行なわれたこと、それに「婦人の行動を広げる会」の名で抗議したことが告げられ、新たな怒りのうちに集会は開かれた。

紀平さんの熱のこもったあいさつのあと、八人の代表の発言にうつる。

沼田さんと名越さんは、被爆者として「今のような危険な状態を見過ごすのは、再び



過ちを犯すこと。文字どおりの生き証人として、核兵器の完全禁止を」と訴える。悲かな体験をのり越えて語りつぎ運動に命を注ぎこんでいる人のこの言葉には千金の重みがあった。

次に田代さんが基地問題を。ヘリポートの新設に疑問をもった母親たちが調査したところ、大和田通信基地に核戦争の最前基地としての準備が着々と進んでいることを知り、反対運動に立ち上がった経緯を報告。

働く婦人の立場からは、根岸さんが「婦人の労働権確立と反戦の闘いは一体」と呼びかけ、沖繩からは宮里さんが、沖繩戦の悲惨さや、教科書問題に触れた。

被爆二世からの発言は垣内さんが。水頭症、あざらし症、内臓が左右逆という三重

奇型の黒い赤ちゃんを死産した経験を泣きながら話し、差別と偏見を恐れて口に出せなかった苦しみを、今、核廃絶のために訴えた。

海外代表のパールさん（国際民主婦人連盟・インド）と、ワッツさん（スリーマイルアイランド）からは、厳しい中にも心あたたまる連帯のことが寄せられた。

\*

午後の参加者発言は、希望者多数で、六十二名中三十五名のみが発言できた。原発・基地・非核地域宣言・平和教育・教科書等の問題、原爆映画の上映、被爆体験記録活動、一票の行使等に取り組む人々の活発な報告のなかに今後の方向性が示される。

最後に田中里子さんが、「主催者報告、東京宣言」「ヒロシマアピール」をこの一年の学習資料に使い、地域の中でやっていける行動から始めよう。組織だけでなく、草の根にもきめ細かい運動を広げよう」としめくくる。

「ヒロシマからの婦人のうったえ」を採択のあと、「原爆を許すまじ」を合唱。つないだ手と手の温かみを残して、閉会となった。

（高橋 倭子）

## 11・3 東京・渋谷ほか各地

### ’82 優生保護法改悪反対集会

——産むのは女たち<sup>わたし</sup>——

産まないと決めるのも女たち<sup>わたし</sup>——

.....

十年ぶりにまたぞろ出てきた、優生保護法改「正」案。「胎児の生命尊重、日本民族を死滅への道から救うために」と、生長の家をバックにする自民党の村上正邦議員が、三月の衆院予算委で「経済的理由」の削除を迫り、森下厚相も「前むきの検討」を公約、十月中旬には中央優生保護審査会の中間申告が出されるなど、まさに風雪急これに対して各地で、「産む、産まないを選択するのは女自身。女の性の国家管理はごめん」と、強い反対の声があがった。

東京では、’82 優生保護法改悪阻止連絡会が十一月三日、渋谷で「’82 優生保護法改悪反対集会」を行なった。

会場の山手教会は、若い女性、年輩の人、子どもをあやす若い男性、車椅子に座っている人など、約千二百人の参加者で三階ま



でぎっしり。講演、アピールはもちろん、歌やコントまですべてに手話通訳がつき、車椅子の人は一階中央に、子ども連れの人は一階に、と会場整理もきめ細かだ。

午前十時から午後五時まで、お昼休みをはさんで六時間余り歌やコントを交えながらずっしり重い報告、アピールが相次いだ。

金子みつさん（社会党）の「優生保護法改悪の真意は何か」、宮淑子さん（フリー・

ジャーナリスト）の「からめとられる十代の性」などの話に続き、車椅子に座って壇上上がった全国障害者解放運動連絡会議の一人性は、「初潮以来〃こんなところばかり一人前で〃と言われ続けてきた。〃産む産まないは女の自由〃という言い方にも抵抗がある。〃女〃であることを許されない施設もある」と、優生保護法の根底にある優生思想の根絶を訴えた。

「障害者に不妊手術を勧めるところもある。障害者が不妊手術を選ばざるをえない社会で、女が産む、産まない自由を持ちえるのか」との訴えもあり、改悪阻止と同時に、優生保護法そのものと刑法堕胎罪の撤廃をめざして運動していこうという決議が、全員一致で採択された。

それにしても、家庭基盤充実政策、保安処分、拘禁二法案、優生保護法改「正」案と、矢継ぎ早やにでてくるその向こうに見える、黒い影は何だろ。（嶋田ゆかり）

＊

◆東京以外の各地でも集会が開かれたが、11・3呼応集会は左記のとおり。

△京都▽ 主催 連絡会・京都

「ヤミ中絶はごめんだ！」

△82優生保護法改悪に反対する集会

於 京大・楽友会館

△大阪▽ 主催 連絡会・大阪

「産む、産まないは女が決める大阪集会」

於 中之島野外音楽堂

△広島▽ 主催 戦争に反対する

広島女たちの会

於 広島市社会福祉センター

#### ◆その後の動き

森下厚相退陣。林新厚相は「改正は慎重に」と表明。しかし連絡会の抗議訪問に、石井啓雄精神衛生課長補佐は「審議会の報告は未了」と報告書を秘匿する一方、「メンバーは二十名、うち女性是一名、ただし氏名は公表できない。来春の通常国会に法案を提出するよう意見をまとめつつある」と審議会の存在は明示。

一方、「改正」賛成署名は二百四十万以上に達し、まず地方議会をねらい打ち。たとえば福岡県議会には五十万の署名を提出、すでに全国二十四議会（二県十一市、十町一村）で採択が強行されている。理論という入質▽、署名という入数▽の両面で緊急に対抗することが急務！

## 統計ピックアップ—婦人労働の現状について

「婦人白書」(日本婦人団体連合会)「婦人労働の実情」(労働省婦人少年局編) 一九八二年版から

—国際的にみると一九八一年九月三日「女性差別撤廃条約」の発効、同年六月ILO「家族的責任を有する労働者勧告」(ILO第一五六号条約、第一六五号勧告)の採択など男女平等の理念は大きく前進しています。日本でも条約批准にむけて国内法を整備すべく各分野で積極的な取り組みがなされていますが、八二年五月の報告書「雇用における男女平等の判断基準の考え方」に示されたように、男女雇用平等の判断すらまだまだという現実です。私たちは、この厳しい現実に対して、少なくとも八〇年代の婦人労働の現状を知っておく必要性を感じ、前掲書を参考にしながら簡単にまとめました。

## 婦人労働者の新しい特徴

婦人労働者の構成を見ますと、一九八

一年は一三九一万人、八〇年に比べ三七万人増(男子二九万人増)で女子の雇用者総数の占める割合は三四・五%となり三割を越えています。産業別ではサービス業一四万人増(三・六%増)、製造業一一万人増(二・八%増)で、産業別構成比は相変わらずサービス業、製造業、卸売業小売業の三産業で女子雇用者の大部分、八三・三%を占めています。また年齢別では、三〇—三四歳が一六万人増、四〇—四四歳、四五—四九歳がともに七万人増と二〇代の「増減なし」に比較して中高年層の増加が目立ちます(図表1)。これは一九七五年以降の新しい特徴です。

さらに雇用形態で見ますと、常雇が前年比二九万人、臨時が八万人増え、パートは一〇万人増えて婦人雇用者中に占める比率も一九・二%となりました(図表2)。パート婦人労働者も七五年以降の伸びが目立つ新しい特徴といえます。これらの特徴は、七三年の第一次石油危機以降「戦後最大の不況」(七四—七五年)を経て低成長時代に転換した時期に照応しています。

以上概観しますと婦人労働者は増加し続け、その理由は中高年のパート労働者の比率が高まってきたからといえることができます。

## なぜ、男女の賃金格差がひろがる?

日本では雇用における男女差別が依然として強く、それは募集、採用、教育訓練、昇進、昇格、配置、定年、退職とあらゆる方面にわたる、それらが賃金差別とからみ合って巧妙にしかも徹底した賃金差別がおこなわれているのが実状です。図表3をみますと、八〇年の女子の現金給与総額は一六六、三九七円で

また給与別労働者数を一九八〇年の「賃金構造基本統計調査」で見ますと、一〇万円以下の婦人労働者数は三九・九%、一四万円以下になると八一・二%と八割を越えてしまい、いかに低賃金であるかがわかります。その原因としてパートタイム労働者の増加、職務・職能給による差別、昇給、昇格の差別があげられます。五月の「報告書」の、雇用における男女平等は「個人の意欲と能力に応じて」実現するという判断基準がいかに甘いかが以上の数字をみてもわかります。

これほどまでの男女の賃金格差を生み出す原因の第一はパートタイマーの急増にあるといわれています。事実パートタイマーは八一

立てる」という何らかのかたちでの社会参加志向は二三・二%となっています。次にパート婦人の意識について「正社員への変更希望の有無」（図表5）でみると、パート婦人の多い第三次産業雇用実態調査報告では約七割が「正社員になりたくない」と答えています。家計費補助の目的では働きたいが、その範囲は家庭、子どもを犠牲にしない程度にとどまり、婦人は自らパートタイマーであることを望んでいるともとれるような調査結果が出ています。企業側がこうした婦人の意識をうまく労働力化政策に利用している点は看過できませんが、婦人の働く意識自体にも問題があり、それを企業に先取りされているのが実態です。

パート労働の増加は世界的傾向でもありますが、日本のような終身雇用制ではありませんので正社員との賃金格差はさほど大きくあ

りません。「国連婦人の十年後半期行動プログラム」一三二条、ILO一六五号勧告二二条には、パート労働者の労働条件はフルタイム労働者と同じ合いのとれたものでなければならぬことが明記されています。ますます増加するであろうパートタイマーの権利確立が求められています。

## ME・OA時代の新たな雇用不安

パートタイマーも含め婦人労働者は増加を続け、全雇用者総数比三四・五%になったことは前述しました。今日の構造的不況の中で婦人の雇用をめぐる情勢はけっして明るくはありませんが、「婦人労働の実情」によりまずと、新たに求職する者の割合は四八・〇%から五三・一%へ高まり、普通、短時間勤務を合わせて「雇われて働きたい」意志をもつ婦人が四八八万人存在しています。企業側はこうした婦人をパート化して利益をはかる一方、資本金のある企業は機械化による「省力化」をおしすすめていることに注目しなければなりません。マスコミもさかんに「ME（マイクロ・エレクトロニクス）時代に突入！」、「OA（オフィス・オートメーション）革命」とおびやかしています。いわゆる労働そのものが機械にとってかわられる時代にはいったわけですが、企業は「仕事が楽になる」と楽観論のべていますが、大量首切りや配置転換の問題が早急に出されるであろうことは、そして真っ先に婦人労働者、特に中高年層にはこ先が向けられるであろうことは想像に難くありません。

生産部門における産業用ロボットは日本では約一四、〇〇〇台普及し、世界のロボットは約八〇%が日本で稼働しているという驚異的な普及率です（図表6）。十一月二十二日付NHK特集では、ロボットは二十四時間稼働することができるので一台一〇〇〇万円としても、五〇〇万円の人件費で八時間労働する人間に比較すると一年間で減価償却が可能といわれ、今では中小企業にも導入され始め、無人の工場で「せいこ」や「いくえ」というアイドル歌手の名前をつけられたロボットが休みなく動いている様子が報道されました。熟練労働者が行なっていた旋盤などの仕事をボタン一つでパート労働者が行ない、家庭電機製造現場では急速に婦人労働者の数が減らされています。

こうした生産現場では、労基法の深夜業規則を廃止して、二十四時間操業をパート婦人で行なうねらいがあります。母性保護の中で深夜業規則と生理休暇の廃止が企業側のねらいであり、婦人労働者側からも見直しの声があがっていますが、画一的に判断できない問題です。

事務部門ではOA機器として、オフィス・コンピュータ（オフコン）、パーソナル・

コンピュータ（パソコン）、ワード・プロセッサ（ワープロ）、ファクシミリなどが続々登場しています（図表7）。労働省の調査結果によりますと、OAの導入目的は「人員の抑制と削減」が最も多く、婦人の大部分を占める事務部門でOAが導入されることは必然的に雇用を狭めていくことになります。欧米ではOAに対しても関心が強く、昨年ILOでも、OAが労働者におよぼす影響について提言をしましたが、日本では組合も行政もやっと調査にのり出したばかりです。どう対処していくかが早急に求められています。

### 婦人の生活と意識

働く職場は機械の導入によってどんどん変貌しつつありますが、何といっても変わらないのが家事労働のあり方です。「家事、仕事、通勤」などに費やす時間の比較を見ますと（NHK「国民生活時間調査」一九八〇年）、男性は通勤と仕事を合わせて八時間五九分で家事は三分（合計九時間二二分）、女性有職者は通勤と仕事で七時間一八分で家事は三時間一九分（合計一〇時間三七分）、主婦の場合は内職その他の仕事一時間六分で家事七時間三六分（合計八時間四二分）となっています。

す。ここではつきりするのは、拘束時間の一番長いのが女性有職者、男性は家事を二三分しか手伝わず、主婦は七時間以上も家事に費やしているという事実で、家事時間の差の大きさに驚かされます。女性の家事時間の長さに比較して日本の男性の家事時間は極端に少ないのが特徴で、わずか〇・五時間にすぎません(図表8)。共働きでも男性がほとんど家事をやらない事実をみると、まだまだ「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業意識が強いことがわかります。総理府の調査によっても、役割分業に賛成が男性七六%、女性七〇%と高い率を占めています(図表9)。

ILOの「男女労働者・家族的責任を有する労働者の機会均等及び平等待遇に関する条約、勧告」は、「家庭責任」は男女双方のものであることをうたっています。しかし、日本の政府は七九年、「家庭基盤の充実に関する対策要綱」を発表し、主婦の家事労働、育児等を見直すなどの役割分担をより徹底させるための家庭基盤充実を唱え、女性をますますしぼりつける政策を出そうとしています。私たちは、真の男女平等にむけて、ILO条約、勧告がめざしている方向を実現させていくことが重要です。

(志賀由美子)

図表1 年齢階級別女子雇用者数、構成比の推移

		総 数	15～19歳	20～24	25～29	30～34	35～39	40～54	55～64	65歳以上
雇用者数(万人)	1960年	738	157	265		116		127		5
	65	913	157	251	99	158		167	34	7
	70	1,096	138	317	124	89	106	252	59	12
	75	1,167	79	266	156	111	119	338	80	18
	80	1,354	68	247	164	153	158	430	107	25
	81	1,382	67	247	163	169	158	446	107	26
構成比(%)	1960年	100.0	23.4	39.6		17.3		19.0		0.7
	65	100.0	18.0	28.8	11.3	18.1		19.1	3.9	0.8
	70	100.0	12.6	28.9	11.3	8.1	9.7	23.0	5.4	1.1
	75	100.0	6.8	22.8	13.4	9.5	10.2	29.0	6.9	1.5
	80	100.0	5.0	18.2	12.1	11.3	11.7	31.8	7.9	1.8
	81	100.0	4.8	17.9	11.8	12.2	11.4	32.3	7.7	1.9

資料：総理府「労働力調査」

図表2 女子短時間就労雇用者数の推移(非農林業)

	雇用者数 (万人)	短 時 間 雇用者数 (万人)	雇用者中に 占める短時 間雇用者の 割合 (%)
1960年	639	57	8.9
65	851	82	9.6
70	1,068	130	12.2
75	1,137	198	17.4
80	1,345	256	19.0
81	1,382	266	19.2

(注) 短時間雇用者は平均週就業時間が35時間未満の雇用者である。  
(季節的、不規則的雇用者を含む。)

資料：総理府「労働力調査」

図表3 1人平均月間現金給与額および男女格差の推移(規模30人以上)

	現金給与総額			定期給与			特別給与		
	女	男	男女格差	女	男	男女格差	女	男	男女格差
	円	円	(男子=100)	円	円	(男子=100)	円	円	(男子=100)
1960年	12,414	29,029	42.8	10,129	23,303	43.5	2,285	5,726	39.9
65年	22,275	46,571	47.8	17,760	36,496	48.7	4,515	10,075	44.8
70年	45,801	89,934	50.9	34,482	66,710	51.7	11,319	23,224	48.7
75年	114,067	204,295	55.8	84,431	149,549	56.5	29,636	54,746	54.1
80年	166,397	309,218	53.8	123,880	227,022	54.6	42,517	82,196	51.7

(注) 1969年以前はサービス業をふくまない。

資料：労働省「毎月勤労統計調査」

図表4 雇用形態別いまの会社の就業動機

(単位：%)

		家計のたし	住宅、ローン	教育費	レジャー費	老後、病氣	暇なので	経済的自立	能力を役立てる	自由なお金	その他N.A
総数	100.0 (939人)	39.2	7.2	7.3	1.5	6.3	12.1	3.2	5.9	9.2	3.0
雇用形態											
正社員	100.0 (366人)	43.7	5.2	1.9	0.3	3.0	5.2	18.0	7.7	9.8	5.2
臨時・パート	100.0 (573人)	36.3	8.3	10.8	2.3	8.4	16.6	1.9	4.7	8.7	1.7

資料：雇用職業研究所「中高年婦人の雇用管理・就業意識に関する調査」1981年12月

図表5 パートタイマーの正社員への変更希望の有無

(単位：%)

	なりたい	なりたくない	N.A
電機労連	59.5	37.4	3.1
商業労連	23.4	72.4	4.2
チェーン労協	35.8	58.5	5.7
第三次産業雇用実態調査報告	17.4	78.1	4.5
ゼンセン同盟調査	19.9	66.9	13.3

図表6 産業用ロボットの普及台数

(単位：台)

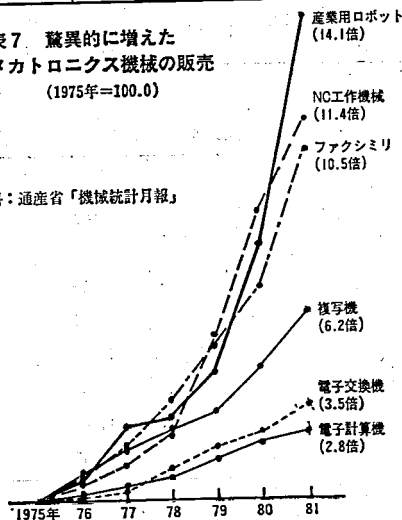
日本	14,000
アメリカ	3,255
西ドイツ	850
イギリス	185
ポーランド	360
ベルギー	13
スウェーデン	570
ノルウェー	170
フィンランド	110

(注) 調査時=79年3月、ただし、固定型や手動型を除く。

資料：アメリカ・ロボット協会調べ

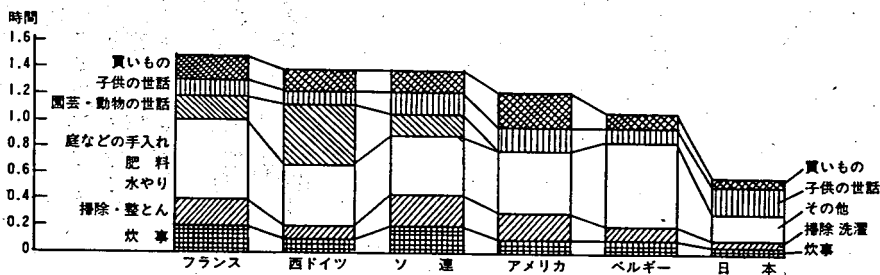
図表7 驚異的に増えたメカトロニクス機械の販売  
(1975年=100.0)

資料：通産省「機械統計月報」





図表8 男子有職者の家事時間  
(国際比較)



(注) 外国は1965～66年、日本は1965年の調査資料による。

資料：経済企画庁「生活時間に関する調査」1975年

図表9 夫婦の役割一夫は外で働き、妻は家庭を守る

(単位：%)

(単位：%)

	該 当 者 (人)	賛 成			反 対			わ か ら な い	計	
		賛 成	ど ち ら か	賛 成 か ば 成	対	ど ち ら か	反 対 か ば 対			反 対
女性総数	4,590 (16,645)	70 (83)	29 (49)	41 (34)	23 (10)	18 (7)	5 (3)	7 (7)	100 (100)	
男性総数	3,649 (2,413)	76 (84)	35 (52)	41 (32)	17 (8)	13 (6)	4 (2)	7 (8)	100 (100)	
〔年 齢〕										
女	18～19歳	— (514)	— (66)	— (25)	— (41)	— (21)	— (16)	— (5)	— (13)	— (100)
	20～24	346 (1,824)	61 (76)	17 (35)	44 (41)	31 (17)	26 (12)	5 (5)	8 (7)	100 (100)
	25～29	553 (2,136)	61 (81)	18 (43)	43 (38)	30 (12)	25 (9)	5 (3)	9 (7)	100 (100)
	30～34	624 (2,292)	70 (85)	24 (47)	46 (38)	26 (10)	20 (7)	6 (3)	4 (5)	100 (100)
	35～39	607 (2,197)	71 (83)	25 (47)	46 (36)	24 (11)	18 (8)	6 (3)	5 (6)	100 (100)
	40～44	530 (1,919)	67 (84)	24 (48)	43 (36)	24 (9)	19 (7)	5 (2)	9 (7)	100 (100)
	45～49	456 (1,582)	69 (86)	31 (53)	38 (33)	26 (8)	20 (6)	6 (2)	5 (6)	100 (100)
	50～54	454 (1,229)	73 (88)	36 (54)	37 (34)	19 (6)	16 (5)	3 (1)	8 (6)	100 (100)
	55～59	371 (1,029)	80 (87)	41 (60)	39 (27)	15 (7)	12 (5)	3 (2)	5 (6)	100 (100)
	60～69	419 (1,315)	79 (89)	44 (66)	35 (23)	14 (5)	12 (3)	2 (2)	7 (6)	100 (100)
	70歳以上	230 (608)	76 (82)	47 (66)	29 (16)	8 (4)	7 (2)	1 (2)	16 (14)	100 (100)
〔未・既婚〕										
女	未 婚	430 (2,058)	59 (72)	17 (29)	42 (43)	32 (19)	26 (14)	6 (5)	9 (9)	100 (100)
	既 婚	4,160 (14,587)	71 (85)	30 (52)	41 (33)	22 (9)	18 (7)	4 (2)	7 (6)	100 (100)

(注) 下段の ( ) は1972年調査

資料：総理府「婦人に関する世論調査」1979年

# 新聞 切抜帖

1982年3月1日から

1982年8月31日まで

## 法・制度

夫の借金など私は知らない

借用書が作られた時のアリバイを主張、夫の借金の保証人ではないとして、貸主と争っていた貸金請求訴訟の上告審で、最高裁は十二日、「アリバイを否定する合理的理由に乏しい」として二審判決を破棄、福岡高裁に差し戻し。(3・12読売)

安川元判事に実刑判決

福岡地裁は十七日、「情交は明確なワイロであり、裁判の公正と裁判官に対する信用を失墜させた責任は重大」と懲役一年を言い渡した。

(3・17読売・西日本・日経)

夫蒸発の救済へ新判断

最高裁は十九日、認知の提訴の期間について定めた民法―父または母の死後三年以内―の解釈をめぐる国と争っていた母子の訴えについて、「三年の起算日には死亡が公に明らかになった日を含むと解すべき」として、認知請求却下の二審判決を破棄、大阪高裁へ差し戻し。(3・19日経・読売・西日本)

ナースキャップは帽子?

山手病院の閉鎖をめぐる訴訟に白衣姿で出廷、裁判長から「頭の上を取りなさい」と警告をうけた看護婦が制服の一部だと主張。二〇日「帽子」とする根拠など質問状を提出。(3・20読売)

菊田医師が敗訴

仙台地裁は三〇日、「県医師会が菊田医師を優生保護医としての適格性を欠くとしたのは社会通念上妥当」と判断。赤ちゃ

んあっせんについても「動機が人道的でも法無視許されぬ」と否認。

(3・30日経・読売・朝日)

「家永教科書訴訟」なお続く

高校日本史教科書の部分改訂検定申請に対する不合格処分取り消しを求めた「第二次訴訟」の上告審で、八日最高裁は「破棄差し戻し」を言い渡した。「命の限り闘う」と教授。

(4・9朝日)

内申書訴訟、生徒側敗訴

高校受験の内申書に政治行動が記載されて不合格になったとして都と区に損害賠償を求めていた保坂さん(二六)に対し、東京高裁は十九日「内申書は校長の広範な裁量権の中にある」として請求棄却。

(5・19朝日)

中国孤児が日本国籍取得

中国残留日本人孤児（三七）が国を相手に起こしていた戸籍を作るための「就籍許可申し立て」を東京家裁は一日、全面的に認め、就籍を許可する審判。決め手となったのは中国政府発行の「孤児証明書」

（6・2日経）

「愛のコリダ」無罪判決

八日、東京高裁で。わいせつ判定の「社会通念」は変遷するとして。わいせつ罪の適用について現実社会との調和を図ろうとする動きが目立つ。

（6・9朝日）

性差別裁判に初の外人鑑定書

整理解雇基準に男女差をつけるのは不当と、唐津赤十字病院の女性職員が解雇の無効を求めている控訴審に、米カリフォルニア法学部のレオ・カノウイツ教授（五六）が「男女間の一般的差異は必ずしも特定の個

人に該当しない」と非合理的差別を批判した鑑定書を提出。

（6・13朝日）

婚約破棄は民族差別

先方の差別意識から婚約を破棄されたとして在日韓国人女性に損害賠償を求めている訴訟で、京大名誉教授らが差別の根深さを強調する支援の意見書を提出。

（6・17大阪朝日）

国籍法、裁判所見解を示さず

外国人と結婚した日本女性に国籍法は違憲として、国を相手に子どもにの国籍確認を求めた「国籍訴訟」の控訴審判決で、東京高裁は「国籍付与は立法の権限」として原告側の訴えを棄却。

（6・24朝日・読売）

堀木訴訟、上告棄却

最高裁は七日、改正前の児童扶養手当法が障害福祉年金との併給を禁止しているのは違憲、

とする全盲の堀木さん（六二）の上告を棄却。福祉立法については国会の広い裁量にまかされている、と、今後の福祉政策に重要な影響を与える判断を示した。

（7・7各紙）

三和銀オンライン事件に判決

大阪地裁は二七日、「コンピュータシステム」の信頼を失わせ、社会に与えた影響は大」として伊藤素子に懲役二年六月、南に同五年の実刑判決。

（7・27日経・読売・毎日）

## 政治

夜間保育計画に自治体ソッポ

ベビーホテル緊急対策として厚生省が計画したもの、自治体側は「国の計画は中途半ばで、出す金も少ない」と批判。

（3・26日経）

ベビーホテルの三分の一が集中する東京都では、区・市との話し合いがつかずにスタートのメド立たず。

（4・14朝日）

（6・2京都）

情報公開制度の実施に向けて都内の各自治体が準備を開始。目黒区は二月に三区で初めて「報告書」を発表。都は四月に「公開室」設置。が、条例のスタートは二、三年先になりそう。

（3・30朝日）

第三四回婦人週間

十一十六日、昨年に続き「あらゆる分野への男女の共同参加——明日を築く役割と責任」をテーマに。労働省は男女の役割意識を調査。男女、未既婚問わず大多数が「共同参加」肯定。が、夫の家事参加は——三割と

実態はまだ低調。

(4・10・11各紙)

### 神戸市の婦人計画指針

「婦人休暇村」の建設や「婦人問題図書館」の開設などを十三日、発表。(4・14日経)

売春対策審議会が要望書

四日鈴木首相に提出。「トルコぶろ売春」「覚えい剤乱用」「性病」の防止・予防などを。(6・5読売)

福祉、利用者は応分負担せよ  
厚生省は二八日、ホームヘルパーの派遣対象の拡大と有料化を発表。十月から実施の予定。(6・29毎日)

特別養護老人ホームと養護老人ホームの本人負担額についても値上げを発表。月額最高限度額三万円を四万五千円、四万円にそれぞれ引き上げる。(6・29毎日)

都、初の女性人事委員

弁護士三淵嘉子さん(六七)。(7・3朝日)

全母子家庭の医療費無料化

全国に先駆けた制度を三日の福岡県議会で決定。来年度から実施の方針。(7・4西日本)

行動計画にナマの声を

九月確定の「京都市婦人行動計画」に幅広い女性の要望を生かそうと、市が五回にわたって教育、家庭などの課題別集会。試案に対する意見も募集中。(7・6、8・8京都)

初の女性税務署長さん誕生

河村喜久栄さん(五五)が東京・荏原税務署長に。明治二九年税務署発足以来初めてのこ。(7・9各紙)

ブライバシー保護立法へ提言

保護研究会(行管庁長官の私

的諮問機関)が二三日報告書を提出。国の総合的なブライバシー保護対策の遅れを指摘し保護立法の必要性を訴えている。民間の金融機関、生命保険会社などによる個人情報利用も規制対象に。(7・24日経)

熟年カップルの老後に恩恵

国税庁が相続税の基本通達を改正。居住用不動産の土地贈与の控除範囲を広げ、夫婦以外の親族が家屋所有者でも配偶者間の土地贈与は一千万円の控除。(8・10日経)

「老人下宿」で暮らしにハリを

福岡県春日市の社会福祉協議会が計画。在宅福祉の考えに立ち、安い費用とボランティアの協力で楽しく暮らしてもらおうというもの。わが国初の試みだが、既にたくさんの方が入居申し込み。(8・26日経)

## 労働

まだまだ、職場の母性保障

産前産後休暇、法定の各六週間順守は二七％。産休中の一〇〇％賃金保障はわずか二二％。政策推進労組会議の「婦人組合員の労働条件に関する制度調査」から。(3・8各紙)

男も女も育児時間を!

「生後三年まで二時間、男女とも」を要求して全日石シエル労組が「育児時間要求のための指名スト闘争一周年」記念デモ。「男女含めての意識の変革のための闘いでもある」と一年をふりかえって組合員。(3・22朝日、6・20毎日)

職場から五千人の差別証言

女子労働者に自分の職場での

「男女差別掘りおこし」を呼びかけ、女性にとってより働きやすい雇用平等法への手がかりにしたいと、新日本婦人の会が全国の実態調査を小冊子に。

(4・9毎日、6・4朝日、

6・8読売)

やっと提言

男女平等ガイドライン

「男女の平均的就業実態の差を理由に男女差をつけるのは妥当性がない」と男女平等問題専門家会議が労相に報告。平等法制定の必要性は明確に打ち出されず、具体的判断基準もタナ上げのまま舞台は婦人少年問題審議会へ。

(5・8—14各紙)

「腰かけ」減り「ポスト」増加

千葉銀行で本部業務に一挙に十三人の女性係長誕生。女子行員の定着化と五〇%を占める女性の戦力アップのため、と銀行

側。(5・11信毎)

時給わずか三〇九円

家内労働者の九二%は女性だが

工賃はパート時給の六六%。

一日五・九時間、月二〇・五日

労働で大半が主婦の内職。パート

の増大で労働者数は減少気味。労働省の「家内労働実態調

査結果報告」から。

(5・14・16・21各紙)

「職場の花」を返上

高島屋が東京・立川市に「女

性の、女性による、女性のため

の」百貨店を十月開店。販売から

仕入れまですべて女性が運営。従業員には結婚・出産退職

の元社員を大量に採用。

(5・18日経)

家内労働旬間

二—三一日、「家内労働手

帳の普及徹底と家内労働による

災害の防止」をテーマに。各地

で委託者に対する監督指導、内

職グループリーダー対象の指

導・懇談会を。

(5・20朝日、23読売)

男にも残業規制を

労働省は一部の職種を除き

「残業の上限は三か月間に一五

〇時間(月五〇時間)以内が目

安」とする男子の残業規制指針

を初めて決定、来年一月から行

政指導に。

(5・22・6・19日経)

退職女子社員にライセンス

一日から西武クレジットが実

施。退職後十年以内のライセンス

保持者は、西武流通グループ

内の希望の支店に退職時の資格

で優先採用する。

(6・1日経)

企業の男女差別改善状況

労働省の発表では、勧告を受

けた企業の六五%が改善。男女

別定年制廃止を重点的に、年内

に全企業における撤廃を目指し

個別行政指導の方針。

(6・1朝日、18毎日・日経)

初の「育休制普及促進旬間」

一—十日、労働省は各企業に

向け積極的な広報活動や啓発指

導を展開。自民党・社会党は制

度の法制化を検討中だが、日経

連は経費がかさむと反対決議。

(6・3日経、7読売、

10西日本)

お茶くみはもうゴメン

奈良県庁で県職員労働婦人部

が、お茶のセルフサービス・キ

ャンペーン。これをきっかけに

女性にも責任ある仕事のできる

条件を整えるよう訴えたいと。

(6・13読売)

悲しき女子パート

常勤労働者とほぼ同じ労働時

間にもかかわらず、法定最低賃

金に満たない。

(6・13読売)

悲しき女子パート

常勤労働者とほぼ同じ労働時

間にもかかわらず、法定最低賃

金を下回る低賃金が5%も。有給休暇わずか二二%。七〇%近くが契約期間を定めていない不安定な状態。全労働省労組の調査で一向に改善されぬ女子パートの労働条件が改めて浮き彫りに。(6・28朝日・毎日)

### “女性世帯主”に手当支給

日産自動車が都の「職場における男女差別苦情処理委員会」の調停を受け入れ、「支給に社会通念を基準とするのは不当」との同委員会の判断に会社側は「年収が夫より多い場合のみ」との条件つきで。(7・10、8・17読売)

### 最低工資の引き上げを!

中央家内労働審議会が見解発表。労働省は最低工資の新設・改正促進を各都道府県に要請。(7・28・30日経)

### 労働省、法改「正?」に着手

婦人労働者の深夜勤務制限や生休、産休などの保護規程の改廃めざして「労基法改正準備室」を省内に設置。来年末には法案提出の意向。(8・1道新)

### 雇用減の心配無用?

①産業用ロボットの導入は製造業の熟練工不足を補うのが主眼。②危険作業、単調労働の減少は高齢者・女性・身障者の職域拡大に結びつく。③ロボット、OA導入による生産性向上は、労働時間短縮と市場拡大によって所得増加、雇用の維持を可能にする。——経済企画庁「技術革新の進展が高齢者などの雇用に与える影響調査」(8・3西日本)

### 不況とコンピュータ化

#### 新卒女子を直撃

現業・間接部門はほぼ全業種で大幅な採用減。採用ゼロ五七

社。大卒女子は今春実績比四・九%減。ただし技術系女子はブームに乗って着実な伸び。(8・3・26日経、15読売)

### パートの労働条件を保護

労働省はパート雇用の際、労働条件を明示した「雇入れ通知書」を発行するよう、十月から企業に対し行政指導の方針。有給休暇も与える方向で。(8・24日経)

### OA、女性の職場を“侵略”

汎用大型コンピュータは九割近く、ワードプロセッサは三割近くの企業に普及。これに伴い女子従業員数は六年間に四・三%減(男子六・一%増)。OAによる省力化の影響は主に女子労働者へ及んでいることが明らかに。労働省の「五六年度職業別労働実態調査」(8・29朝日、30西日本・道新)

## 活動

### 廃油石けん作りで河川浄化

汚染が進む福岡市・宗像地区の水源・釣川の浄化に一役買おうと、市内の婦人会が中心に。原料は家庭のてんぷら廃油。汚れの落ちも上々と大好評。(3・1西日本)

### 自治体「窓口」だけやっ

婦人有権者同盟が婦人の政策決定参加状況を調査。知事・市長は依然ゼロ。地方自治体の管理職登用は平均二%強、登用に関する具体的計画はほとんどなし。婦人問題推進の窓口は一〇〇%設置だが、大半が行政上の連絡機関にすぎないと、実効ある行政を提言。(3・20毎日、24読売)

## 人権無視の女子パート

二六日、大阪で全労働省労組大阪基準・職安両支部が「女子パート労働の実態と問題点を衝く」シンポジウム。パートも立派な労働者と、その実態改善について熱心に討論。

(3・29大阪朝日)

「強か女」？が選挙を変えた

「飲ませ食わせ」のお祭り選挙がまかり通ってきた福岡県三潴町の男たちを政治学級の婦人たちが「洗脳」。役場のキモいりから、有志の自由参加で自信をつけ十三年。今や「民主主義の学級・三潴に学べ」は選挙浄化団体の合言葉に。

(3・29朝日)

緊急時「女性助け合いの会」

保谷市の宮本久美子さん、三度目の出産で相互援助の必要を感じて呼びかけ、会員は十一

人。十年後には全国組織に。

(4・14毎日)

平和のために一粒の勇気を

「十五日デモ」や「憲法のしおり」作りなど息長い平和運動を展開している「草の実会」が第二八回の総会。「反戦・平和にこだわり続けた二八年でした」と。

(5・14朝日)

婦人保護の充実目指す

売春防止法制定二六年、売春の実態が潜在化、巧妙化し、対象が見えにくくなってきた今こそと、施設関係者らが「全国婦人保護事業推進会議」を発足。

(5・19朝日宮城)

地域に根づいて二〇年

東京・文京区の共同保育所「あゆみ保育園」が創立二〇周年。無認可共同保育所の草分け的存在。貧困家庭の母子救済目的の保育に、働く女性の権利と

しての側面をつけ加えてきた。

(5・20朝日)

新聞で学ぶ女の生き方

北陸婦人問題研究所(金沢市)が、女性に関する新聞切り抜きをもとに研究をはじめて一年。論議は「おんなと平和」「教科書問題」にしばつて。

(6・2朝日)

反核映画を出前上映

小平市の主婦グループが、核兵器の恐ろしさを町のすみずみまでにと「にんげんをかえせ」を上映。三〇回の上映で千人以上鑑賞。確かな手ごたえ。

(6・20朝日)

自伝を通じ考える女性問題

日本女性学会第三回総会は十九日、兵庫で「女が自分を語る時」をテーマに、講演、討論。「伸子」「招かれた女」を中心に。

(6・24読売)

関西主婦連に行革応援団

土光臨調会長や中曽根行管庁長官を応援・激励して行革断行に積極的な運動の展開をと、同会内に「行政改革応援団」結成。

(7・3京都)

地婦連満三〇歳

会員六百万人、全国規模の消費者運動を展開してきた地婦連が、九日創立三〇周年。「原点は人間を大切にする暮らし。まず平和が実現されなくては」と田中里子事務局長。

(7・7・9各紙)

覚せい剤「更生の会」

社団法人福岡県断酒連合会が結成した女性グループ回生友の会婦人部。二五日に結成。「覚せい剤から立ち直りたい」女性患者に看護婦らが協力。

(7・14西日本)

歴史をひらく」はじめの家

もろさわようこさんが「女性の自立」をきっかけ提唱して三年、長野県北佐久郡望月町に完成。「自立の家」「木洩れ陽の家」「結いの家」の根となる。

(7・14朝日、8・4信毎・朝日)

基地沖繩で平和教育

今なお全国の五三%の基地を抱える沖繩。遊びの中で戦争の怖さを教え続けるコザ幼稚園の今季子さん。(7・24朝日)

家庭科教育の重要性再認識

「平和と家庭教育」をメインテーマに、家庭科教育者連盟が七月二日から三日間、広島で夏期集会。男女共修、家庭や地域との協力の重要性を強調。

(8・4河北、19京都)

『あいら』100周年の集い

七月三十一日、八月一日の二日間にわたり東京で。一日目は

女流文学新人賞受賞の山下智恵子さん(会員)の記念講演のあと、「いま私はこれが言いたい」と題して、各地、各方面の女性の発言が、パーティに移ってからも相次いだ。二日目は今後の活動方針をめぐり、全国から駆けつけた会員が活発に討論。

(8・4—11各紙)

女性差別撤廃102の提言

都婦人問題協議会が鈴木知事に答申。「都政上の政策決定への参加促進」など、教育、労働、家庭など広い分野にわたり、都が果たすべき役割をアピール。(8・10朝日)

「マチコ先生」交渉記録出版

「まいっちんぐマチコ先生に抗議する会」が放映中止要求の交渉経過や、母親、子どもからの反響などを報告書に。話し合い

は平行線のまま、現在も放映中。(8・16京都)

自立と無縁?主婦の再就職

グループわいふ主催の「主婦のための再就職セミナー」は、いつも盛況だが、いざ求人があると「フルタイム」にしり込み。「夕食の支度に支障」などと。「性別役割分業がしみついているのが大きな原因。『女の自立』と主婦の再就職願望は結びついてないのでは」と残念がる主催者側。(8・17毎日)

## 集会

食品公害にもプロの視点

「栄養士の社会的役割を考える集い」が大阪で。今年一月の「全国統一カレー給食」を機に自分たちの専門性について改め

て考えようと、約百人参加。(3・11朝日)

男女の役割どう変える

差別撤廃条約の批准実現にはどんな方法や運動が必要なのかを、一般の女性たちと共に考えようと、日弁連が東京でパネルディスカッション。

(3・25朝日)

西欧の女性の現状

前欧州議会議長シモーヌ・ベールさん、東京(二四日)と大阪(二五日)で講演会。「男女平等は法的、理論的には達成されたが、現実とまだ大きなギャップ。完全な平等をどう実現していくかが今後の課題」

(3・27朝日、30毎日)

国民生活白書に鋭い批判

「生活の質的充実とは何か」を問うシンポジウムが、主婦会館で。日本生活学会主催。生活水



準のみかけ上の向上に質ともなわず、女性の経済的自立の歩み  
が必ずしも生活の質向上と結び  
ついていないとの指摘。

(4・15日経、4・21毎日)

信毎「私の声」地区のつどい  
十五・十七日、中・南信地区  
で「婦人の社会参加―慣習を見  
直して」をテーマに。

(4・19信毎)

戦争への道、再びたどるな

「平和」をメインテーマに第二  
七回はたらく婦人の中央集会所  
二三日から三日間。反戦平和の  
原点・沖縄を見つめようと那覇  
市で。

(4・28朝日)

拘禁二法を考える女性の集い

八日、東京弁護士会「改正」  
対策本部主催で。成立すれば女  
性はより一層不利になり屈辱を  
受けるとの危機感から。「市民  
の権利がつきくずされて行くそ

の先に戦争への道が」と訴え。

(7・16毎日)

中絶めぐる現実で論議

東京で、「優生保護法改悪反  
対集会」。(優生保護法改悪イ  
コール憲法改悪と闘う女の会)  
と(行動を起こす女たちの会)  
が主催、女性の体の国家管理は  
許さないと、堕胎罪撤廃の要求  
も含む抗議文を採択。

(7・22信毎、26河北)

コンピューターが奪う職場

十八日、東京で「コンピュ  
ター・O Aの下での婦人労働者  
を考える集い」。二三〇人が参  
加、「O A化のあり方を受ける  
のは女子労働者」と訴え。

(7・24毎日、27河北、

30京都)

第二八回日本母親大会

七月三一日から二日間、大  
阪、京都で。「母親の愛と勇氣

と行動で、核戦争から子どもを  
守りましよう」とのスローガン  
に全国から一万四千人が参加。

(8・4京都、5信毎、

18毎日)

男の自立

女性の自由を束縛しなければ  
生きられぬ老年期の男性たち、  
「会社人間」「甘え」を卒業し  
て地域に順応できる「個」の確  
立をと、女性でつくる「老年を  
考える会」(兵庫県)が「人生  
八〇年時代の男性の自立を考え  
る」をテーマに講座を。

(8・12毎日)

風潮

女性問題誌、二誌創刊

世界の女性運動を視野に入れ  
て、互いに情報を交わしつつ勉

強しようと、有職婦人クラブ会  
長安藤はつえさんが編集長の婦  
人問題情報誌「あい」。「新しい  
家庭科―We」は、家政教育  
社を編集方針偏向との名目で解  
雇された半田たつ子さんが編集  
長。自立した男と女、人間らし  
い生活、差別のない社会を育み  
創り出す力を培おうと創刊。

(3・7―5・2各紙)

難民女性、合格の春

一昨年五月来日のラオスのチ  
ャンタマニーさん(二二)、日  
赤中央女子短大に合格。故国の  
学歴証明を持たず日本での大学  
進学をめざす他の難民の大きな  
励みに。(3・8朝日・読売)

日米女子高校生かたぎ

三〇歳では専業主婦と予想す  
るのは日本四八%に対し、米国  
はわずか三%。離婚を考えれば  
夫に依存の生活は危険、自分で  
自分の生活を支えるのが基本

と。  
(3・16—30読売)

老いも若きもジャズダンス

テニスと並んで女性レジャー

のトップ。楽しみながらシェイプアップでき、ファッション性もあるのが流行の理由とか。都内だけで千教室、推計十万人が毎日踊っている勘定。  
(3・19読売、7・11日経)

作られた「男らしさ」

「ハイト・リポート」男性版

の翻訳出版を機に著者のシェアー・ハイトさんが来日。「男性に関する性の神話の打破をめざした」と執筆の動機。  
(3・20読売、21朝日、27京都)

広がる嫌ガン権運動

「母親は子どもたちの生命の安全を保障する責任がある」と、農薬、添加物など発ガン物質への拒否権確立を訴えて、京都・

向日市の主婦が市民運動を展開。「水俣病を告発する会」やガン学者らからの支援も続々。  
(3・21京都)

京都に初の外国人先生

韓国籍の女性が市立学校教員に採用内定。京都市では十年前から教員受験資格の国籍条項を削除。実際の採用は今回初めて。  
(3・21京都)

中国帰国者に自立の道

東京・江東区の帰国女性、中国国籍のまま初の公務員として学校給食の現場に正式採用。残留孤児の帰国増加に伴い、区が現業部門に限り採用規定の国籍条項を削除したもの。  
(3・27読売)

「女ともだち」

誰のものでもない私の人生

女の自立に正面から取り組んだ三時間テレビドラマ。「自立

をめざす女性たちへの声援のつもりでつくった」と演出の鴨下信一氏。  
(3・29毎日)

新・女性用語事典

現代のおんなの心を映す新語造語。いくじなし「育児なし」、育児をしない亭主は意気地なしの意。教育ワイフ「夫の再教育に熱心な妻。スーパーマン「スーパー」などに買い物に出かけるのを苦にしない男性、など。  
(3・31日経)

「ハイジの国」スイスでは

昨年の男女平等の憲法改正以後、女性の地位は飛躍的に向上。しかし教育、職場、家庭に根強い差別の壁。婚姻法は依然、家族の長として男性にすべての決定権を付与。男性優位の解消はこれから。  
(4・1—3読売)

「女でしくじらないための十七章」?

警官向け受験雑誌の付録。執筆者は元警察官。「女性に誘発される性犯罪も少なくない。鳥

がワナにかかったら、ワナに責任(原因)がないといえるのか」。「玄人女は敬遠せよ」など女性蔑視の記述がズラリ。  
(4・3毎日)

生理用品の改良と女性の意識

帝塚山大学の女子大生グループが研究報告。ナプキン、タンポンの登場と生理用品のオーブンの広告は、古い意識と慣習への挑戦でもあった。もっと機能性・安全性・医学的知識を盛り込んだ広告を、と。  
(4・18読売、5・5京都、10朝日)

白い閃光たぐる織物作家

九歳で長崎で被爆、原爆症に

苦しむ明坂尚子さん(四六)が二二日、東京・銀座で仲間と初の共同作品展。白一色の自作を前に「反核の思いを伝えたい」と。

(4・23読売)

#### 主婦向けの情報誌創刊

何かしたい主婦の行動のきっかけになる情報をきめ細かく主婦の手でと、六人の主婦がアマチュア精神で季刊「DO プラン」創刊(神無書房)。

(4・28—5・12各紙)

#### 「シルバー・サロン」誕生

進む高齢化と核家族化の中で老人たちが気ままに集える「地域の居間」をと、京都・左京区の主婦のグループ「手をつなぐ会」が四年がかりで。

(4・28、6・23京都)

#### オーストラリアの女性たち

職場進出は目ざましく、労働力の三七%が女性。うち既婚者

六割以上、その五五%はフルタイム(日本・三〇%弱)。賃金格差は男性の八二%(同・五三%)職種も専門的・技術的職業従事者一九%(同・一三%)と数・質ともに先進国。

(5・4—11読売)

#### 水俣の苦しみ絵本に

子どもたちにも水俣病のことを考えてほしいと、石牟礼道子さんと丸木俊さんが「みなまた海のこえ」(小峰書店)を共同製作。

(5・11朝日、8・14毎日)

#### 一味違う団塊世代の独身女性

そろそろ中年の三十代、個人年金加入や自己投資などの老後設計。家庭・結婚にこだわらず仲間作りながら自力で正しい道を歩み始める女性には、それまでの世代にないしたたかさ、しなやかさが。

(5・11日経)

#### 女性のための研究奨励制度

女性の優れた研究に助成しようとしてエッソ石油が制定。生活アドバイザーの試みなど十件に第一回奨励金。

(5・21読売)

#### 米国映画に見る新保守主義

女性の自立を積極的に描き、家庭、夫婦などの制度自体を疑問視していた「クレイマー、クレイマー」から、その永遠性をうたいあげた「黄昏」へ。行き過ぎた振り子の修正現象との声も。

(5・26毎日、7・14日経)

#### やさしさ復活?

#### 女性ファッション

フリルたっぷり、柔らかな素材で「女らしさ」強調。某デパートのキャンペーンテーマも、「女の記録はやがて男を抜くかもしれない」(五五年)「生活の同級生」(五六年)から今年は

「セクシー」(5・28日経)

#### 裸足の舞姫 長嶺ヤス子

「娘道成寺」ニューヨーク公演で絶賛。「伝統的な日本の形式に西洋のそれが結婚してるかの如く調和」とNYタイムズ評。

(5・28読売)

#### 被爆映画語り手、J・フォンダ

「子供たちに世界にノ被爆の記録を贈る会」の「にんげんをかえせ」、「予言」の英語版で。来月から全米各地で上映予定。

(5・30読売)

#### 平等への道は家庭から

第七回日本婦人問題会議(労働省主催)が二八日、東京・大手町で。「あらゆる分野への男女の共同参加——共に個性と能力を生かすために」をテーマに「女の自立の裏側は男の自立。男女が歩みよって社会、家庭に共に参加を」と訴え。

(5・30朝日・読売)

『体験記・寝たきり老人介護』

京都府社会福祉協議会が昨年公募。予想超える多数の応募から入選作を刊行。「三日でいいから自由がほしい」など介護の主婦らの痛切な声がぎっしり。

(6・9京都)

恵まれない人に遺産を

貸しビル業を営んでいた一人暮らしの女性、ラジオ番組で知り合った評論家秋山ちえ子さんを執行人に。遺産三五〇〇万円は千葉県館山市の女性の更生施設「かにた婦人の村」へ。

(6・22朝日)

ファミリー・サービスクラブ

主婦がグループを作り、有償で共働き家庭の子どもや病人の世話をするシステムを労働省が地婦連に委託、まず十三都市で一日からスタート。子育て後の

主婦の社会参加を促し相互扶助の精神を育てるのがねらいとか。

(7・1各紙、8・12西日本)

抱棲舎映画館オープン

住井すゑさんが印税で自宅の庭に六〇席のミニ映画館を。「生きていることが楽しくなるような映画を親子で見られる映画館にしたい」と。入場料無料、こけら落としは自作映画化の『夜あけ朝あけ』。

(7・8毎日、8・23読売)

姿消す『女・エロス』

足かけ十年「日本の女解放をめざす雑誌」との明確な編集方針をにかけて女の変革を訴えてきたが、読者激減による経営行き詰まりから十七号『女解放なくして反戦なし』で終刊に。残るは「あこら」だけに。

(7・13毎日、19信毎、20河北)

米軍の軍装品バザールに

クレーム

大阪・高槻のデパートで米軍放出の弾薬箱、ヘルメットなどを。「戦争ムードあおるようなもの」と市内の婦人団体の強い抗議に、一部商品を撤去。

(7・29大阪朝日)

一五〇年前、富士に立つ女

厳しい「女人禁制」を破り、江戸庶民の間に広まっていた男女平等を唱える山岳宗教「富士講」の行者に導かれて登頂した辰という女性。東京・新宿の旧家で証拠の古文書を発見。

(8・10読売)

『女の手帳』誕生

女にとって使いやすい手帳をとの思いから。巻末に体のこと、相談機関、女性解放運動グループ一覧など女性のための情報も。女性だけの会社「グルー

プ・エス・アール」製作。

(8・17読売)

保育・教育

盲・ろう児も小中学校で勉強  
都は国際障害者年の行動計画に研究課題として「統合教育」を。五九年度に推進校を設置。

(3・30朝日)

生涯教育に寄せる女性の意欲

早大エクステンション(大学開放)・センター発足一年。公開講座参加者の七五％が主婦を中心とする女性。ビジネス講座にも三〇％の女性受講生。

(3・30毎日)

男女平等教える「とらの巻」

都教育庁が「男女平等教育推進のための資料」を全公立校に

配布。「男女平等観にたった教育とは何かを理解してほしい」と実例をあげ具体的に説明。

(4・3朝日)

幼稚園で「預かり保育」を

共働き家庭、子どもを取り巻く環境が良くない、などの理由で父母から在園時間延長の強い要望。総理府の「幼稚園教育に関する調査」(4・13日経)

学童も預かります

定員割れ相次ぐ保育所の有効利用策として厚生省が検討開始。カギっ子対策や少年の非行防止に役立てたいと。

(4・22日経)

ユニークな赤ちゃん研究

隠しテレビカメラで行動観察など、横浜国大で母子関係や子どもの発達を調べる研究が進行中。(4・23読売)

副読本からなぜ消えた

福岡県の高校家庭科で、婦人差別撤廃条約の抜粋掲載に「抜粋は誤解を生み、生徒の資料として不適」と県教委が削除指示。「行きすぎた管理統制。条約は次代をになう高校生に、差別のない家庭を築くよう指導するための大切な教材」「教育反動化のあらわれ」など批判続出。(6・19朝日)

不安いっぱい乳幼児のしつけ

今の乳幼児は物質的には恵まれている(八四%)が、精神的にゆとりなく(五四%)、しつけは行き届かない(五一%)。育児中不安に思ったことは、しかり方やほめ方などしつけに関すること(二七%)。総理府の「親の子育てに関する意識調査」で。(8・30読売・日経)

## 健康

車イス夫婦に赤ちゃん

共に脊髄損傷の夫婦が、人工授精で受胎。障害者にとって大きな朗報。

(3・12朝日・読売)

粉ミルクの宣伝中止

世界最大の粉ミルクメーカー、ネススル社、WHOの勧告を受け入れて。「粉ミルクは乳児に心身両面で悪影響を与え、衛生状態の悪い第三世界では不潔な水で溶かし乳児がコレラなどに」と主張する各国消費者団体の運動の成果。

(3・18日経、29京都)

「突然死」だった保育事故

保育ミスによる窒息死とみら

れていた生後四か月の女兒は、司法解剖の結果乳幼児急死症候群の可能性が。健康な子どもが前触れなしに襲うナゾの病氣、米国では零歳児の最大単独死因(生後一か月未満を除く)。

(3・20朝日)

危険な妊婦の鎮痛剤

痛み止めや風邪薬に含まれ、流早産防止剤としても広く使われている酸性の抗炎症剤が、胎児の血管を収縮させ、死産や新生児死亡を招いている可能性が高いと東女医大・門間助教授が警告。

(3・24朝日)

岩手医大グループでも、呼吸困難の新生児の母親と抗炎症剤との関係を究明、門間助教授の実験とピッタリ一致。

(7・13朝日)

一人にしないで!

助産婦や看護婦との心の通い合った一対一のつながりを求め

る病院出産者の声を、日本看護協会が小冊子『わたしのお産』一〇八〇人のお母さんの声』に。

(4・7 朝日)

超未熟児の心臓手術成功

七六〇グラムの女児、動脈管開存症の手術に耐えて、すくなく六か月。松戸市民病院チームの懸命の治療で。

(4・8 朝日)

難病でもママの喜び

小腸と大腸の一部を切除、七年以上人工栄養で生命を支えている主婦が無事女児出産。阪大医師のチームワークで。

(4・21 読売)

女らしさを守る子宮がん手術

手術の際、卵巣が放射線照射で死なないうよう胸などに移植、十年後も正常な機能を保たせることに成功。北大グループで。

(4・30 朝日)

妊娠中のママに運動のすすめ

東北大農学部で妊娠・授乳中に母ネズミを運動させると、子ネズミの内臓や頭脳の発達をうながすという実験データが。

(5・7 読売)

カフェインと胎児の知能

ラット実験で、妊娠中にカフェインを与えると胎児の大脳の重量やDNA合成能力がはつきり低下するデータが。国立武漢療養所チームの研究で。

(7・4 日経)

はだし保育のすすめ

厚生省が二保育所をモデルに導入。芝生を植えて、乳幼児のへん平足追放、健康づくりをと。

(7・11 朝日)

日本でも「試験管ベビー」

今秋、「日本受精着床学会」を設立、体外受精の試みを開

始。既に全国で千人以上の希望者。

(7・18 道新)

平均寿命さらに延びる

五六年度の厚生省「簡易生命表」では、男七三・七九歳で世界一位、女七九・一三歳で二位。

(7・18 読売・道新)

無茶な子宮摘出裏づけ

富士見産院六八例と、都内病院三四七例を比較研究の結果、摘出子宮の重量と、患者の年齢分布で統計的に明らかな差が。東大・本田医師の研究。

(8・16 朝日)

子宮ガン検診、速く正確に

採取した細胞にレーザー光線をあて、遺伝物質のDNA量をコンピューターで測定する自動細胞診装置を近畿大で開発。判定時間は従来の約十分の一、精度も確かなため、集団検診への実用化が待たれる。

## 調査

今の世は「女性天国」?

福岡県福岡町での二〇歳以上の女性へのアンケート結果によると、「女が楽」五五%、「男が楽」二九%。専業主婦は「女が楽」六九%、働く女性では「男が楽」のほうが多い。

(4・8 西日本)

男女平等、都幹部の本音は

都婦人問題協議会が中間報告した九六項目の提言を問題として、都局長級二九人(うち女性一人)にアンケート。母性保護などは「実施すべき」の声が圧倒的だが、「都立高定員男女同数化」「都職員等の採用・登用の男女平等の徹底」「平等モデ

ル地区の設定」は、「必要ない」とする答えが多い。鈴木知事はアンケートに不参加。

(4・11・24朝日)

「戦争の不安」六〇％に急増

総理府の世論調査によると、戦争の不安感をもつ人が調査開始以来最高の六割に。防衛費・防衛力規模は約半数が「現行」支持。日米安保と自衛隊による国防を六五％が是認。安保廃棄は一三％と少数。

(5・31毎日)

十代の妊娠中絶激増

厚生省の調べによると、昨年医師から届けられた妊娠中絶件数は五九万六五九件と、昭和二十七年度の優生保護法改正以来の最低記録。出生率の低下、避妊法の普及等が原因とみられるが、一方で二〇歳未満は前年比一六％増、初の二万件突破。六年連続で史上最高記録を更新

中。(6・3朝日)

反核署名、三人に一人

国連軍縮特別総会で、「無条件核廃絶」を訴えるべきは五四％、「米ソ均衡の上で」が三二％。被爆体験を「忘れてはならない」が七七％と大きく増加、三十代前半までの世代、中でも女性が圧倒的。署名や反核運動に参加は三四％、北海道では五割を超えた。朝日新聞社世論調査。(6・5朝日)

当世父親氣質

非行問題の原因、対応策とともに家庭に求める意見が目立つが、子どものしつけは七割が「妻まかせ」。わが子の非行に関しては七割近くが楽観的観測。男の子の将来像は、大学へ進み(五二％)、人間性豊かな生活(四三％)を期待。一方、女の子は高校かせいぜい短大まで(五四％)で、家庭や周囲の人

と円満に明るく(四八％)と希望。総理府「父親の意識に関する世論調査」

(7・5西日本・日経・朝日)

白い粉汚染、青少年へ

覚せい剤事犯は摘発件数・人員とも昨年に比べ約一割増。主婦の検挙者、一三・九％増。青少年層は五年間で三倍近くにも。厚生省「五六年麻薬白書」

(7・30日経)

本

「燃えて生きよ

——平林たい子の生涯」

戸田房子著。新潮社。

(3・1京都、28朝日、

29読売)

「ひらかれた性教育」

世界の性教育事情のレポート。北沢杏子著。アーニ出版。

(3・7読売)

「軍靴の音よ さらば

——ある戦争未亡人の一生」

清水鶴子著。未来社。

(3・22毎日、29読売)

「丁玲の自伝的回想」

長い間の追放ののち、四人組の失墜とともに復活した中国の作家の個人史。中島みどり訳。編。朝日新聞社。

(3・22読売)

「ハイト・リポート

男性版上・中」

シェアー・ハイト著。中尾千鶴監訳。中央公論社。

(4・5朝日)

「いきいきと生き抜くために

——自立をめざす女子教育」

福岡県立三井高校における男

女平等と個性尊重をめざす女子教育の実践記録。柳淑子著。現代書館。(5・14朝日)

『花を置く』

西陣に生きる女を描いた、詩人である著者の初の長編小説。ひらの・りょうこ著。青磁社。(5・19大阪朝日、24京都)

『ザ・レイプ』

落合恵子著。講談社。

(5・24朝日)

『転換期の女性と職業』

天野正子著。学文社。

(5・27読売)

『近代女性精神史』

河野信子著。大和書房。

(5・31朝日・西日本)

『「アンネの日記」への旅』

根底に自らの被爆体験。黒川万千代著。労働旬報社。

(5・31朝日)

『転機の春』

『囚われの女たち』の第五巻。山代巴著。径書房。

(6・2毎日)

『定年からの人生』

日米を対比して老後を考える。袖井孝子著。朝日新聞社。

(6・7朝日)

『女とは何か』

知識社会学による解明。ヴァイオラ・クライン著。水田珠枝訳。新泉社。

(6・15朝日)

『つばさをもがれた女の子』

——教室の中の性差別

教育の中の男女差別告発シリーズ三冊目。〈国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女性たちの会・教育分科会〉編・発行。

(6・17朝日)

『晩香波の愛』

——田村俊子と鈴木悦

カナタ時代を中心にした田村俊子の生きざま。工藤美代子著。ドメス出版。

(7・5朝日)

『長谷川テル作品集』

反戦エスペランチストの作品集。日中エスペランチストの共同編集により北京で出版。(日本エスペラント学会、関西エスペラント連盟で入手可)

(7・19毎日)

雑誌『いま、人間として』

平和を願う切実な心の輪を広げていこうと創刊。径書房。

(7・22朝日)

『異文化としての子ども』

少女の感性で現代批判。本田和子著。紀伊国屋書店。

(7・26読売・朝日)

『日本企業の海外進出』

北沢洋子著。日本評論社。

(8・3読売・道新、23朝日)

『大田洋子集』

疎開先の広島で被爆し、核とその惨禍を鋭く告発し続けた作家の作品集。全四巻。三一書房。

(8・9朝日)

『戦争と女たち』

——女の論理からの反戦入門

青木やよひ編。オリジン出版センター。

(8・10道新)

『慶州ナザレ園』

韓国の施設にひっそりと老いを生きる日本人妻の証言を記録。上坂冬子著。中央公論社。

(8・10道新、16読売)

『大正女性史』

上巻・市民生活、中巻・職業



婦人、下巻・社会運動。村上信彦著。理論社。(8・17道新)

『働く前にお母さん!』

女性弁護士六人による「パートに出るとき 内職するとき 泣き寝入りしない一〇一のアドバイス」。婦人総合法律事務所著。リヨン・ブックス。(8・23毎日)

『平和への願い』

女がうたう反戦詩五〇編。視点社。(8・24各紙)

『女にとつての戦争』②

朝日新聞読者投稿欄「ひとと」の三〇年間から、戦争に関するものを二冊の本にまとめたもの。影山三郎・中村智子・草の実会編。田畑書店。(8・24朝日)

## 相談

X線技師のいない病院

病室二〇床の整形外科専門の小さな個人病院に勤務、X線撮影は看護婦が、不妊予防装置も購入してもらえず、不妊症になつたり奇形児を出産したりするのではと不安。(看護婦一同)  
〔答〕今どき信じられない医療システムの逆行。スタッフの安全さえ無視している医院で患者に良い治療ができるのか。一刻も早く、しかるべき相談機関へ。(平井富雄)

夫が乱暴、離婚したいが

結婚三年目、一児の母。四六時中の乱暴に疲れ果てた。生活力がないので子どもの引き取り

が認められないのでは? 子どものために我慢すべきか。  
〔答〕生活力は、やる気さえあればこれからでも身につけられるもの。離婚を望むなら、子どもとの生活をどう築くかを、まず自分で具体的に考えてみるべき。(鍛冶千鶴子)

(4・28読売)

## 人

全盲少女、晴れて普通高卒業  
全国で初めて、仙台の尾形真澄さん(一九)が。先生や級友の理解に支えられて。

(3・2朝日)

『チャムスのお母さん』

終戦時、チャムス市で大勢の日本人難民を見かね野戦病院を開設、解放後も市立病院の婦人

科小児科医として活躍、昨春、五〇年ぶりに永住帰国した久保田緑さん(七六)。親さがしの中国孤児のため通訳やアドバイスに連日奮闘。(3・4朝日)

音楽生活五〇周年

バイオリニスト辻久子さん、各地で記念演奏会を。  
(3・6日経)

全ろうの学生、博士課程合格  
筑波大の平美穂子さん(二二)、五年制の心身障害学研究所へ。小学五年から普通学級で過ごした「統合教育の見本」と担当教授。(3・7読売)

空襲体験記を自費出版

山野良子さん(五八)。戦無派世代に戦争の無意味さを訴えたいと、『十八歳のノート』を。  
(3・12日経)

少年非行と取り組む

篇志面接委員の井上明子さん

(五七)。覚えいれ乱用の少年たちの実態と指導の実例をまとめた「ガンコロ」との闘い」を自費出版。(3・19朝日)

ブータンと日本の架け橋

西岡里子さん(四六)、ヒマラヤの秘境ブータンに生活した唯一の日本人家族。両国の交流を願って「ブータン王国展」の裏方を。(3・21読売)

宮沢賢治童話の中国語訳

政府招待生として中国・四川省から宮城教育大へ留学の王敏(ワン・ミン)さん(二七)。大衆への献身に感動、中国語訳に。(3・27京都)

ホームヘルパー労組を結成

高松市の兼問道子さん(三五)。ボランティア精神へのただ乗りはおかしいと。正規職員化を訴え奮闘中。

(3・28西日本)

元ピアニスト 役人でも超一流

かつてピアニストとして活躍した藤田晴子さん(六四)が、国会図書館の専門調査員に。事務次官級のポストは、女性では初めて。

(4・2各紙、16京都、20毎日)

竹本土佐広さん、人間国宝に

磨きぬかれた義太夫節・浄瑠璃、美声は八四歳の今も。

(4・3各紙)

「草の根からの女性学」

福井県で理髪店を営む橋本チエ子さん(五四)、日常生活にひそむ女性差別を、学者や研究者の視点からではなく暮らしの中で考えていこうとエッセー集出版。(4・8・9朝日、7・25読売)

「ロングラン」の女流監督

映画体験ゼロで商業映画を撮った吉田ルイ子さん(四三)。カメラマンでは女流社会派の第一人者。(4・19読売)

記録映画30年、羽田澄子監督

伝統的な山伏神楽と山村の生活を一年間にわたって撮影した「早池峰の賦」、日本人の心を映像化した秀作と好評。

(4・29日経)

女性同士手を結んで地道に

「最後の植民地」の著者ブノワット・グルーさんが仏大統領に同行して来日。「フェミニズムがファッションの時代は終わった。今や、世界の女性は違う部分より共通する部分のほうが多いことを理解し始めている」と。(5・1京都)

井上雪さん仏門に

「廓のおんな」の作者井上さん、七日、京都、東本願寺で得度。「将来は親鸞聖人夫人の恵信尼に取り組みたい」と。(5・8読売)

初のボ和・和ボ両辞典出版

足達和子さん(三七)がワルシャワ大留学中、五年がかりでまとめた「三二」ページのポケット小辞典をポーランドで出版。(5・13朝日)

重症心身障害者のコロニー

「光の丘みづよ高原」を開いた岡元京子さん(五五)。施設への入所を断られ続けた一人娘への思いに立ち、福祉の谷間にいる子どもたちに社会の目も向けさせたいと。(5・13朝日、6・25読売)

日米関係の橋渡し役

その名が「日米交渉」を示す暗号に使われたマリコ・ミラ

1・テラサキさん(四九)。貿易摩擦でさしむ日米関係改善のため、日本大使館の頼みで全米各地を講演して歩く。

(5・17朝日、20日経)

「地球号」守り東奔西走

ナイロビにある国連機関で国際環境法を担当している桑原幸子さん。地中海条約の成立に参画、ナイロビ会議でも裏方を。勤めながら毎年一学期ずつケンブリッジに通い、博士号も取得。

(5・29日経)

「産む性」からの告発

子どもの先天異常を十年間追いつけ、「危機の遺伝子」を書いた福本英子さん(四八)。環境汚染や有害食品に警鐘。

(5・30読売)

女子マラソンで日本最高

佐々木七恵さん(二六)、ニューヨークで二時間三十分

0秒を記録。(6・10朝日)

障害児のための図書館

「ふきのとう文庫」開設十年の小林静江さん(五二)。障害児と一般の子の交流の場を目ざす。自宅療養の子への郵送貸出し、指先の機能訓練や盲児のための布の絵本づくりなどの推進役も。

(6・15、28朝日)

「魔の731部隊」を追跡

第二次大戦の暗黒部分の真相を追いつける吉永春子さん。執念と闘志でTVドキュメンタリー三本を制作。TBSで初の女性部長職。

(6・23毎日)

ブブノワ女史に勲四等

滞日三六年、講師としてロシア文学を紹介し続けた、画家のワルワラ・ドミートリエブナ・ブブノワ女史(九六)に勲四等宝冠章が。二四年前帰国、「私の心の半分はいまも日本に

とどまっている」と喜びを。

(7・2朝日)

レイプの現状が作らせた

「受難の側に責任は全くない。被害を受けたと叫ぶのは恥ずかしい」と黙ってしまう女性被害者から、「恥」の意識をとりのぞきたかった」と「声なき叫び」のアンヌ・C・ボワリエ監督。

(7・7-12各紙)

更生保護に活躍する町の医者

諸橋たけさん(八〇)。東京深川のかつてのスラム街で開業。戦後の町で母の会をつくって孤児たちの衣食の世話、保護司、人権擁護委員など、地域のため献身的な活動を持続。

(7・11読売)

おめでとう、運転免許

サリドマイド障害を克服して、辻典子さん(二〇)と吉森こずえさん(二二)が合格。

(7・11朝日、17日経)

国立婦人教育会館の新館長

志熊敦子さん(五六)。「縫田暉子さんが敷かれたレールを地道に。全国のセンターとしての基礎固めを」と抱負を。

(7・12毎日)

建設功労者として大臣表彰

松田妙子さん(五四)。ツイバイフォー工法の導入や、システム住宅「ハウス55」を生むきっかけをつくった功績で。

(7・13読売)

住民パワーで病院づくり

北病院づくり十年の記録「『まさか』に挑戦する地域医療」を出版した姥山寛代さん(四八)。医療の谷間で苦しむ人たちに希望を与える活動に情熱を注ぐ。

(7・22朝日)

東工大研究室からの「反核」

助手の日野川静枝さん（三三）。学内での反核に取り組む中で、学生たちに、科学の目標とすると、科学者の社会的責任を深く考えさせた。二女の母。（7・27朝日）

#### 反原発に取り組む尼僧

「原発過密地若狭」の一角、称念寺の平尾弘衆さん（二九）。「小浜原発を考える女の会」の運営委員。法話、機関紙、童話、紙芝居、あの手この手で市民運動。墨染め姿でデモの先頭にも。（7・28朝日）

#### 原爆の碑訪ね十年

生き残った被爆者の一人としてヒロシマを伝え続けなければと、広島黒川万代さん（五三）、撮り続けてきた市内の原爆碑の写真集『原爆の碑—広島のことろ』を出版。（8・1読売）

#### お嬢さんドーバー海峡横断

三度目の挑戦で大貫映子さん（二一・早大三）が。日本人として公認は初めて。（8・2各紙、8朝日）

#### 全国初の女性書記長誕生

北九州市の部落解放同盟門司地区協議会に。溝尻キクエさん（四七）。四〇歳を過ぎて識字学級に通い学ぶうちに差別の現実を自覚。「末端からの声は一語も聞きもらさずに、運動を一步でも前進させたい」。（8・6西日本）

#### 海外子女教育問題に取り組む

米連邦政府バイリンガル教育コンサルタントの高田範子さん（五二）。子育て期の、在米日本人子弟を対象にした日本人教室設立がきっかけ。「語学よりむしろ異人種との自然な接し方を教えるべき」。（8・8読売）

#### 初の女性証券アナリスト

水谷ますみさん（二五）。企業分析家育成のための試験に合格。（8・16朝日、11京都、18毎日）

#### フランス国家公認建築士

DPLGの称号を日本女性で初めて手にした柴田いづみさん（三五）。（8・22読売）

#### 朝鮮人戦犯問題を追跡する

内海愛子さん（四一）。多くの証言、資料をもとに「朝鮮人BC級戦犯の記録」を五年がかりで完成。続いて朝鮮人志願兵の記録をまとめ、日本の侵略の実態を告発する予定。（8・22朝日、31道新）

#### 〔賞〕

##### 第三二回日氏賞

青木はるみさん（四八）の詩

集「鯨のアタマが立っていた」に。（3・9日経、15朝日）

##### 第十一回赤松賞

目立たない所で黙々と草の根活動をして来た女性に贈られる同賞、繊維産業に働く女子労働者の地位・環境の向上に取り組む大阪の高井美代子さん（五八）ら四人に。（4・11朝日）

##### 第十回平林たい子文学賞

岩橋邦枝さんの「浅い眠り」に。（5・1日経）

##### 第二回猿橋賞

山田晴河さん（四九・関西学院大教授）に。物質の表面構造や界面現象の解明に大きな貢献。（5・13各紙、30京都）

##### ミュンヘン市の芸術奨励賞

同市在住の彫金家永井慧桐子さん（三五）。金、銀、うるしなどの素材に、奈良時代の仏像

の表面処理に使われた技法などを駆使した作品で。

(6・23朝日)

日本エッセイストクラブ賞

テヘラン大学留学体験を土台に、『イラン人の心』を書いた岡田恵美子さん(五〇)に。

(7・8朝日、10読売)

国際音楽コンクールで入賞

第七回チャイコフスキーコンクール、バイオリン部門二位に加藤知子さん(二四)。ピアノ部門三位に小山実稚恵さん(二三)が。

(7・9各紙、12朝日)

第二五回中央公論

女流新人賞

田口佳子さん(四八)の『箱のうちそと』に。

(8・23朝日)

### 第二三回講談社

児童文学新人賞

三輪裕子さん(三〇)の『子どもたち山へ行く』に。

(8・23朝日)

第九回日本歌人クラブ賞

詩田さくら子さん(五三)の歌集『紺紙金泥』に。

(8・30朝日)

### 〔訃報〕

北畠八穂さん。十八日、閉そく性黄だんのため。七八歳。作家深田久弥氏と離婚後、創作活動に入る。『鬼を飼うゴロ』で第十回野間児童文芸賞受賞。

(3・19各紙)

大浜英子さん。二五日、脳こ

うそくのため、八〇歳。多年、家裁調停委員や中央選挙管理委員を。三六年からは初の女性委員長に。評論活動でも活躍。

(3・26各紙)

宮田トカさん。二七日、老衰のため。女性長寿日本一の百十歳。

(3・28各紙)

上代タノさん。八日、心不全のため。九五歳。「世界平和とアビール七人委員会」のメンバー。米英ソの最高首脳に原水爆実験禁止の勧告文を送るなど幅広い平和運動を展開、世界連邦実現が生涯の夢だった。元日本女子大学長。名誉都民。

(4・9各紙)

賀川ハルさん。五日、じん不全のため。九四歳。東京都名誉都民。一貫して社会福祉事業に尽力。

(5・6朝日)

北川深雪さん。三日、気管支性心臓性ぜんそくのため。八三歳。遠野民話の語りべ。

(5・7朝日・日経)

植村環さん。二六日、老衰のため。九一歳。「世界平和とアビール七人委員会」のメンバーとして平和運動推進。故植村正久氏の三女、YWCA名誉会長。

(5・27各紙)

西江三千子さん。十八日、心臓発作のため。四四歳。半身マヒ、失語症、心臓発作の三重苦の中で仏教画を描き続けた。その記録映画『ミチコ』が夫、孝之氏の手で製作され、多くの障害者に感動を呼んだ。

(6・19各紙)

佐藤美子さん。四日、心筋こうそくのため。七九歳。『カルメンおよし』の愛称で一世を風靡、創作オペラ協会を主宰、最後までオペラ振興に情熱を傾けた。

(7・5各紙)

江夏美好さん。ガン闘病記の連載を終え自殺。五九歳。『下々の女』で四六年に田村俊子賞を受賞した作家。

(7・18各紙)

鳩山薫さん。十五日、老衰のため。九三歳。共立女子学園理事長。政治家一族を支えた良妻賢母として有名。

(8・16各紙)

## 意見

女性は「二軍」ではない

社会の主流が男性に独占されぬよう、男女の役割分担を変えてゆくのは時代の要請。職場や社会の仕組みを女性の進出しやすいよう整備するのが急務。国や地方公共団体は率先して積極的措施を。

(社説)

(4・10朝日)

文化を担う女

基盤文化ともいえる日常性をつかさどるのは多くの社会で女。国家、権力闘争などをこえた女の連帯の根を。自然を破壊せず、人類を滅亡に導かない新しい暮らしのスタイルを創出するのは女の役割。

(鶴見和子・上智大教授)

(4・11読売)

男よ、帰宅の潮時では?

そろそろ全力疾走をやめ、仕事のために犠牲にしてきたものの数々に目を向ける時。仕事も家事も夫婦で分担は、分業態勢に比べ生産性低下かもしれないが、自分の視野をひろげ生活をより豊かに、相手をより良く理解することを可能にする。男と女が新しい共生的関係を模索する時期。

(袖井孝子・)

お茶の水女子大助教授)

(4・11読売)

たとえ障害があっても

約束された障害などない。だけれど、いつ、どこで負ってしまうかもしれないもの。障害を持って生まれてくるかもしれないというところで、その命を絶つことを許してしまえば、わずかに二歳五か月で逝ってしまった脳性マヒの私の娘は、本当は在って

はならぬものだったことに。怒りでいっぱいになる。現在妊娠三か月。もし障害児が生まれても、共に元気に生きてゆきたい。

(太田千家子・三一)

(4・16大阪朝日)

心のテン足

すぐれた能力が「さすが」と本人の性を肯定した上に積み重ねられる場合と、「女のくせに」「男だったらよかったのに」と自己の性を否定しなければ認められない女の子の場合と、どちらが率直に能力を伸ばしうるか。男女の能力差を論ずる前に、女の子の心にはかされた目に見えぬテン足を取り払うことが先決。

(樋口恵子)

(4・23毎日)

働けます、四〇歳代女性

パートの雇用条件は三五―四〇歳までが大半。家計の支出がふえるのは中年なのになぜ除

外? 人生経験豊かな働く意欲の強い四〇代女性の職場進出を見直してほしい。

(斎藤みつ枝・四三)

(4・26読売)

わたちの護憲運動

家制度への歯止めの意味もつ第二四条のなし崩し改憲である「家庭基盤充実政策」支持に、男性主体の護憲運動の限界性を見る。ここから、第九、十四、二四条に示される「平等なくして平和なし」の精神で女主体の反戦・護憲の運動体を作りあげられていく。

(吉武輝子)

(5・2信毎)

なお険しい男女平等雇用

家庭責任が女性に重いなどの現状配慮は必要だが、現状重視は両刃の剣。従来通りの保護措置は差別の口実となり、平等実現にブレーキをかけるおそれも。現状を変える方向に対して

も、女性はいより積極的にいどむ時期ではないか。

(金森トシエ・神奈川県参事)

(5・9 読売)

### 現代米女性論の流れ

女同士の連帯のみならず、男たちとも夫婦の關係に限定されないつながりを育てようとの動き。伝統的家庭の崩壊が起きる中で、主體的に生きる女たちが新たな認識を抱くようになった男たちとの共存を模索。

(荒このみ・津田塾大助教授)

(5・20 読売)

### 男女差別撤廃への道

専門家会議のガイドラインをたたき台として雇用平等法制定に向けた建設的論議を期待する。男女差別は人の意識にかかわる問題。「仏造って魂入れず」にならぬよう、審議会討議が法制化と同時に社会通念の変革をも促すきっかけになってほしい。

(社説)

(5・21 朝日)

### パート雇用の改善を

パートとフルの区別は就業時間数と時間帯の差異だけ。身分や処遇面での差別は許されない。パートでも労働関係法令の適用を受けるといふ認識を使用者側に徹底させるべき。専門的・技術的分野にもパート職域を広めることが望ましい。

(社説)

(6・15 毎日)

### 女の「いいお仕事」の実態は

自分の才能を生かして家でできれば「いいお仕事」。主婦の余暇の善用の域を超えにくい。女が一人の社会人としてその位置を拡大したことにはならない。日常何げなく口にするこのことは、とらえ方のなかみをとくと見すえてみる必要を感じ

(伊藤雅子・

国立市公民館職員)

(7・7 毎日)

### 売春春の構図

また売春復活論が盛り返し、高名な文化人の中にも賛成者が。自分たちさえよければ、という男としてのエゴイズムと、売春婦を生み出さざるをえない貧しい階層の人たちへの差別を感じる。

(山谷哲夫・記録映画監督)

(7・19 毎日)

### 性犯罪もつと罪重く

婦女暴行は極めて悪質な犯罪で、女性の人格を崩壊させ死にさえ追い込む。「性犯罪は厳しく罰せられる」との社会認識は潜在的な犯罪者を抑制させ、女性を心理的に勇気づけるだろう。

(工藤真稔・二九)

(7・19 読売)

### 優生保護法自体ナンセンス

女性だって望んで中絶するわけではない。経済的理由であれ、身体的・生物学的理由であれ、産む、産まないを国や医者が決めるべきでない。胎児は母親と一体であり独立しては考えられないのだから母親自身が決めるのが当然。(中山千夏)

扶養家族手当と働く女性

子の扶養義務や親権は父母双方にあることが民法で規定されている以上、手当が世帯主である夫のみに支給されているのは不当。事実上子の扶養義務を負って家事育児に当たる働く女性にも手当を支給するのが当然。(樋口幸子・弁護士)

本籍を持ち運ぶ

引越のたびに転籍届を出して四か所目。今生きている場所のほかに本籍などという本拠地は

いらない。戸籍に含まれている情報は私自身のものだから、お役所で管理してもらわなくても自分が持っていて使いこなせばいいと思う。(鈴木由美子)

(8・25毎日)

女性よ「老後」を語れ

長寿、経済的・精神的自立、介護などについて、老いにかかわり深い女性の側がタブーを恐れず本音を語る必要がある。高齢化社会についての発言も今までは男性中心で女性の視点が欠けがちだったが、女性はそのより大きな主人公なのだから。

(樋口恵子)

(8・25読売)

## 戦争の影

中米・カリブ援助強化

訪米の外相がソ連・キューバ勢力進出阻止を図る米の要請に応えて表明。戦略援助の色彩一段と。

(3・9朝日)

第三次大戦に日本も分担を!

「米軍がインド洋方面に専念した場合、宗谷など三海峡封鎖能力は日本の防衛力増強上のかなめ」と米公聴会が防衛責任で新たな主張。

(3・18読売・朝日)

環太平洋合同演習

三月三十一日―四月二十九日、ハワイ周辺海域で日・米・豪・加・ニュージーランドが参加して。実戦色濃く、参加艦艇・人員・期間ともリムパックス史上最大規模。

(3・19―4・29各紙)

千カリリ防衛強化を

十年以内に達成するよう、ワインバーガー米国防長官が強く要請。そのためには年一二%の防衛費増が必要と。

(3・25―4・2朝日・読売)

米、硫黄島で上陸訓練

五月四―六日、返還後初めての演習。今後も年数回訓練の予定。防衛庁も同島の基地整備へ。

(4・23読売、5・6朝日・日経)

武器三原則、変質

政府は八日、対米軍事技術提供に踏み切る方針を決定。紛争時でも新規以外は提供を継続。

(5・9読売)

在日米軍経費、全面負担を

インド洋防衛の「代償」にと米が要求。(6・30読売)

五六中業早期達成要請

八月三〇日―九月一日の日米安保ハワイ協議で米側は西側の一員としての日本の防衛力増強を強く要請。

(8・31朝日・日経)

〔核〕

核寄港も事前協議

西太平洋配備で米国防務長官が明言。もつとも米国の軍事機密侵せば協議の事実、内容は非公表と日本政府。事実上、核持ち込みの公表見込みなし?

(3・9、12朝日・読売)

米艦続々、横須賀へ

空母ミッドウェー、最新鋭のミサイルフリゲート艦、改造攻撃型原潜など次々入港。米第七艦隊の「拠点」ぶりを見せつけ。

(4・5朝日、8・30読売)

原子力の新長期計画案

〔進む日米協力体制〕



今後十年間の開発計画案案まで。自主開発に積極的に取り組む姿勢を。「兵器への転用防ぐ措置整備で核不拡散に先導的役割を果たすべき」と提言。

(5・13朝日)

#### 軍縮決議案、国会で採択

国連軍縮総会に向け、衆院に続き参院でも二八日全会一致で。首相は「真剣に対応する」と表明しつつも、米の核抑止力が前提、と国連での核不使用決議案には反対の意向。

(5・28朝日・読売)

#### 軍縮三条件を国会で承認

生物・毒素兵器禁止、特定通常兵器禁止、環境改変技術使用禁止の各条約を四日、欠席の公明党を除く全会一致で可決。

(6・4朝日・読売)

#### 核使用完全禁止を市民が提言

核兵器廃絶をめざす各国の市

民・平和団体代表らがニューヨークで開催の「核兵器の道義性と合法性に関するシンポジウム」、軍縮総会へ提言。

(6・7朝日)

#### 第二回国連軍縮特別総会

六月七日―七月九日、ニューヨーク国連本部で。主要目標の「全面的かつ完全な軍縮を現実のものにするためあらゆる措置を」との軍縮計画は採択できず。

(6・8―7・11各紙)

#### 核燃料サイクル確立へ

使用済み核燃料再処理によってできるプラトニウムを軽水炉燃料として使う計画が具体化。通産省は施設設置など立地対策に向けて体制づくりへ。

(8・6日経、26朝日)

#### 小樽に核持ち込みか！

米第七艦隊旗艦ブルーリッジが日米合同訓練中に、「平和都

市宣言」した小樽港に入港。核兵器搭載の疑いが濃いと市民団体が抗議集会。(8・28道新)

#### 〔軍事力増強〕

#### 文民統制強化へ防衛庁改革

首相と防衛庁との意志疎通円滑化のため連絡官設置、内局幹部や防衛局長は生え抜きなど。

(3・13読売)

#### “北海道有事”で実動訓練

来月十八日から一か月、陸海空合同で。参加人員はこれまでの最大一万六千七百人。

(4・29読売)

#### 有事法制急げと統幕議長

自衛隊の有事即応性確立のため早急に、と大田統幕議長。日米統合演習も不可決と発言。

(5・26読売)

#### 防衛秘密スパイ防止法案

自民小委が二次案発表。一次案をさらに強化、単純漏えい罪を新設、一般人も処罰対象に。

“防衛秘密”の認定は全面政府裁量。(7・3朝日・日経)

#### 元自衛官を少数派遣

非武装の国連停戦監視団に「自衛隊法改正の必要がない退職者で合法的に」と。外務省構想。(7・21読売)

#### 際限ない増強、五六中業

政府、国防会議は五六中期業務見積もりを了承、米国の強い要請を受け「防衛大綱」の水準まで防衛力増強をめざす。防衛費総額十五・十六兆円、GNP一%突破必至など。際限のない増強への道につながるおそれ。

(7・23各紙)

#### 行革も防衛力は認知

三〇日、第二次臨時行政調査会が、防衛力は日本の特性に沿

つて整備に配慮し、その規模は「大綱」水準の確実な実現をめざす、と答申。(7・31読売)

#### 東大演習林で自衛隊訓練

昭和三十年代以来房総半島南部の農学部演習林で実施、十年ほど前から黙認。反応鈍い学生や教官、「軍事はタブー」が浸透？(8・9朝日)

#### 四千人参加、図上演習

十七—三〇日、陸上自衛隊が前例のない大規模演習を非公開で。(8・17朝日)

#### 防衛費二兆七七六〇億円強

防衛庁は来年度概算要求を決定。対前年度伸び率七・三五%、GNP比率一%ぎりぎり。後年度負担額約二兆四千億円と長期にわたる防衛費膨張。

(8・27朝日・読売・道新)

#### 〔日韓協力体制〕

#### 日韓軍事協力を

米下院外交委員会アジア太平洋小委は「対馬海峡封鎖の想定で合同演習すべき」と提唱。

(3・25読売)

#### 政府「商品借款」認める

韓国側の強い要求に応え、プロジェクト補助として円借款十五億ドルの範囲内で。

(7・2読売)

#### 〔武器輸出〕

#### 武器購入率高めよ

経団連が要望書。防衛産業の長期生産計画のため五六中業の閣議決定もあわせて要求など、防衛産業拡大へ財界の「本音」。(4・10日経・読売)

#### 日産、ミサイル技術導入

米の有力宇宙開発・軍用機器メーカー、マーチン社と全面提

携。防衛産業に本格進出。

(8・25各紙)

#### 〔改憲〕

#### 自衛の軍備持てるよう明記を

瀬戸山自民党憲法調査会会長が自主憲法制定を目指す著書「新日本国憲法制定論—改憲論語」の中で明言。(3・29読売)

#### 自主憲法へ氣勢

自主憲法期成議員同盟と制定国民会議が憲法記念日に東京で自主憲法制定国民大会を開催。「現行憲法は日本人を骨抜きにするための占領軍の押しつけ憲法。一日も早い自主憲法の制定を」と岸信介会長。

(5・4読売)

#### 外相、自衛隊法改正に意欲

桜内外相は参院予算委で、国連平和監視団に自衛隊が参加できるようにと発言。

(7・1読売・朝日)

#### 交戦権禁止の第二項削除を

九条に関する自民党憲法調査会分科会が試案。自衛隊の存置明文化と内閣総理大臣に防衛状態を宣言する権限付与も提言。

(7・7読売)

#### 天皇を「元首」の位置づけへ

自民憲法調査会分科会が改憲案決定。四条の「天皇は国政に關する機能を有せず」を削除、国事行為を拡大。

(7・28読売・毎日、29日経)

#### 〔教科書問題〕

#### 都道府県教委の介入強化

中教審小委が県レベルの教委に教科書採択に先立つ選定権を付与。文部省指導をより効果的にと。

(6・22朝日)

#### 高校社会中心に検定強化

天皇、自衛隊等、細かく修正。執筆者、編集者には自主規制のきざしも。(6・26各紙)

### 「修正」された沖縄戦

日本軍による沖縄住民虐殺の記述が、文部省検定で日本史の高校教科書から削除。「虐殺の人数に根拠がない」との理由で。(7・8琉球新報)

### 高まる沖縄からの抗議の声

沖縄・北中城村議会が抗議の意見書採択。教育関係者で組織する「民主教育を進める沖縄県民会議」も、「事実をわい曲しない検定制度の確立と、沖縄戦を正しく伝える教科書づくりを」と抗議声明発表、十万人署名運動へ。(8・1朝日)

生活と権利を守る沖縄県婦人協議会(沖縄協)が三日、抗議声明を発表。「削除問題は戦争肯定へつながり、平和への挑戦」と、県教育庁にも政府への

住民虐殺の記述明記申し入れを要請。街頭で抗議のビラ配布も。(8・4沖縄タイムズ、8・7・18沖縄タイムズ、琉球新)

二十一日、那覇市で、沖縄協が「教科書改ざんに抗議する婦人集会」。約四五〇人の参加者を前に、住民虐殺の目撃者二人が生々しい証言。(8・22琉球新報)

二十六日、沖縄協の代表が文部省に直訴。「座り込みも辞さぬ」と強い姿勢で、記述復活を求める要請文を手渡し。検定課長は住民虐殺は認めながらも、復活は拒否。(8・24・26沖縄タイムズ・琉球新報)

### 教科書検定に各国から抗議

中国政府は二六日、「日本軍国主義の中国侵略を改ざんするのは共同声明に離反、是正を」と正式に抗議申し入れ。報道機関はキャンペーン開始。

(7・24朝日、27読売、30道新)

韓国政府も記述修正早急にと

正式抗議。マスコミは「強制連行」を「徴用令の適用」と変えるのは植民支配の正当化と反

発。文部省検定は政府の意図と批判。(8・4各紙)

東南アジア各地にも波紋。「侵略の事実を隠すのは日本への反感を増幅させるだけ」とマスコミ。(7・28読売)

### 政府責任で教科書は正を

今年度検定から新基準適用、検定済みの五八年度使用分は改訂一年繰り上げ、など政府見解を発表。(8・27各紙)

韓国政府は早期修正をなお要する方針を示しながらも、原則的に回答受け入れ。

(8・27朝日)

中国政府は、具体的は正措置欠くと、不同意を表明。原則強調、日本政府の再考を求める。

### 「靖国問題」

(8・29朝日)

八・一五を折念日に

有識者懇談会が「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に最終報告、三〇日閣議決定。自民党内には靖国神社公式参拝への道を開くものとの「期待」の声も。(3・26各紙)

「政教分離の原則に反する。世論を問わずに閣議決定するのは許せない」と、日本婦人有権者同盟が抗議。(3・27朝日)

### 首相、靖国公式参拝へ道

参拝の際公私の区別を表明せず、と私人としての立場を明確にしない方針決定。各閣僚も右にならえ。公式参拝へなし崩し。(7・16各紙)

### 十七閣僚靖国参拝

十五日の終戦記念日、参拝せ

ぬは三人だけ。大半は「公私」  
答えず關係の集團參拝は完全に  
既成事実化。靖國問題に対する  
政府の意図が明確に。

(8・15・16各紙)

### 〔反戦の動き〕

#### 精神障害者の戦争体験

京都の精神科医塚崎直樹さん  
ら医師、看護婦や当時を体験し  
た障害者自身が協力し、貴重な  
体験を本にして残そうと証言を  
発掘収集。(3・10読売)

#### 82年・平和のための

##### ヒロシマ行動

「世界から核兵器をなくそう」  
ヒロシマ・ナガサキの心を世界  
に―」をスローガンに、二一  
日、広島平和記念公園一帯で反  
核市民集会。「草の根」結集を  
めざし老若男女約二十万人が参  
加。(3・20・23読売・朝日、

4・1毎日)

#### 反核決議、自民党がブレイク

決議、宣言、意見書採択な  
ど、全国で三五府県七八市区  
町村に。自民党は運動の高まり  
を警戒、「反米運動に利用され  
る恐れあり」と下部組織に通  
達。(3・20朝日、27、

4・2読売)

#### 届いた反戦の願い

市有地からの忠魂碑除去を求  
めた「真面忠魂碑訴訟」、政教  
分離原則に反すると違憲判決。  
原告十人のうち六人が主婦。忠  
魂碑再建に「軍靴の音を聞いた  
ような気がして」弁護士もつけ  
ず勉強会重ねて六年め。

(3・24各紙)

#### 反核婦人集会

婦人参政権記念日の十日、東  
京・千代田区で「第二回国連軍  
縮特別総会に向けて婦人の行動  
を広げる会」が「私たちの一票

で平和を築く婦人のつどい―核  
兵器完全禁止と軍縮をめざし  
て」をテーマに。参加者約八百  
人。

(4・4毎日、11読売・朝日)

#### 被爆女性が米国行脚

広島平和文化センター職員の  
松原美代子さん(四九)、ヒロ  
シマの絵や映画を携え米国女性  
とワゴン車で自炊しながら二七  
都市を回る。「私たちのような  
被爆者が二度と出ぬように」  
と。(4・8読売)

#### 五月を「憲法月間」に

東京・武蔵野市が独自の護憲  
運動を展開。期間中、憲法学者  
による市民講座、市民討論集会  
などを。(4・13毎日)

#### 目をそらすまいこの惨状

10フィート運動の第二作『予  
言』が完成。(5・1読売)

#### 草の根に広がる反核東京集会

二三日、「核兵器廃絶と軍縮  
をすすめる82年平和のための東  
京行動」。平和を共通項に幅広  
い市民四〇万六千人が参加。核  
兵器使用禁止の国際協定制定を  
求める「東京アピール」を採  
択。(5・23・24各紙)

#### 自衛官合祀拒否訴訟

自衛隊の合祀申請は宗教活動  
であり政教分離に反すると、広  
島高裁が一審に続き違憲判決。

(6・2各紙)

#### ともに生き残る決意を

バルメ委員会は国連軍縮総会  
に向けて「共通の安全保障」と  
題する報告書を提出、非核地帯  
を拡大、核の脅威を除くべきと  
提言。(6・2朝日・読売)

#### 「平和」に女性結集

十九日、福岡市で「もう戦争

は絶対イヤ！」を合言葉に、  
「6・19平和のための福岡婦人のつどい」。党派、主義を超えて女たちが連帯する「福岡婦人団体交流会」が主催。「子どもたちに残そう戦争のない平和な世界」のアピールを採択。

(6・9・19西日本)

「反核」ニューヨーク埋める

軍縮総会取りまく十二日の反核デモには百万人以上が参加、米平和運動史上最大の規模に。集まった世界各国からの署名は一億人分以上、代表がデクエヤル国連事務総長に伝達。

(6・11—14読売)

社会科の授業を創る会

教育の右傾化に危機感を持つ札幌の若い教師たちが今こそ既成のワクにとらわれない独自の立場から教科書問題、平和教育の在り方を考えていこうと、全道の小・中・高校の社会科教師

に呼びかけ。(8・4道新)

包括的核禁止条約の締結を！

草の根反核高まる中、六日、広島原爆三七周年の平和祈念式で四万三千人の参加者がヒロシマ・アピールを採択。長崎でも九日、二万人が参加してナガサキ・アピールを採択。

(8・6・9各紙)

今年も反戦マラソン演説会

「戦争への道を許さない女たちの連絡会」が十五日、東京・渋谷駅前で「ストップ・ザ・軍事費」をメインテーマに。飛び入り含め約百人の女性が八時間にわたり思いを訴え。

(8・16毎日・朝日)

各界に反核のうねり

「平和への演劇人の訴え」と題する反核署名運動を新劇、現代劇、歌舞伎、文楽など、演劇界総ぐるみで開始。

(3・16読売)

「日本科学者会議」が全国の代表的な科学者に呼びかけて行なった反核署名運動は十八日まで一八四名に。

(3・19読売・朝日)

草月流家元、勅使河原宏氏、「流派超え華道家が集まる日本生け花芸術協会を通じ反核のための行動に立ち上がる」と発表。

(3・26読売)

建築家、建築学者が中心の「核兵器の廃絶を求める建築家の会」が発足。「設計家から土木作業員まで幅広く連帯して運動する」とのアピールを採択。

(5・11読売)

二三日の「東京行動」に参加する「障害者実行委員会」が発足。「障害者が『役立たず』と抹殺される戦争を許してはならない」との「障害者宣言」を採択。

(5・21朝日)

「今こそ核兵器廃絶を求める映画監督の会」発足。映画『予

言』のニューヨーク、ボストンでの上映も計画。

(5・21朝日)

〈反核ノ日本の音楽家たち〉が六日、広島で「広島平和コンサート」開催。東京では労音が「反核・軍縮を求める大音楽会」、二七—二九日には沖縄で那覇市がオペラ『はだしのゲン』を上演し、各地で反核コンサートも。

(8・4読売)

広島、長崎を語りつく全ブックリスト「原爆を読む」(水田九八二郎著・講談社)、「大田洋子集」(三一書房)、「反核—私たちは読み訴える」(岩波ブックレット)など出版界も反核ブーム。

(8・9読売)

〔その他〕

「日の丸」君が代」卒業式復活  
十数年間自主的な式を続けてきた東京・荒川区立第七峡田小学校、校長・PTAの強い要望

で復活。

(3・25朝日)

### 図書館の国家管理に反対

全国のすべての図書館をネットワーク化し内閣の管轄下に入れるという「図書館事業法要綱案」に、館員、市民中心に強い反対の動き。二三日には東京で「基本法に反対する会」の結成集会が。(4・20朝日宮城)

### 参院全国区改革案、強行採決

拘束名簿式比例代表制に変える改革案を九日、参院特別委で自民党単独により可決。

(7・9各紙)

「議会議民主主義の危機」「小会派は抹殺される」と反対の議員が、変則採決した参院本会議をボイコットして抗議集会。

(7・17各紙)

十八日、衆院本会議で可決、成立。来年の参院選から実施。

(8・18・19各紙)

### 満州建国之碑

「犠牲者の鎮魂」と岸信介氏ら旧満州にいた日本人関係者が建立募金運動。「侵略を是認することに通じかねない」「歴史への冒とくでは」と批判の声が。

(8・23読売)

## 海外

### EC委が男女不平等で

三国を提訴

欧州共同体委員会は、雇用機会の男女平等などをうたったEC規則違反の疑いで、イギリス、イタリア、ベルギーを欧州裁判所へ提訴。(3・5読売)

### カナダ最高裁に初の女性判事

米国に続きカナダでも、進歩派とされるバーサ・ウィルソン

さん(五二)が。女性、インディアンなどの弱者や少数派が大きな期待。カナダ政府の性の平等に向けた具体的な一歩。

(3・6読売)

### 八〇歳女性、二〇キロ完走

ワシントンで行なわれた二〇キロレースでルス・ロスファープさん(八〇)。二〇キロ完走の女性としては、これまでの最高齢。

(3・8朝日)

### 女性国会議員をもっと増やせ

「イギリスの女性国会議員の占める比率は欧州で最低。女性首相ひとりで政治の実体をこまかすな」と、社会民主党支援の女性グループを中心に差別撤廃運動。

(3・12朝日)

### 日本式おむつカバー好評

日本の気候と育児法が生み出したおむつカバーが節約ムードのアメリカでブーム。よく洗う

こと、おむつをおむつカバーの中に収めること等、海外向けには基本的な注意を添えてPR。

(3・18日経)

### 子育てババ増える

リブ運動と女性の社会進出の影響で、米国では積極的に子育てに参加する父親が増加。最近では父親に保護養育権を認める州も。

(3・24西日本)

### 児童手当削減に抗議、辞任

西独唯一の女性閣僚アンチエ・フーバー青年・家庭保健相。昨春秋、一九八二年度連邦予算の中で児童手当が削減されたのに抗議し辞意を表明。

(4・8日経)

### 突っ走る「男女隔離」

イスラム勢力が権力を独占したイランでは女性のチャドル姿が圧倒的。男女共学は廃止され、風俗規制は厳重。政府は昨

年から、イスラム女性風俗を世界に広めようと英語の女性雑誌を出版。  
(4・10読売)

『地球の運命』爆発的売行き

著者はジョン・サン・シェルスン(三八)、雑誌記者。核戦争の恐怖と核なき世界の青写真を描き、米国内で大反響。十数か国から翻訳の申し込み。

(4・17朝日)

米の初の女性宇宙飛行士

来年四月に打ち上げ予定のスペースシャトル二号機に乗り込む天体物理学者のサリー・ライドさん(三〇)、史上最年少でもある。

(4・20読売、21各紙)

男子中学生のための育児教室

英国グラスゴウのガースキューブ・リソース・センターではおむつの取り換えから入浴法まで指導。因数分解が解ける子も

解けない子も、いずれ父親になる——。  
(5・5朝日)

精子銀行で初の赤ちゃん

「ノーベル賞受賞者の精液で、知能指数の高い女性に人工受精させ、優秀な子孫を作る」ために設立された米国の精子銀行「ナチの優生学に通ずる」「知能偏重」などの批判の中で第一号の女児が誕生。(5・25読売)

女性の職場進出、いま一歩?

ハンガリーの就業人口における女性の比率は四四%(日本三九%)、管理職に占める女性の割合二〇%(〇・八%)、ただし上級管理職は極端に少ない。女性の基本給は男性の九二%、所得は九一%だが女性差別はまだ完全に一掃されていないという。  
(5・27朝日)

同様が定着するスウェーデン

七五年の調査では二〇—二四

歳では同棲率が結婚率の二倍強。「女性の経済的自立」「愛情第一主義」、さらに、社会保障、教育等の国の施策の援護などが背景。同棲から結婚への大きな要因に子ども存在をあげる人も多い。

(5・27西日本、7・29毎日)

サウジで女性専用銀行に人気

「女は家庭」があたりまえのサウジアラビアでも、コーランが女性の個人資産管理を保証しているため、石油ドルで潤う個人資産の三〇—四〇%は女性の管理下。二年前に開業、現在、全国で十三の女性専用銀行が営業中。銀行の開業と並行して自分で商売を始める女性も増加。

(5・31朝日)

女性差別用語一掃の新辞書

英国で最も広く使われ権威ある「ロジェ・シソーラス」の改訂版で、女性差別用語を一掃。

mankind (人類) → humankind, rich man (金持ち) → rich person など。  
(6・6朝日)

「母乳に戻れ」アメリカでも

押しつけではなく女性自身が主体的に選んだ「母乳運動」は男性小児科医への疑問が発端。添い寝、抱っこを大切に、欲しがる間は何歳までも飲ませる原始的な授乳法ではあるが、働く女性でも参加できる運動をめざし、世界四三か国へ広がる。神戸に住むリンダ・ハトランさん(三二)もリーダーの一人。

(6・10読売)

不景気で遅れる親離れ

フランスでは、十八—二三歳の独身者の四分の三が親と同居。高学歴、就職難が原因で、同居の理由は「経済的」と答える者が大半。経済不況が親子関係を緊密にし、家庭の和をうながした(?)。  
(6・16朝日)

## 「男の助産婦」誕生へ

仏国民議会（下院）委員会で助産婦試験の門戸を男性にも開放する新法案を採択。

（6・29読売）

## ERA運動、新たな一歩

米国憲法に「男女平等」を盛り込む「ERA（男女平等修正条項）運動」は、憲法修正に必要な全州の四分の三に当たる十八州の批准が得られず、十年の闘いの末、期限切れで敗北。しかし翌日には早くも新たな運動「ニューディ（新しい日の夜明け）」を開始。七月中には国会にERAが再上程される予定。

（7・16道新、19、20朝日）

## アフガン未亡人村

ソ連軍のアフガン侵攻から二年半余、隣国パキスタンへ流れた難民二七〇万人が、三百か所の難民キャンプに。イスラム社

会の女性隔離の風習から、約二百人の未亡人だけの「未亡人村」も。頼りは援助物資のみ。

（7・19毎日）

## イメルダ体制へ動き活発

フィリピンのマコス大統領は国家最高評議会の新メンバーとしてイメルダ夫人ら四名を任命。最高評議会は「後継大統領養成機関」とすると同時に、大統領に万一の事態が起きた場合は後継大統領が選出されるまで大統領権限を代行する。

（7・31日経、8・8読売）

## 父親への看護休暇は

八年前から

ソ連では一九七四年の保健省通達で、病気の「子ども看護休暇の証明書」は母親以外の家族にも発行されることを指示。

（8・13朝日）

## スウェーデン版男の

かけ込み寺

「家事を押しつけられる。かけ込み寺がほしい」と訴える男性の投書に七二通もの同感が。家事の押しつけ、妻の暴力を嘆く声に混じって、「抑圧され、利用されていると思ったら、子どもを連れて出るべき」という意見も。

（8・16朝日）

## 女性の働く権利制限へ

イスラム化の進むパキスタンでは、連邦評議会議員による、「女性の公務員を全員解雇せよ」との発言に端を発し、女性判事全員の解雇を求める訴訟が起こされ、大統領は女性スポーツ選手の手国外での競技会への参加を禁止するなど女権縮小の動きが活発に。反発する女性たちも懸念に抵抗。

（8・16毎日）

## 男性リブ広めよう

伝統的な「男らしさ」を尊ぶオーストラリアで男性解放運動の呼びかけ。「男も弱く感じやすいことを認めよう」と性別役割分業への疑問、育児への参加を提唱。

（8・19朝日）

ソ連、二人目の女性宇宙飛行士十九日打ち上げた「ソユーズ17号」スペトラリーナ・サビツカヤさん（三四）が。六三年のテレシコワ女史以来。

（8・20・21各紙）

## 西独「緑の党」に女性の党代表

自然との調和、反核・平和をスローガンとし、分権、草の根主義を基本とする同党は、既成政党に夢物語と非難されても若い層からは圧倒的な支持。三人の代表者の一人ベトラ・ケリーさん（三四）は、本職のEC職員を休職して州議会選に立候補中。

（8・26朝日）



テレビに障害者の出番を

セサミ・ストリートで、障害者を特別扱いしなかったバーバラ・コラッキーさん、三〇歳で国連の特殊教育メディア・コンサルタントに就任。

(8・29毎日)

悩みは子守り、働く母親

米国のフルタイムで働く女性の子どものうち、保育所入所は半数以下。残りはカギっ子か、近所の人か親類が子守りだが、祖母も三割が就業。企業もフレックスタイム導入など徐々に努力をしているが……。

(8・30河北)

## 事件

子育てに悩んで子殺し

妊娠中絶後育児に悩む母親、二女一男(九、六、一歳)を殺し、心中を図る。(三月四日) 過保護に育てすぎ心身共に弱い子になったと長男(十一)を殺し自殺。(三月十二日) 近所の子より言葉が遅いのを知恵遅れかと気に病んで、二児(長女二歳、長男十一か月)を連れ心中。(三月二十九日)

(3・4、12、29各紙)

覚せい剤禍で「孤児」に

母、叔母の相つぐ逮捕で二歳の坊やは施設暮らしに。東京。

(3・9朝日)

少女二六人食い物に

覚せい剤を打ち売春させていた暴力団組員送検。

(3・16日経)

独り暮らしの女性、衰弱死

生活保護を辞退していた六四歳の女性、一週間食事もとれず

に。近所付き合ひなく、死後数日だれも気づかず。

(4・15大阪朝日)

車イスの主婦、力尽く

障害者運動のリーダーとして活躍の女性、寝たきりの父親の看病、夫の借金に加えて病状悪化の中で父親と共に放火心中。

(5・10読売・大阪朝日)

保険金目当て、息子絞殺

内縁の夫の父親の葬儀費用のために、母親が小一の息子を。

(6・30各紙)

保険金狙い新婚の夫殺す

二年前、保険金目当てに新婚間もない夫を交通事故を装って殺し、一千万円の保険金を受取っていた妻とその愛人、逮捕。

(7・12朝日・日経)

女子学生が狂言誘拐

「親の過保護と過干渉、若者の

「指示待ち」的生き方ゆえにうつ積する不満、現代の家庭に共通する問題を背景にした事件」(石川弘義)

(7・29各紙)

また家庭内暴力の惨劇

神戸市で高二の長男の暴力にたまりかねた父親(四七)が、息子を刺殺。進学塾への入塾をめぐる親子の対立が登校拒否、母親の家出、家庭内暴力へとエスカレートしての悲劇。

(8・19各紙)

### 切り抜き運動をする方、ご連絡を

女が生き生きと活動する日、子殺しや心中がなくなる日を目指して、新聞切り抜きを続けています。しんどい仕事ですが女の情報収集活動の一つとして参加する方、事務局までご連絡下さい。

# マスコミ会社一覧2

## 放送局

- よい記事は支持しよう！
- 差別的な記事は糾弾しよう！
- あなたの1枚のハガキが社会通念を変えていく。

### 北海道

札幌テレビ放送 STV

〒000札幌市中央区北一条

西8―1―1

電011-241-1181

北海道テレビ放送 HTB

〒001札幌市豊平区平岸4―13―10

電011-822-4411

日本放送協会札幌放送局 NHK

〒000札幌市中央区大通西1―1

電011-251-0111

北海道文化放送 UHB

〒000札幌市中央区北一条

西14―1―5

電011-241-7111

北海道放送 HBC

〒000札幌市中央区北一条西5―2

電011-231-8181

### 東北

青森テレビ ATV

〒000青森市大字松森字福田94

電0177-41-2231

テレビ岩手 TVI

〒020盛岡市茶畑2―23―20

電0196-24-1166

秋田テレビ AKT

〒010秋田市八橋字一里塚216

電0188-24-4141

山形テレビ YTS

〒990山形市城西町5―4―1

電0236-45-1211

福島テレビ FTV

〒980福島市御山町2―5

電0245-34-8131

福島中央テレビ FCT

〒980郡山市池ノ台13―23

電0249-23-3300

宮城テレビ放送 MMS

〒983仙台市日の出町1―5―33

電0222-96-3411

青森放送 RAB

〒000青森市大字松森字福田72

電0177-43-1234

岩手放送 IBC

〒020盛岡市志家町6―1

電0196-23-1141

秋田放送 ABS

〒010秋田市山王

電0188-24-5151

山形放送 YBC

〒990山形市旅館町2―5

電0236-22-6161

ラジオ福島・RFC

〒980福島市太田町13―17

電0245-31-4321

福島放送 KFB

〒980郡山市桑野4―3―6

電0249-33-1111

東北放送 TBC

〒980仙台市八木山香澄町26―1

電0222-29-1111

仙台放送

〒982仙台市長町字茂ヶ崎51

電0222-67-1213

東日本放送 KHB

〒980仙台市上杉2―50―2

電0222-64-6535

日本放送協会仙台放送局 NHK

〒980仙台市錦町1―11―1

電0222-25-8811

### 関東

群馬テレビ GTV

〒370前橋市上小出町120

電0272-332-1181

テレビ埼玉 TVS

〒330浦和市常盤6―36―4

電0488-24-3131

日本テレビ放送網 NTV

〒102千代田区二番町14

電03-265-2111

フジテレビジョン

〒102新宿区市谷河田町7

電03-353-1111

テレビ朝日(全国朝日放送網)

A N B

千鶴港区六本木6—4—10  
 〇3〇3〇405〇3211

テレビ東京

千鶴港区芝公園4—4—7  
 〇3〇3〇433〇4211

テレビ神奈川 TVK

千鶴横浜市中区山下町69—1  
 〇45〇651〇1711

千葉テレビ放送 CTC

千鶴千葉市都町1—1—25  
 〇472〇31〇3111

栃木放送 CRT

千鶴宇都宮市本町12—11  
 〇286〇22〇5221

茨城放送 IBS

千鶴水戸市北見町2—14  
 〇292〇21〇2121

東京放送 TBS

千鶴港区赤坂5—3—6  
 〇3〇584〇3111

エフエム東京

千鶴新宿区西新宿2—3—2  
 KDDビル内

文化放送 NCB

千鶴新宿区若葉1—5  
 〇3〇3〇357〇1111

ニッポン放送

千鶴千代田区有楽町1—9—3  
 〇3〇3〇287〇1111

日本短波放送 NSB

千鶴港区赤坂1—9—15  
 〇3〇3〇583〇8151

アール・エフ・ラジオ日本

千鶴横浜市中区老松町19  
 〇45〇231〇1531

日本放送協会 NHK

千鶴渋谷区神南2—2—1  
 〇3〇3〇465〇1111

甲信越

新潟総合テレビ NST

千鶴新潟市上所島1—3—4—93  
 〇252〇45〇8181

テレビ新潟放送網 TNN

千鶴新潟市新光町1—11  
 〇252〇83〇1111

テレビ信州 TSB

千鶴松本市丸の内4—18  
 〇263〇36〇2002

テレビ山梨 UTY

千鶴甲府市湯田2—9—8  
 〇552〇32〇1111

新潟放送 BSN

千鶴新潟市川岸町3—18  
 〇252〇67〇4111

信越放送 SBC

千鶴長野市吉田1—21—24  
 〇262〇41〇8141

長野放送 NBS

千鶴長野市岡田町1—3—7  
 〇262〇27〇3000

山梨放送 YBS

千鶴甲府市北口2—6—10  
 〇552〇53〇1111

北陸

北日本放送 KNB

千鶴富山市牛島町10—18  
 〇764〇32〇5555

北陸放送 MRO

千鶴金沢市本多町3—2—1  
 〇762〇62〇8111

福井放送 FBC

千鶴福井市板垣町26—105  
 〇776〇34〇2800

富山テレビ放送 T34

千鶴富山市根椋町8—28  
 〇764〇25〇1111

石川テレビ放送 ITC

千鶴金沢市観音堂町18  
 〇762〇67〇2141

福井テレビジョン放送 FTB

千鶴福井市間屋町3—4—10  
 〇776〇21〇2233

東海

テレビ静岡 SUT

千鶴静岡市栗原1—9—8  
 〇542〇61〇6111

静岡第一テレビ SDT

千鶴静岡市中原5—6—3  
 〇542〇83〇8111

中京テレビ放送 CTV

千鶴名古屋市中区高峯町1—5—4  
 〇52〇832〇3311

東海テレビ放送 THK

千鶴名古屋市中区東桜1—14—27  
 〇52〇951〇2511

静岡放送 SBS

千鶴静岡市登呂3—1—1  
 〇542〇82〇1111

静岡県民放送 SKT

千鶴静岡市七間町13  
 〇542〇51〇3300

日本放送協会名古屋放送局 NHK

千鶴名古屋市中区東桜1—11—1  
 〇52〇951〇3551

中部日本放送 CBC

千鶴名古屋市中区新栄1—2—8  
 〇52〇241〇8111

東海ラジオ放送

千鶴名古屋市中区東桜1—14—27  
 〇52〇951〇2525

エフエム愛知

千40名古屋市中区千代田2-15-18  
名古屋通信内  
電052-263-5141

岐阜放送 GBS

千50岐阜市今小町8  
電0582-64-1181

名古屋放送 NBN

千40名古屋市中区橋2-9-18  
電052-331-8111

近畿

三重テレビ放送 MTTV

千54津市淡見町小谷693-1  
電0592-26-1133

読売テレビ放送 YTV

千50大阪市北区東満1-8-11  
電06-356-3500

関西テレビ放送 KTV

千50大阪市北区西天満6-5-17  
電06-315-2121

サンテレビジョン SUN

千40神戸市中央区港島中町  
電078-302-3333

日本放送協会大阪放送局 NHK

千50大阪市東区馬場町3-43  
電06-941-0431

近畿放送 KBS京都

千40京都市上京区烏丸通一条下ル  
電075-431-1111

朝日放送 ABC

千50大阪市大淀区大淀南  
電06-458-5321

びわ湖放送 BBC

千50大津市鶴の里16-1  
電0775-24-0151

毎日放送 MBS

千50大阪市北区堂島1-6-16  
電06-345-8231

大阪放送 OBC

千50大阪市北区梅田2-4-9  
電06-343-1271

エフエム大阪

千50大阪市北区中之島3-2-4  
電06-201-0851

ラジオ関西

千40神戸市須磨区行幸町  
電078-731-4321

和歌山放送 WBS

千40和歌山市湊本町3-15  
電0734-28-1431

奈良テレビ放送 UNTN

千40奈良市法蓮町1699-1  
電0742-23-4601

テレビ和歌山 WTV

千40和歌山市築谷15-1  
電0734-55-5711

中国

広島テレビ放送 HTV

千40広島市中区中町6-6  
電082-249-1212

テレビ新広島 TSS

千40広島市南区出汐2-3-19  
電082-255-1111

広島ホームテレビ UHT

千40広島市中区白島北町19-2  
電082-221-7111

日本海テレビジョン放送 NKT

千40鳥取市本町3-10-2  
電0857-24-7111

山陰中央テレビジョン放送 TSK

千40松江府西川津町72-1  
電0852-23-3434

テレビ山口 TYS

千40山口市大内御堀1277  
電0839-25-6111

山陽放送 RSK

千40岡山市丸の内2-1-3  
電0862-25-5531

岡山放送 OHK

千40岡山市宇南町3-2-11  
電0862-52-3211

中国放送 RCC

千40広島市中区基町21-3  
電082-223-1111

山陰放送 BSS

千40米子市西福原423  
電0859-33-2111

山口放送 KRY

千40徳山市公園区  
電0834-32-1111

日本放送協会広島放送局 NHK

千40広島市中区大手町2-11-10  
電082-247-6161

四国

テレビ高知 KUTV

千40高知市北本町3-4-27  
電0888-83-3311

四国放送

千40徳島市幸町1-6  
電0886-23-2121

西日本放送 RNC

千40高松市丸の内8-15  
電0878-51-5555

瀬戸内海放送 KSB

千40高松市西宝町1-5-20  
電0878-62-1111

日本放送協会松山放送局 NHK

千40松山市堀之内5  
電0899-41-4121

# 南海放送 RNB

〒790松山市道後樋又町6―24  
電0899〓23〓1111

# 愛媛放送 EBC

〒790松山市真砂町119  
電0899〓43〓1111

# 高知放送 RKC

〒780高知市本町3―2―15  
電0888〓22〓2111

## 九州

# テレビ西日本 TNC

〒810福岡市南区高宮4―20―23  
電092〓523〓1122

# サガテレビ STS

〒840佐賀市城内1―6―10  
電0952〓23〓9111

# テレビ長崎 KTN

〒850長崎市金屋町1―7  
電0958〓27〓2111

# テレビ熊本 TKU

〒960熊本県杵託郡北部町  
大字徳王440  
電0963〓54〓3411

# テレビ大分 TOS

〒870大分市東春日町6―22  
電0975〓32〓9111

# テレビ宮崎 UMK

〒880宮崎市祇園2―78  
電0985〓24〓1003

# 鹿児島テレビ放送 KTS

〒890鹿児島市紫原6―15―8  
電0992〓58〓1111

# RKB毎日放送 RKB

〒810福岡市中央区渡辺通  
4―1―10  
電092〓731〓2121

# 福岡放送 FBS

〒810福岡市中央区渡辺通  
1―1―1  
電092〓713〓5321

# 九州朝日放送 KBC

〒810福岡市中央区長浜1―1―34  
電092〓721〓1234

# エフエム福岡

〒810福岡市中央区渡辺通2―1―82  
電092〓781〓6181

# 長崎放送 NBC

〒850長崎市上町1―35  
電0958〓24〓3111

# 日本放送協会熊本放送局 NHK

〒960熊本市千葉城町2―7  
電0963〓53〓2151

# 熊本放送 RKK

〒960熊本市山崎町30  
電0963〓53〓5151

# 大分放送 OBS

〒870大分市今津留3―1―1  
電0975〓58〓1111

# 宮崎放送 MRT

〒880宮崎市下北方町858  
電0985〓25〓3111

# 南日本放送 MBC

〒880鹿児島市高麗町5―25  
電0992〓54〓7111

## 沖縄

# 琉球放送 RBC

〒900那覇市久茂地2―3―1  
電0988〓67〓2151

# ラジオ沖縄 ROK

〒900那覇市泉崎2―22―1  
電0988〓32〓3176

# 沖縄テレビ放送 OTV

〒900那覇市久米2―32―1  
電0988〓68〓3166

# 極東放送 KHR

〒901浦添市字小湾40  
電0988〓77〓2361

## アツと思つたら、すぐハガキを

- 電話よりもハガキが有効です。電話は握りつぶされることも……。たった一枚でも、心うつことばを。
- 明日、でなく、今すぐ。間髪を入れぬ反応が大切。ハンドバッグに、いつもハガキを。
- 苦言だけでなく、ほめ言葉も。良心的な番組をつくることは困難な状況。視聴者の支持が何よりの支えです。
- 非難にとどまらず、建設的なプランも。「……のように変えてほしい」と提案すれば実行に移しやすい。
- さちんとした意見や企画は、部会の討論資料にもなります。

## 女も戦争を担った

川名紀美著  
冬樹社

普通的女でさえ、戦争にまぎこまれた時はもはや、まぎこまれたといえいいいのではない、いやおうなく参加させられていく。その怖さが、ひしひしと感じられる本だ。

筆者は、さまざまな場所にさまざまな人をつなげた。あの非常時に徴兵忌避という大罪を犯した息子を憲兵に売った母、雑誌に載った零戦パイロットに憧れ、やがて戦死し残された母親を慰問し、ついに彼の遺族となる軍国乙女、教育現場で豆兵士をつくるために子どもを追いたてた女教師。軍国美談として伝えられている軍国の母の意外な真実——解散時には日本女性の二人に一人が会員だったという「大日本国防婦人会」。

最大の被害地、沖縄にも加害者として自分を問いつける人々がいる。内地にもまして徹

底した皇民教育が要求され、それに疑問もなく従った教師、そして軍国少女として軍で働くことを志願し、軍隊の実態を知り、朝鮮ビー（慰安婦）の存在を知った人。

ある者は戦争荷担を涙し、過去を問い続け、二度と戦争をおこすまいと行動し、ある者は今なお、その中に自分の燃焼をなつかしみ「自衛隊おばさん」と一筋に生きている。その一人ひとりの語り口が、戦争というものを鋭く浮かびあがらせている。

そして、戦争は過去のもではなく、彼女たちの今日の中にもその影を色濃くみつけることができるように思えた。

力んだ調子はないが、重い余韻の残る本だった。（向）

（B6判 二四〇ページ 一三〇〇円）

## 風が吹くとき

レイモンド・ブリッグズ著  
小林忠夫訳  
篠崎書林

原爆投下の危機が目前に迫っていても、庶民はこのようにたわいのない会話の中で「平穩に」過ごしているのだろうか。

「政治家の決めたツケが最後にはおれたちのところにもわたってくるんだから」

と夫はボヤクが、政府を疑ったりはしていない。妻の無知、無関心もこの老夫婦の生活をやりきれなくするほどのことではない。

戦争が始まる——というラジオニュースが入るや、州会が発行したパンフレットに従って室内避難所を二人で作る。食糧や雑貨を取りそろえる。そして次のニュース。

「三分以内に核攻撃がある」

目がくらむような白いページは原爆がさく裂した画面である。あとは惨状が描かれる。じわじわと不気味さが増す。直撃は免れたものの、放射能による吐き気、頭痛、歯茎からの出血、手足の斑点、脱け毛。それでも二人は緊急部隊が来ることを信じ、後遺症を治す薬を買うことを予定したまま死んでゆく。

放射能は「見えも感じもしないんだもの、

害なんかあるはずないでしょ」と死の直前にも樂觀しているこの老夫婦を、無知とだけ決めつけてしまうことはできない。同じ時代を生きている人間の、絶望へ向けての行進を止めるなんの手だてにもならないのだから。

訳者のあとがきによるとこの書名は、英米で最もよく知られている子守歌、

「坊や、ねんねよ、樹のこずえ、

風が吹いたら、揺りかごがゆれる。

枝が折れたら、揺りかごが落ちる、

坊やも、揺りかごも、みな落ちる。」

からきているという。風は原爆、揺りかごはわたしたちの住む地球というわけである。

子どもの本の専門店ですめられた一冊。

すでにサッチャー首相、イギリスの上下両院の議員はこの本を読んでいるはず。

未来を次の世代に引き渡す責任のある大人がまず読むべき本だと思う。

(照)  
(A4変型 四〇ページ 一四〇〇円)

## 女にとつての戦争①②

ひととき欄の三〇年から

影山三郎、中村智子、草の実会編

田畑書店

朝日新聞「ひととき」欄は、女の投書を計

した戦後初の試みであつたという。その中から「戦争」に関するものをぬきだした、この上下二冊は、そのまま「戦争がどのようにつくられるか」を示す貴重な資料でもある。

高給を払う自衛隊に貧しい人びとが殺到する姿を悲しんだ投書に、「昔は自衛隊はなかったのか」と驚く人もいるだろう。朝鮮戦争、ベトナム戦争、それらの結果として高度成長した「豊かな日本」は何を生み出したか、投書の中に自ずと語られる現代史に、しみじみと考えさせられる。

ロジックのまさる「声」と比べて、女の生活感からにじみ出たことばの、つよい輝やき。折につけ、思いにつけ、ことばを吐き続けた女の声は、どこに消えてしまったのだろう。最近の「ひととき」のつまらなさと、戦争への道はかわわっているのか……。(あ)

(四六判 各二六六ページ 各一五〇〇円)

## 戦争と女たち

青木やよひ編  
オリジン出版センター

反戦を唱える人たちも、戦争がどういうものかほんとうの意味で理解しているのだろうか

か。この本は多数の人の語りを通じて、どうしたら一見平和で豊かな日常の中で危険を見きわめ、自分たちの明日と人類の未来をつなげてゆけるのかを、女の手で探し出そうとしている。

まず第一章は座談会を通じて、問題意識をあらたに喚起するために、さまざまな世代とさまざまな場で活躍している人に現状の見方、反戦へのとり組み方を語らせている。例えば、

土井たか子「本当に国民が知らなくてはならないことを知らされないことが一番怖い。政府は軍事に関する資料を出そうとしない。独立国で軍備を持たない国はあるか」という政府の言い方は、かつて最強の軍備で国が守れなかった過去を忘れている。

鶴見和子「ものを見る目が観念のレベルを出ていない」とソ連の脅威だとかアメリカの傘の下なら安心」という幻想に陥る。これも「無知の責任」に入る。

第二章は加納美紀代氏が、かつて女はどのようにして戦争に組み込まれたかを、平穏な日常からじわじわと戦争体制にとりこまれていく過程を戦前に逆のぼつて跡づける。その中で六八歳のIさんが出征の朝感じたことは

「ひどいなあ女は。あんなやさしげな美しい顔をして男を死地に追いたてるのだから」。

▲銃後の女々の送り出した男たちにより、中国の女たちは強姦、輪姦され、乳房を切りとられ、血の海をのたうっていた。その同性の苦悶を少しでも感じとることができれば、あれほど熱心に励みはしなかつたろう。また戦争にみる女の被害性と加害性につき、林郁がその八割が朝鮮人女性だった従軍慰安婦（十数万人）が一日十二時間もの間に二十九人をノルマとして、多い時は三百人を相手にさせられ、不治の病になると放置された実態を報告している。（石）

（B 6判 三四七ページ 一五〇〇円）

## 沖繩・その自然

石島芳部著  
BOC出版部

沖繩についての無知は、歴史・社会・民俗にとどまらない。観光客はアダンをパイナップルと勘ちがいし、キノボリトカゲが目の前でからだを緑の保護色に染め変えても、目もくれない。写真や図版を多用しながら、自然の宝庫、沖繩を語り、その島が基地として荒

れようとするのを告発した書でもある。（M）  
（B 5一〇四ページ 図版九五点 二二〇〇円）

## 思想の科学

No. 27・1982

日本の軍隊

思想の科学社

まず、のつげに『戦争は起こらないと信じています。いま『軍人』の母は——熊本県の場合』というルボが眼を射た。

母親たちは今、どんな思いで我が子を日本の軍隊である自衛隊にやっているのだろうか、という疑問を、じかに母親たちに確かめたくてと、この女性のルボライターは語り始める。

職場のない過疎地、自衛隊を受けいれている（いれざるを得ない）土地柄、人間修養のつもり、『普工商農』という高校序列の中の進路としての自衛隊、いろんな過程の中で、親子で葛藤しながらも選びとっていった自衛官、防衛大への道。真面目な子も、つっぱりで反抗的だった子も、今は礼儀正しく、人間ができてきたと一様にいう。そして、どの親も「戦争は起こらんと思っています」と言い、「原子爆弾があるけん、戦争がある時はみんな一緒だいたい。死ぬ時は一緒だからよかたい」と言う。受験体制の中の心定まらぬ青年の落ちつくところとして、あるいは安定した就職先として、また、わが子の能力を活かす場として、自衛隊は生活の中に組みこまれ、機能している。母親の『本人まかせ』という言葉。その思いはさまざまありながら、よかれと思い、本人の意志を尊重する。そして、やがては息子の信じることを信じていくのだろうか。考えこまされてしまふルボだった。

このほか、自衛隊を正面からとらえた文章を読むと、いま知らなくてはならない問題が、いかに多いかと思う。この中でも、反自衛隊運動を十何年もしてきた元自衛官が、一九八二年、日本で盛り上がりつつあるようにみえる反核の動きは、歓迎すべきものであるろうし、必要なこととしながらも、その一連の反核運動で、反戦の闘いと結びついたものや、自衛隊問題を正面にすえた闘いも、また、核兵器の実態を学習したということも、あまり聞かれなかったと嘆いている。

ムードだけにあきたらぬ、反戦、反軍の思いをいだく人々のかっこうな入門書となるのではないだろうか。（向）

（A 5判 一六〇ページ 六二〇〇円）



## 女性のための法律教室

——いざという時、  
誰があなたを助けるか

金住典子著  
PHP出版

いざという時、誰があなたを助けるか——。

この副題が問いかけるように女性が「いざという時、何を武器にどう闘えば自分の権利を守り確立することができるか、いざとなつてから考えたのでは手遅れである。この本は、いざという時に役立つ日常の中の法律を、あくまで女性の視点からわかりやすく解説している。しかも女性が生きていくときに切り捨てることのできない結婚、離婚、あるいは子どもの権利、働く女性の権利の問題を各章ごとに女性の総合的な人権としてとらえたところに大きな特色がある。その副題がまた実にいい。たとえば第二章結婚と法律には「妻の座」はどこまで守られているか、第三章離婚と法律には「いかに別れ、いかに生きるか」、第五章働く女性の権利には「男社会を乗り切る知恵」——どれも、しなやかな強さとしての法律を感じさせる。

著者は弁護士として多くの女性の悩みに関わる中で、「女性性は社会的、経済的、文化的

な不平等を押しつけられ、しかもその不平等と闘う「力」さえも萎えさせられてきている。

けれども、それもまたまぎれもない現実の壁ならば、私たちは、そこを自らの意欲と力で突き抜けなければならない」「自らの人権をほんとうに大切にし、闘い、確立しようとし  
ない人間には「愛」の生命力も、人間の生命力も実感することができない」（まえがきより）という。自らの人権のために、だめと最初からあきらめて自ら生きることを放棄してしまわないために、法律のじょうずな使い方を学ぶには最適の書である。巻末に「すぐに役立つ実用知識」として家庭裁判所の上手な利用法などの資料を載せ、実際に困っている人には、適切な所にじょうずにかけこめるよう工夫されている。項目別に独立しているのどこからでも読め、しかも新書版サイズで安価。女性にとっては心強い味方である。（S）

（新書判 二四九ページ 六八〇円）

## シンデレラ・コンプレックス

コレット・ダウリング著  
木村治美訳  
三笠書房

一九六〇年代、アメリカは開発途上国の何

十倍、何百倍というエネルギーを消費し、世界一の生活水準を誇って繁栄していた。その繁栄を享受し、多くの電化製品に囲まれて、一見幸せそうに見えたアメリカの中流階級の女性たちは、名のない病に犯されていた。妻として、母としてのみ生きるのでは満たされない、胸の底にたぎるマグマを取り除くべく、次第に彼女たちは、さまざまな方向へ行動を起こした。

アメリカの女性解放運動は、燎原の火のように全国に広がり、性別役割分業、職業上の不平等を問い直し、機会均等を求めて激しい運動を繰り広げた。実際に戦い、努力してアメリカの女性たちは、これまで男の分野だとされていた領域で着実に実績を積み上げ、今や男性の対等な競争相手と目されるに至ったと伝え聞いていた矢先に、この、ショッキングな本がアメリカの女の手によって書かれたのである。一時期、本屋でうす高く積まれていた本を見るとこの本だったというほど、多く読まれたという。アメリカの女たちは、どんな思いでこの本を読んだのであろう。遅まきながら、微力ながらアメリカの女性運動に学び、実行しなければという方向をとっていた私たち日本の女にとっては、正に青天の霹靂。

ひたすら権利拡大を計ってたくましく戦っているとはばかり思っていたアメリカの女たちが、大きな成功を前に躊躇し、飛ぶのを怖がったり(エリカ・ジョング著『飛ぶのが怖い』)、今にやさしい王子様が現われて、自分を守ってくれないかしらと、シンデレラ願望(シンデレラ・コンプレックス)を持っていたとは。著名な女性弁護士が、作家が、会社の重役が、現在の地位を築き上げた後、なおも誰かに守られたい、誰かもたれかかれる人が欲しい、しかし、自分はそんな弱い女ではないはずだ、ずっと強い女としてやってきたのだという、二つの相反する感情に悩み、カウンセラーのドアをたたくという。六〇年代のとはまったく性格を異にする名のない病に、再びアメリカの女性たちは侵され始めているのだろうか。この本を読んで、実行に移すときには徹底的に実行し、今新たに自分の心の中に起きた感情には徹底的に目を向け、シンデレラ・コンプレックスのもたらす功罪を冷静に分析しようとする、アメリカの女性の自己を深く見つめるその姿勢に感動すると同時に、どんな女の中にも存在するシンデレラ・コンプレックスとは、女の本性なのか、それともやはり長い歴史の中で作られた「第二の性」なのか

と膝を抱えた。それでも、そうした性を抱え込みつつ、飛ぶのが怖くても、やはり前進せよとこの本は言っているように思う。

現在、職場で、あるいは夫と、あるいは彼と、火花を散らしている日本の女がいるとしたら、あるいは被害者意識に苛まれて、ほかに解決の糸口を求めようとしている人がいるとしたら、いよいよの正念場で、自分の中にある二つの相反する感情にどう対処したらいいのか、この本を自己分析の契機とするのもよいと思う。

(B6判 二五〇ページ 八八〇円)

(M・K)

### 女性・その性の神話

青木やよひ著  
オリジン出版センター

人間の心の在り方が、反・自然の方向に向かっていている現代、その根源的な原因は、産業社会が、「男で、健康的で、標準的な知能と体力をもった」人間に高い価値をおき、女性が、障害者が、老人が、そしてその価値ではかられることを拒む、あるいはこの基準でははまらない男性を疎外するところにある。こうした現代へのアンチ・テーゼとして、産

む性として自然を身体に内包している女性の感覚を大事にし、思いやり、やさしさといった女性の長所を男性と共有してゆくことで、日常のレベルから社会に認められる価値とすることをめざす。これが著者の根本思想である。

この本は、この十年間、雑誌、新聞に掲載された著者の文章を集大成したもので、主題は、世界の女性運動の移りかわり、生活に密着したできごとのコメントから、著者の専門である「女性の側からみた人口論」、「性と文明」に至るまで多岐にわたる。そのため、全体の構成に難があるが、ひとつひとつの文章に、女性問題を文明的に位置づける著者の思想が一貫して流れており、私たちの日常を考える上でさまざまな示唆を与えてくれる。読みごたえのある一冊である。

「差別なき社会へ向けて」と題された終章は、NHK総合放送文化研究所主任研究員である藤竹曉氏との対談である。全体に、価値観の異なるひとりの男性研究者と著者とがそれぞれで発言するため、議論がなかなかみ合わない。ところが、女性は核家族化した孤独な状況の中で、精神的不安をかえにたまに、未来を背負う子どもたちをほとんど

独力で育てている、という著者の発言で、ようやく男性も地域社会に根をおろし、子どもの養育にもっと関心をもつべきである、との一致点をみることになる。この経過はきわめて興味深い。女性はもちろんのこと、男性にも、多くの読者を期待したい。(淳)

(B 6判 二八四ページ 一六〇〇円)

## 女が仕事に生きるとき

高橋瑞恵著  
同友館

今年も、女性の就職難が報道されている。男子学生の大半が内定を得た十一月に至っても女子学生の約一割が職を得たにすぎない。いまや仕事をライフワークとして、人間として生きる上に不可欠なものとして、正面から対峙する必要に多くの女たちが直面している。

著者は、まえがきで、「自らを女という枠の中に閉じこめると、長い人生です、いつかはそれに耐えられなくなる時がくるのではないか」と仕事を続けることを勧める。著者は長年販売指導者として社員教育に当たってきた経験を生かし、そこで出会った女性たちの話を集めている。事例としてあげられている

のは、著者が書いてるように、ごく普通の、ただ仕事を続けようとする人たちである。男性にとって何らかの仕事を続けることは当然のことだが、そのことすら女性にとっては非常に大変なことであると改めて思い直す。

しかし本の題名から予想するような仕事からむ深い悩みを掘り下げているとは言えない。それは、著者が「あとがき」で述べているように、この本を管理者である男性に読んで欲しいと考えていることにある。すなわち著者の頭の中に管理者≪男性≫、管理される者≪女性の社会像が固定してしまっているの、著者がせめて従来の女性に対する意識改革をして欲しいと願った目的すら達することができずに終わっている。そして事例にあげられた女たちの苦しみも通り一遍のものになつてしまっている。

(B 6判 二五四ページ 一二〇〇円)

## 子どもが書いた離婚の本

エリック・ローフス編  
円より子訳  
コンパニオン出版

アメリカのユニット・クラスの十一歳から十四歳までの二十人の子どもたちがつくった

本。うち、十四人は現実に親の離婚を経験し、残りの六人はまだ両親と暮らしてはいるが、いずれ離婚がおこりそうな恐れを抱いているか、親の離婚に出あった友人が身近にいる、という。

親の離婚を経験したことによって、さまざまな家族形態で暮らす生徒たち。気持ちの整理ができずにいる彼らは、そうした深刻な思いを吐きだすことが必要と感じた先生によって、定期的に話し合う場を得、話し合いを重ね、離婚について書かれた本を読み、批評しあったりした。そして、大人の偏見に満ちている本の多いことに驚き、自分たちで子どものための離婚の本をつくることになる。

子どもたちは本をつくるにあたって、討論のほかに、他の子どもたちはもちろん、専門家を含むさまざまな大勢の大人たちからも意見を聞いている。が、何から何まで自分たちでやり、本を出してくれる出版社をみつけないでからも、共同作業を行なったという。二年の歳月をかけて作ったのが、この本である。子どもをどうするかが、離婚の時に大きな問題となることは確かなことだと思う。だが、子ども自身が、これほどまでに物事を深く考え、それに対処しようと努めているとは私に

は考えられなかった。庇護すべきものという子ども像が、やはり心の奥深く、刻みこまれているからだろう。

「子どものために……」という言葉が、結局は自分のあいまいさのかくれみのなっていることも、当の子どもたちはちゃんと見抜いている。また典型的な家族とは核家族のことであり、それを逸脱した家族はどこかおかしいと思ったり、思われたりするの、テレビ、コマーシャル（マスコミ）やまわりの人々の影響である、はつきり指摘している。理想的な家族というものの、離別した家族はもとより、働きに行く母親も、仕事が忙しくて子どもの相手をしてやれない父親も出てこないということも……。

本書では、家庭内のあらそい、両親のけんか、別居、法律上の問題、離婚後の両親へのかわり、義理の父や母、兄弟について、そして本当に両親のそろった子とは違うのだから、などについて当事者としての彼らの言葉が続く。

同じような境遇にいる子どもたちに語りかける形で書かれてはいるが、これは、子どもを持つ（いや持たなくても）大人が読んで欲しいと切実に思う。そして、ふと、アメリカ

と日本の教育の質の違いについても考え込まれてしまった。（向）

（B 6 判 二八三ページ 一三〇〇円）

### 女には産めない時もある

——優生保護法改正せつたい反対！——

戦争への道を許さない女たちの  
埼玉集会編 五月社

「経済的理由による中絶は認めない」とする優生保護法「改正」案が三たび論議されるにあたり、各地で女たちによる反対運動が起きている。中絶＝殺人＝罪悪という改正派の主張に対し、中絶は女性のギリギリの選択＝産む産まないの決定権は女に＝と言いきるこの小冊子には、女たちがなぜ今「改正」に反対するのか、わかりやすく述べられている。優生保護法ができた歴史的経緯、墮胎罪についての小文のほかに、改正推進派との紙上論争、二十代の女たちによる座談会などが、実際に反対運動を進めている人々によって語られているのも大変おもしろい。

「改正」ぜつたい反対！の声をより大きくするために、多くの人がとにぜひ読んで欲しいと思う。（沢）

（A 5 判 五六ページ 四〇〇円）

### 家事・育児を分担する男たち

福岡・女性と職業研究会編  
現代書館

一九七三年以来、女性の解放と職業に関する研究が続けてきた福岡・女性と職業研究会が、家事・育児を日常的にかなり分担している夫たち三十三名に面接した結果をまとめたものである。

被調査者は会員の周辺に限られたため、会社員二人農業一人を除く全員が教員、うち一人が大学教員、妻も同様専門職が多く、半数が夫と同年または年長というやや特殊なサンプルだし、分担の内容は子どもの世話が主で、他は、風呂や部屋の掃除、ごみ処理、ふとんの出し入れ、食事の片づけ程度だが、夫がかかわってこそ、暮らしと仕事を両立できる女の状況が浮かび上がる。

興味深いのは、夫の半数が幼時から家事手伝いをする環境で育っていること。「家事、育児を分担する男たち」の育成は家庭教育にかかっていることを改めて考えさせられる。これからの研究の緒となる労作。（一）

（四六判 二二二ページ 一四〇〇円）

## 私たちは、墮胎罪(一部)と優生保護法の廃止を要求します あごら編集部

戦争の影響いまま、優生保護法改「正」の動きがあることに、深い危機感を抱き、次のように反対の意志を表明します。

胎児の中絶は、父母にとっても、また生を受けた胎児にとっても、望ましいことではありませんが、子の数や出産間隔は夫婦の基本的人権に属し、国家は決して介入してはならないことは、人権宣言にも世界婦人行動計画にも明らかです。

私たちは、まず、現行刑法墮胎罪二一二条、二二三条、二一四条の廃止を要求します。墮胎罪は、明治政府の家制度を基本とする富国強兵策との深いかわりの中で推進されました。また、仮に墮胎を罪としても、妊娠は女性のみでは不可能なものもかわらず、その結果を女性のみが負うことは、憲法の男女平等の理念と全く相反するものと考えます。

次に、優生保護法の廃止を要求します。優生保護法は一九四一年(昭和十六年)、ナチスドイツの断種法をまねてつくられた「国民優生法」を母体とするものであり、その基本は第一条に示されるとおり、「優生上の見地から不良な子孫の出生を防止する」ことにあります。子孫の「良・不良」を選別する優生思想は、まさに人間を選別・差別するものであり、これまた、憲法の理念と相反するものであることは明白です。このような法律の存在によって、日本国民は、誰しも、いつ何時でも、「不良なる子孫の出生」が予測されるとして、優

生手術(生殖腺の除去)を強制される危険の種を有することを、深く憂います。優生保護法第十四条四から「経済的理由」をあえて削除しようとする今回の動きは、「胎児はすでに人間であり、それを抹殺することは許されない」ことを理由に掲げていますが、だとすれば、胎児の抹殺を認めている優生保護法そのものの廃止こそ、妥当ではないでしょうか。

人間の生命の誕生をどの時点から認め、またどの時点で生命の終わりと判断するか、科学の急速な発達とは、「人間とは何か」を改めてきびしく問いかけています。それを問うことなくして「生命の尊重」は考えられません。この最も基本的な問題について十分な国民的討論も重ねることなく「経済的理由」のみを削除しようとする動き、とくに地方議会においてあわただしく決議を求めている一連の動きには、「生命の尊重」に名を借りた他の意図、すなわち「兵器としての人間」、そして「高齢化社会を支える生産用具としての人間」の「増産」の必要性を感じずにはいられません。

いのちを守るどころか、私たちの生存の根底をおびやかし、人間にとって最も私的な部分である性までも管理しようとする動きに強く反対を表明し、墮胎罪(他者に対する強制を除く)と、優生保護法の廃止を要望します。(82・11・25)

## あごらのあごら

あごらのあごら

言いたいことは何でも言おう。  
感想、反論、情報、思ったこと  
を率直に話し合う読者のひろば

## 26号

伊藤雅子さんの「ことばの道」は、本当に思いあたるが多かった。まさに、私や私のまわりの私たちそのものです。伊藤さんの本は、五年前に『主婦とおんな』を読んで以来数冊目ですが、いつもの確かな指摘と、その言い方のおだやかさに感心します。彼女のような人が各地の公民館において活動してくれたい

らと何度思ったことでしょう。でも最近になり、彼女のような人の出現や、出会いを待つのではなく、私やあなたが作る小さな集団の中で、みんなが支えあって彼女のようにならう。彼女のもつ言葉の適確さを目ざそう、とすることから始まるのではないか、と思いはじめました。

(市川市 狩野陽子)

\*

しまようこさんの「自立の心理学」、本当に一本のワラにも

すがりたい気持ちで一息に読ませていただきました。

なぜこうなのかわからなかった自分の劣等の心理が少し透けて見えてきました。もう少し深められたら、はつきり一つ一つを洗ってみるができるのではないかと思っています。九月からの『フェミニストのための心理学講座』に申し込みたいところですが、遠隔地ですので、講座の内容を単行本にしてください。(京都市 作原千恵)

\*

「自立の心理学」のテーマにひかれた。内容は具体性に欠けるのでとつきにくい。心理学において、生きる上での大切なことを、もう少しかみくだいて、要点をまとめてはしかった。成人から幼児に遡及する形で編集しなおしたほうが、身近な自分である大人を深く内容的にとらえられるのではないか。

「子育て」、「夫やその他家族関

係のあり方」「社会と個人の関係」について、どう考え、自分なりの成長がとげられるのか、その点が十分述べられていない。『あごら』に望むことは、強く生活するためのケースを掲げて、個々に苦しむ女たちの指針をきめこまかく探ってほしい。特にことばはやさしく、見出しに工夫を。読ませる見出し、レイアウトを心がけて下さい。字が多すぎて、老人から敬遠されている。(大阪市 土屋隆司)

\*

伊藤雅子氏のエッセーはいいです。やさしい言葉で内容のあることをいっており、逆の論が多い中でひかっています。

しまようこ氏の「自立の心理学」に興味がおおいにあります。アメリカでは具体的に「さわやかに自己主張するには」というトレーニングがあるそうですが心理的に自立できない人のためのトレーニングを実施してもら

えませんか。

(東京都 志野はつえ)

(編集部より 時々実施しています。ハガキでお申し込みを)

## あごろ

一年ほど前から、わずかですが収入を得るようになり、初めて自分で稼いだ金で会費を納めることができました。そのお金を得るために、毎日が戦争のような状態です。家事育児からいかに手を抜くか、夫に渡すか、子どもをまき込むか、その闘いの連続で、稼ぐより大変です。

でも私が今できることは、そのあたりではないか、性別役割を越えようと思ったら、自分の家族から始めなければと思っています。小学校の娘が外から吸収してくるのは、全く絶望的になるほど、いい奥さんになることとか、家事は母親の仕事だとかということなので、この先

もずっと闘いは続くでしょう。

私はいま、立川市の公民館で五十五年度の婦人教室受講生たちでつくったサークルへ女たちのひろばVの会員です。映画や講座開講や野菜の共同購入などを独自に行ない、自分たちの生活を問い直すことを地道に続けています。へあごろVの拠点をつくるより、独自の活動をしていくほうが、このサークルにはよいようです。へあごろVの会員数八百人は少ない。それだけ状況が厳しいということなのかと、あらためて思いました。

(立川市 上野いく子)

\*

夏休みが終わって香港に戻る、やはり教科書問題で日本人は「イイカモリ」になっていました。この問題をきっかけに学生が一番活発に、日本人にイヤガラセをしているとは思えないようなことが多々あり、大変くやしい思いをいたしました。特に

タクシーなどは本当に腹が立ちます。もう新聞等でご存じでしょうが、九月十八日は大がかりなデモで、日本の松坂屋デパートでは爆弾さわぎがありました。あまりに日本の政府は恥がなさすぎるように思います。以前から教科書はかなり危険な方向へ向かっていると聞きます。本当のところを知りたいのです。『あごろ』に期待しています。

(香港 山口明子)

\*

紙面いっぱい活字、このビッシリが読むことへの敬遠材料になっているようです。友人もその点を強調するが、読み慣れた人は、少しためらいつつ自然に内容に入っていくようです。

固いイメージが強い。イラスト、余談のスペースがとれないものか。私自身はスムーズに『あごろ』の中に自分の存在理由を見いだしている。とにかく『あごろ』の存在を広く多くの女た

ちに知らせるべきです。

(高知県 川口美砂)

\*

不平不満も言わずに、つくられた常識の中で、社会からはみでることなく生きていくのは、たやすい。ほんの身近なこと、例えば、お茶くみなどに疑問を感じてしまふ私は、すでにまわりでは奇異な存在であるらしい。

何も考えずに男に奉仕することとは簡単だ。嫌われるのを覚悟で拒否する勇気を。

へあごろVは初めて知りました。本だけなら、そんなに期待はもたなかっただろうが、みんなが集まって何かをやるというところに魅力を感じました。自信はないけど一緒にやっていきたい。

(豊橋市 正木智子)

\*

浜松市のベッドタウンとして人口急増の農村に住む、農家の嫁プラス役場の事務職員が現在の私です。学生時代少々学生運

動を経験し、引き続き職場でも  
と思ひ仕事についたのですが、  
封建的な職場と家庭とで全く手  
がついていない状況です。まわ  
りの人とは女性観がまるっきり  
違います。自分もずいぶん孤立  
したと感じていた昨今でしたが  
『あごろ』を読んで、本当に安  
心しました。日頃のストレスが  
一気に吹き飛んだ感じがです。職  
場の独身女性の二、三人に紹介  
しましたら、既婚者よりも進歩  
的な彼女たちにも好評のよう  
で嬉しく思っています。

(静岡県 鈴木昌子)

\*

ただいま、四十歳中年のまっ  
さかり。しかし、過去をふりか  
えて自分がいったい何をして  
きたのかを考えると、独身であ  
るゆえに、国の人口政策に奉仕  
してきただけなのかなと虚しく  
なる。いま、ある資格をとるた  
めに挑戦中。時間はないが、多  
様性のある女の生き方、人間の

生き方についても一度熟考し  
たく(あごろ)へ入会しました。  
毎日を精いっぱい充実して自分  
の人生は有意義であったな、と  
死ぬ時に思えるものにするため  
に努力したいと考えます。

(船橋市 鈴木詠子)

\*

女が日常性の中で、戦争への  
道を歩みはじめている恐ろしさ  
を感じます。自分の足元をみつ  
めないと、女は常に間接的に戦  
争に加担することになってしま  
う。「銃後の守り」に代弁される  
女の加害性、日本人の加害性が  
問われているのだと思います。

(稲城市 藤武礼子)

\*

読みごたえあり、何かしなく  
てはと思つていた私、自己を解  
放したいと前々から思つていた  
私、何か心の目がひとつ開かれ  
た感じがです。現在妊娠九か月。  
子どもが生まれても前向きに生  
きられるよう、自分に言い聞か

せていくつもりです。

(京都市 斉藤清子)

\*

自分自身、今まで、いやなこ  
とでもはつきり断わることもで  
きないほど、優柔不断な性格で  
した。一般に、女性が何かを主  
張しようとする、理屈っぽい  
性格に見られ、やはり、いい子  
でいようという意識が先にたっ  
てしまします。『あごろ』を読  
んで、もっと積極的にしろうと  
いう勇気がわいてきました。

(兵庫県 林 富美子)

\*

ガンバッテいい本を作られた  
ナアと感激しました。  
大阪のハ戦争をなくす女たち  
の会Vのメンバーで、公開講座  
の折に無断で中身を借用させて  
いただいたりしました(こうい  
う使い方なら寛大に受け入れら  
れるだろうという思い込みで)。  
雪ダルマ式に負けつつある状  
況の中で「あたしはイヤヤ」と

叫ぶことの大切さと思い、でき  
うる限りチエをしぼっていかね  
ばと考えています。因われの女  
たちも引き入れるパワーを!

TVニュースの解説で「時局」  
という言葉をきいた時、これは  
アカンと思いました。すべてに  
個人の生はまざるのだというこ  
と、あるいは女たちの生は今  
じまったばかりと思うのです。  
『女・エロス』の魔刊を伝えき  
くこの頃、活字メディアの女の  
良心の砦として、ガンバッテ  
いただきたい。

(大阪市 中村ひろ)

(編集部より 『あごろ』のご  
活用は大歓迎ですが、必ずご一  
報下さい。無断引用は著作権法  
違反となります。また、どこか  
らも資金援助を受けず手づくり  
で作り続けている『あごろ』は  
苦しい財政です。ご利用の際、  
千円でも二千円でもカンパをい  
ただけますと、たいへん助かり  
ます。どうぞよろしく)



\*

教科書問題となつて噴き出し  
ている政府自民党の管理体制の  
強化に、抵抗の思いがノドもと  
までやつてきて、それでも言葉  
に出せない自分ののがゆさ。そ  
れだけに次号反戦のアピールに  
期待します。互いのつながりが  
切れている今日、話し合いので  
きる素地を少しずつ作っていく  
ことが必要だと思っています。

(仙台市 山内満貴子)

\*

現代の教育体制と勤務校での  
「自足した教育者」たちにとこ  
とん失望して退職。私の一生を  
変えた激しい教育闘争のことを  
発表したいと思いつつ一年半す  
ぎました。あまり何かに関わり  
すぎ、身体と精神をいためるの  
がこわかったからです。英語の  
専門学校でアルバイトをしつつ  
私のささやかな英語力を女性問  
題に役立てたいと常々思ってい  
ました。これもずるずると何も

しないまますぎていました。こ  
のところ、少し落ち着いて何か  
しなくてはと思いたち、久々に  
『あごろ』を買い、皆様の熱意  
とバイタリテイに圧倒される思  
いがしました。社会的なものとの  
関わりからすつかり遠のいて  
いたので発言するタネもありま  
せんが、英語教室や翻訳でも  
参加したい。

(東京都 久富木原 睦美)

\*

ウーマンリブも地位の向上や  
待遇改善だけを志向するのであ  
れば、婦人少年室の仕事と変わ  
りません。新しいフェミニズム  
運動は、男に対する被害者の発  
想から脱けること、また男性  
の協力を求めるなどと、女性中  
心的なエゴを捨てることによつ  
て、女自身が男性と平等である  
ということを思想的に確立する  
ことにあると思っています。憎  
しみ、怨み、そんなものはすぐ  
風化してしまいます。一方にお

いては女も閉鎖社会に加担して  
きた。その屈辱と責任において  
ものを言うとき、女の言うこと  
は男にとって初めて説得力を持  
つでしょう。円熟した眼を必要  
とするような気がします。

(与野市 三浦春章)

\*

現在、寿命は七十数歳、企業  
も六十歳定年を考えるようにな  
った。貧しかった日本も豊かに  
なり、すべては海外に依存して  
いたものが里帰り現象。これか  
ら日本の経済はどのようになる  
のか。書物は最大の財産、人類  
の遺産です。平和維持三十七年、  
これからは各人がこの宝を大事  
にしていかなければ……。

(豊川市 岩井初枝)

\*

十月二十七日付毎日新聞に、  
「婚約者も捨ててアメリカへ逃  
亡！」ある新興宗教団体がソ連  
が来年日本に上陸すると教え、  
これを信じた数十人が親も子も

財産も捨てて集団逃亡したとい  
うことです。

これは笑い話ではすまないと  
感じました。政府タカ派の言う  
軍備拡大は、何のための防衛、  
誰のための軍拡か。国防という  
言葉や感情に流されないように  
しなければならぬ。「ソ連の  
脅威」というが、日ソ戦争の始  
まる前に米ソ核戦争は始まって  
いるはずで、安保下の日本はま  
きこまれる。有事とは、結局、  
韓国、東南アジアとの有事をさ  
しているのではないか、米軍の  
代わりに日本がソ連に対しアジ  
アの番人のように出ていく。国  
内は国防意識の高揚、憲法改正  
を打ち出す八〇年代への、今は  
準備期間ではないでしょうか。  
私たちはこの一番大切なとき  
にこそ、平和への運動を、自分  
自身にふりかかるとして具  
体的に考え、行動しなければな  
らないと思う。

(鎌倉市 慎 一)

# 資料1 優生保護法に関する参議院予算委員会議事録(抄)

(一九八二年三月十五日)

村上正邦 総理はじめ閣僚の皆様、ぜひ聞いていただきたい歌があります。

ママノ ママノ

ボクは生まれそこねた子どもです。

おいしいお乳も知らず

暖かい胸も知らず

ひとりぼっちで捨てられた

人になれない子どもです

ママノ ママノ

ボクの声は 届いているの

ここはとても寒い

ひとりでもとても怖い

ママのそばに行きたい

ボクは生まれそこねた子どもです

……総理のご感想をお聞かせいただきたい。

鈴木首相 幼い生命の切々たる叫びを感じます。生命の尊厳を大事に考えなければ……。

森下厚相 まことに切々たる内容です。人命は地球よりも重いと云われますが、生命の科学が叫ばれるなか、受胎した生命も合わせまして生命の尊厳を今こそ認識すべきです。

村上 法務大臣、この歌は刑法第二二二条という副題ですが、二二二条の内容は。

坂田法相 二二四条ですね。「医師、産婆、薬剤師又ハ業種商、婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ処ス因テ婦女ヲ死傷ニ致ラシタトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ処ス」ということです。

村上 墮胎罪ですね。私はこの歌を聞くたびに中絶された胎児の泣き叫ぶ悲しみの声が海の底から聞こえてくる感じがします。優生保護の名のもとに闇から闇へ葬り去られた五千万から七千万にものぼる胎児のみたまにざんげし、みたま鎮まれと祈り、合掌しつつ本論に入らしていただきます。

申すまでもなく生命は何よりも優先して守らなければなりません。政治が果たすべき基本的使命もここにあると考えます。総理の生命観、宗教観をお聞かせください。

首相 憲法第十三条でも生命の尊重がうたわれており、私はこの人命尊重、人権尊重を政

治の基本に据えて努力したいと考えます。

村上 鈴木総理とかかわりの深い四人の元首相もそれぞれ深い生命観をお持ちです。池田元首相が難病で四国霊場八十八か所を巡礼されたのは余りにも有名です。佐藤元首相は時あるごとに般若心経を写経、殉職警官のみたまに、また水子地蔵尊に奉納しました。福田元首相はクアラルンプール事件で「人命は地球より重い」と人質を救い、大平元首相はクリスチャンとして生命を畏敬されました。レーガン大統領も生命は母体に宿った瞬間に始まる、生命を守ることは政府の最高の義務と申されています。しかしわが国では一向に胎児の生命が顧みられておりません。マザー・テレサ女史は「日本はパンに飢える人はいないが墮胎を許している貧しい国」と厳しく批判しました。首相はどう受けとめますか。

首相 私は、優生保護法で墮胎を認めておるとは受けとめておりません。「経済的理由により」は単なる経済的理由ではなしに、継続して妊娠・分娩することが母体の健康を害す

るおそれがある場合と、厳しく解釈をさるべきものだと思っております。これが誤解され、理由にされることであってはならないということ、政府は前にこれを修正する法案を提案しましたが国会で合意が得られませんでした。この点につきましては、今後とも国民世論のコンセンサスの形成を見ながら慎重に対処していきたいと考えております。

村上 そうしますと胎児に対する考えはレーガン大統領と同じという認識でいいですね。

内閣法制局長官、憲法十三条の「すべて国民は個人として尊重される」も、生命の尊重を直接表明したものと考えられますね。

角田長官 お説のとおりでございます。

村上 個人が尊重されなければならないゆえんは人間性そのものの価値だと思いますが。

角田 そのとおりだと思います。

村上 それならば、近い将来生まれてくる胎児もまた尊厳なものであると思えますが。

角田 そのとおりだと思います。

村上 それなら憲法十三条の「国民」の中には当然胎児も含まれ、生命尊重義務がある。

角田 胎児の生命尊重は、まさに憲法十三条に沿うゆえんであらうと思えます。

村上 厚生大臣、中絶の実態をお尋ねします。

五か月、六か月になると、生きたまま体外に出ることがあるが、どう扱われていますか。厚相 中絶は届け出義務がありますが、それによると昭和三十年の百十七万件を境に毎年減少し、五十五年には約六十万件になっています。

村上 そんなことじゃない。生きたまま生まれた処置をどうしているかを尋ねたのです。

厚相 妊娠四か月以上の中絶は父母が届け出をしますが、昭和二十七年の十一万件がピークで年々減少、五十五年では約三万件です。

三浦 厚生省公衆衛生局長 五か月六か月では生命の維持が困難で、七か月以上は可能とされています。

村上 質問とちがうんだよ。五か月六か月で体外に出たときどうしてるか聞いてるんだ。

三浦 優生保護法十四条の規定により、医師の判断で中絶されます。

村上 ちがうんですね。五か月六か月で体外に出る場合があるんですが、生きたまま出た場合、劇薬を注射して死亡、長時間放置して凍死、水に漬けて溺死、口に脱脂綿を押しつけて窒息死させている。これは人道上はもちろん、法律上も許されないことであります。

三浦 窒息その他につきましては現場のこと

はわかりませんが、一応人工妊娠中絶の件数に取り上げられております。

委員長 法務省から聞きますか。

村上 いいです。届け出数六十万の二―三倍が実数と言われますが。

三浦 その差ですか。

村上 いや、そういうことが実際あるのか。

委員長 答弁者は質問者の趣旨を十分に把握して答弁してください。

三浦 統計上、差がある場合はあります。

委員長 村上君、もう一度質問して下さい。

村上 これじゃ私の時間ばかり食っちゃって、言ってるあれは全然返ってこない……。

厚相 いわゆるやみ中絶を私は否定しませんが、届け出がないのでわからない。が、届け出より多いということは常識的な認識です。

村上 「経済的理由」ということで中絶されるわけですが、これを削除する用意がありますか。四十七年に国会に提案されてますが。

厚相 経緯はよく承知しております。戦後この法律ができましたときは子どもを育てることで、出産することがむずかしい時代でしたが、経済的理由による中絶を認める根拠は薄らいでいる、またはなくなりつつあることは事実でして、そのために法案が出され、残念なが

ら参議院で廃案にされた経緯をふまえ、厚生省といたしましては、できるだけ早くコンセンサスが得られる形で今後前向きに検討して参りたいということをお願いしたいと思います。

村上 政府提案で責任もって提案したものが八年もはたらかされているんですから、大臣が在任中に法改正を、政府提案なり、用意していただきたいと思ひます。

厚相 提案する以上は法案の通過ということろまでいかないと政府の權威にも関係するし厚生省としても自信をもつてさせてもらわなくてはいけない重要な問題です。したがって各方面との十分なコンセンサスを得たい。またもちろん啓蒙の問題もございます。そういうことで先ほどお答えしたように前向きで検討したいということを申し上げるわけです。

村上 もう少しハッキリしたご返事をいただきたいんですが、時間がありませんので、今後、社労委員会等を通じて議論しましょう。

何といつても胎児の生命尊重をしていないから、夕張炭鉱の爆発、ホテルの火災、無差別殺人、家庭内暴力等が起きる。今こそ、国と国民が一致して生命の尊厳について思いを新たにしなければならぬ。生命尊重基本法ともいふべき規範が必要であると思う。さら

に「生命の日」の制定を総理にお願いしたい。首相 日本国憲法は十三条をはじめとして、生命の尊厳、生命の尊重で一貫していると思ふ。とめていまして、改めて基本法とかを取り上げることと考えておりません。

村上 文部大臣にお尋ねします。廃案になったから（事態は）ますますひどくなつていんだから、これは何回でも何回でも提案していかなきやならん責任がある。この八年間放置してゐるうち、中絶は教室にまで来た。日本母性保護協会は届け出数は医師一人につき五人前後にせよと指導してゐる。本當の数字を出す大きな社会問題になるからと。先日NHKのルポでは十五―十九歳の少女の百人に一人が中絶経験者、妊娠した少女の七〇%が半年の交際で性体験している。教室――中学の教室で、妊娠したフレンドのためにカンパしている。これをどうお考えですか。

小川文相 最近、青少年の性非行が著増、中絶件数もふえ、まことに憂慮すべき状況です。その背景には青少年が非常に早熟になったこと、また社会の風潮、環境の乱れ、性に対する青少年の意識が開放的になったことがある。文部省としては学校教育の場で、生命の尊重、男女の人格の相互尊重、健全な異性観を育成

し衝動を抑制することを教えています。優生保護法については改善の余地があるとすれば改善を図ることが望ましいと思ひます。

厚相 厚生省としては、生命の問題は、人口、宗教、科学、医学、教育、あらゆる分野にまたがる広い次元の問題です。し、四十七年に改正案が残念ながら廃案になったという経緯もあり、前向きで検討していきたい。厚生省としても村上議員のご意見には耳を傾けていきたい。私個人としても同じような考え方をもちております。法改正に向かつて取り組むことが、厚生行政、特に生命を守つていこうという倫理観に基づいても必要であることを申し上げ、改正について努力すると申し上げる。

村上 中絶手術の九九%以上が母体の健康を損うという理由のようですが、経済的理由と身体的理由の比率はどれくらいか。また医者は何によつて経済的理由を計るのか。どだいむりなことだと私は思ひますが……。

三浦 経済的理由と身体的理由に分けた統計は厚生省にはありませんが、昭和四十四年の調査資料では、身体的が二五%、経済的が二〇%です。また総理府の調査では病弱が二四%、生活苦が七%、計画外の妊娠だからが四六%です。医師が判断する場合には、現在生活扶

助または医療扶助を受けているか、これと同等な生活状態にあるもの、また生活の中心になつてゐる本人が妊娠した場合、あるいはその世帯が妊娠の継続または分娩により生活が著しく困難になるというのも経済的理由ですが、いずれにしても経済的理由というのは母体の健康が損なわれるおそれがあるというのが一つの要件ですので、法的には單に経済的な適用ということではなく、身体的な適用ということでも運用しております。

村上 私に聞きたいことをあなたはいつもはぐらかすんですね。頭がよろしいからかどうか。中絶を受けた本当の理由の中で一番多かったのは何かあるはずじゃありませんか。

三浦 先ほど申し上げましたが、計画外の出産だからというのが四六%です。

村上 計画外というのは中絶理由に入らないんじゃないですか。わからないなら申し上げます。家族計画の後始末ということでしょう。これは法の曲解。許されることではない。正しく墮胎罪に当たるとではないか。

前田法務省刑事局長 優生保護法では人工中絶ができる場合を法定しているわけですし、その要件を満たさない中絶は、法律論では墮胎罪に当たるわけでございます。

村上 この十年間の墮胎罪の起訴数は。

前田 大変少のうございます。昭和四十六、四十七年が各一名、四十八、九年が各二名、五十一年、二年が各一名、五十五年が一名。送件数も少なく、告訴、告発もありません。

村上 この法の大きな隘路がここにある。もう少しビシビシとやっていたかなくては。

経済的理由二六%というが、どこまでを経済的理由というのか。

三浦 日本母性保護医協会で指導しています者が、一つは生活扶助、医療扶助を受けている者、あるいはこれと同等の者で、これは明確にわかります。第二の、生活の中心となつてゐる本人の妊娠、第三の、その世帯が妊娠の継続または分娩により生活が著しく困難になる場合は、ちょっと不明確な点はございます。

これが法改正の問題点にもなりましたが、いづれにせよ身体的理由というのが中心です。

村上 毎年の届け出数の二―三倍が実数というのは公然の秘密ですが、年間二、三百万の二六%もが生活扶助を受けていることにはならないと思う。優生保護法ができて三十四年、終戦直後の、あの住むに家なく食うに食なき時にできた法律であり、その時に入れた文言ですね。これを入れるについては、参議院か

ら衆議院へといろいろあつた。いずれにしても三十四年前とは生活条件に相当の変化があるわけですから、厚生大臣、ただ検討してみますじゃなくて態度を明確に願えないか。

次は「国の命」について質問したい。(国を受する、建国の日等につき質問)

玉置和郎 同僚の村上さん、初陣にしては人の命、国の命というたいへん大切な問題にふれられたので、関連質問を。(鈴木総理に憲法十六条の「国民」に「胎児」が含まれるという発言を再確認、経企庁長官に立法当時と五十五年のGNP、物価比を、厚生大臣に要保護世帯と人数、支給額比を回答させる)

玉置 経済的理由がなくなつた。むしろ豊かさのために困つてゐる。経済的理由をつけてゐるのは先進国では日本だけ。恥ずかしい。

厚生大臣は四十八年の政府案を再度整理して提出する用意はないのか。

厚相 経済的理由はほとんどその意義は失つていますが特殊な例が少し実はございます。それ以外は他の理由は失つてゐると思ひますので、厚生省としてもよく検討して早急に出したいという、個人的な考えですが、前向き

の言明をいたしたいと思つております。

玉置 ありがとうございます。

# 資料2 優生保護法の一部改正「正」推進依頼状

優生保護法の一部改正に関する賛同御署名御願いの件

(一九八二年十月十九日)

生長の家政治連合国会議員連盟

会長 玉置和郎

同連盟代表世話人(衆議院議員)

長谷川俊・瀬戸山三男・斎藤邦吉・金丸信・竹下 登・小沢辰男・上村千一郎・中川一郎・藤尾正行・海部俊

樹・三原朝雄・奥野誠亮・橋本龍太郎・藤波孝生・森 喜郎・佐藤 隆

同連盟代表世話人(参議院議員)

郡裕一・植木光教・土屋義彦・初村龍一郎・平井卓志・森下 泰・降矢敬義・田中正巳

同連盟事務局長

村上正邦

(順不同)

生長の家政治連合国会議員連盟各位

御承知のとおり、生命尊重、優生保護法改正の実現は、生長の家政治連合(生政連)が結成された最重要の政治課題であります。

特に最近、法改正の早期実現を求める声がとみに高まり、七月には各界、各層を代表する有識者、有力二十数団体が参加して、「生命尊重実行委員会」が結成されたのはじめ、法改正を求める地方議会での意見書決議、さらに一千万署名運動等々が全国的規模で進められております。

政府においても、次期通常国会に改正案を上程するべく作業が進められております。各位におかれましても、各々の御立場において何卒御協力賜りたく、また優生保護法の一部改正に賛同の御署名をいただきたく御願い申し上げます。

### 資料3 優生保護法の一部改正「正」に対する抗議

#### I 優生保護法の一部改正に反対する (昭和五十七年八月二日)

社団法人 日本家族連盟

会長 加藤 シズエ

政府は優生保護法第十四条一項四号「妊娠の継続又は分娩が、身体的又は経済的理由により、母体の健康を著しく害するおそれのあるもの」の中から「経済的理由」を削除する改正案を近く国会に提出するという。

本条項の改正案は、これまでも昭和四十七年と昭和四十八年に国会に上程されたが、世論の強い反対にあい、いずれも審議未了、廃案になったものである。然るに、ふたたび国民各層の意見を十分徴しないまま、一部宗教団体を背景とする国会議員の意見のみで改正を強行しようとする政府の態度は断じて黙過することはできない。

今回改正しようとする主眼は、前回同様「経済的理由」を削除し、人工妊娠中絶の適用を著しく狭めようとするものであるが、望まない妊娠を予防するための適切な処置と対策を怠り、ただ法律による規制を強めようとする方策は女性に対する弾圧を意味し、百害あって一利のないこととは明白である。

よって本連盟は、「経済的理由」の削除に対し、断固反対を表明する。

#### 反対の理由

○「産む」「産まない」は基本的人権

本来、子供を「産む」「産まない」は人間の基本的権利に属するものである。一九六八年テヘランにおける国連の人権宣言においても、この権利は全く両親に属し、国家は介入すべきではないとした。そして両親がこの権利行使のために必要な情報、知識、技術を欲した時は、国はこの要求に応じてサービスをする義務があると宣言している。

また一九七五年国際婦人年世界会議において採択された世界行動計画の中にも、「個人および夫婦は、子供の数、出産間隔を自由にかつ責任をもって決定し、そのための情報と手段をもつ権利を有する」とうたわれている。

優生保護法はこのような世界的合意の線に沿って見直され、検討されるべきものである。しかるに、ここにおいて「経済的理由」を取って「産む」権利を厳しく規制しようとすることは、世界の流れに逆行するものであり、絶対に容認できない。

#### ○「経済的理由」削除の矛盾点

改正論者は、この法律が作られた昭和二十三年（「経済的理由」が条項として法文化されたのは昭和二十四年）当時に比べ世界のトップクラスにまで成長したわが国経済の現状からみて、経済的理由はなくなつたとしている。

確かに日本経済は驚異的發展を遂げたが、個々の家庭経済もこれに比例すると考えるのは、マクロとミクロの完全な混同であり、個人にとつての「経済的理由」は相変わらず存在する。これを無視することは社会福祉政策上からも問題である。

#### ○「生命尊重」に関する問題点

改正論者は、現行法のままでは生命尊重に背き、母体保護に反するとしているが、「経済的理由」を取れば生命尊重が守られ、母体が保護されるということになるであろうか。もとより胎児の生命の尊さは何人も異論のあるはずがない。しかし欲しない妊娠をした場合、それを生むことが母体にとつても、子供にとつても、必ずしも喜ばしいこととはいえず、また生命の尊重につながるものとはいえない。

もし「経済的理由」を取り、規制のみを強めたらどうなるか。世界各国の経験からみても明らかである。すなわち、(1)危険を冒し、高い料金を払つても非合法堕胎をするか、(2)未婚の若い母親が増えるか、(3)追いつめられた母親の自殺あるいは子殺しが増えるか、であろう。

#### ○「墮胎罪」に関する問題点

「経済的理由」を削除し、合法中絶の範囲を狭めることは、すなわち現行刑法の墮胎罪の適用を拡張し、多くの女性を刑事罰に処することを意味する。このようなことになれば、多数の女性の心や身体は傷つけられ、極めて大きな社会問題となることは必至である。

#### ○人工妊娠中絶を少なくするために

われわれとて人工妊娠中絶の多いことを容認しているものでは決していない。昭和二十九年本連盟が創立以来続けてきた家族計画普及運動は、まさに人工中絶との闘いといっても過言ではない。現実の中絶の届出件数も昭和三十年当時の一一七万件が、現在では約半数の五九万件（五十六年）にまで減少している。いま必要なことは法律で一方的に中絶を規制することではなく、望まない妊娠を予防するための施策を国が強力に推し進めることである。

#### すなわち

#### (1) 有効な避妊法開発に対する政府の積極的な対処



現在、最も効果の高い避妊法として、経口避妊薬（ピル）が日本を除くほとんどの国で認可されている。最近では副作用を少なくするため、ホルモン含有量を減らした低容量ピルが開発され、諸外国では一般的に使用されている。ところが日本では避妊薬として認可されていないため、開発や輸入が不可能であり、したがって、これの検討すらできない状況にある。

また、IUD（リング等）の認可も、現在五種類にとどまっているが、副作用も少なく、未産婦や若年者により適当といわれている銅付加IUDの認可に対し、極めて消極的な国の姿勢を改めるべきである。

## (2) 思春期保健教育・相談の普及徹底

十代の性行動の現状に対し、学校における性教育や避妊教育の実態は、まことに立ち遅れている。学校教育の徹底を図るとともに、地域における相談・指導体制の整備に、学界・民間の協力を得て、国は積極的な対策を講ずるべきである。

たとえば、現在全く有名無実化している優生保護相談所（全国保健所に付置）を名実ともに脱皮させ、思春期保健相談センターとしての機能を持たせるなどもひとつの改善策である。

## (3) 受胎調節指導活動の重要性の認識

臨時行政調査会では現在「受胎調節実地指導員」（優生保護法第十五条による資格）の廃止をも含めた検討を行っていると聞く。これは現状に対し全く逆行したものであり、事実とすれば絶対に容認できない。

一方で「経済的理由」を取って中絶を蔽い、片方で受胎調節実地指導員制度を廃止するとの発想は、まさに人口増加政策を目指すものしか考えられない。これは全く現実を無視したものである。

この世の中から「望まない妊娠」をなくすためには、受胎調節指導・相談は欠かすことのできない施策である。指導員が働きやすい環境を整備することこそ、もっと国が力を注がなければならないことであらう。

# Ⅱ 優生保護法の改正に反対する（昭和五十七年八月五日）

社団法人 日本母性保護医協会

今回再び国会内に、優生保護法第十四条（医師の認定による人工妊娠中絶）の中の「妊娠の継続又は分娩が身体的又は経済的理由により母体

の健康を著しく害するおそれのあるもの」(第一項第四号)の「経済的理由」を削除する改正案を提出する意図があるという。

しかし、「経済的理由」の削除による影響及びこれに対する代案を考慮することなく、単に「経済的理由」を削除することには反対である。

そもそも人工妊娠中絶を減少させるためには、適正な社会教育を行い、国民に対して妊娠、育児について人類的な使命や責任を自覚させることが必要であつて法律操作によつて是正しようとすることは大きな誤りである。

広く世界の動向を正視し、法の目的である民族の発展と母体の健康を保護する基本を堅持すべきであつて、軽々の改正には反対するものである。

## 反対の理由

一、わが国の優生保護法の功績を再認識すべきである。

優生保護法は昭和二十三年議員立法によつて成立し、昭和二十四年、二十七年、人工妊娠中絶を認める医学条件の中に新たに「経済的要因」を加え、指定医師の認定による制度を設けたもので、わが国の法律としては画期的な内容をもち、これによつて敗戦の混乱(即ち国民の飢餓及び引揚者婦人の妊娠など)から今日の繁栄をみるまで永く貢献してきた法律である。

わが国の優生保護法は、優生手術と人工妊娠中絶と家族計画の三本の柱から成り立っている。それにも拘らず、改正論者はいたずらに人工妊娠中絶の法律規制のみ取り上げているが、法の再検討に当たつては、直接影響を及ぼす婦人層の考え方、専門医師の見解のほか、その社会的影響についても慎重に審議し、広い視野から現在の社会情勢を十分に把握したうえで、全面的に検討を行わなくてはならないものである。

二、「経済的理由」を削除した場合の重大な影響を考えるべきである。

(一) 非合法堕胎に流れるおそれのある法的規制は絶対に避けなければならない

近年、世界の趨勢は中絶に関する法律緩和の方向に進んでいる。英国は年余にわたる審議を経て一九六八年大幅な緩和を行い、さらに西ドイツ、フランス、イタリアにおいてカソリックの反対もこの流れを抑えることは出来なかった。ソ連や中国も全面的に自由化しているが、その大きな理由は、非合法堕胎の増加による妊婦死亡率の高さである。米国のCBS放送によれば、同国の一九七三年のヤミ堕胎は百万、死亡五千、後遺症三十五万、堕胎費用の総額三億五千万ドルに達し、政府は法律の緩和にふみ切らざるを得なかった。そして、法的制限の全面的撤廃によりその死亡数が激減したという現実を直視すべきである。

また、人口学者ティーツェの研究によると「中絶が犯罪とされている国における中絶による母体の死亡率は、合法化されている国の約三十倍にも達している」と述べている。

(二) 経済的理由のみの削除は政治的禍根を残すおそれがある

現行法から経済的理由のみを削除しようとする主張は、法の根本理念を理解しない短絡的な考え方である。かりに経済的理由の貧困の上限を生活保護法の線に限定するとしても、なお現在の社会情勢にそぐわないものであり、それは昭和四十六年の厚生省・日本医師会共同の調査結果をみても明らかである。また、仮に法改正が実施されれば墮胎罪により刑事罰を受ける婦人が多数出現することは不可避であり、深刻な社会混乱を招く結果となる。

(三) 防貧、母体保護対策としての経済条項はなお必要である

(イ) 一般国民は生活環境に応じた生活の知恵を会得することによりきわめて敏感である

受胎調節による妊娠抑制効果の昭和四十年の報告によれば、受胎調節と人工妊娠中絶の比は七対三であり、これは、人工中絶が人口抑制の要因ではないことを物語っているものである。一家族が多くの児を望まない理由は、価値感の多様化によるものであり、国民生活の実質水準の向上や福祉対策が正確に反映したものでない限り、国民総生産が向上したからという単純な理論によって、貧困者が減少したと決定づけることは早計である。現実、わが国の被保護世帯は昭和五十六年度において世帯数七十四万、実人員百四十二万に達しており、なお次第に増加の傾向にある。

(ロ) 十代妊娠の対策として経済的理由は不可欠である

十代妊娠者の多くは、妊娠を継続することによって、学業は中断され就業の道もとざされる。育児施設が十分でない限り、十代の母親は多くの重荷を背負って生きることになる。

一九七八年の米国における十代の妊娠者は八十四万に及び、人工中絶を受けた者は半数の四十二万に達している。

(ハ) 胎児適応のない現在、経済的適応は不可欠である

先天異常発生防止の必要性が最近一層強く叫ばれているが、胎児の異常を理由とする条項は、現行法には存在しない。各種の調査においても人工中絶を希望する理由に「重症奇形児出生のおそれ」をあげるものが多くみられ、また、出生前診断の進歩によって、無脳児の九五%が妊娠中に発見されるようになった。一方、妊娠初期の風疹感染による重度心身障害児の出生のおそれが予測されて真にやむをえない場合には、「重症障害児出生のため経済的圧迫により母体の健康を著しく害するおそれがあるもの」と判断せざるを得ないことも少なくない。経済的理由の削除により右のような社会的混乱の発生が十分予測されるところである。

三、子供の数や出産間隔の決定は夫婦の基本的人権に属する

国連の人権宣言（一九六八年、テヘラン）によっても、国際婦人年世界会議（一九七五年）においても、産む子供の数やその間隔は国家が介入すべきでなく、夫婦の基本的人権に属するものとされている。この権利を奪って法の規制を強めることは右の国際的コンセンサスを無視するものと言わざるを得ない。

四、優生保護法によって人工妊娠中絶が増加しているということは近視眼的理論に過ぎない

一九七六年米国のアラングットマッヒャー研究所の「千百万人のティーンエイジャー」という調査結果が発表されているが、特記すべきことは、中絶が合法化されたことによって望まない妊娠を防止しようとする警戒心がゆるむことはなかった。むしろ合法化以後、妊娠経験者の避妊への関心が高まっている。このような世界の動向を正視して十分な認識を持つべきである。

五、宗教家の立場と為政者としての立場は同一ではあり得ない

生長の家の村上正邦議員の国会質問と、マザーテレサの国会議員に対する胎児生命尊重の訴えに端を発して、宗教議員を中心に本運動が展開されている。しかし、新聞や評論家の論説にも見られるとおり、宗教の立場からは当然の胎児救済といえども、為政者の立場にたてば問題は自ら相違する筈であり、宗教活動はあくまで精神運動にとどめるべきである。

六、優生手術についても十分な検討が行われるべきである

近年の精神医学及び人類遺伝学の進歩に應じて、優生手術に関する条文と病名を示した「別表」は再検討の必要がある。この「別表」には、いわゆる遺伝性疾患が列挙されているが、近代遺伝学の立場からその内容が必ずしも適当なものでないことは、専門学者の指摘しているところである。

七、民族の発展と将来を深く考慮する必要がある

優生保護法の目的は憲法の人権尊重の趣旨にそった母体保護並びに不良な子孫の防止を計ることが目的である。したがって、優生保護法と宗教的な生命尊重論を結びつけることは、現実を無視していたずらに法の目的を歪めるだけである。

また、優生保護法の改正と、人口の増加を関連づけた論議が誤りであることもルー・マニアその他の諸外国の例で明白であり、若年人口の増加を計るような社会的施策こそ急務である。

優生保護法を改正せよという国会における議員の論拠は、宗教に基づく精神的主張で、法改正に対する根拠が薄く現状を無視した論議である。国民医療の第一線に携わる専門医団体として改正に強く反対するものである。

### Ⅲ 82・11・3 優生保護法改悪反対集会 基調報告ならびに決議

基調報告

82 優生保護法改悪阻止連絡会 於東京・山手教会

① 優生保護法の改悪が画策されたのは今回が初めてではありません。1970年と1972年に改悪案が国会の上程されましたが、いずれも強い反対運動があり、廃案になりました。日本のリブ運動は、その始まりの時から、優生保護法改悪と闘ってきたわけです。日本のアジアへの差別と侵略、また「障害者」や老人が社会から切り捨てられる状況と優生保護法の関連について、女の闘いは明らかにしてきました。日本の支配者は、女の性と出産を支配することで、国民全体を支配し、他国への侵略の要めとしてきましたが、女の解放をかちとり、あらゆる支配と差別の構造を打破するには、女の性を女自身のものとして取りもどさなければならぬと私たちは主張してきました。

② 日本の女の性を法的に支配した始まりは墮胎罪です。1869年（明治2年）明治政府は早くも産婆による墮胎を禁止しました。1880年（明治13年）には、旧刑法墮胎罪が、1907年（明治40年）には現在も生き続けている刑法墮胎罪が制定されました。そして、今すめられている刑法改悪案の中にも、墮胎罪はちゃんと残されています。

墮胎罪は、日本が天皇中心の資本主義経済による近代国家となるために、必要不可欠のものでした。明治政府にとっては、先進国の仲間入りをするために、人口をふやし、軍事力・生産力をあげることが必要でした。それには、女が自分の意志で妊娠、出産を選ぶなど許されません。また、1898年（明治31年）政府は家父長制の家制度を定めた明治民法を公布しました。これによって国民をまず家単位にまとめ、その家を統合する国家へと国民を帰属させ、結束させて国力を増やそうとしたのです。墮胎罪は家制度と手を組んで、女の心と体の自由を奪い、家と男に隷属させ、家と国のために、妊娠したら産む、女を、子を産むだけの人権のない道具へとおとしめ、国家の人柱としてきたのです。

③ 墮胎罪が生まれるための手段なら、国民を優生と劣生に選別し、差別したのが、国民優生法です。この法律は太平洋戦争の始まった1941年（昭和16年）にナチスドイツをまねて実施されました。国民優生法が「障害者」に対し、遺伝にかこつけて不妊・断種手術を受けさせる一方、健全とみなされた女には避妊までも取り締り、兵士となるべき子供を産ませたのです。この優生思想は日本民族を優生、アジアの他民族を劣生とみなす民族差別を拡大し、侵略のための戦争を正当化することにもつながってきました。

④ 1945年（昭和20年）敗戦とともに、国家の方針は女に中絶させる方向に変わります。食糧難、住宅難、混血児の出生。これらの問題解決に政府は1948年（昭和23年）優生保護法を成立させることで対処しました。国民優生法の優生思想はそのままに、母性保護と称して、条件付で中絶を合法化し、女に中絶させることでこれらの社会矛盾を解消しようとしたのです。

現在、中絶を許可する条件は五つありますが、あくまで優生思想に基づくもので、女の自由意志に基づくものではありません。強姦の結果の妊娠が中絶を許されるのも、実は日本民族の純血を守ることが目的でした。また、今回の改悪案の焦点でもある、「妊娠分娩が身体的、経済的理由で母体の健康を著しく害するおそれがある場合」という経済的理由に適用範囲を広く持たせ、墮胎罪を存続させながらその適用を一時さしひかえてきました。つまり、ある時は産ませ、ある時は堕ろさせるという管理手段を残したまま、女たちの選ぶ権利を奪ってきたのです。

⑤ 産めない状況の中で女は中絶を選ばされ、そして悪条件と低賃金の中で働きました。その女たちが、いしすえとなつて築いた高度経済成

長が頂点に達する頃、政府は優生保護法の改悪、つまり墮胎罪の復活をたくらんだのです。社会的活動や経済力を身につけて、女が自立するのをおそれ、再び家にしぼりつけ、出生率も適当に上げねばならないと考えたのです。その具体的な現われが1970年、1972年の優生保護法改悪でした。今回の改悪策動も、その連続として、自民党家庭基盤充実政策や憲法改悪の動きなどの右傾化の一環として出てきたのです。

⑥ さて、現在の状況はどうなっているのでしょうか。去る3月1日、右翼宗教団体「生長の家」を母体とした「生長の家政治連合国会議員連盟」の総会が開かれました。中曽根、二階堂、村上、福田、玉置など、自民党議員多数の出席のもとに「二大悲願」である憲法改悪と優生保護法改悪に全力をあげることを決議しました。3月15日には、さっそく参議院予算委員会の総括質問で村上議員が改悪の必要性を厚生大臣、総理大臣に確認させるという手順をふみ、3月27日厚生省は「経済条項の削除」の検討に入りました。現在、厚生大臣の諮問機関である公衆衛生審議会の優生保護部会で審議がすすめられています。早ければ、12月の国会上程もあり得ます。

⑦ 3月15日の新聞報道で事態を知った女たちは、各地で立ち上がりました。改悪阻止集会が開かれ、厚生省への抗議文が採択されています。これまでににおいても女たちは前二回の改悪を阻止しました。日常的にも、女の自立をはばみ、「障害者」を切り捨てる体制と闘いつづけてきました。

私たちは、産む産まないの選択の自由は女の基本的人権であることを主張します。女の性を支配することで、国民全体を支配し、侵略への道を再び歩ませようとするファシズムの動きに断固反対します。

私たちはまず、墮胎罪の撤廃を要求します。

また、優生・劣生と人間を差別選別し、その思想にもとづいてのみ女に中絶をさせる優生保護法そのものを撤廃させたいと考えます。

しかし、墮胎罪を存続させたまま、中絶許可条件の中から経済的理由を削り、女の性の支配をよりいっそう強化しようとする、今回の改悪策動は、断固阻止しなければなりません。

⑧ 女の性の管理は女を孤立した「家」にしばりつけ婚姻制度の中でのみ出産を許すことで、国のための労働力の再生産を女に強いてきました。「女は家庭・男は仕事」という性差別(Ⅱ性別役割分業)から私たち自身を解放するために、女の労働権確立と、人間性をそこなわない働きやすい条件の確立をめざします。

家事・育児・老親の介護・「障害者」の介護を女に一方的に肩がわりさせられ、「障害者」・老人・子供・女は敵対分断させられてきました。こうした分断をこえてともに生きられる社会福祉の充実を要求します。女が幅広い生き方の中から自分の人生を自分で決定する自由をとりもとし、ひとりでも生きていける女の状況をつくりあげていきましよう。

きょうのこの集会を成功させ、改悪阻止の行動を開始しましょう。

## 決 議 文

本日この集会において私たちは優生保護法改悪が、右傾化の中ですべての女性にかけられている攻撃であることを明らかにしてきました。

同法の中絶許可条件から「経済的理由」を削除することは、(1)「障害者」を抹殺する優生思想の強化、(2)産む時期と人数を選択することを困難にすること、(3)産む、産まないという女性の自己決定権を国家の手でより狭めることであり、そのことは国家による性の管理に他なりません。私たちは今回の優生保護法の改悪の動きを墮胎罪の強化として捉え、

①家庭基盤充実政策に反対する

②憲法改悪に反対する

③墮胎罪・優生保護法の撤廃をめざす

④男女の経済上の平等をめざす

という立場から、今回の優生保護法の改悪に断固抗議します。

優生保護法改悪案が国会に上程されようとしている限り、私たちは今後も改悪阻止の共同の闘いをあらゆる形でくりひろげ、緊急行動に一同結集することを確認し、以上をもって決議とします。

1982年 11・3 優生保護法改悪反対集会

## 私たちの見解

1、産む産まないは女の基本的人權

子どもを産むか産まないか、また産むとすればいつ何人産むのかを決定・選択するのは個々の自由な意志によるものであり、国家が干渉すべきものではありません。しかし女性にとって最後の手段である中絶は、明治以降一貫して墮胎罪によって国家に管理されてきました。ある時は産まされ、ある時は堕ろさせられてきた歴史の中には、変わることもなく墮胎罪が存在してきました。女性の子宮を管理し、女児子供を産むべきものと固定化することで、女性を管理し、性別役割分業を固定化してきました。墮胎罪の強化は、女性が自らの人生を決定する権利を国家の手でせばめることに他ならないとともに、女性の体の管理を通して胎児をも国民としてとらえ管理していくことでもあります。女性の人生を決定する権利は産む産まないことを自由に選択できることなしに実現できないと考えます。

2、中絶は女にとって最後の手段である

法律的に中絶が禁止された場合、「ヤミ中絶」「子捨て」「子殺し」が急増することは、日本及び世界各国の歴史をみても明らかです。ルーマ

ニアにおいては、人口増加政策のため中絶を禁止したところ、結果的に母体の死亡率が増加し、人口増加政策となりえませんでした。中絶自由化をすすめたアメリカ（州によって違う）フランス等においては、母体の死亡率が急激に減りました。前途を悲観して自殺したり、危険で不衛生で高価なヤミ中絶を受けたり、自らの手で処置しようとしたりせずすむようになったからです。中絶を禁止し「ヤミ中絶」「子捨て」「子殺し」「自殺」などの生命抹殺社会を作り出すことは許されることではありません。いま世界の趨勢は「基本的人権・人間の尊厳および価値を、一層大きな自由の中で社会的進歩と生活水準の向上等とくしんすることを特に約束した」国連憲章を基とした「個人および夫婦は子どもの数および出産間隔を自由に責任をもって決定する権利」（国際婦人年世界行動計画）によって、中絶を最後の手段として保障する方向にあります。

### 3、墮胎罪・優生保護法撤廃

優生保護法は第二次世界大戦中、ナチスドイツの断種法——不良な子孫を抹殺する——をまねて作られた「国民優生法」を基にしたものです。それ自体が「劣性な遺伝」を抹殺する思想を持つもので、これに枠づけされた女性には産む権利を奪われています。改悪を進める勢力は、さかんに生命の尊重を口にしていますが、生命の尊重を本当に考えるのなら、「障害者」の生存権を否定する優生思想こそ問題にするべきです。私たち女性はこのような優生思想、「障害者」差別を許さず、優生保護法は墮胎罪とともに撤廃されるべきだと考えます。

### 4、経済的理由の削除は優生思想の強化である

経済的理由を削除した場合、積極的に肯定される理由は、身体的理由つまり、「障害者」、病弱者の女、「障害児」を産むことが予想される女にのみ適用されることになります。このことは国家に役立つ人間の生命・人権のみを尊重し、「障害者」の存在権・人権を否定することです。さらに重要なことは、優生保護法改悪は現在出されている「精神障害者」の社会的抹殺を意図した刑法改悪・保安処分の新設とセットであり、全ての「障害者」を抹殺しようとするものです。

### 5、いけにえにする十代の性

十代の性非行・中絶が改悪の理由としてあげられています。経済的理由を使つての中絶が野放しにされているから性非行が生じる——という論理が展開されているのです。しかし、男性には性の放縱（買春観光・ポルノ等）を許し、女性には貞節を強制し、他方、女の性を商品化する社会であることを忘れてはなりません。正しい性知識・職業への認識・希望を学ばせない社会・教育こそが問題なのです。「十代の性行動」が悲劇を生み出さず、人生のひとつの足がかりとして存在するためには、性差別のない社会や教育が必要です。

### 6、性差別社会を変革しよう

中絶よりも避妊という論議がされていますが、その避妊自体、女性に負担をおわせ、完全で安全なものではありません。歴史的に性をタブー視する道徳を押しつけながら、過去には男には性欲処理のためのものとして「吉原」「赤線」「青線」を許し、現在もポルノの氾濫・買春観光の横行と、性の放縱を許しています。その一方で女には純潔・貞節を押しつけ、現行の婚姻制度の中においてのみ、子供を産むことを許してきま



した。このような性差別の存在する社会である以上、女性がひきうけなければならない避妊は単に身を守るということを越えて、性差別社会そのものを変えていくような、からだの本来性を損わない避妊法が必要であると考えます。

## 7、改憲と家庭基盤充実政策

一九五五年前後、最初の改憲論議が公然化したとき、憲法九条とともに二十四条があげられました(第二十四条・家族生活における個人の尊厳と両性の平等)。改憲勢力は、軍備増強を着々と行う一方で、家族制度の復活をもすすめています。政府自民党「家庭基盤充実政策」はその具體的なものとしてあります。女性に家事・育児・老親の介護の責任を負わせて社会から孤立した家にひきもどし、経済的自立を奪う——家庭に肩がわりさせて、社会福祉を一層後退させる——つまり「家庭基盤充実政策」は軍国主義を支えるあらたな家族制度を強化・復活させ、社会の矛盾を隠蔽し、日本経済を支えようというものです。優生保護法改憲を訴える勢力は、右傾化の布石として「家庭基盤充実政策」を支持し、「女は家庭(銃後)男は仕事(戦場)」の性別役割分業をおすすめしているものに他なりません。

## 私たちは反対します

一九八二年三月十五日の参議院予算委員会において、自民党の村上議員が「刑法第二二二条の堕胎罪を強化し、優生保護法第十四条の中絶を許可する条件の一つ『妊娠の継続又は分娩が身体的又は経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのあるもの』から『経済的』理由を削除すべきである」と述べたのに対し、厚生大臣は「早急に改正案を出したい」との意向を明らかにしました。

本来、子供を産むか産まないか、また産むとすれば、いつ、何人産むのかを決定、あるいは選択する権利は、個々の女性の持つ基本的人権の一つであって、国家が干渉すべき問題ではありません。

現在の優生保護法は、第二次世界大戦中に「劣性な遺伝」を防ぐという目的で作られた「国民優生法」を基にしたもので、そこにあげられている中絶の条件についても、決して女性の立場にたつて「産む・産まない」の選択の自由を女性に認めたものではありません。この選択の自由を保障するための最後の手段である中絶は、明治以降、刑法の堕胎罪と戦後につくられたこの優生保護法によって、国家に管理されてきたのです。

このうえ、今回優生保護法の許可条件の一部を削除することは、今よりいっそう

(1) 「障害者」の存在を否定し、優生思想を強化すること

(2) 女性が子供を産む時期を選択することを困難にすること

(3) 産む産まないという女性の自己決定権を国家の手でより狭めること

に他なりません。

以上のような理由で、私たちは、優生保護法第十四条一項四号の「経済的」理由の部分の削除に反対し、あわせて刑法墮胎罪と優生保護法そのものの廃止を要求します。

一九八二年

厚生 大臣 殿  
内閣総理大臣 殿

82 優生保護法改悪阻止連絡会

#### Ⅳ 優生保護法の一部改悪に対する申し入れ (昭和五十七年十一月四日)

##### 七婦人団体議会活動連絡委員会

日本婦人有権者同盟 大学婦人協会 日本基督教婦人矯風会  
婦人国際平和自由連盟日本支部 全国各地域婦人団体連絡協議会  
東京キリスト教女子青年会 日本看護協会

政府は優生保護法第十四条一項四号「妊娠の継続又は分娩が、身体的又は経済的理由により、母体の健康を著しく害するおそれのあるもの」の中から「経済的理由」を削除する改正案を近く国会に提出する意向があるやにうかがいます。

本条項をふくむ改正案は、これまでも昭和四十七年と昭和四十八年に国会に上程されましたが、婦人をはじめとする世論の強い反対にあい、いずれも審議未了、廃案になった経過があります。然るに、ふたたび国民各層の意見、特に当事者である婦人の意見に十分耳を傾けないまま、一部宗教団体を背景とする国会議員の意見のみで法改正をすめようとする政府の態度は断じて黙過することはできません。

私たち七婦人団体は、このたび重ねて次の理由で同法の改正案に強く反対します。

##### 反 対 理 由

一、人工妊娠中絶が望ましくないものであるのは自明のことですが、これを減少させるには、性教育の充実、家族計画の普及こそが先決であります。

若年妊娠の防止策、母性保護の社会的施策もないまま「経済的理由」を廃止すれば、母体の健康保持や婦人の人権擁護の観点からも社会的混

乱をきたします。

## 二、「経済的理由」を削除した場合

- (1) 改正論者は、わが国経済の現状からみて経済的理由はなくなったとしていますが、「個人」ととしての「経済的理由」は存在します。
- (2) 非合法堕胎の増加により妊婦死亡率を高めることになります。また、堕胎罪により刑事罰を受ける婦人が多数出現することは不可避であり、このことは婦人に対する差別です。

## 三、「産む」「産まない」は基本的人権

本来、子供を「産む」「産まない」は人間の基本的権利に属するものです。一九六八年テヘランにおける国連の人権宣言においてもこの権利は全く両親に属し、国家は介入すべきでないとしています。

また、一九七五年国際婦人年世界会議において採択された世界行動計画の中にも「個人および夫婦は、子供の数、出産間隔を自由かつ責任をもって決定し、そのための情報と手段をもつ権利を有する」とうたわれています。

四、ソ連や中国においても、カトリックの国々においても自由化が進んできている。こうした国々で法的制限の撤廃によって妊婦死亡率が激減した事実を直視すべきです。

## 資料 4 文部省の教科書検定による高校歴史教科書からの

### 県民虐殺記述削除に対する抗議、決議

(一九八二年八月二十一日)

文部大臣 小川 平二 殿

文部省は、八三年の、教科書検定に当たり、高校歴史教科書から第二次大戦における日本軍の県民虐殺の事実記述を削除しました。当然、このことが今、沖縄県民の新たな怒りとなっています。すでに明らかなように、この文部省の行為は、史実を歪げるものであるばかりか、去る大

生活と権利を守る沖縄県婦人協議会  
『教科書改ざんに抗議する婦人集会』

戦において最も悲惨な目にあわされた沖縄県民の犠牲、数多くの同胞肉親を奪い去られた悲劇を何らかえりみようとしない態度だといわなければなりません。

二〇万人におよぶ沖縄県民の貴い生命が本土の防波堤となって奪い去られ、久米島や渡嘉敷島南部の激戦地で県民が米軍ではなく日本軍によって虐殺されていった事実、これは生き残ったものの体験、証言などで明確になっているのであり、何人も否定できるものではありません。ところが、文部省は、「殺された人数が不明だ」とか「そういうこともあったかも知れないがそれが日本軍のすべてだ、というように一括的に表現するのは妥当でない」などの口実でもって記述を削除しています。さらに、沖縄県史の記載をも「不確定、不正確なもの、客観的でない」など否定しています。

このような態度に対して、私たちは犠牲となつていった多くの方々への痛恨の思いと共に、断じて政府、文部省のこの措置を許すべきでないとの怒りを強くするものです。

戦後三十年を経過した今日、政府はあらゆる手段で戦争責任をのがれようとたくらみ、同時に軍事大国へと成長したなかで新たな戦争への道歩みはじめています。教科書の中から戦争で行なわれた日本軍の虐殺記述を削除したり、書きかえたりすることは、こうした動きと深く結びついているのであり、決して見逃せるものではありません。しかも、教科書は、次代を担う子供たちをどう教育するか、その導きの糸であり、これが歪められてよいものではありません。多くの非戦闘員が犠牲になり、日本兵が沖縄県民を虐殺した事実こそ、沖縄戦の特徴であり、次代へ伝えなければならない大事な点だといえます。にもかかわらず、文部省検定には、このような視点もなければ戦争への反省、県民虐殺に対する反省もみられません。これは、日本政府が安保条約を強化し、自衛隊を増強し戦争への道を再び歩み出していることから当然のことでしょうが、私たち沖縄県民は決して容認できるものではありません。

また、教科書からの記述削除だけでなく、戦争賛美がうたわれるようになっており、県民虐殺を削除したのと同様に、中国、朝鮮への侵略を「進出」と書きかえたことも中国、韓国、朝鮮の各国から激しく非難されており、いまや大きな外交問題として内外に政府非難が高まっています。一連のこの事態は、政府が急速な反動政策へ傾斜するなかから引き起こされたものであり、軍事大国化への道を歩む日本に各国が警戒を強めている証明だといえます。

私たちは、こうした政府のねらいを背景とする今回の教科書問題に対し、ただ単に教科書内容の問題としてのみ考えるのではなく、平和に対する新たな挑戦の姿勢としてとらえ、文部省に厳しく抗議するとともに、史実記述を復元するよう強く要求するものであります。

# 資料5 行政改革における総理府婦人問題担当室及び

## 労働省婦人少年局廃止に反対する要望

(一九八二年十月二日)

国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会

(全国組織四十八団体加盟)

世話人 大羽 綾子

鍛冶千鶴子

中村 紀伊

今次、行政改革が国の大幅な赤字を解消し、活力ある社会をめざし、その方策に全力をあげておられることは、承知いたしております。行政改革が行政のぜい肉を落とし、必要な機構をより充実させると私共は期待し、国民の半数以上を占める婦人の立場からこの主旨に添った意見を述べてまいりました。

即ち、社会の発展は、男女平等、婦人の地位向上にあり、目下、国際的な連帯において、「国連婦人の十年」を設定、各国政府、民間が共に連携して施策と活動を展開する中で、日本の活動が注目されているところであります。

これら婦人問題解決のため婦人関係施策の推進に関し、鈴木総理大臣はじめ、関係省庁、超党派の衆参議員による「国連婦人の十年推進議員連盟」各政党婦人対策責任者、そして本年一月二十五日及び六月十二日の臨調委員との会において、婦人関係行政機構の強化・拡充を強く要望してまいりました。

九月十二日読売、同十四日毎日等各新聞に「省庁組織の整理・再編合理化に関する指摘事項」が報道されました。婦人関係行政組織については、一、総理府の婦人行政機構のあり方、二、労働省婦人少年局の労働基準局及び大臣官房への統合が示されてい

ました。今回の指摘事項は関係方面の意見をもとに作成されたことですが、私共は超党派の婦人の立場から婦人関係行政組織の充実を臨調にくり返し要望してまいりました。

しかしながら、婦人の意見が受け入れられていないことに強い不満を表明するものであります。これは臨調委員に婦人の委員が参加していないことにも起因すると痛感いたしております。

総理府婦人問題担当室は、各省にまたがる婦人関係行政の総合的連絡調整の場として不可欠であり、その役割りは他省では担えないのであります。私共は総理府設置法を改正して明確に位置づけることを政府に働きかけ、婦人行政がより効率化されることを期待しております。

次に、労働省婦人少年局は戦後の民主化政策の重要な任務を課されての出発であり、この間、婦人少年労働行政を担当し、時代の変化に対応すべく歩いてまいりました。一九八五年の国連婦人の十年を三年後に控え、婦人差別撤廃条約を日本が批准するという国際的な約束事もあり、その批准と関係の婦人労働法規・施策の推進は労働省婦人少年局なくしてはその一端を果せないものであります。私共は、これまでの婦人少年局の在り方にいっそう注文を出し、より民間の意見を汲み入れる機構の充実を願っております。

ここに労働省婦人少年局及び婦人問題担当室の廃止は絶対反対であることを関係方面に要望いたします。

## 資料 6 国連軍縮週間に際し

### 新総理に平和政策を要請する（案）

（一九八二年十一月二十四日）

核廃絶と軍縮を実現するために婦人の行動を広げる会

私たちは、第二回国連軍縮特別総会にむけて三千万署名運動に結集し、総会終了後も核兵器廃絶と軍縮が達成されるまで、平和運動をつづける決意です。

このたび、国連軍縮週間を機に、草の根の地域集会を開催し、三千万署名にこめられた願いを国内政治に反映させるため、左の要請をおこないます。

記

第二回国連軍縮総会で日本政府を代表した鈴木前総理は、六月十日の国連演説の中で、平和を国是とした日本国憲法にふれ、軍事大国とならないこと、非核三原則を厳守することを世界に宣言し、軍事、経済、政治の三側面による軍縮の努力こそ恒久平和への道をひらくことを表明しました。しかし国の政治は、従前の武力均衡策を一步も出ず、日米一体となつての軍拡路線を走っています。

再び私たちは声を大にして申し述べます。「世界の平和はいのちとくらしを守る政策によってこそ守られるのです！」

政府は、平和憲法の理念に立ち返り、左記の政策実現をされるよう要請します。

一、いま、日本列島には横田、厚木、横須賀、佐世保、岩国、沖繩、三沢などの各米軍基地と、米兵員四万六千三百人の駐留があり、米国の不沈空母とよばれています。とくに三沢のF16配備問題、沖繩の核貯蔵問題、横須賀への核搭載空母潜水艦の寄港などは、万一の場合、米軍基地に対する攻撃が行われ、日本が戦争にまきこまれる直接の要因となり、極めて危険です。

政府は非核三原則を堅持し、すみやかにアメリカの核の傘によらぬ平和維持の政策に転換し、核基地を撤去して下さい。

一、財政緊縮が叫ばれる五十七年度予算の中で、軍事費が異常に突出したことは、国民を怒らせています。更に昨今、専守防衛から重武装国家へと軍拡の歩みをすすめる、国防会議では五十八年―六十二年で防衛整備計画総額十六兆円、来年度軍事予算は前年対比七・三五%（二兆七千七百六十億）増を概算要求としています。包括的軍縮の一環としても軍事費増大はもつてのほかです。

一、軍事費を削り、国内の福祉充実、鈴木演説にあったように開発途上国の人々に対する福祉への経済援助などを優先して実行して下さい。

一、国家補償にもとづく被爆者援護法をすみやかに制定して下さい。

一、被爆国日本の政府は、核兵器使用を国連憲章違反、人道への犯罪として禁止する決議を率先して国連へ提出すべきであります。少くとも国連総会で発議された場合、積極的に賛成して下さい。

一、教科書検定にみられる憲法、原爆記述などの後退、侵略戦争に関する事実の隠ぺいなど、反平和的な政策は近隣アジア諸国との友好を著しく阻害することとなりました。自民党内の憲法改正論議や発言は、戦争への道を暗示し、国民は多大の不安と怒りを覚えています。

私たち婦人は、なによりもいのちをいとおしみ、大切にします。子どもたちに核兵器のない平和な世界を残すため、思想信条の違いをのりこえて、平和憲法を守ることを誓い、日本政府に平和憲法の厳守を申し入れます。

### 婦人の行動を広げる会参加へ三六団体

あごら、家庭科の男女共修をすすめる会、草の実会、主婦連合会、消費科学連合会、新日本婦人の会、全国地域婦人団体連絡協議会、戦争への道を許さない女たちの連絡会、総評主婦の会全国協議会、退職婦人教職員全国連絡協議会、中立労働組合連絡会議青年婦人対策委員会、東京都地域消費者団体連絡会、独身婦人連盟、日本看護協会、日本キリスト教女子青年会、日本基督教婦人矯風会、日本主婦同盟、日本女医会、日本女性同盟、日本生活協同組合連合会、日本青年団協議会、日本母親大会連絡会、日本婦人会議、日本婦人科学者の会、日本婦人団体連合会、日本婦人法律家協会、日本婦人有権者同盟、日本有職婦人クラブ連合会、日本労働組合総評議会婦人局、働く婦人の会、フェミニストの会、婦人国際平和自由連盟日本支部、婦人民主クラブ、婦人民主クラブ再建連絡会、平和のために手をつなぐ会、国際婦人教育振興会

# 資料7 市民的及び政治的権利に関する国際規約

(昭和五四・八・四 条約第七号)

この規約の締約国は、

国際連合憲章において宣明された原則によれば、人類社会のすべての構成員の固有の尊厳及び平等のかつ奪い得ない権利を認めることが世界における自由、正義及び平和の基礎をなすものであることを考慮し、これらの権利が人間の固有の尊厳に由来することを認め、

世界人権宣言によれば、自由な人間は市民及び政治的自由並びに恐怖及び欠乏からの自由を享受するものであるとの理想は、すべての者がその経済的、社会的及び文化的権利とともに市民的及び政治的権利を享有することのできる条件が作り出される場合に初めて達成されることを認め、

人権及び自由の普遍的な尊重及び遵守を助長すべき義務を国際連合憲章に基づき諸国が負っていることを考慮し、

個人が、他人に対し及びその属する社会に対して義務を負うこと並びにこの規約において認められる権利の増進及び擁護のために努力する責任を有することを認識して、

次のとおり協定する。

## 第三部

第九条〔身体の自由及び逮捕抑留の要件〕 1 すべての者は、身体の自由及び安全についての権利を有する。何人も、恣意的に逮捕され又は抑留されない。何人も、法律で定める理由及び手続によらない限り、その自由を奪われない。

2 逮捕される者は、逮捕の時にその理由を告げられるものとし、自己に対する被疑事実を速やかに告げられる。

3 刑事上の罪に問われて逮捕され又は抑留された者は、裁判官又は司法権を行使することが法律によって認められている他の官憲の面前に速やかに連れて行かれるものとし、妥当な期間内に裁判を受ける権利又は釈放される権利を有する。裁判に付される者を抑留することが原則であつてはならず、釈放に当たつては、裁判その他の司法上の手続のすべての段階における出頭及び必要な場合における判決の執行のための出頭が保証されることを条件とすることができる。4 逮捕又は抑留によつて自由を奪われた者は、裁判所がその抑留が合法的であるかどうかを遅滞なく決定することができるよう、裁判所において手続をとる権利を有する。

5 違法に逮捕され又は抑留された者は、賠償を受ける権利を有する。



# 資料 8 刑事施設法案

## 第一編 総則

### 第七章 規律及び秩序の維持

#### (刑事施設の規律及び秩序)

第三十六条 刑事施設の規律及び秩序は、厳正に維持されなければならない。

2 前項の目的を達成するため、刑事施設の長又はその指定する職員は、被收容者に対し、その生活及び行動について指示し、命令し、その他規制を加えることができる。ただし、被收容者の收容を確保し、並びにその処遇のための適切な環境及びその安全かつ平穩な共同生活を維持するため必要な限度を超えてはならない。

#### (遵守事項)

第三十七条 刑事施設の長は、法務省令で定める基準に従い、刑事施設の規律及び秩序を維持するため必要な被收容者の遵守すべき事項（以下「遵守事項」という。）を定める。

#### (身体の検査等)

第三十八条 刑事施設の長その他の刑事施設の職員のうち法務省令で定めるところにより法務大臣が特に指定する者（以下「刑務官」という。）は、刑事施設の規律及び秩序を維持するため必要がある場合には、被收容者の身体、着衣、所持品及び居室を検査し、並びに

被收容者の所持品を取り上げて一時保管することができる。

2 刑務官は、刑事施設の規律及び秩序を維持するため必要がある場合には、刑事施設内において被收容者以外の者の着衣及び携帯品を検査することができる。

3 女子の身体及び着衣の検査は、女子の刑務官が行い、又は女子の職員を立ち合わせて行わなければならない。

#### (捕縄、手錠、拘束台及び防声具の使用)

第四十一条 被收容者に対しては、この条及び次条に定めるところにより、法務省令で定める捕縄、手錠、拘束台及び防声具を使用することができる。

2 刑務官は、被收容者を護送する場合又は被收容者が次の各号のいずれかの行為をするおそれがある場合には、法務省令で定めるところにより、捕縄又は手錠を使用することができる。

一 逃走すること。

二 自己に危害を加えること。

三 他人（当該刑務官を含む。）に危害を加えること。

四 刑事施設の設備、器具その他の物を損壊すること。

3 刑事施設の長は、被收容者が刑事施設内にあって自己に危害を加えるおそれがある場合において、他にこれを防止する手段がないときは、刑務官に、拘束台を使用させることができる。

4 刑事施設の長は、被収容者が刑務官の制止に従わず大声を發し続  
けて、刑事施設内の平穩な共同生活を亂し、その他刑事施設の規律  
及び秩序を害する場合において、他にこれを抑止する手段がないと  
きは、刑務官に、防声具を使用させることができる。この場合にお  
いて、防声具を効果的に使用するため必要があるときは、捕縄又は  
手錠を同時に使用させることができる。

5 拘束台は、捕縄、手錠又は防声具と同時に使用してはならない。

6 拘束台及び防声具の使用の期間は、三時間を超えてはならない。  
ただし、拘束台については、刑事施設の長は、特に継続の必要があ  
ると認めるときは、法務省令で定めるところにより、その使用の期  
間が通じて十二時間を超えない範囲内で、これを延長することがで  
きる。

#### (保護室への収容)

第四十二条 刑事施設の長は、被収容者が自己に危害を加えるおそれ  
があるとき、被収容者が逃走するおそれがある場合において他にこ  
れを防止する手段がないとき、又は被収容者が次の各号のいずれか  
に該当する場合において刑事施設の規律及び秩序を維持するため特  
に必要があるときは、刑務官に、その者を保護室に収容させること  
ができる。

一 刑務官の制止に従わず、大声又は騒音を發するとき。

二 他人(当該刑事施設の長を含む。)に危害を加えるおそれのあ  
るとき。

三 刑事施設の設備、器具その他の物を損壞するおそれがあるとき。

2 前項に規定する場合において、刑事施設の長の命令を受けるとい  
まがないときは、刑務官(刑事施設の長を除く。)は、法務省令で

定めるところにより、自らその被収容者を保護室に収容することが  
できる。

3 保護室における収容の期間は、五日とする。ただし、特に継続の  
必要がある場合には、刑事施設の長は、三日ごとにこれを更新する  
ことができる。

4 刑事施設の長は、前項の期間中であっても、収容の必要がなくな  
ったときは、直ちにその収容を中止しなければならない。

5 保護室に収容されている者に対しては、拘束台又は防声具を使用  
してはならない。

6 前各項に定めるもののほか、保護室における収容及びその更新の  
手続に関し必要な事項並びに保護室の構造及び設備の基準は、法務  
省令で定める。

#### (武器の携帯及び使用)

第四十三条 刑務官は、法務省令で定める場合に限り、小型武器を携  
帶することができる。

2 刑務官は、被収容者が次の各号のいずれかに該当する場合には、  
事態に応じ合理的に必要と判断される限度で、武器を使用すること  
ができる。

一 暴動を起こし、又はまさに起こそうとするとき。

二 他人(当該刑務官を含む。)に重大な危害を加え、又はまさに  
加えようとするとき。

三 凶器を携帯し、刑務官が放棄を命じたのに、これに従わないと  
き。

四 刑務官の制止に従わず、又は刑務官に対し暴行若しくは団結に  
よる威力を用いて、逃走し、若しくは逃走しようとし、又は他の

### 第三編 被勾留者の処遇

3 被收容者の逃走を助けるとき。  
刑務官は、被收容者以外の者が次の各号のいずれかに該当する場合には、事態に応じ合理的に必要と判断される限度で、武器を使用することができる。

一 銃器、爆発物その他の凶器を携帯し、又は使用して、刑事施設に侵入し、若しくは刑事施設の設備を損壊し、又はこれらの行為をまさになしようにするとき。

二 被收容者が暴動を起こし、又はまさに起こそうとする場合において、その現場で、これらに参加し、又はこれらを援助するとき。

三 暴行又は脅迫を用いて、被收容者を奪取し、若しくは解放し、又はこれらの行為をまさになしようにするとき。

四 被收容者に重大な危害を加え、又はまさに加えようとするとき。  
第三十六条若しくは第三十七条に該当する場合又は次の各号のいずれかに該当する場合を除いては、人に危害を加えてはならない。

一 刑務官において他に被收容者の第二項各号に掲げる行為を抑止する手段がないと信ずるに足りる相当の理由があるとき。

二 刑務官において他に被收容者以外の者の前項各号に掲げる行為を抑止する手段がないと信ずるに足りる相当の理由があるとき。

ただし、同項第一号から第三号までのいずれかの場合にあっては、その者が刑務官の制止に従わないで当該行為を行うときに限る。

### 第二章 面会、信書の発受等

#### (面会実施上の制限等)

第百八条 刑事施設の長は、法務省令で定めるところにより、被勾留者の弁護士等との面会及び信書の発受に関し、面会する弁護士等の人数、面会の場所、日及び時間その他面会の態様並びに被勾留者が発する信書の作成方法並びに被勾留者の発信及び受信の方法について、罪証の隠滅の防止又は刑事施設の管理運営上必要な制限をすることが出来る。この場合において、刑事施設の長は、その被勾留者の防御の準備に支障を生じないよう、その制限をやむを得ない限度にとどめなければならない。

2 刑事施設の長は、法務省令で定めるところにより、被勾留者の弁護士等以外の者との面会に関し、面会の相手方の人数、面会の場所、日及び時間、面会の時間及び回数その他面会の態様について、罪証の隠滅の防止上又は刑事施設の管理運営上必要な制限をすることが出来る。

#### (信書の内容による制限)

第百十二条 刑事施設の長は、前条第一項の検査の結果、被勾留者が発し、又は受ける信書につき、その全部又は一部が次の各号(被勾留者が弁護士等に対して発する信書にあっては、第一号から第四号まで)のいずれかに該当する場合には、他の発信若しくは受信を差し止め、又はその該当箇所を削除し、若しくは抹消することが出来る。

一 暗号の使用その他の理由によってその内容が理解できないもの

であるとき。

二 罪証の隠滅を図るものであるとき。

三 その発信又は受信によって、刑罰法令に触れることとなり、又は刑罰法令に触れる結果を生ずるおそれがあるとき。

四 その発信又は受信によって、逃走その他刑事施設の規律及び秩序を害する結果を生ずるおそれがあるとき。

五 威迫にわたる記述又は明らかな虚偽の記述があるため、受信人を著しく不安にさせ、又は受信人に損害を被らせるおそれがあるとき。

六 受信人を著しく侮辱する記述があるとき。

七 被収容者の処遇その他刑事施設の状況に関する明らかな虚偽の記述があるとき。

(法務省令への委任)

第百十四条 この章に定めるもののほか、第百九条の立会いの方法、第百十二条の規定による差止めに係る信書の取扱いその他被拘留者の面会及び信書の発受に関し必要な事項は、法務省令で定める。

## 第五編 雑則

## 第二章 賞罰

### (懲罰)

第百三十二条 刑事施設の長は、被収容者が次の各号のいずれかの行為をした場合には、これに懲罰を科することができる。

一 暴動を起こすこと。

二 逃走し、暴行し、他人の物を損壊し、その他刑罰法令に触れる行為をすること。

三 刑事施設の職員の職務の執行を妨げること。

四 自己に危害を加えること。

五 正当な理由がなく、作業を行わず、又は教科指導等を受けないこと。

六 この法律の規定に基づく被収容者の義務の履行のために刑事施設の職員が行った指示又は命令に従わないこと。

七 前号に掲げるもののほか、第三十六条第二項の規定に基づき刑事施設の職員が行った指示又は命令に従わないこと。

八 前各号に掲げる行為を準備し、共謀し、あおり、唆し、又は援助すること。

九 前各号に掲げるもののほか、遵守事項を遵守しないこと。

### (懲罰の種類)

第百三十三条 懲罰の種類は、次のとおりとする。

一 戒告

二 第六十二条の規定による作業の十日以内の停止

三 第十三条の規定による自弁の衣類その他の物品の使用又は摂取の十五日以内の一部又は全部の停止

四 書籍等の閲覧の三十日以内の一部又は全部の停止

五 報奨金支給予定額の三分の一以内の削減

六 三十日以内(懲罰を科する時二十歳以上の者につき、特に情状が重い場合には、六十日以内)の閉居

2 懲罰は、二種類以上を併せて科することができる。ただし、前項第一項の懲罰は他の懲罰と、同項第六号の懲罰(以下この章におい

て「閉居罰」という。は同項第五号以外の懲罰と併せて科することができなない。

3 被告人又は被疑者である被收容者については、第一項第四号の懲罰を科する場合においても、防御の準備に必要と認められる書籍等の閲覧を停止してはならない。

#### (閉居罰の内容)

第三百三十四条 閉居罰においては、次に掲げる行為を停止し、法務省令で定めるところにより、刑事施設の長が特に指定した居室内において謹慎させる。この場合において、受刑者には、謹慎の趣旨に反しない限度において、作業を行わせ、又は教科指導等を受けさせる。

一 第十三条の規定による自弁の衣類その他の物品の使用又は振取

二 第三十条第一項の規定による宗教上の儀式行事への参加

三 書籍等の閲覧

四 面会及び信書の発受

2 閉居罪を科せられた被收容者については、その健康の保持に支障を生じない限度において、法務省令で定める基準に従い、運動を制限する。

3 閉居罪を科せられた被收容者が被告人若しくは被疑者である場合又はその者の訴訟の準備その他の権利の保護のため必要があると認められる場合には、弁護士等との面会及び信書の発受その他の権利の保護に必要な面会及び信書の発受並びに権利の保護に必要な書類等の閲覧を停止してはならない。

#### (懲罰の一般基準)

第三百三十五条 懲罰は、懲罰を科せられるべき行為を抑制するのに必要な限度を超えてはならない。

2 懲罰を科するに当たっては、第三百三十二条各号に掲げる行為（以下この章において「反則行為」という。）をした被收容者の年齢、心身の状態及び行状、反則行為の軽重、動機及び刑事施設の運営に及ぼした影響、反則行為後におけるその被收容者の態度、その被收容者が受刑者である場合には懲罰がその者の改善更生に及ぼす影響その他の事情を考慮しなければならない。

#### (懲罰を科する手続等)

第三百三十六条 刑事施設の長は、被收容者が反則行為をした疑いがあると思料する場合には、反則行為の有無及び前条第二項の規定により考慮すべき事情について、できる限り速やかに調査を行わなければならない。

2 前項の調査のため必要がある場合には、法務省令で定めるところにより、反則行為をした疑いのある被收容者を他の被收容者から隔離することができる。この場合においては、その者の居室は単独室とし、その者は、運動、入浴又は面会の場合その他の法務省令で定める場合でなければ、居室外に出るはならないものとする。

3 懲罰を科する場合には、あらかじめ、反則行為をした疑いのある被收容者に事実の要旨を告げた上、弁護の機会を与えなければならない。

4 被收容者が反則行為の後に被收容者としての地位を異にするに至ったときは、その者に対しては、反則行為の時に科することのできた種類の懲罰に限り、これを科し、又は執行することができる。

#### (懲罰の執行延期等)

第三百三十七条 刑事施設の長は、懲罰を科せられた者について、反省の情が著しい場合その他相当の理由がある場合には、その懲罰の執

行を延期し、又はその全部若しくは一部の執行をしないことができる。

(反則行為に係る物の国庫への帰属)

第三百三十八条 刑事施設の長は、被收容者が反則行為をした場合において、反則行為を構成し、その手段に供し、又はその結果取得した物をその者に所有させることにより、刑事施設の規律及び秩序の維持上支障を生ずるおそれがあるときは、その物を国庫に帰属させる

## 資料9 留置設法案

### 第三章 被留置者の処遇等

#### 第一節 通則

##### (遵守事項)

第十四条 留置業務管理者は、総理府令で定める基準に従い、留置施設の規律及び秩序を維持するため必要な被留置者の遵守すべき事項(以下「遵守事項」という。)を定めるものとする。

(身体の検査等)

第十五条 留置担当官は、留置施設の規律及び秩序を維持するため必

とができる。

2 第三百三十六条第三項の規定は、前項の規定による国庫への帰属に

ついて準用する。

(法務省令への委任)

第三百三十九条 この章に定めるもののほか、懲罰を科する手続その他の懲罰に関する手続及び前条の規定による国庫への帰属の手続に關し必要な事項は、法務省令で定める。

要があると認めるときは、総理府令で定めるところにより、被留置者の身体、着衣、所持品及び居室を検査し、並びに被留置者の所持品を取り上げて一時保管することができる。

2 留置担当官は、留置施設の規律及び秩序を維持するため必要があると認めるときは、総理府令で定めるところにより、留置施設内において被留置者以外の者の着衣及び携帯品を検査することができる。

3 女子の身体及び着衣の検査は、女子の留置担当官が行い、又は女子の職員を立ち合わせて行わなければならない。

## 第二節 逮捕者の処遇

### (弁護人等との面会)

第二十四条 留置業務管理者は、総理府令で定めるところにより、被逮捕者の弁護人又は刑事訴訟法第三十九条第一項に規定する弁護人とならうとする者(以下「弁護人等」という。)との面会に關し、面会する弁護人等の人数、面会の場所、日及び時限その他面会の態様について、罪証の隠滅の防止上又は留置施設の管理運営上必要な制限をすることができる。この場合において、留置業務管理者は、その被逮捕者の防衛の準備に支障を生じないよう、その制限をやむを得ない限度にとどめなければならない。

### (弁護人等との信書の発受)

第二十六条 留置業務管理者は、総理府令で定めるところにより、被逮捕者の弁護人等との信書の発受に關し、被逮捕者が発する信書の作成方法並びに被逮捕者の発信及び受信の方法について、罪証の隠滅の防止又は留置施設の管理運営上必要な制限をすることができる。

2 留置業務管理者は、被逮捕者が弁護人等に発する信書については、あらかじめその内容を検査するものとし、弁護人等から受ける信書については、その弁護人等が発した信書である旨を確認するため必要な限度で検査するものとする。

3 留置業務管理者は、被逮捕者が弁護人等に発する信書の全部又は一部が次の各号のいずれかに該当する場合には、その発信を差し止め、又はその該当する部分を削除し、若しくは抹消することができる。

一 暗号の使用その他の理由によってその内容を理解することができないものであるとき。

二 罪証の隠滅を図るものであるとき。

三 その発信によつて、刑罰法令に触れることとなり、又は刑罰法令に触れる結果を生ずるおそれがあるとき。

四 その発信によつて逃走その他留置施設の規律及び秩序を害する結果を生ずるおそれがあるとき。

4 第二十四条後段の規定は、前三項の規定による制限、検査、差し止め、削除又は抹消について準用する。

### 第三節 被勾留者の処遇

#### (被勾留者の処遇)

第二十八条 被勾留者については、刑事施設法第十一条、第十二条、第十三条第二項、第十四条、第十五条、第十七条、第十八条第二項、第十九条から第二十四条まで、第二十七条から第三十一条まで、第三十二条(第二号を除く)、第三十三条から第三十五条まで、第二百二条、第二百四条、第二百七条から第二百四十四条まで及び第二百五十二条の規定以外の同法の規定は、適用しない。

2 被勾留者について刑事施設法の規定を適用する場合においては、同法の規定(第六十三條の規定を除く。)中「刑事施設」とあるのは「留置施設」と、「法務省令」とあるのは「総理府令、法務省令」と、「刑事施設の長」とあるのは「留置業務管理者」とするほか、これらの規定の適用についての必要な技術的読替えは、政令で定める。

優生保護法関係資料は『あこら』8号、19号にも掲載されています。(前回の動き、世界の状況等)

〔編集後記〕

「女」は平和を支えるか、「いま」か、  
もめた末、「いま」に決まりました。  
危機が強調されるほど、無関心層が  
ふえていく。その「いま」だから、あ  
えてこの号を急送送り出します。

テーマを交えて数日後、予測したと  
おり鈴木首相退陣。そして改憲へさら  
に急傾斜。とうろくの斧と知りつつ、  
だからこそ、私たちは訴えます。息せ  
ききって思いを伝えます。

強者の秩序に立つ「平和」を守れば  
波風は立ちませんが、もう、「いま」  
が抵抗の最後のチャンスではないでし  
ょうか。

(斎)

\*

あごろ読書室 編集作業室に、一  
輪の赤いバラの花。バラは、最初、ス  
タッフの意気込み、真剣な仕事ぶりに  
ひるんだ様子でしたが、まもなく堂々  
とその存在を主張しはじめ、一生懸命  
咲いていました。人の心の内奥の「自  
然」を呼びさまそうとでもするかのよ  
うに……。近代人は、「自然」に対抗  
し、痛めつけ、その不思議な調和を片  
っぱしから破ってきたのに、一輪のバ  
ラは根柢に思ってもなく、ただただ咲  
いている。その重さ。

戦後十年と少したって生まれた私  
に、戦争は近づこうとすればするほど  
遠く、そのシレンマに苦しみもしまし  
たが、一緒に仕事をしていくうちに、  
自分なりの「反戦」の糸口がつかめた  
ように思います。

(淳)

\*

編集会議が終わって、帰宅のために  
乗ったタクシーの中で、「金曜日の夜  
というのは混みますね」と感心してい  
ると、運転手さんは、ひとところほどで  
はないですね。と、ひとところの混み具合  
を説明した後で、これ位がちょうどいい  
んじゃないんですか。日本だけが景気  
よくちや、また戦争が始まっちゃいま  
すからと結んだ。

この位の不景気がちょうどいいとい  
うけれど、今秋の就職戦線は異常だ。  
ロボット化とOAの影響が出てきて、  
高校生は男女ともに。四年制の女子大  
生は特にひどい。しかも女子は「第一  
に顔、二に健康、次が頭」だという。  
戦争の防止の名のもとに女が犠牲を合  
わされるのはカナワナイ。

(仲)

\*

あつげにとられるほどの右翼化、管  
理化。集会で聞かれるさまさまな  
市民に対する権力の暴力。そして、普  
通の人びとのそれに対する闘い。私も  
自分の声でしゃべりたい。動きたい。  
動こう、動くと、動けば……。 (向)

\*

楽しく編集に参加して、作りだす喜  
びを共有することができました。特に  
担当した『あごろのあごろ』はなまの  
読者の声が多く寄せられ、葉書の文字  
から直かにその熱意が感じとれまし  
た。紙面の都合により、よぎなくカッ  
ト、変更したことを改めてお詫が申し  
上げます。今後とも多くを学びつつ、

絆を深めていきたいと思えます。(石)

\*

ちつばねな私一人の言葉が、思いが、  
行動が、いったい何になるんだろうと  
思う時がある。この公安国家の中で、  
「平和」「反戦」とつぶやくと、その  
まますつぱり相手方に包みこまれて、  
「だから再軍備」「だから家庭基盤の  
充実」「だから憲法改正」となってい  
まう恐ろしさ。

\*

右傾化、平和、平等……。言葉に憤  
れぬようにしようと思う。そこにこ  
れた思いを、いつもいつも再確認しな  
がら、とにかく歩き続けたい。(ゆ)

\*

初めて編集にかかわってみて、作ら  
れるまでの大変さを知るとともに、あ  
ごろのエネルギーの強さに胸うたれ  
る想いでいた。私自身直接かかわるこ  
とで、ただ受け取っていただけの時と  
違う確かな視点をつかいたこともできま  
した。何もできないと思っていた自分  
にもできることがあることも教えられ  
ました。へあごろに出席えてよかつ  
たと、いま思っています。(横)

\*

いろいろと悩んだ末に、恋人の籍に  
入ることとした。覚悟していたとはい  
え、職場での一変した「半人前」の扱  
いにホトホト閉口している。単に彼と  
暮らした始めたというだけで私自身は何  
も変わらないのだと説明する傍らで  
「あーあ、亭主が尻に敷かれちゃって」  
ど、こうだ。今号は、私事多忙のため

ほとんど編集に関わらなかった。それ  
だけに、傍観者となってしまふことの  
恐ろしさを感じる。(Y)

\*

テープおこしなら何度かしたことが  
あるのと、8・15のおこしを引き受  
けたのだが、結果は虫食いで、聞き取り  
不十分となっていました。考えてみれば、  
今まで私がしたテープおこしは、  
自分が出席した集会のものだったから  
メモもあるし、思い出しも何度も聴い  
て想像力も働かせてみたのだが……。  
おかげで演説された方の熱い思いが伝  
わってきた。本当に良かった。(山内)

\*

ボクはまだ二か月半の赤ちゃん。マ  
マの話やテレビから流れてくる情報に  
よると、大変な世の中に生まれてきちゃ  
ったと思っている。つい最近では、田  
中曽根政権が誕生したし。憲法改憲を  
めざしている同士のこと、一体どんな  
めちやくちや政治をやることだろう。  
この流れを変えるには、今度の選挙で  
大勝するしかない。フェミニストのみ  
なさん、がんばりましょう。その頃ボク  
は、アンヨができていくかどうかかわ  
らないけど、ママと一緒に東奔西走し  
ちゃうヨー! 大沢大地より(サワ)  
▼26号神戸繁子さんのインタビューで  
「運動は十五年」は三十五年の誤植で  
す。つつしんでおわびします。  
▼とびらのカットは古庄弘枝さんの作  
品(古庄玉紀歌集「雷火」より)



「あごろ」は、ギリシャ語で「ひろば」の意味。

女の生き方、人間の解放について話しあう「ひろば」。さくのない「ひろば」です。

学歴も年齢も性別も関係なく、同じ平場で話しあおう。ちがう価値観にも耳傾けよう。

そして、女も、男も、生き生きと、のびやかに生きられる社会を目指そう、

と、一九七二年以来、雑誌「あごろ」(年二回刊)を、また一九七七年からは「あごろミニ」(月刊)も発行してきました。

特定の、管理された情報は氾濫していますが、私たちのほんとうにはしい情報は手に入りにくい現状のなかで、女の側が必要とする情報を集め、資料に基づいて討論したいと願っています。

あなたの地域の、職場の、そしてあなた自身の情報を、どしどしお寄せください。

全国各地の「あごろ」拠点にもお出かけください。

●「あごろ」は、どの企業、どの政党、どの宗教とも、いつさい無関係。

会費と、有志の基金と、雑誌の売上代で運営しています。

●全国各地の拠点では、それぞれ、その地域に応じた活動をしています。

●現在の主な活動は、

①雑誌「あごろ」および「あごろミニ」の発行

②拠点を軸にした勉強会や社会活動

③女性の創造力や専門的技術を集めた創造力の銀行(BOC)の運営

④読書室の運営

⑤可能性教室(英語教室、再就職準備講座など)の運営、その他。

●会費は年額六千円(雑誌「あごろ」「あごろミニ」誌代および送料を含む)。入会金は不要。

●申し込みとお問い合わせは、

〒160 東京都新宿区新宿一の九の六 あごろ事務局(TEL 03-354-3941)へ

「あごろ」27号 1982年12月20日発行

●編集 阿部淳子/石川陽子/井手さよ子/稲垣良代/内田佳崇/大沢統子/北村三和子/栗本祐子  
黒沢照代/向後裕子/古賀節子/小島豊子/古庄弘枝/後藤多見/斉藤千代/志賀由美子  
嶋田ゆかり/下村千津子/白井博子/鈴木洋子/村主敬子/高橋優子/田代慶子/中山紀代子  
藤沼ミヨ子/東由美子/松岡佳子/源啓美/宮前澄子/三輪照子/山内満貴子/横山れいこ  
若山玲子

●発行所 BOC出版部 〒160 東京都新宿区新宿1-9-6 ●03-354-3941 ●振替 東京3-39331

●発行人 「あごろ」運営会議 ●定価1,500円

へあごら」はひろば。さくのないひろば。  
共に生き共に考える女のひろば。

1972年以来、資料誌『あごら』を発行、  
女の問題を考え続けています。

- 1 女が働くこと
- 2 女性の進出のために
- 3 主婦の解放をめぐる
- 4 何かしたい主婦のために
- 5 運動を進めよう
- 6 子殺しを考える
- 7 働く女と主婦の接点を求めて
- 8 女と法
- 9 女と教育
- 10 国際婦人年世界会議
- 11 国際婦人年国内集会
- 12 女の記録
- 13 職場の中の女性差別
- 14 女と結婚
- 15 女と生涯教育・生涯学習
- 16 いま女性解放は
- 17 女にとつて子どもとは
- 18 女性解放と雇用平等法
- 19 子と母の関係を問う
- 20 男女平等と母性保障
- 21 女たちはいま変わる
- 22 女と戦争
- 23 女と情報
- 24 いま女がモノを言うということ
- 25 いま平和を支える
- 26
- 27

